

上信越自動車道関係発掘調査報告書XVII

海道遺跡  
大塚遺跡

2005

新潟県教育委員会  
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 上信越自動車道関係発掘調査報告書XVII

かい どう 遺 跡  
おお つか 遺 跡

2 0 0 5

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 序

上信越自動車道は、首都圏と上越地方を結ぶ幹線道路として、群馬県藤岡ジャンクションから分岐し、群馬県・長野県を経て新潟県上越市に至る全長203kmの高速自動車道です。平成11年10月には全線が開通しました。これによって、関越・磐越自動車道と並び、日本海側と太平洋側を結ぶ大動脈として、沿線地域の発展に多大な効果をもたらしています。

新潟県教育委員会は、昭和63年度から建設用地内の埋蔵文化財について調査を開始し、平成7年度には、長野県境～中郷インターチェンジ間の発掘調査を、平成9年度には上越ジャンクション～中郷インターチェンジ間の発掘調査を終了して、県内全線の調査業務を完了しました。

本書は、上信越自動車道建設用地において、平成7・8年度に調査を行った海道遺跡と平成7～9年度に調査を行った大塚遺跡の発掘調査報告書です。海道遺跡は、山裾に営まれた古代と中世・近世集落遺跡で、断続するものの現代まで集落が営まれていたことがわかりました。また大塚遺跡は旧石器時代から中世に至る遺物が出土し、各時代によって遺跡の性格が異なっていることが明らかとなりました。特に縄文時代早期～前期にかけての遺構・遺物が多く、最近増加しつつある上越地域における当該期の知見に新たな資料を加えることができました。

今回の調査成果が、当地域の歴史を解明するための資料として広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に際して、多大なご理解とご協力を賜った上越市教育委員会をはじめ、日本道路公团新潟建設局（現、日本道路公团北陸支社）・同上越工事事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成17年8月

新潟県教育委員会

教育長 武 藤 克 己

## 例　　言

- 1 本書は新潟県上越市大字向横字海道 1031-1 ほかに所在する海道遺跡と上越市大字灰塚字大塚 834-1 ほかに所在する大塚遺跡の発掘調査記録の合冊である。
- 2 発掘調査は上信越自動車道の建設に伴い、新潟県が日本道路公団から受託して実施したものである。
- 3 発掘調査は新潟県教育委員会（以下、県教委）が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が、平成 7・8 年度（海道遺跡）、平成 7～9 年度（大塚遺跡）にそれぞれ調査を実施した。
- 4 整理および報告に係る一連の作業は平成 16 年度に実施し、埋文事業団職員がこれにあつた。
- 5 出土遺物と整理に係る資料は全て県教委が保管・管理している。遺物の註記記号は海道遺跡が「カイ」、大塚遺跡が「オツカ」とし、出土点地・層位などを併記した。
- 6 両遺跡のグリッド杭の打設は有限会社中郷測量に委託した。また、海道遺跡の空中写真による遺構測量・地山面の地形測量は株式会社オリスに委託した。
- 7 本書で示す北方位は日本平面直角座標第Ⅷ系（旧座標）の X 軸方向を示す。
- 8 作成した押印・図版のうち、既存の図を使用した場合はそれぞれにその出典を記した。
- 9 掲載した遺物の番号は、全て通し番号（海道遺跡：1～382、大塚遺跡：401～909）とし、遺物の実測図版と写真図版の番号は一致している。
- 10 引用参考文献は、著者及び発行年を文中に〔　〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 11 本書の執筆は高橋保（調査課整理担当課長代理）が担当したが、両遺跡の遺構各説については、発掘調査者の遺構カードに基づいた。
- 12 本書作成・編集作業の一部は株式会社セピアスに委託した。詳細は第 1 章に記す。
- 13 海道遺跡については、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』[石川 1997] [島田 1998]、大塚遺跡については、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』[山田 1997] [山崎 1998] [杉田 1999] にそれぞれ記載されているが、本書の記述をもって、正式な報告とする。
- 14 海道遺跡の遺物のうち、古代土器類・須恵器に関しては、笠澤正史氏（上越市教育委員会）、輸入陶磁器に関しては山本信夫氏（金沢大学）、珠洲焼に関しては、吉岡康暢氏、藤田邦雄氏・小島芳孝氏・岩瀬由美氏（以上石川県埋蔵文化財センター）、向井裕知氏（金沢市埋蔵文化財センター）、大安尚寿氏（珠洲市立珠洲焼資料館）、中世土器に関しては水澤幸一氏（中条町教育委員会）、近世陶磁器に関しては渡邊ますみ氏（新潟市教育委員会）からそれぞれ土器の見方・年代観の指導を得、報告書に反映させた。なお、御指導いただいたのは遺物の一部であり、記載内容全体についての責任は高橋にある。
- 15 大塚遺跡の遺物のうち、純文土器に関しては、小熊博史氏（長岡市教育委員会）・遠藤佐氏（上川村教育委員会）、弥生土器に関しては石川日出志氏（明治大学）からそれぞれ御指導を得、報告書に反映させた。なお、御指導いただいたのは遺物の一部であり、記載内容全体についての責任は高橋にある。
- 16 両遺跡の石器・石製品の石材については、竹之内耕氏（糸魚川市フォッサマグナミュージアム）から鑑定いただいた。
- 17 本書で使用している市町村名は平成 16 年段階のものである。
- 18 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大な御教示を賜った。厚く御礼申し上げる（敬称略五十音順）

石川日出志　岩瀬　由美　遠藤　佐　大安　尚寿　小熊　博史　小島　幸雄　小島　芳孝  
笠澤　正史　竹之内　耕　藤田　邦雄　水澤　幸一　向井　裕知　吉岡　康暢　山本　信夫  
渡邊ますみ

## 目 次

### 第Ⅰ章 序 説

1 調査に至る経緯	1
2 調査及び体制	2
A 海道遺跡	2
1) 二次調査の経過	2
B 大塚遺跡	3
1) 一次調査	3
3) 調査体制	5
2) 調査体制	2
3 整理及び体制	5
A 経 過	5
B 整理体制	6

### 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境	7
2 高田平野及び関川流域の遺跡分布	8

### 第Ⅲ章 海道遺跡

1 調査の概要	12
A グリッドの設定	12
B 基本層序	12
2 遺 構	14
A 概 要	14
B 遺構各説	14
1) 桁立柱建物	14
3) 土 坑	22
5) VI層溝群	27
2) 井 戸	15
4) 溝	25
3 遺 物	27
A 古代土器	27
1) 器種分類	27
3) 包含層出土土器	31
B 中世土器	32
1) 器種分類	32
3) 包含層出土土器	35
C 近世土器	35
1) 遺構出土土器	35
D 石 製 品	36
1) 遺構出土	36
E 木 製 品	37
1) 遺構出土	37
F 土製品・金属製品	39
2) 包含層出土	37
2) そ の 他	38

<b>4 自然科学分析</b>	39
A 木製品の樹種	39
1) 試 料	39
3) 結 果	40
B 種実遺体	43
1) 試 料	43
3) 結 果	44
2) 分析方法	39
4) 考 察	42
2) 分析方法	43
4) 考 察	44
<b>5 ま と め</b>	48
A 遺 構	48
1) 古 代	50
3) 近 世	53
2) 中 世	50
B 遺 物	53
1) 古 代	53
3) 近 世	58
2) 中 世	55
4) 井戸に廃棄された種実について	58

## 第IV章 大塚 遺跡

<b>1 調査の概要</b>	60
A グリッドの設定	60
B 基本層序	60
<b>2 遺 構</b>	61
A 概 要	61
B 遺構各説	61
1) 縄文時代	61
2) 古代以降	63
<b>3 遺 物</b>	64
A 旧石器時代	64
B 縄文時代	64
1) 土 器	64
3) 石 器	68
2) 土 製 品	68
C 古墳時代	73
1) 遺構出土	73
2) 包含層出土	73
D 古 代	73
1) 包 含 層	73
2) 97SK17（須恵器窯跡）	73
E 中 世	74
<b>4 ま と め</b>	74
A 遺 構	74
B 遺 物	75
1) 土 器	75
3) 有孔球状土製品	79
2) 石 器	78
<b>《要 約》</b>	80
<b>《引用・参考文献》</b>	81

## 表 目 次

【海道遺跡】	別 表
第1表 古代土器器種分類表	【海道遺跡】
第2表 中世土器器種分類表	別表1 海道遺跡 造構一覧表
第3表 木製品の時期別・器種別種類構成表	別表2 海道遺跡 掲載遺物観察表(土器・土製品)
第4表 種実同定結果	別表3 海道遺跡 掲載遺物観察表(木製品)
第5表 出土遺物から見た造構の年代	別表4 海道遺跡 掲載遺物観察表(石器・石製品・ 金属製品等)
第6表 包含層遺物量集計表	
第7表 井戸出土種実等一覧	
【大塚遺跡】	【大塚遺跡】
第8表 繩文土器分類表	別表5 大塚遺跡 造構一覧表
第9表 出土石器組成表	別表6 大塚遺跡 掲載遺物観察表(縄文・弥生)
第10表 石材別石器組成表	別表7 大塚遺跡 掲載遺物観察表(石器)
第11表 石器の用途別構成	別表8 大塚遺跡 掲載遺物観察表(古墳以降)

## 挿図目次

【海道遺跡】	第12図 検出樹種の顕微鏡写真(2) ······ 47
第1図 遺跡位置図	第13図 包含層出土土器量分布図(1) ······ 51
第2図 大塚遺跡一次調査トレンチ設定図	第14図 包含層出土土器量分布図(2) ······ 52
第3図 大塚遺跡各年度別調査区	第15図 造構資料から見た古代の土器 ······ 54
第4図 遺跡周辺の地形	第16図 造構資料から見た中世の土器 ······ 57
第5図 高田平野及び関川流域の遺跡分布	第17図 SE420出土クリ法量分布図 ······ 58
第6図 グリッド設定図	
第7図 基本土層断面図	第18図 グリッド設定図 ······ 60
第8図 古代土器器種分類図	第19図 基本土層断面図 ······ 61
第9図 中世土器器種分類図	第20図 時期別出土土器分布図 ······ 65
第10図 種実遺体	第21図 周辺の沈線文系土器 ······ 75
第11図 検出樹種の顕微鏡写真(1) ······ 46	

## 図版目次

【図面】	SE346 · SE347 · SE385
海道遺跡	
図版1 造構全体図	図版12 造構個別図5 SE420 · SE430 · SE456 · SE476 · SE487 · SE490
図版2 95年度造構分割図1	図版13 造構個別図6 SE496 · SE550 · SE560 · SE580 · SE590 · SE600 · SE610
図版3 95年度造構分割図2	図版14 造構個別図7 SE620 · SE630 · SE650 · SE660 · SE670 · SE900 · SE1240
図版4 95年度造構分割図3	図版15 造構個別図8 SE1110 · SE1120 · SE1241 · SE1244 ~ SE1246
図版5 95年度造構分割図4	図版16 造構個別図9 SE1247 ~ SE1250 · SE1260 · SK1261 · SE1364 · SE1365 · SE1385
図版6 96年度VI層造構分割図	
図版7 96年度VII層造構分割図	図版17 造構個別図10 SE1386 · SE1387 ·
図版8 造構個別図1 SB1 ~ SB5	
図版9 造構個別図2 SB9 · SB10	
図版10 造構個別図3 SB6 ~ SB8 · SB11	
図版11 造構個別図4 SE50 · SE100 · SE130 ·	

SE1389・SE1390・SE1391・SE1500・ SE1502～SE1504	大塚遺跡
図版 18 遺構個別図 11 SE1514・SE1711～ SE1713・SE1717～SE1719	図版 42 遺構全体図
図版 19 遺構個別図 12 SE1720・SE1728・ SE1731・SE1732・SK401・SK403・ SK475・SK1130・ SK1243	図版 43 遺構分割図 1
図版 20 遺構個別図 13 SK1384・SK1388・ SK1392・SK1393・SK1505・SK1508・ SK1510・SK1512・SK1515・SK1607・ SK1706・SX1701	図版 44 遺構分割図 2
図版 21 遺構個別図 14 SK1702・SK1707・ SK1708・SK1714・SK1715・ SK1722・SK1723・SK1820・SK1821・ SD480・SD700・SD1751・SD1752・ SD1753	図版 45 遺構個別図 1 95SI1 図版 46 遺構個別図 2 96SK1・96SK2・97SK4・ 97SK8・97SK9・97SK12・97SK96・ 97SK110・97SK117
図版 22 古代の土器 1 遺構	図版 47 遺構個別図 3 95SK2～95SK8・ 95SK10・97SK102
図版 23 古代の土器 2 遺構	図版 48 遺構個別図 4 95SK11・96SK3・97SK98・ 97SK108・97SK109・96SD2・ 97SD13・97SD18
図版 24 古代の土器 3 遺構	図版 49 遺構個別図 5 須恵器窯 1
図版 25 古代の土器 4 遺構	図版 50 遺構個別図 6 須恵器窯 3・95SK9・ 97SK111・97SI10・97SI137
図版 26 古代の土器 5 遺構	図版 51 縄文土器 1 遺構・包含層
図版 27 古代の土器 6 遺構・包含層	図版 52 縄文土器 2 包含層
図版 28 古代の土器 7 包含層	図版 53 縄文土器 3 包含層
図版 29 中世の土器 1 遺構	図版 54 縄文土器 4 包含層
図版 30 中世の土器 2 遺構	図版 55 縄文土器 5 包含層
図版 31 中世の土器 3 遺構・包含層	図版 56 縄文土器 6 包含層
図版 32 中世の土器 4 包含層	図版 57 縄文時代の土製品・縄文時代の石器 1
図版 33 近世の遺物 1	図版 58 縄文時代の石器 2
図版 34 近世の遺物 2・石製品 1	図版 59 縄文時代の石器 3
図版 35 石製品 2	図版 60 縄文時代の石器 4
図版 36 木製品 1 遺構	図版 61 縄文時代の石器 5
図版 36 木製品 2 遺構	図版 62 縄文時代の石器 6
図版 37 木製品 3 遺構	図版 63 縄文時代の石器 7
図版 39 木製品 4 遺構	図版 64 縄文時代の石器 8
図版 40 木製品 5 遺構他	図版 65 縄文時代の石器 9
図版 41 木製品 6 遺構他・土製品・金属製品他	図版 66 縄文時代の石器 10
【写 真】	図版 67 縄文時代の石器 11・旧石器時代の石器
海道遺跡	図版 68 古墳時代以降の土器 1
図版 71 95年度遺跡航空写真・96年度VI層遺跡完掘 状況	図版 69 古墳時代以降の土器 2
図版 72 96年度VII層遺跡完掘状況 SX1701	図版 70 古墳時代以降の土器 3
図版 73 SE50・SE100・SE130・SE346	図版 79 SE610・SE620・SE630・SE650
図版 74 SE346・SE347・SE385・SE420	図版 80 SE650・SE660・SE670・SE900
図版 75 SE430・SE456・SE476	図版 81 SE900・SE1110・SE1120・SE1240
図版 76 SE476・SE487・SE490・SE496	図版 82 SE1241・SE1244・SE1245・SE1246
図版 77 SE496・SE550・SE560	図版 83 SE1246～SE1250
図版 78 SE580・SE590・SE600・SE610	図版 84 SE1260・SE1364・SE1365・SE1385
	図版 85 SE1385～SE1387・SE1389
	図版 86 SE1390・SE1500～SE1502
	図版 87 SE1503・SE1504・SE1514・SE1711・ SE1712
	図版 88 SE1712・SE1713・SE1717・SE1718

- 図版 89 SE1719・SE1720・SE1728・SE1731  
図版 90 SE1731・SE1732・SK401・SK403  
図版 91 SK403・SK475・SK1130・SK1243・SK1388  
図版 92 SK1384・SK1388・SK1392・SK1393・SK1505・SK1508  
図版 93 SK1510・SK1607・SX1701  
図版 94 SX1701・SX1702  
図版 95 SK1706A・SK1707・SK1708・SK1714・SK1715  
図版 96 SK1715・SK1722・SK1723・SK1820  
図版 97 SK1821・SD480・SD700・SD1751  
図版 98 SD1752・SD1753・Ⅷ層溝群  
図版 99 古代の土器 1 造構  
図版100 古代の土器 2 造構  
図版101 古代の土器 3 造構  
図版102 古代の土器 4 造構・包含層  
図版103 古代の土器 5 包含層 中世の土器 1 造構  
図版104 中世の土器 2 造構  
図版105 中世の土器 3 造構・包含層  
図版106 中世の土器 4 包含層 近世の遺物 1  
図版107 近世の遺物 2・石製品  
図版108 木製品 1 造構  
図版109 木製品 2 造構  
図版110 木製品 3 造構  
図版111 木製品 4 造構他・土製品・金属製品  
図版112 種実・ガラス製品  
大塚遺跡  
図版113 造跡遠景、調査前状況  
図版114 95SI1  
図版115 97SK4・97SK8・97SK9・97SK12  
図版116 97SK110・97SK117・96SK1  
図版117 96SK2・97SK96・95SK3  
図版118 95SK4・95SK7・95SK8・95SK10  
図版119 95SK2・95SK5・95SK6・97SK102  
図版120 97SK98・97SK108・97SK109  
図版121 95SK11・96SK3・97SI10  
図版122 95SK9・97SK111・97SK137・96SD2・97SD18  
図版123 97SD13・97SD18・95全体完掘状況・97  
縦出土状況・97土器出土状況・97旧石器確認作業  
図版124 97SK17（須恵器窓跡）  
図版125 97SK17（須恵器窓跡）  
図版126 97SK17  
図版127 縄文土器1 造構・包含層  
図版128 縄文土器2 包含層  
図版129 縄文土器3 包含層  
図版130 縄文土器4 包含層  
図版131 縄文土器5 包含層 縄文時代の土製品・縄文時代の石器1  
図版132 縄文時代の石器2  
図版133 縄文時代の石器3  
図版134 縄文時代の石器4  
図版135 縄文時代の石器5・旧石器時代の石器・古墳時代以降の土器1  
図版136 古墳時代以降の土器2  
図版137 古墳時代以降の土器3

# 第Ⅰ章 序 説

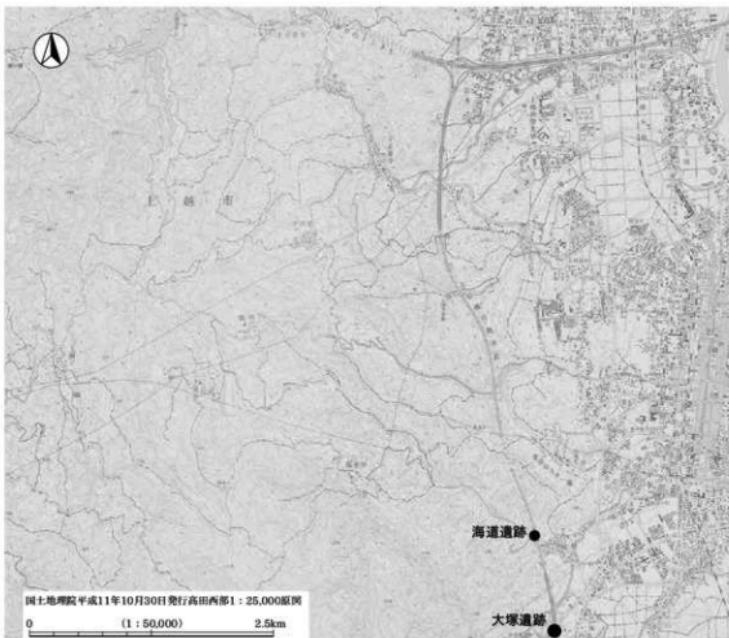
## 1 調査に至る経緯

上信越自動車道は、群馬県藤岡ジャンクションから新潟県上越ジャンクションの間、総延長203kmにわたる高速自動車道である。本路線は、関越自動車道と北陸自動車道とを結ぶ基幹輸送体系として、また、沿線地域の各種開発整備計画と関連して社会経済活動に大きな役割を果たすものとして期待された。

海道遺跡及び大塚遺跡のある上信越道第十一次施行命令区间（中郷村～上越市）は、昭和48年11月に基本計画が、平成元年1月に整備計画がそれぞれ決定され、平成2年に施行命令が出された。

それに伴い、県教育委員会は、日本道路公团からの依頼を受けて平成2年4月に当該区間の踏査を行った。その結果、周知の遺跡18・新発見遺跡10・遺跡推定地25か所を確認し、公團に通知した。

海道遺跡はこの時の新発見遺跡であり、平成3年度に周知化された。大塚遺跡は遺跡推定地No.13である。両遺跡は平成7年度の調査要望があり、発掘調査を実施した。



第1図 遺跡位置図

## 2 調査及び体制

### A 海道遺跡

海道遺跡は、先述のように踏査により発見され平成3年度に周知化された遺跡である。上信越道の一次調査、二次調査は道路公団要望に沿い順次行ってきたが、海道遺跡については、一次調査をまだ実施していない段階の平成6年度末に、平成7年度事業として急遽二次調査要望があがってきた。踏査段階で地形的に遺跡範囲がほぼ特定できしたこと、深さについてもゴミ穴等からおよそ推定できたこと、時間的・人的余裕もないことから一次調査は実施せず最初から二次調査とし、平成7年4月～9月まで調査を実施した。調査面積は4,200m<sup>2</sup>である。

平成8年度当初には、調査を終了した本線部分の脇に工事用道路を設置することが明らかとなり、その部分約600m<sup>2</sup>も本調査を実施することとなった。

#### 1) 二次調査の経過

##### 平成7年度

4月中旬までに諸準備を行い、4月24日から本調査に着手した。確認調査を行っていないこともあり、まずグリッドにあわせて4か所にトレントを設定し、調査を行った。全てのトレントで遺物が出土し、遺構確認面までの平均深度は30cmくらいと浅いことが確認された。その後、北側から順次表土・包含層掘削に入った。表土掘削には、重機も併用した。表土・包含層掘削は8月上旬に終了し、遺構発掘に入った。包含層掘削が終了した地点から遺構確認・遺構発掘に入ったが、全域にわたり柱穴・井戸が多く確認された。特に井戸が多かったことから調査に時間を要した。10月からは、次の得法寺跡の発掘調査が予定されており、遺構測量が追いつかないことが懸念されたことから、航空測量を導入することとし、9月19日に測量のための航空写真撮影を行った。調査は予定通り、9月22日に終了した。

##### 平成8年度

平成8年度は、西側の工事用道路部分である。調査は6月5日から開始した。重機による表土剥ぎの後包含層掘削に入った。層序確認のトレント調査の結果、遺構確認面が2枚存在することが明らかとなった。両面ともに平安時代と思われた。層序に則り上面から調査を進めた。遺構は昨年度同様、柱穴・井戸が多く検出された。8月末には上面の調査を大方終了し、9月から下層の調査に着手した。下層の遺構は比較的少なく、柱穴のほかは畝状の小溝であった。調査は、遺構実測・写真撮影も含め、9月いっぱい終了した。

### 2) 調査体制

以下のとおりである。

	平成7年度	平成8年度
調査期間	4月24日～9月22日	6月5日～10月2日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 平野清明）	同 左
調査	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 平野清明）	同 左
総括	藍原 直木（事務局長）	同 左
管理	山上 利雄（総務課長）	同 左
庶務	泉田 誠（主事）	同 左

調査総括	亀井 功（調査課長）	同 左
調査指導	藤巻 正信（調査第1係長）	同 左
調査担当	石川 智紀（文化財調査員）	藤巻 正信（調査第1係長）
調査職員	橋谷田裕治（主任調査員） 金子 泰之（文化財調査員）	村木 弘（主任調査員） 島田 昌幸（文化財調査員）

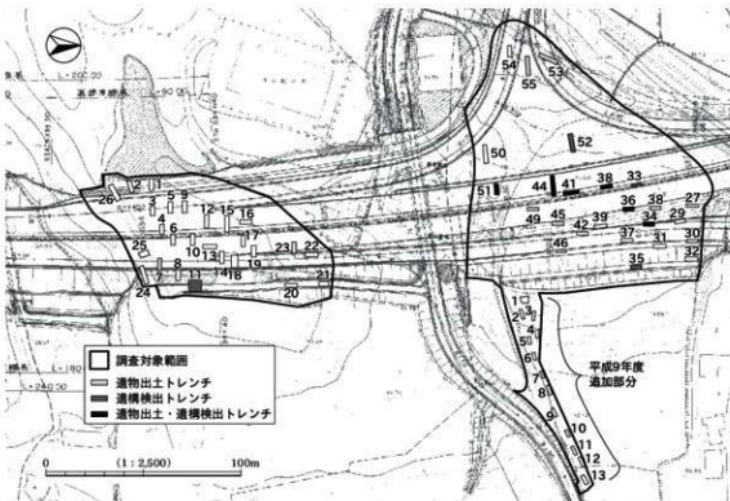
## B 大塚遺跡

### 1) 一次調査（第2図）

一次調査は、平成6年7月25日～8月10日の実質13日間行った。調査は、調査対象地20,800m<sup>2</sup>に対して55か所の調査トレンチを設定して行った。合計の調査面積は1,040m<sup>2</sup>（確認率5%）である。土層は比較的単純で、I層：表土層、II層：暗褐色～黒褐色土層、III層：地山ローム層である。

当該地は、中央がやや低く鞍部となっており、大きくは南北に分かれる。南側で27か所のトレンチを調査したが、遺物は7トレンチで縄文土器2点・石器1点、23トレンチで土師器1点のみであった。11トレンチでは、ローム中に焼土らしきものを確認し、周辺を拡張したがほかに遺構、遺物を認めることはできなかった。

北側では、28か所のトレンチで調査を行った。調査の結果、半数以上のトレンチで遺構、遺物が確認された。遺構の確認されたのは33～35・38・44・47・48・51トレンチで、土坑、ピット等である。遺物は縄文時代の土器・石器、古墳時代の土師器、中世陶器、近世陶器等である。この一次調査の結果、北側については本発掘調査が必要と判断された。面積は約14,300m<sup>2</sup>である。



第2図 大塚遺跡一次調査トレンチ設定図

## 2) 二次調査の経過

### 平成7年度

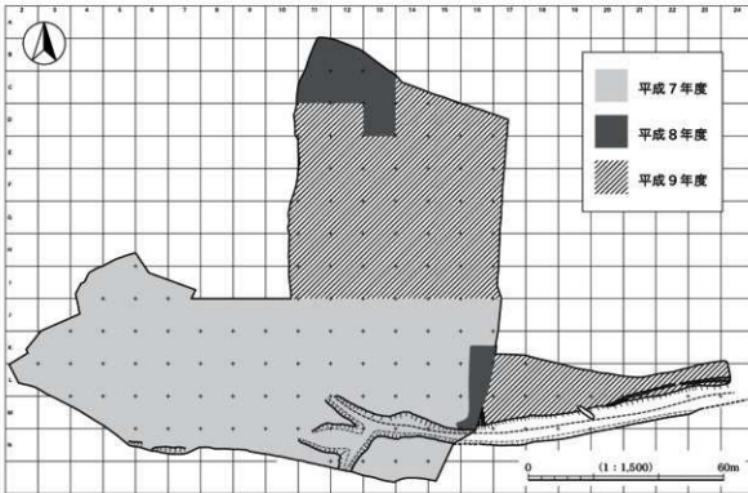
平成7年度の調査はI区より南側6,300m<sup>2</sup>であった。8月に進入路の造成、伐木の処理等を行い、9月に入り、ユニットハウス、トイレの設置など諸準備を行った。本格的な調査は、13日から開始し、9・10M・N区から調査に入った。遺構は確認できず、遺物が限定的に出土したに過ぎない。9月後半には12～16J～M区の調査に入った。この調査区では縄文後期の竪穴住居や陥穴と考えられる土坑が検出された。10月も引き続き同区の調査を継続するとともに、一番西側の2～7H～L区の調査にも着手した。西側においても土坑が検出されたが、出土遺物は少なかった。10月後半にはほぼ発掘調査を終了し、全体写真・遺構実測を行って、11月10日に撤収した。

### 平成8年度

平成8年度は、調査面積712m<sup>2</sup>と少なかった。調査は10月28日から開始した。調査区は2地区に分かれていたが並行して作業を進めた。北側(11～13B～D区)では、遺構遺物の出土は少なく、土坑が3基確認されたに過ぎない。南側(16K～N区)ではL字状に廻る溝が確認された。11月後半には調査を終了し遺構実測、写真撮影を行い12月4日に撤収した。

### 平成9年度

平成9年度には残りの5,710m<sup>2</sup>を調査した。4月14日から調査に入った。当初予定になかった東側の迂回路が調査対象となつたため、その部分の確認調査から入った。確認トレンチは13設定して行ったがいくつかのトレンチで遺構・遺物が検出されたため、ほぼ全域を本調査対象とした。本線部分に先行して、この迂回路部分の本調査を優先した。調査の結果、古代の住居跡や溝・土坑などを検出したが、97SK17



第3図 大塚遺跡各年度別調査区

とした土坑は、窓跡の可能性が強くなったため、調査員1名を増員し、その調査に当たった。調査の結果、古代の須恵器窓跡であることが判明し、調査はおよそ1か月、6月中旬に終了した。

本線部分は、7月からバックフォーによる表土剥ぎに入り、7月後半から人力による包含層掘削に移った。9月中旬には包含層掘削をほぼ終了し、遺構精査・発掘に入った。検出遺構はほとんどが縄文時代の土坑であったが、古代中世の遺物も出土している。遺構掘削、写真撮影、実測を順次行い、10月いっぱいではほぼ終了した。11月には旧石器時代を対象としたトレンチ調査を6日ほど行ったが、遺構・遺物は確認されなかつた。

### 3) 調査体制

以下のとおりである。

#### 一次調査

平成6年度	
調査期間	7月25日～8月10日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 本間栄三郎）
調査	（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 本間栄三郎）
総括	藍原 直木（事務局長）
管理	渡辺 耕吉（総務課長）
庶務	泉田 誠（主事）
調査総括	茂田井信彦（調査課長）
調査指導	藤巻 正信（調査第1係長）
調査担当	田海 義正（主任調査員）
調査職員	橋谷田裕治（主任調査員）

#### 二次調査

平成7年度		平成8年度		平成9年度	
調査期間	9月13日～11月10日	10月28日～12月4日	4月14日～11月14日		
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 平野清明）	同左	同左		
調査	（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 平野清明）	同左	同左		
総括	藍原 直木（事務局長）	同左	須田 益輝（事務局長）		
管理	山上 利雄（総務課長）	同左	若槻 勝則（総務課長）		
庶務	泉田 誠（主事）	同左	同左		
調査総括	亀井 功（調査課長）	同左	同左		
調査指導	藤巻 正信（調査第1係長）	同左	同左		
調査担当	小池 義人（主任調査員）	飯坂 盛泰（文化財調査員）	杉田 健一（主任調査員）		
調査職員	山田 聰（嘱託員）	浅沢 誠（嘱託員）	吉澤 璞（主任調査員）		
	清塚 则和（嘱託員）	山崎 忠良（嘱託員）	海津 知（嘱託員）		

## 3 整理及び体制

### A 経過

両遺跡の出土遺物の水洗・註記作業は、各年度の発掘調査終了後に行った。しかし、海道遺跡の平成8年度分は、未註記であったため、平成16年度に委託して行った。また、大塚遺跡の土器、石器の実測作業の一部は、各調査年度に実施している。

整理作業は、平成16年度に埋蔵文化財センターにおいて実施した。2遺跡の合本であったため、下記の作業工程ごとに両遺跡の作業を行った。作業工程は以下の順である。①遺構図面整理、遺構写真整理

②遺構仮図版、遺構写真仮図版作成 ③遺物の接合、復元 ④遺物の実測 ⑤遺物のトレース ⑥遺物仮図版作成 ⑦遺物写真撮影 ⑧遺物写真仮図版 ⑨報告遺物番号註記等収納作業。

作業内容は以上のとおりであるが、版下作成を伴う一連の編集作業は、株式会社セビアスに委託した。

**遺 物** 事業団職員が、接合・復元、実測遺物の選出・図化・トレース・写真撮影を行った。写真撮影にはデジタルカメラ（ニコンD100）を使用した。版組は株式会社セビアスである。

**遺 構** 遺構の製図作業は、原図及び仮版作成を事業団職員が行い、トレース・版組は株式会社セビアスである。

**版下作成** 本文・図版を含む報告書全ての編集を行った後、編集委託業者（株式会社セビアス）からは、デジタルデータ（DTP）で納品を受けた。なお、当事業団は本文・図版のレイアウトを含む編集作業を行い、以下の資料をセビアスに支給した。

本文・挿図：テキスト形式・Microsoft社Excel形式データ、貼りこみ版下

遺構図面図版：原図コピー・レイアウト図案・文字データ

遺物図面図版：トレース図・レイアウト図案・撮影・文字データ

遺構写真図版：遺構写真的CD-R・レイアウト図案

遺物写真図版：遺物写真的ネガ・MO・レイアウト図案

## B 整理体制

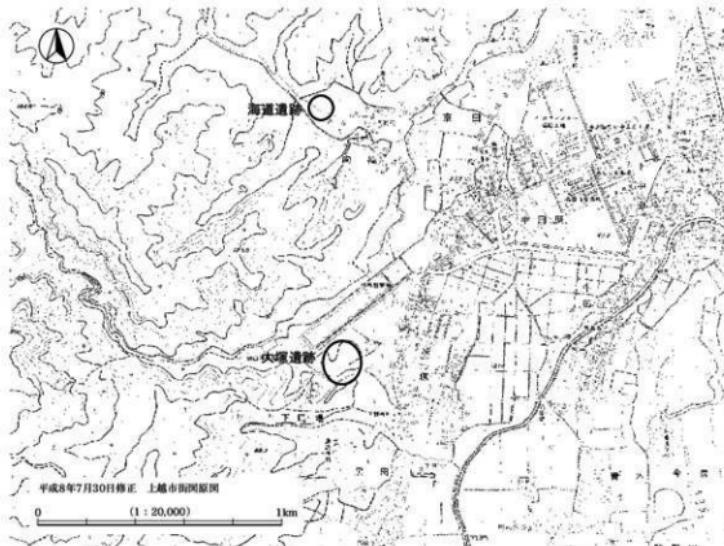
以下のとおりである。

整 理 期 間	平成16年4月1日～平成17年3月31日
整 理 主 体	新潟県教育委員会（教育長 板尾越鶴一）
整理実施機関	財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 板尾越鶴一）
總 括	黒井幸一（事務局長）
管 理	長谷川二三夫（総務課長）
庶 務	高野正司（総務班長）
整 理 総 括	藤巻正信（調査課長）
整 理 担 当	高橋 保（調査課整理担当課長代理）
作 業	小熊洋子 加藤祐子 木山京子 小林智美 島倉はるみ 鶴田須美子 東條シゲ子（以上嘱託）

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

今回報告する海道・大塚遺跡をはじめとする上信越道関連の遺跡が立地する高田平野は、新潟県の南西部に位置する堆積平野である。その北側を縁取るように海岸と平行して、上越市五智から柿崎町にかけて長さ約20kmに渡って潟町砂丘が発達し海岸と平野を区画している。潟町砂丘は幅平均1~1.5m、標高約10~50mを測る起伏に富んだ海岸砂丘で、上部は新潟砂丘層によって、下部は潟町砂層と呼ばれる古期砂丘砂層によって構成される。北東部では、海から直接そびえる米山(993m)をはじめとする米山山地が柏崎平野との境をなしている。南東から北東部にかけては、菱ヶ岳(1129m)・天水山(1090m)・黒倉山(1289m)などのそびえる東頸城山地によって区画され、この山地の南西部が信越国境をなしている。東頸城山地は徐々に高度を下げながら北東方向に伸び刈羽郡に続いている。西側は姫川右岸から東に広がる西頸城山地がある。西頸城山地には、北から鉢巻山(412m)、南葉山(949m)、重倉山(1029m)、大毛無山(1429m)、容雅山(1499m)などの山々がそびえ、北から南にいくにしたがって次第に高度を増し、最高所は火打山の2462mである。東頸城山地、西頸城山地ともに大半が第三紀の堆積岩で形成され、この未凝結の地層のために山間地域は日本でも有数の地潛り地帯となっている。また、南側には活火山である妙高山(2446m)がそびえ立つ。



第4図 遺跡周辺の地形

高田平野には、これら三方を囲む山々から多くの河川が流入している。最大の河川は西頸城山地に源流を持つ関川である。関川は妙高山東麓をぬけて、片貝川・矢代川・正善寺川など西頸城山地西部から流れ出す河川を合流しながら北流して日本海へそそぐ。東頸城山地東部からは保倉川が流れ出し、西流して南東部から流れ出す飯田川と合流して河口付近で関川にそそぐ。南東部からは櫛池川・大熊川が流れ出し、平野南西よりの地域で関川と合流する。高田平野の南西部から南東部にかけては、飯田川・櫛池川・大熊川・関川・矢代川などの河川が運搬してきた堆積物によって形成される扇状地が発達している。これらの河川によって造られた高田平野は、その大部分が二段の沖積段丘によって形成されている。

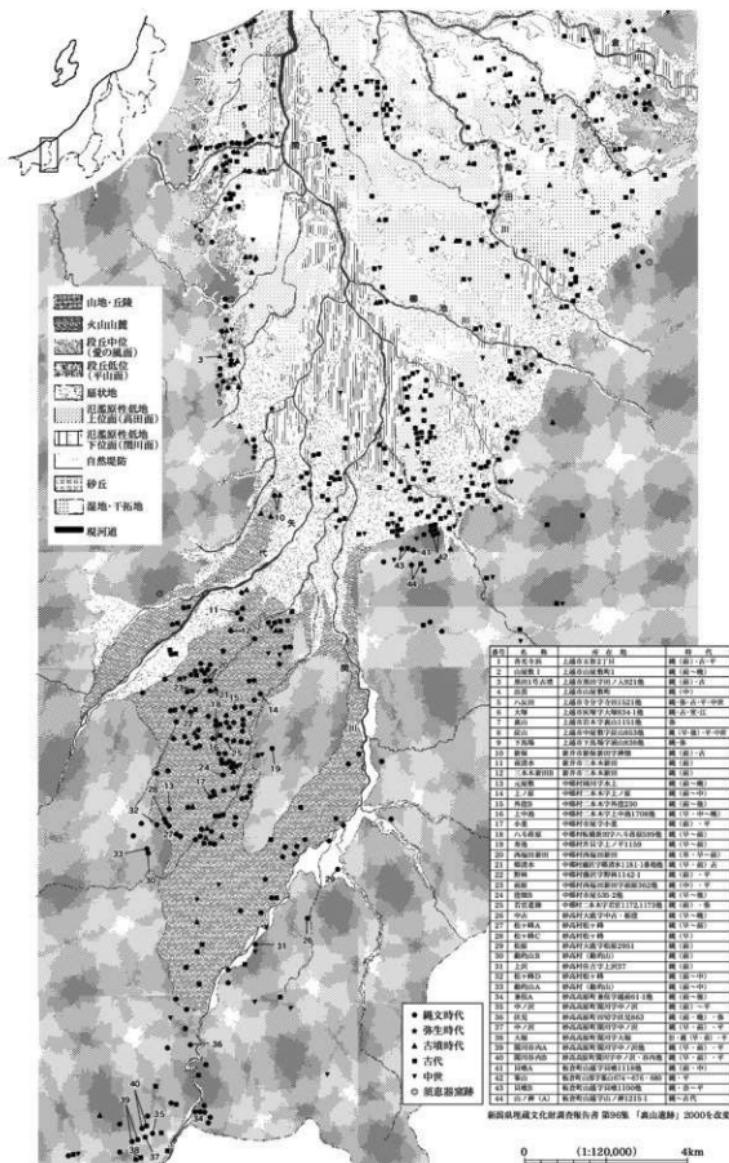
両者は段丘崖をもって上位の高田面と下位の関川面とに区分されている。この段丘崖は関川河口付近ではあまり明瞭には認められないが、南にいくにしたがって比高を増し、最大で約6mを測る。高田面は、礫層と砂層・シルト層の互層からなる高田層によって形成され、高田平野の大部分を占める。標高は約6～36mを測り、海岸部へ向って下降している。縄文海進時に内湾であったところに河川による堆積作用を受けて形成されたものと考えられている。現在においても平野北東部の大潟町JR信越本線大潟町駅から上下浜駅の海岸砂丘背後には、旧大潟をはじめ朝日池・鶴ノ池などが潟湖として、その痕跡を残している。この周辺においては、縄文時代から断続的に古代に至るまでの遺跡が集中して分布し、天然の港として潟湖を利用する集落が営まれていたものと思われる。また、高田面上の河川沿いの地域や旧河道に沿った地域には、河川が繰り返し洪水を起こすことによって形成された自然堤防が発達している。特に飯田川や保倉川・保倉川旧河道に沿った地域に顕著である。関川面は関川やその支流が高田面を削って形成されたもので、関川やその支流に沿ってみとめられるに過ぎない。関川の氾濫原との比高は約1～2mを計る。関川面においても特に関川・矢代川の河道に沿った地域に自然堤防が発達している。

高田平野の東縁部から西縁部にかけた山地の麓には部分的に洪積台地があり、平野の一部をなしている。これは三段に区分されており、最上位の面からそれぞれ、飯喰沢面・愛の風面・平山面と呼ばれている。飯喰沢面は赤色土壤とローム層をのせ、浦川原村山本山山地の最高位面、板倉町飯喰沢～西貝屋の西側の山地、新井市濁川採石場の最上位などわずかにみられるにすぎない。赤色土壤とローム層を伴う粘土層と砂礫層をのせる愛の風面は、浦川原村山本山（標高140～190m）、板倉町山越（標高200～250m）、新井市濁川採石場（標高220～250m）などに見られる。砂礫層と粘土層のほかローム層をのせる平山面には、西縁部の灰塚・平山・岩木・山屋敷などの集落をのせる段丘や昔原神社をのせる段丘などがある。海道遺跡は、標高約24mの氾濫原堆積物上位高田面上にあり、大塚遺跡は標高約55mの低位段丘平山面上にある（この地理的環境は一の口遺跡東地区〔高橋1994〕より引用し、再掲載した）。

## 2 高田平野及び関川流域の遺跡分布

新潟県の南西部に位置する高田平野及び関川流域は、現在に至るまで日本海側は北陸及び東北方面からの、関川流域は信州・東海方面からの文化伝播経路として重要な位置を占めている。また、その接点として複雑な様相を呈している。今回報告の海道・大塚遺跡は、旧石器時代～近世に至る各時代の遺物が出土している。県教育委員会で発掘調査してきた北陸自動車道・上信越道・一般国道18号バイパス（上新・妙高野尻）関連遺跡はいずれも関川左岸に当たり、今まで不明であった当地域の各時代の様相が明らかになってきている。ここでは今報告に関連する時代の遺跡分布について簡単に触れておく。

大塚遺跡では旧石器が数点出土している。前述の道路関係の調査でも単品的に旧石器の遺物は確認され



第5図 高田平野及び関川流域の遺跡分布

ているが、蛇谷遺跡ではまとまった接合資料が出土しており、生活関連として上越地方では初の遺跡となる。旧石器の分布はそちらに詳しいのでゆずる。

### 縄文時代早期～前期

最も海岸に近いのは上越市善光寺浜遺跡〔中野・立木2003〕である。海岸線から約100mはなれた海岸段丘上に位置し、縄文前期中葉から後葉のいわゆる刈羽式・鍋屋町式土器が出土している。石器も磨製石斧が十数点出土していることから集落のあった可能性が高い。海岸部では他に上越市東カナクゾ谷遺跡〔田海1987〕がある。早期の押型文土器や前期初頭～中葉の北陸系土器が出土している。関川左岸の丘陵上には当該期の遺跡が連続する。裏山遺跡・炭山遺跡では早期後葉のいわゆる絡状体圧痕文土器がある。山屋敷I遺跡〔寺崎2003a〕でも早期の絡状体圧痕文土器、前期後葉の土器が、また石器では草創期と思われる局部磨製石斧や片刃石斧・尖頭器が出土している。黒田古墳群の立地する丘陵でも前期中葉～末葉の土器が出土している。土器の様相は多様で、中部高地の有尾式、東北地方の大木2a式、北陸系、魚沼地方の根小屋式、鍋屋町式、下越地方の重畠式、関東地方の十三菩提式、東北地方の大木6式等があり〔寺崎2003c〕、当地の特殊性である。

新井市から南の妙高山麓及び周辺では早期の遺跡が充実しており、およその編年体系が見て取れる。早期前葉では、表裏縄文系の土器が大塚遺跡〔立木（土橋）1996〕・中ノ沢遺跡〔立木（土橋）1997b〕・関川谷地遺跡〔立木（土橋）2003〕、西福田新田遺跡〔立木（土橋）1999〕で出土している。いわゆる関東地方の撫糸文系土器に平行する時期である。次の段階の押型文土器は、中ノ沢遺跡、関川谷地遺跡、八斗蒔原遺跡〔坂上2004〕で定量の出土があり、他の遺跡でも数点の出土は見られ、大塚遺跡でも4点の出土がある。信州地方の樋沢式・細久保式・賽の神式の段階に当たる。次の沈線文系土器もかなりの出土を見せている。いわゆる田戸上層式及びその段階である。特に八斗蒔原遺跡では押型文・田戸下層段階から前期初頭に至る土器（田戸上層式、条痕文系、羽状縄文系）が出土している。この沈線文系土器は、大塚遺跡でも一定の出土を見ており、最近では隣接の長野県信濃町賀ノ木遺跡〔中島1998〕、上山桑A遺跡〔中村2004a〕、東裏遺跡〔中村2004b〕等でも良好な資料が出土している。

条痕文系・絡状体圧痕文系も各地で出土を見る。妙高高原町大塚遺跡・萩清水遺跡〔立木（土橋）1997a〕、関川谷地A遺跡・窪畑B遺跡〔立木（土橋）1999〕、八斗蒔原遺跡等がある。

また、前期初頭の羽状縄文系土器も上記遺跡で出土している。妙高村中古遺跡〔室岡・早津1986〕では、前期前葉の羽状縄文や斜行縄文が出土している。前期後半のいわゆる諸磯段階では、新井市萩清水遺跡・妙高村松ヶ峰No.210遺跡・中郷村小重遺跡〔小池ほか2002〕がある。

### 縄文時代中期

上越市では、山屋敷I遺跡・出雲遺跡〔寺崎2003b〕に中期初頭の資料が少数認められる。いずれも北陸系新保式であるが中部高地や中郷村和泉A遺跡〔荒川1999〕出土と類似の土器も出土している。和泉A遺跡は、中期初頭の環状集落で約半周が調査された。半隆起線による曲線文や格子目文、口縁部の把手が特徴的で、北陸地方の新保新崎系とは様相を異にし、長野県北信地域から妙高山麓地域に中心を持つ土器である。類似の土器は妙高村柿ノ木遺跡〔親跡1992〕や板倉町峰山B遺跡〔秦・岡本1986〕でも出土している。大塚遺跡出土土器は、これらより海岸に近いこともあり、北陸系と言える。

中期前葉以降も土器の様相は同様で、海岸に近い上越市では北陸系が主体を占め、その中に中部高地・

北信系が混在する。妙高山麓では逆に中部高地・北信系が主体を占め、それに北陸系が混在するという在り方である。集落としては、上越市山屋敷Ⅰ遺跡、新井市大貝遺跡〔岡本ほか1967〕、中郷村南田遺跡〔親跡1988〕、妙高村道添遺跡〔室岡1994・1995〕等がある。

縄文遺跡全般を見ると、関川左岸の丘陵部に多くの遺跡が認められ、特に妙高山麓に多い。関川右岸でも多くの遺跡が認められるが、上流部に多い。平野部で確認されている縄文遺跡は少ないが、最近の調査では、上越市下割遺跡の確認調査において、地表下3mから縄文時代後期の遺物が出土している〔尾崎2003〕。のことから、平野部にも多くの縄文遺跡が埋没している可能性は十分にある。

### 弥生・古墳時代

弥生時代の遺跡も総体としては少ないが、中期以前と後期以降では大きく様相が異なる。高田平野部については上越市史〔品田2003〕に詳しい。これによれば弥生前期後半～中期初頭の遺跡は中郷村和泉A遺跡〔荒川1999〕、龍峰遺跡〔川村2000〕のみである。中期前半は確認されておらず中期後半の遺跡として上越市吹上遺跡〔笠澤2003a〕、新井市上百々遺跡〔高橋1985〕があるに過ぎない。弥生文化の伝播を考える時、日本海側の北陸ルート、東海・信州ルートとして高田平野は重要な位置を占める。吹上遺跡は、中期後半から後期の遺跡で最近調査され注目されている大きな集落遺跡である。それにしても、確認されている遺数が余りにも少ないよう思える。新潟県内全般を見回しても、前期～中期前半の西日本系土器の出土遺跡は少ない。高田平野にしてもこれが実態なのか、または平野部に多くの当該期遺跡が埋没しているのか今後注目される。後期から古墳時代前期にかけては様相を一変する。平野部においてもまたいわゆる高地性集落も多く存在するようになる。関川左岸の丘陵上では、海岸に一番近い位置に裏山遺跡〔小池ほか2000〕、その上流には下馬場遺跡〔尾崎2005〕、斐太遺跡群（百両山、上ノ平、矢代山）〔駒井・吉田1962〕がある。また、平野部には、吹上遺跡、細田遺跡〔尾崎2005〕、上百々遺跡が、また右岸には上越市中島廻り遺跡〔小島1991〕、子安遺跡〔上越市教育委員会1993〕、一の口遺跡東地区〔鈴木1994〕、下削遺跡〔山崎2004〕等多数ある。上流部では、中郷村龍峰遺跡、妙高村大洞原遺跡〔三ツ井ほか1997〕、小野沢西遺跡〔立木（土橋）2004〕等がある。古墳時代の遺跡は古墳を除くと、関川右岸にも多数存在するようになる。

### 古代・中世

この時期の遺跡は特に多い。河川流域の自然堤防上、扇状地の扇端部等に目立つ。また、最近の道路関係調査で、丘陵上にも古代・中世の遺跡が多く存在することもわかってきた。

## 第III章 海道遺跡

### 1 調査の概要

#### A グリッドの設定 (第6図)

グリッドは国家座標系のX・Y軸をもとに設定した。Y軸方向が北を示す。10mメッシュを大グリッドとし、北から南に向って数字の1～、東西は西からアルファベットA～を付した。ちなみに、1A区北西隅のポイントはX軸：121420、Y軸：24310である（旧座標）。しかし1996年度には、道路法線外も調査が必要となったことから、Aからでは西側がカバーできなくなつたため、Aの西側からひらがな「あ～」を付すこととした。大グリッドの中は、2mメッシュの小グリッドとし、北西隅から東西に数字番号を付した。グリッドは6E15ように表記した。

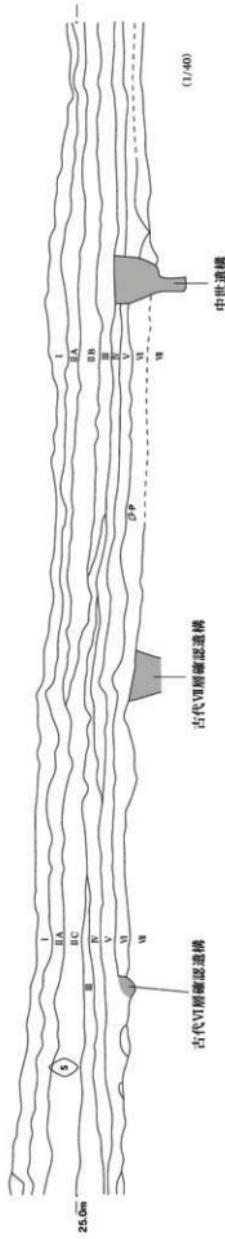


第6図 グリッド設定図

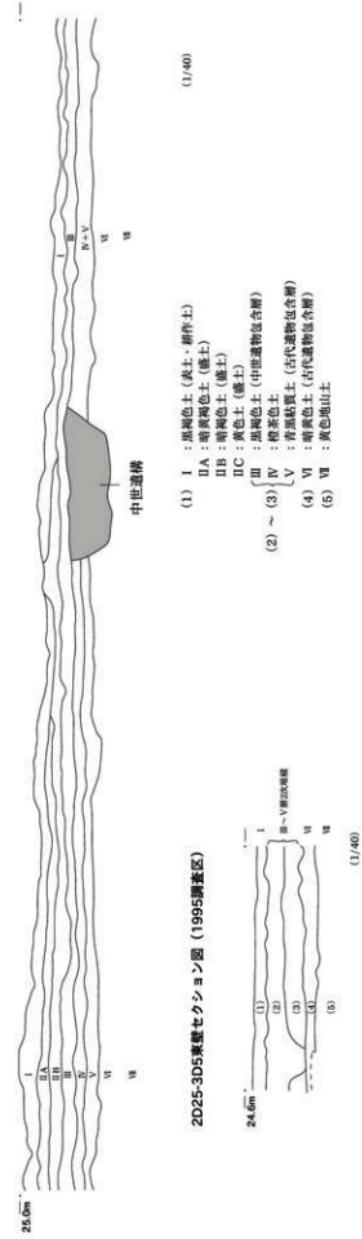
#### B 基本層序 (第7図)

1995年度と1996年度と調査区が異なるため、層序にも違いが見られる。層厚は北側（山側）では厚く、南側では薄い傾向が見られる。1996年度調査区の層序を見ると、I層：表土層、II層：A～C層に細分されるが、盛土である。山側から押し出した整地層と考えられる。この盛土層は、4A区南側でなくなる。III層：黒褐色土で、中世遺物包含層である。次のIV層を切り込んで中世遺構が認められる。しかし、このような層序が認められるのは山側の一部であり、実際の遺構確認は古代と同時確認となつた。IV層は橙茶色土、V層：青黒粘質土で古代遺物包含層。次のVI層を切り込んで古代の遺構が確認される。VI層：暗黄色土でやはり古代遺物包含層。次のVII層を切り込んで古代の遺構が確認される。VII層：地山の黄色土となる。1995年度調査区は、III～V層が明確でないが、(2)(3)層が相当し、後世の整地等で二次堆積したものと考えられる。(4)層はVI層に相当するであろう。

3A東壁セクション図 (1996調査区)



4A東壁セクション図 (1995調査区)



第7図 基本土壌断面図

## 2 遺構

### A 概要

調査面積は本線部分と工事用道路部分合わせて4,800m<sup>2</sup>で、多数のビット・土坑・井戸・掘立柱建物跡・溝が検出された。確認している数は、井戸62基・土坑63基・溝53基・不明遺構16・掘立柱建物跡11基である。但し、掘立柱建物跡は調査時に認識したものではなく、整理段階で図上検討の結果建物としたものである。本線部分は中世12～13世紀の遺物を中心として出土しており、遺構群もその時期のものが多いと考えられる。また、平安時代も定量認められる。近世、近代遺物も多く認められ、その時期の遺構も考慮する必要がある。1996年度の工事用道路部分は、古代が主体を占める。

### B 遺構各説

#### 1) 掘立柱建物

##### SB1 (図版2・8)

1・2E・Fに位置する南北棟建物である。母屋桁行2間(6.3m)、梁間2間(3.6m)で東側に庇がつく。庇部分は東へ約1.3mである。母屋部分の柱穴は、径40～50cmで、深さは四隅が50～60cmと比較的深く、中柱はそれに比べて浅い。庇部分の柱の規模は、母屋に比べると小さい。長軸方位は、ほぼ真北を指す。底部を合わせた床面積は約31.5m<sup>2</sup>である。

##### SB2 (図版2・8)

3Eに位置する東西棟建物である。桁行3間(4.0m)、梁間2間(2.5m)で両梁間が外に張り出す亀甲状を呈する。桁行は中央2間目が広く1.8m、両脇が1.1mである。柱穴の大きさは径約30cm、深さ30cm平均である。長軸方位はN85°Eである。床面積は約10m<sup>2</sup>である。

##### SB3 (図版2・8)

2・3Dに位置する南北棟建物である。桁行3間(6m)、梁間1間(3m)である。梁間は間に柱穴が確認できず、1間が広い。桁行の柱間間隔は、南側が広く約2.5mとなる。柱穴の大きさは、径約30cm、深さ30～60cmである。長軸方位はN12°Wである。床面積は約18m<sup>2</sup>である。

##### SB4 (図版2・8)

3C・Dに位置する東西棟建物である。南北4間(7m)、東西5間(8m)である。南北の柱間は中央2間が1.8mであるが、両端は1.5mとやや狭い。南北は西側1間(1.8m)を除いて、間隔は1.5mとなるが、柱が確認できていない地点が多くある。柱穴の大きさは、30～60cm、深さは50cm平均である。長軸方位はN82°Wである。床面積は56m<sup>2</sup>である。

##### SB5 (図版2・8)

4Cに位置し、SB4に隣接する東西棟建物である。東西2間(3.7m)、南北2間(3.4m)で南北がやや短い。柱間間隔は1.8m、柱穴規模は径30cm平均で、深さも30cm平均である。長軸方位はN80°Wである。床面積は12.6m<sup>2</sup>である。

##### SB6 (図版3・10)

5・6Eに位置する南北棟である。南北5間(9m)、東西1間(4.3m)である。柱間間隔は、南北1.8m、東西は2間分の広さを持つ。柱穴規模は、当遺跡内では、最も大きく、80cm前後、深さは0.6～1mで

ある。長軸方位はN83° Wである。床面積は38.7m<sup>2</sup>である。

**SB7** (図版3・10)

6・7Cに位置する東西棟建物である。桁行3間(5.8m)以上、梁間1間(3.3m)となる。桁行の柱間間隔は、1.9m、梁間は2間分の広さを持つ。柱穴規模は径30cm平均、深さは30cm平均である。長軸方位はN17° W、床面積は19m<sup>2</sup>以上となる。

**SB8** (図版3・10)

6・7Dに位置する南北棟建物である。桁行3間(6.5m)、梁間3間(3.7m)となる。柱間間隔は、桁行北から1.8~1.9m、2.8m、1.8mで、中央が広くなっている。梁間は短く約1.2m間隔である。柱穴規模は小さく径20~30m、深さ30cm前後である。床面積は約24m<sup>2</sup>である。長軸方位はN3° Wである。

**SB9** (図版6・9)

3Aに位置する。桁行4間(7.6m)以上、梁間1間(4.7m)で、桁行両側面に1間の張り出しがある。梁間には中柱がない。桁は北西端から1.3m、2.0m、2.5m、1.8mと一定しないが、桁2列の間隔は同じ。北西側2間目に対称の張り出しを持つ。張り出しあは、約1.5mである。柱穴の規模は、径約50cm、深さ1m前後である。床面積は36m<sup>2</sup>以上となる。長軸方位はN50° Wである。北西側に近接して遺構SX1701がある。

**SB10** (図版6・9)

4・5Aに位置する。桁行3間(6m)以上、梁間1間(5.5m)で、SB9と同じく、桁両側に張り出しを持つ。梁間は通常の3間分あるが、明確な中柱は存在しない。桁は2m、2.4m、1.8mと一定しない。張り出し部はSB9と同様に北西側から2間目にある。規模はやや異なり南側がやや小さい。柱穴規模は径50cm前後、深さは60cm前後である。床面積は33m<sup>2</sup>以上。長軸方位はN65° Wである。

**SB11** (図版6・10)

3・4に位置する。桁行3間(5.8m)以上、梁間2間(3.8m)である。柱間間隔は、桁・梁ともに2m前後である。柱穴規模は径30cm前後、深さ50cm前後である。床面積は22m<sup>2</sup>以上。長軸方位はN53° Wである。

## 2) 井 戸

井戸と認識したものは62基を数える。出土遺物から1995年度調査区は中・近世、1996年度は多くが古代と判断される。

**SE50** (図版2・11・73)

2D24、3D4に位置する円形の井戸。直徑約1.05m、深さ1.95mを測る。最下層の青灰色粘土層からは、木製品が出土している。土器の出土がなく、時期不明。

**SE100** (図版2・11・73)

3D11に位置する楕円形の井戸。長軸1.5m、短軸1.1m、深さ1.85mを測る。下層には炭混じりの層があり有機物も多く混じる。中層の7~9層には、地山土の黄褐色土が堆積する。人為的埋め戻しが窺える。出土遺物は多く、中世珠洲焼、平安時代の土師器、須恵器、鉄滓、礫、木製品等がある。中世に埋められた井戸である。

**SE130** (図版2・11・73)

3C22・23、4C2に位置する円形の井戸であるが、西側1/3は調査区外である。南北で約2m、深さ

1.65mを測る。覆土は暗褐色土で下部は炭層を含む暗灰色土である。出土遺物は須恵器・土師器・珠洲焼で、14層からは漆容器の蓋に使われたと考えられる4つに折りたたまれた漆紙が出土しているが、文字は認められない。

**SE346** (図版2・11・73・74)

2E16に位置する円形の小形井戸である。直径0.9m、深さ1mである。浅いため井戸であったか明確でない。須恵器・土師器が出土しており、平安時代と考えられる。

**SE347** (図版2・11・74)

2E3に位置する円形の井戸。径約1m、深さ0.8mと浅い。覆土はほとんど1層で暗褐色粘質土である。下層から加工された角礫が2個出土している。

**SE385** (図版2・11・74)

4D7・8・12・13に位置する楕円形の井戸である。長軸1.8m、短軸1.2m、深さ1.8mを測る。上部から1mほどで段を有し、下部はやや小さくなる。覆土は上面が暗褐色土でそれ以下が黒褐色土または灰褐色土で炭を混入する。出土遺物は珠洲焼・青磁・中世土師器・須恵器・土師器・砥石等である。下部では丸木が数本出土した。

**SE420** (図版2・12・74)

3E23・24に位置する。長軸1.5m、短軸1.3mのほぼ円形を呈し、深さは約1.3mと浅い。断面形は長い逆台形である。覆土は上面が暗褐色土、下層が炭を多く含む暗黒色土である。出土遺物は珠洲焼、中世土師器で、中世土師器皿が目立つ。焼蹠も10点ほど出土している。また、クリ・トキノキなどの種実も多く出土している。いずれも火を受け炭化している。

**SE430** (図版2・12・75)

4D14・15に位置する。長軸2.35m、短軸1.7mの不整形であるが、下部は楕円形を呈する。崩落のため不整形になったと考えられる。覆土は、下層に炭層や炭化木・植物繊維を多く含む黒色土層があり、上部は暗褐色土や黄褐色土をブロック状に含む層となっている。人為的に埋めている様子が窺える。出土遺物は多く、珠洲焼・中世土師器・青磁・須恵器・土師器のほか、箸・曲げ物などの木製品も出土している。

**SE456** (図版3・12・75)

4D19・24に位置する。径約0.85mの円形を呈し、ほぼ垂直に掘り込まれる。覆土は炭混じりの黄褐色土ブロックを含む暗褐色土で、下部にいくにしたがい黒味、炭含有率が高まる。珠洲焼・須恵器・土師器が出土している。また、土壤水洗でガラス製と思われる数珠玉3点が確認された(図版112)。

**SE476** (図版3・12・75・76)

5C15・20に位置する。1辺約1.2mの方形に近い。掘り方断面形は垂直で、深さは2.1mである。覆土は上層では、暗褐色土と黄褐色土が交互に交じり合い、下部では炭や植物質を多く含む層となる。珠洲焼・土師器・須恵器・木製品の曲げ物・杭等が出土している。

**SE487** (図版2・12・76)

4F1に位置する。径1mのほぼ円形を呈する。深さ0.8mと浅いため、井戸でない可能性もある。覆土は暗褐色土が主体でそれに黄褐色土がブロック状に混じる。中層に大きな礫が捨てられている。底にも石がある。

**SE490** (図版3・12・76)

5D1・6に位置する。長軸1.8m、短軸約1.2mの不整形で、深さは1.65mを測る。北西側と東側に膨

らみを持つが、この井戸に関連するものか、ほかの造構が重複するのかは明確でない。断面形は中央がくびれる形状で下部が膨らむ。崩落によるものか。覆土は濃暗褐色土が主体であるが、下部に行うにしたがって炭や有機物が多くなる。出土遺物は多く、珠洲焼・中世土師器・須恵器・土師器があるが、特に中世土師質土器皿が一括して廃棄されている。また、木製品も多く椀・櫛・曲げ物などが出土している。

## SE496 (図版3・13・76・77)

5D14・19に位置する。一辺約1.2mの隅丸方形を呈し、深さは1.4mと浅い。断面形は、U字状に垂直となる。覆土は1層に暗褐色土で以下2~4層が灰色土・白色土・黄白色土が細かくブロック状に混じる土で、人為的に埋められた様子が窺える。出土遺物は少なく、珠洲焼・土師器・須恵器片である。

## SE550 (図版3・13・77)

5D13・14に位置する。長軸1.2m、短軸1.15mの略円形で、深さは2mを測る。壁面は垂直に落ちる。覆土は薄暗褐色土に黄色土・燈色土が縞状またはブロック状に入り、18層に植物質土、19層に炭が多く混入する。出土遺物は珠洲焼・土師器・須恵器である。

## SE560 (図版3・13・77)

3E22・4E2に位置する。長軸1.0m、短軸0.95mの略円形を呈し、深さは1.55mを測る。覆土の上半部は暗(灰)褐色土を中心に灰色・白色土のブロックが縞状に入る。中位の8層には炭屑、9層にも炭を多く含む赤褐色土、10・11層にも炭が含まれる。遺物は上層から下層まで認められるが、8層以下で多くの中世土師器皿のほか、珠洲焼の壺・甕・鉢が出土している。木製品も多く、糸巻・曲げ物などがある。

## SE580 (図版3・13・78)

7C6・11に位置する。長軸1.2m、短軸1.05mの略円形で、深さは1.75mを測る。壁面は垂直に落ちる。覆土は青灰色粘土に暗褐色土が混じる。出土遺物は多くなく、青磁碗・珠洲焼・須恵器・土師器等がある。

## SE590 (図版3・13・78)

7C17に位置する。径約0.9mの略円形で、深さは2mを測る。上半部はほぼ垂直に落ちるが、下半部(6層付近)でやや膨らみを持つ。二次的な崩落によるものと考えられる。覆土は3、4層に黄白色・明褐色土ブロックが混入し、下部が黒褐色土となる。出土遺物は多くなく、土師器片が数点出土したに過ぎない。木製品は折敷底板等がある。

## SE600 (図版3・13・78)

7D16に位置する。長軸1.15m、短軸1mの不整形を呈する。深さは1.2mと浅い。壁面は垂直である。覆土は黄褐色土を中心に、粘性・しまりとも強い。出土遺物は少なく土師器の細片が数点出土したに過ぎない。

## SE610 (図版3・13・78・79)

5E12・17に位置する。径約1mの略円形を呈する。深さは1.85mを測る。壁は垂直に落ち、下半部でやや広がりを見せる。覆土は暗褐色土に明褐色土がブロック状に入る。下部の7層は青灰色土で植物遺体が多く、小石も混じる。出土遺物は近世の越中瀬戸・唐津・須恵器・土師器・木製品の部材等である。

## SE620 (図版3・14・79)

4F18・23に位置する。長軸、短軸ともに1mの不整形であるが下部は $0.55 \times 0.5$ mの長方形となる。深さは0.95mである。断面は逆台形で、下部が細くなる。覆土は上半が灰色土、下半が青灰色土になる。

## SE630 (図版3・14・79)

4F23に位置する。すぐ北隣にはSE620がある。長軸1.5m、短軸1.4mの不整形を呈し、深さは

1.8mである。壁は垂直に落ちるが、1m以上で袋状に大きく広がる。崩落の結果と考えられる。覆土は上面が黄褐色土、中層に炭を多く含む層があり、下部に有機質土がある。出土遺物は木製品が多く、曲げ物・下駄・部材等がある。ほかに珠洲焼・土師器などがある。

## SE650 (図版3・14・79・80)

6D24・25に位置する。長軸0.95m、短軸0.85mの円形を呈し、深さは1.5mである。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は上層に褐色土、中下層に灰色土・白色土がある。出土遺物は少なく、土師器片数点に過ぎない。

## SE660 (図版3・14・80)

7D4・5に位置する。長軸0.95m、短軸0.85mの梢円形を呈する。深さ1.05mと浅い。壁面は垂直に落ちる。規模は小さい。覆土は暗褐色土に、黄褐色土ブロックが多く混じる。人為的に埋めた様子が窺える。珠洲焼が1点出土している。

## SE670 (図版3・14・80)

5D20に位置する。長軸1.1m、短軸0.95mの隅円方形を呈し、深さは1.8mとなる。壁面は垂直に落ちるが下部で大きく膨らむ。崩落の結果と考えられる。覆土の遺物は近世越中瀬戸・磁器・須恵器・土師器で、木製品では箸や部材がある。

## SE900 (図版3・14・80・81)

6E13に位置する。長軸1.05m、短軸0.8mの梢円形を呈し、深さは1.7mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は上面黄(暗)褐色土で、7層以下に暗褐色土で腐植土混じりとなる。出土遺物は、近世陶磁器・珠洲焼・土師器・須恵器等各時代にわたる。木製品も板等がある。下部には焼縛が多数認められる。

## SE1110 (図版4・15・81)

8D4・9に位置する。径約1.4mの円形を呈し、深さ1.5mを測る。壁はほぼ垂直に落ちる。覆土は上面で灰色土をブロック状に含む黄褐色土で下部は褐色土で、最下層の20層では有機物を多量に含む。出土遺物は木杭などである。

## SE1120 (図版4・15・81)

8D14・19に位置する。長軸1.15m、短軸0.85mの不整形で、深さは1.75mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は上層6層までが、黒褐色土で以下灰色土・青灰色土等である。出土遺物は認められない。

## SE1240 (図版3・14・81)

5F20に位置する。長軸1.05m、短軸1.05mの不整形を呈する。深さは1.4mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが、下部では大きく膨らむ。崩落によるものと考えられる。覆土下部は青灰色粘土である。木製品曲げ物片が見られる。

## SE1241 (図版3・15・82)

5E6・11に位置する。長軸1.2m、短軸1.0mの不整形である。深さは1.65mを測る。壁面は中央部が膨らむ。崩落の結果と思われる。覆土は上面が灰褐色粘土、下部が灰黑色腐植土である。出土遺物には木製品の曲げ物がある。

## SE1244 (図版3・15・82)

7D10・15に位置する。径0.95mの略円形で、深さは1.15mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが、下部でやや細くなる。覆土は暗褐色土に橙褐色土・灰色粘土がブロック状に混じる。遺物は上面から長さ25cmほどの扁平縛が出土したに過ぎない。

**SE1245** (図版4・15・82)

7D25に位置する。長軸0.9m、短軸0.85mの略円形を呈する。深さは1.15mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は褐色土に灰色土がブロック状に混じる。出土遺物はなく、中央に石が認められる。

**SE1246** (図版4・15・82・83)

8E11・16に位置する。長軸1.15m、短軸1.05mの不整形で、深さは1.8mを測る。壁面は底部に向ってやや狭くなる。覆土は灰褐色土・暗褐色土で、下部で灰色土となる。出土遺物はない。

**SE1247** (図版3・16・83)

6C11に位置する。長軸1.15m、短軸0.85mの略楕円形で深さは1.36mを測る。壁面は底部に向ってややすぼまる。覆土は灰色土に黄褐色土が混じる。出土遺物はない。

**SE1248** (図版3・16・83)

6C16に位置する。長軸1.42m、短軸1.07mで南側に張り出しを持つ不整形。深さは1.5mを測り、壁面は南側にテラスを持ち、そこから下ですぼまる。テラス部はほかの柱穴の可能性がある。覆土は上面壁側が黄褐色土で中央が暗褐色土となり下部が黒色粘質土である。出土遺物は木製品の皿が2点出土している。

**SE1249** (図版3・16・83)

7F6に位置する。長軸0.7m、短軸0.7mの不整形で、下部は円形となる。深さは0.8m以上で壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は上部が黄褐色土、下部が灰色土である。出土遺物はない。

**SE1250** (図版3・16・83)

5F24・25に位置する。長軸0.75m、短軸0.65mの扁円形で、深さは1.1mとなる。覆土は濃青灰色粘土に褐色土がブロック状に混じる。出土遺物は焼蹠のほか自然木、木製品の曲げ物がある。

**SE1260** (図版4・16・84)

8D7・12に位置する。SK1261を埋め戻したのち掘削されている。径1.4mの不整円形を呈し、深さは1.75mを測る。覆土は上面に暗褐色土、中層に黄褐色・白色粘土ブロック、下層に黒色腐植土層がある。出土遺物はない。

**SE1364** (図版4・16・84)

8G17・22に位置する。長軸0.95m、短軸0.9mの略円形を呈し、深さは1.3mと浅い。壁面は垂直に落ちる。覆土は褐色土・灰褐色土・灰色土・黃色土がブロック状に入り込み、9層は黒褐色土である。出土遺物はない。

**SE1365** (図版4・16・84)

9G6に位置する。長軸1.36m、短軸0.9mの不整形で、深さは1.3mと浅い。壁面は垂直に落ちる。覆土は灰色シルトを中心に褐色土、暗灰色土がブロック状に混じり込む。8・9層にやや黒い灰色土があり、そこに石が投げ込まれている。出土遺物はない。

**SE1385** (図版4・16・84・85)

7D25、8D5に位置する。長軸1.8m、短軸1.6mの不整形で、深さは1.3m以上。底部は小さく長さ0.6m前後である。壁面は上部で大きく開くロート状を呈する。覆土は褐色土に灰色土がブロック状に混じる。下部の7層には植物遺体が多い。底部に木が認められる。

**SE1386** (図版3・17・85)

7D13に位置する。径1.4mの円形を呈する。深さは1.65mを測る。壁面は上部で大きく開くロート状を呈する。覆土は暗褐色土に黄褐色土がブロック状に混入する。須恵器・土師器片が出土している。

## SE1387 (図版3・17・85)

6D10、6E6に位置する。長軸0.76m、短軸0.76mの隅円方形に近い。深さは1.47mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は4層までが明褐色土に黄色褐色土が混じり、以下は青灰色土に明褐色土ブロックが混入する。出土遺物には珠洲焼・土師器・木製品の下駄がある。

## SE1389 (図版3・17・85)

5E8に位置する。長軸1.0m、短軸0.95mの略円形を呈し、深さは0.95m以上である。壁面は下方でややすぼまる。覆土はほかの井戸と同様暗褐色土に黄色土または灰褐色土がブロック状に入る。底面には焼礫がまとまって出土した。出土遺物はない。

## SE1390 (図版3・17・86)

5E13・14に位置する。長軸1.0m、短軸0.95mの略円形を呈し、壁は上部がやや広く、以下はほぼ垂直に落ちる。底面がやや窪む。覆土は暗褐色土に黄褐色土がブロック状に入る。下部は青灰色粘土となる。五輪塔地輪部が2個出土している。

## SE1391 (図版4・17)

8D23に位置する。長軸0.8m、短軸0.73mの不整形を呈し、深さは1.15mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は褐色土及び灰褐色土で黄褐色土ブロックを含む。出土遺物はない。

## SE1500 (図版5・17・86)

10D13・18に位置する。長軸1.4m、短軸1.05mの細長い不整形を呈する。深さは2.45mと深い。壁面はほぼ垂直に落ちる。図の右側（南西側）にテラスが認められる。覆土断面図では、テラス部分で明らかに2つの井戸が重複していることがわかる。テラス側が古く、深い方が新しいことになる。覆土は類似するが、テラス側の方が、どちらかというと黒味がある。出土遺物は、須恵器・珠洲焼・近世陶磁器である。木製品・石製品砥石も出土している。

## SE1501 (図版5・17・86)

10D9・10に位置する。長軸0.9m、短軸0.85mの略円形を呈する。深さは1.35mである。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は褐色土に灰色土、明褐色土がブロック状に入り、下部は灰色土・青灰色土となる。出土遺物はない。

## SE1502 (図版5・17・86)

10D9・14に位置する。径約0.8mの略円形を呈するが底部は梢円形となる。深さは1.25m。壁面は垂直に落ちるが、下部で膨らむ。覆土は黄色土に明褐色土ブロックが混じる。下部の3層は、暗灰色土となる。出土遺物はない。

## SE1503 (図版5・17・87)

10D8に位置する。径0.9mの円形を呈し、深さは0.7mと浅い。壁面は垂直に落ちる。底面は平らでなく南側がやや深い。覆土は、褐色土・灰色土・明灰色土がブロック状に入る。出土遺物はない。

## SE1504 (図版5・17・87)

10D5・10に位置する。径1.5mの円形を呈し、深さは1.05mを測る。覆土は暗褐色土に炭を多く含み、明褐色土がブロック状に入る。

## SE1514 (図版5・18・87)

11E9に位置する。長軸0.75m、短軸0.7mの略円形を呈し、深さは1.05mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが中位に周縁帶状にテラスがあり、再び垂直に落ちる。覆土は灰色土・褐色土で最下層に黒色腐

植土がある。出土遺物はない。

**SE1711 (図版6・18・87)**

4あ4・9に位置する。径0.7mの円形を呈する。深さは2.55mと深い。覆土は4層まで暗褐色土を基調としレンズ状堆積で、下部は黄色地山土のブロックを主体とする。8層部分は調査途中で崩落し、はつきりしない。出土遺物は土師器が数点である。

**SE1712 (図版6・18・87・88)**

4あ20に位置する。長軸1.0m、短軸0.7mの梢円形を呈し、深さは2.7mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが下部でやや南に歪む。覆土は上面が暗褐色土を基調とし、下部では黒味が増す。12層以下不明。中層以下では、珠洲焼・土師器・焼碟・板材等が出土している。

**SE1713 (図版6・18・88)**

4あ25に位置する。径1.15mの円形を呈し、深さは2.2mまで確認したが、それ以上になる可能性がある。壁面はほぼ垂直に落ちるが下部でやや北側に歪む。覆土は黄褐色土と茶褐色土の互層であるが、炭、焼土粒を混入する。土師器が出土している。

**SE1717 (図版6・18・88)**

4A1に位置する。径0.95mの円形で、深さは3.56mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが、部分的に凹凸が認められる。覆土上面は茶褐色土を中心にして黄色土がブロック状に混じる。12層以下は湧水による崩落のため不明である。土師器が出土している。

**SE1718 (図版6・18・88)**

4A16・21に位置する。長軸1.5m、短軸1.4mの略円形を呈し、深さは3.4mを測る。壁面は上面が広く、1m以下付近ではぼり、以下垂直に落ちる。覆土は上部で暗褐色土に黄色土がブロック状に入り、下部にいくにしたがい、黒色土・青灰色土が多くなる。遺物は多く、珠洲焼・中世土師質土器・土師器・焼石・漆桶・曲げ物・石臼・五輪塔火輪部等がある。

**SE1719 (図版6・18・89)**

4A16に位置する。長軸1.05m、短軸0.85mの略円形を呈し、深さは2.05mを測る。壁面は下部にいくにしたがってややすぼまり狭くなる。覆土は炭化物を含む暗褐色土と黄色土（ブロック）の互層で、8層に焼土粒を認める。遺物は珠洲焼・土師器で珠洲焼鉢は完形で出土した。

**SE1720 (図版6・19・89)**

4A21に位置する。複数の大型遺構が重複する。径約1mの略円形で、深さ1.3mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。底面は少し崖みが認められるが浅いため水溜施設とは考えにくい。覆土は上部が茶褐色土系、下部が灰色土系となる。下部の11層から土師器碗等の破片が出土している。断面を見るともう1基井戸が重複しているのがわかるが詳細は不明である。

**SE1728 (図版6・19・89)**

5あ5に位置する。SK1729と重複するが、これに切られて古い。長軸1m、短軸0.9mの不整形を呈するが、もとは円形であったと考えられる。深さは2.3mである。壁は凹凸が激しく直線でないが、もとは垂直であったと考えられる。覆土は上位が暗褐色土、茶褐色土で下位にいくほど灰色・青灰色となっていく。出土遺物は土師器片が数点出土している。

**SE1731 (図版6・19・89・90)**

5A4・5・9・10に位置する。長軸1m、短軸0.9mの略円形を呈し、深さは1.85mを測る。壁面は

ほぼ垂直に落ちるが、下半部でやや膨らむ。覆土は、茶褐色土や黒褐色土の間に黄色土ブロックが互層に入っている。出土遺物はない。

#### SE1732 (図版6・19・90)

5A1に位置する。径約1.25mの略円形を呈し、深さは1.75mを測る。西側でSE1720と重複し、これに切られ古く、南側はSK1742を切って新しい。壁面は、下部に行くにつながり若干細くなる。覆土は暗色土系と黄色土系の互層で、各層に炭化物を含んでいる場合が多い。出土遺物も多く、土師器椀・甕・須恵器壺等がある。

### 3) 土 坑

#### SK401 (図版2・19・90)

3F16に位置する。径1.05mの略円形で、深さ0.2mと浅い。断面は浅い皿状を呈する。覆土は灰色シルトである。礫が2点出土している。

#### SK403 (図版2・19・90・91)

1E25、1F21に位置する。SD349と重複し、これを切っている。長軸1m、短軸0.95mの隅円方形を呈し、深さは0.23mを測る。断面形は箱型に近い。覆土は暗褐色土で、2・3層に炭が入る。出土遺物はない。

#### SK475 (図版3・19・91)

5B9・10に位置する。長軸1.3m、短軸1mの楕円形で、深さは0.15mである。断面形は浅い皿状を呈する。覆土は上層に黄色土があり、下層に薄く暗褐色土が入る。土師器片が数点出土している。

#### SK1130 (図版3・19・91)

6E23、7E3に位置する。長軸1.15m、短軸0.95mの不整形で、深さは0.85mを測る。断面形はV字状に近い。覆土は黒褐色土が主体で、下部で青灰色土となる。断面では柱穴が重複する。出土遺物はない。

#### SK1243 (図版3・19・91)

7D5・10に位置する。長軸1m、短軸0.83mの不整形で、深さは0.73mを測る。断面形はU字状で、中央がやや窪む。覆土は褐色土に黄色土・白色土がブロック状に混じる。出土遺物はない。

#### SK1388 (図版4・20・91・92)

7G16・21に位置する。長軸1.1m、短軸0.65mの不整形で、深さは0.65m以上を測る。壁面はほぼ垂直に落ちると考えられる。覆土はレンズ状の堆積で、2層に炭を多く含む層がある。遺物はないが、下部から、焼礫が数点出土している。

#### SK1392 (図版4・20・92)

8G1・2・6・7に位置する。長軸1.9m、短軸1.7mの不整形で、深さ0.35mを測る。断面形は浅い皿状であるが、中央がやや深くなる。覆土は中央に炭が厚く堆積する。出土遺物は礫数点のほか、須恵器・土師器・近世陶磁器がある。

#### SK1393 (図版4・20・92)

9D3に位置する。調査区端のため全体を確認できない。長軸は1.55mで不整形で、断面形は北西側がほぼ垂直で、南東側が緩やかに立ち上がる。覆土は黄色土と黒色土で一部炭が混じる。出土遺物はない。

#### SK1384 (図版3・20・92)

6D1・2・6・7に位置する。長軸2m、短軸1.64mの隅円方形に近い不整形で、深さは0.26mを測

る。断面形は浅い皿状である。須恵器・土師器・珠洲焼が出土している。

**SK1505** (図版5・20・92)

11E7・12に位置する。径約1.2mの略円形で、深さは0.35mを測る。断面形はV字状に近いが、中央でやや窪む。覆土は上部が褐色土、下部が灰色土である。土師器が1点出土している。

**SK1508** (図版5・20・92)

11E11に位置する。長軸1.63m、短軸1.51mの楕円形に近く、深さは0.94mを測る。断面形は箱型に近いが底面が水平でなく、東側が浅くなる。覆土は褐色土と黒褐色土がブロック状に混じる。遺物は土師器・珠洲焼・中世土師器が出土している。

**SK1510** (図版5・20・93)

11G6に位置する。長軸1.4m、短軸1.04mの楕円形で、深さは1.05mを測る。両壁はほぼ垂直に落ちるが、底面が一定しておらず、細かい階段状となる。覆土は暗褐色土に明褐色土・灰色土が混じる。出土遺物はない。

**SK1512** (図版5・20)

12F7に位置する。長軸0.98m、短軸0.85mの不整形で深さは0.62mを測る。断面形は南北に非対称で南側が緩く落込むのに対し、北側はほぼ垂直に落ちる。底面も平坦でない。覆土は褐色土系で下部にいくにしたがい黒味を増す。

**SK1515** (図版5・20)

11E1・6に位置する。径0.6mの円形で、深さは0.55mを測る。断面形はV字状に近いが、底面に窪みが見られる。覆土は褐色土・暗褐色粘質土である。出土遺物はない。

**SK1607** (図版5・20・93)

11F18に位置する。長軸1.05m、短軸0.83mの不整形で、深さは0.38mである。断面形は箱型に近い。覆土は自然堆積状況を示しておらず、中央に1層があり、それを囲むように2から6層がある。珠洲焼・土師器片が出土している。

**SK1701** (図版6・20・93・94)

2A21に位置する。遺跡の一一番北側高位斜面にあり、近接してSB9がある。緩やかな斜面に長軸が並行するよう構築されている。長軸1.4m、短軸1.1mの方形で深さは0.35mを測る。断面はV字状であるが、南側（斜面谷側）は立ち上がりが少なく緩やかである。底面は水平となる。覆土は1層が暗褐色土で土器を含む。2層は淡黄褐色土で、土器片を多量に含む。3層は灰と炭の層で焼土壁を含む。土器片は少ない。側壁は焼成により良く焼けており厚さ10cmほど変色・硬化している。山側奥壁（北側）も同様に焼成硬化しているが、手前（南側）は焼けていない。このことから、谷側を焚口にしていたことが考えられる。天井があったかどうかは判断できない。床面も大部分焼成による硬化、炭面が認められるが、奥壁側及び手前は顕著でない。

当初、土師器焼成遺構ではないかと考えられたが遺物の出土は谷側（南側）半分に偏っている。また出土状況は完形品が壊れた状況でなく、ばらばらであり、復元した結果でも完形品になるものではなく、壊れた一部を廃棄したことを物語っている。

**SK1702** (図版6・21・94)

3あ3に位置する。SX1701と同様調査区の一番北側、斜面部が平坦部に変換する境に位置する。長軸1.25m、短軸1.15mの不整形で、深さ0.25mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。覆土は1・2層が炭

を多く含む層で、1層の黄褐色土は、焼けているようである。内黒土師器椀や土師器片・礫が出土している。以下は黒褐色土・暗褐色土・黄色土ブロックである。覆土を水洗した結果、鍛造剝片と見られる碎片が多数検出された。炭片が上部に認められる等からここで鍛冶を行ったのではなく、廃棄した場所と考えられる。

## SK1706A (図版6・20・95)

3A19に位置する。長軸1.05m、短軸0.75mの梢円形に近く、深さは0.1mと浅い。断面形は浅い皿状である。覆土は黄茶褐色土である。出土遺物はない。

## SK1707 (図版6・21・95)

3A24に位置する。径約1mの略円形で、深さは0.3mを測る。断面形はV字状であるが、中央でやや窪む。覆土は4～6層で黄褐色土・黒褐色土である。出土遺物はない。

## SK1708 (図版6・21・95)

3A7に位置する。南西側がSD1748と重複しているため形状は明確でないが、およそ長軸1.1m、短軸0.8mの小判形に近いと考えられる。深さは約0.15mで断面形は浅い皿状である。覆土は黄褐色土で地山に近い。土師器が2点出土している。

## SK1714 (図版6・21・95)

4あ9に位置する。東側でSK1715と重複し、これに切られる。長軸1.15m、短軸0.95mの長円形で、深さは0.9mを測る。断面形はU字状に近い。土刷断面図から、覆土の中に3つのビットが存在することがわかる。1・2層は炭化粒を含む褐色土で1つのビット、3～12層は褐色～暗褐色土が主で、炭粒を含む1つのビット、深さは0.7mになる。13・14層が青灰色土で1つのビットとなる。ほかが土坑の覆土である。黄褐色土を中心に炭化粒が混じる。土師器・須恵器が比較的多く出土している。

## SK1715 (図版6・21・95・96)

4あ9に位置する。長軸0.9m、短軸0.85mの不整形で、深さは0.22mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。覆土は暗褐色土で柔らかく、炭化物粒を含む。土坑の中からは、大甕を中心たくさん須恵器、土師器片がバラバラの状態で廃棄されている。須恵器では甕・甌・有台杯、土師器では椀・甌等である。隣のSK1714と接合するものが多くある。

## SK1722 (図版6・21・96)

4A18に位置する。すぐ西側にはSD1748Aが走る。径約0.6mの略円形で、深さ0.3mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は暗色土に黄色土ブロックが混じる。出土遺物はない。

## SK1723 (図版6・21・96)

4A15に位置する。径約0.8mの略円形で、深さは0.3mを測る。断面形はV字状を呈する。覆土は暗褐色土に黄褐色土がブロック状に混じる。3層より土師器片が出土している。

## SK1733A・B (図版6)

5A12に位置する。2基が重複し、AがBを切っている。平面形は約0.8×0.6mの卵型を呈し、Aは南北に、Bは東西に長い。深さはAが約0.3m、Bは約0.45mである。Bは底にビットを持ち、深さは0.8mに達する。SB10の柱穴となった。Bからは、土師器・須恵器が出土している。

## SK1734 (図版6)

5A8に位置する。南北両側を溝で切られているため、全体はつかめないが、約1.3mの略円形であったと考えられる。断面形は皿状で、深さは約0.5m。覆土はレンズ状に堆積し、炭屑が2枚確認される。

**SK1736A・B・C・SK1737 (図版6)**

5A6・7・12に位置する。4基が重複する。新旧関係は、古い順にSK1736B、SK1737、SK1736Aとなるが、SK1736Cとの関係はつかめない。SK1736Aは長軸0.8m、短軸0.6mの隅円の長方形を呈するものと考えられる。底面も長方形を呈する。SK1736Bは断面観察で確認された。深さは約1.1mに達する。SK1737は径約0.5mの略円形で深さは約0.6m。SK1736Cは、径約0.5m、深さ0.1m程度と浅い。

**SK1741 (図版6)**

5A4・5に位置する。平面略円形で、径約0.6m、断面形はV字状に近い。深さ約0.7mである。覆土は、炭化物を含む黄色土と暗色土の互層がレンズ状に堆積している。

**SK1820 (図版7・21・96)**

VII層で確認された。4A19に位置する。長軸1.4m、短軸1.2mの不整形で、深さは0.22mを測る。断面形は、中央がやや窪む浅い皿状を呈する。覆土の1・2層はほかのビットの可能性がある。また3層もほかのビットであろうか。4～7層が土坑覆土である。黄（白）色粘土に暗褐色土が挟まれる。各層から土師器（楕・鍋・甕）片が出土している。

**SK1821 (図版7・21・97)**

VII層で確認された。4A5に位置する。調査区の一番東側で遺構の半分が確認された。平面形は方形に近く、断面形は皿状である。覆土は褐色土で炭粒が混じる。土師器片が出土している。

**4) 溝****SD349 (図版2)**

2E～1Fに向って緩くカーブを描く。SB1・SK403と重複するが、新旧関係は不明。延長約7m、幅0.3～0.5m、深さ10cmほどの浅い溝である。土師器片が出土している。

**SD479・480 (図版2・21・97)**

4E～4Fにかけて東西に並行して走る同規模の溝で、方位はN80°Wである。両溝とも長さ6.5m、幅0.5～0.8m、深さ0.3m前後で断面U字状に近い。覆土は褐色土に青灰色土が混じる。幅、深さともに一定しない。近世土器が出土している。

**SD370 (図版3)**

4C～5Dにかけて東西に走る細い溝。延長約16m、幅0.3～0.5m、深さ10cm前後である。西側で調査区外に延びる。主軸方位はN82°Wであるが、東側でやや南に傾く。土師器細片が50点ほど出土している。SK510と重複し、SD370がこれを切っている。また、すぐ南側1mに同規模で並行して走る溝があるが、西側調査区外に延びるため、詳細は不明。

**SD530 (図版3)**

5B・Cに位置する。幅0.5m前後、延長約6mで、深さ10～15cmである。主軸方向は78°Wである。

**SD700 (図版3・21・97)**

6B・C・Dに位置する東西に走る溝。延長は途中途切れるものの約19mで西側調査区外に延びる。主軸方位は、N86°WでSD370と近い方位を示す。両溝間の間隔は約15mである。西半分では土坑、ほかの溝と考えられるものが重複する。幅は40cm前後であるが、ほかの遺構と重複する部分では広くなっている。SD700-1断面では、幅約45cm、深さ15cmの皿状で、覆土は褐色土。SD700-2はすぐ南側にあり、別の溝と考えられる。幅約1.2m、深さ0.5mのU字状で、覆土は、褐色土、黄褐色土で

ある。SD700-3部分は、上記2つの溝が合流している部分であるが、断面では2つの溝を認識できない。幅1.9m、深さ1.2mで断面は、U字状であるが、北側が垂直近く立ち上がる。覆土は中央が暗褐色土、周囲が黄褐色土ブロックを含む暗褐色土である。SD700-4では、幅が広く3.1mあるが、覆土はSD700-4と同じである。SD700-5では、覆土が異なり、別の土坑の可能性が高い。この部分では、長軸1.8m、短軸1.2mの楕円形を呈し、深さは0.8mである。覆土は暗褐色土を中心に黄褐色土・炭屑が互層となる。遺構全体では、古代から近世まで各種遺物が出土している。

## SD1743A・B(図版6)

3A8・9・14に位置する細い溝。Aは延長約4.5m、幅0.3m、深さ10cmの皿状である。覆土は暗褐色土。長軸方位はN40°Wである。出土遺物は土師器片が出土している。Bは同規模であるが、深さ5cmと浅い。Aと交わるが新旧は不明。長軸方位はN25°Wである。

## SD1744(図版6)

3A21～4A20にわたって延びる延長約10mの溝。北側で東に向って緩くカーブし消滅する。南側は調査区外に延びる。途中確認できない部分がある。南東側で2本の溝が重複、近接するが同一の溝と考えられる。また、SD1784がこれを切っている。幅10～30cm、深さ10cmの浅い溝で長軸方向はN40～45°Wである。覆土は暗褐色土で青灰色粘土をブロック状に含む。土師器片1点が出土している。

## SD1745(図版6)

3あAに位置する。延長約3m、幅15～30cm、深さ10cmで断面形はU字状である。土師器片が出土している。

## SD1746(図版6)

SD1745に並行、近接して走る溝である。延長4.5m、幅20～40cm、深さ20cmで、断面形はV字状となる。覆土は褐色土系である。長軸方位は約N30°Wである。土師器片が出土している。

## SD1747(図版6)

同じくSD1745、1746と並行して走る溝。SD1746とは約0.6m離れる。延長約6m、幅20～35cm、深さ約20cmで、断面形はV字状。土師器片が出土している。

## SD1748(図版6)

3・4・5Aに位置し、北東から南西に向って緩やかに蛇行しながら走る溝。北東側は調査区外へ延びる。延長約20m、幅20～25m、深さ10cm、断面形U字状。覆土は褐色土である。SD1744・1751・1753と重複するが、新旧関係は不明。土師器片が二十数点出土している。

## SD1749(図版6)

2・3Aに位置する。確認延長約2m、幅0.5～0.8m、深さ0.3mで断面形は浅い皿状となる。長軸方位はN45°Wであり、SB9と方位を同じくする。SB9柱穴と重複するが、柱穴が新しい。出土遺物はない。これに北西側から交差する溝(SD1749B)があるが新旧関係は不明。

## SD1750(図版6)

4A11・12に位置する。延長2.8m、幅20cm、深さ5～10cm、断面形は一定しない。覆土は暗褐色土で、黄・白色粘土が混じる。長軸方向はN60°Wである。土師器・須恵器片が出土している。

## SD1751(図版6・21・97)

5あ・Aに東西に走る溝で東西両端とも調査区外に延びる。確認延長9.2m、幅0.5m前後、深さ25cmで断面は逆台形を呈する。覆土は褐色土に黄褐色土が混じる。SK1736A・1734と重複するが、いずれ

も溝が切っている。長軸方向はN85° Eである。土師器細片が多数出土している。

#### SD1752 (図版6・21・98)

5・6Aに東西に走る溝で東西両端とも調査区外に延びる。規模位置からすると1995調査区のSD700とつながる可能性がある。確認延長8.5m、幅1.4m、深さ40cm前後で、断面形は中央が階段状に深くなっている。断面観察では3つの溝が重複している可能性がある。1995調査区では、2条が認められる。覆土は暗褐色土・黒褐色土である。土師器片が多く出土している。SD1753と交わるが新旧関係はつかめず、同時存在の可能性もある。

#### SD1753 (図版6・21・98)

5・6Aに位置する。南北方向に緩く弧を描く溝。北東側、南側は調査区外に延びる。確認延長12~14m、幅0.7m前後、深さ0.4m前後、断面U字状を呈するが、北西側にはステップを有する。覆土は暗色土と黄色土の互層。2層には白色粘土を多く含む。SD1752と交差する部分はステップを有し広くなっている。その両側ステップ部分に各々浅い土坑が存在する。SD1752と交差した南側はまた通常の幅となっている。交差部分で広くなっていることはSD1752との同時性を示すものと考えられる。

### 5) VII層溝群 (図版7・98)

3・4Aにおいて、いわゆる歓状小溝群が確認されている。北西から南東に向って地形コンタに直交する方向でほぼ並行に溝群がある。長軸方向はおよそN63° W前後である。幅8m、長さ12mの範囲である。溝幅は0.3~0.5m、深さ5~20cmくらいで浅い皿状を呈する。覆土は褐色土・黄褐色土である。溝内からは、土師器片が出土している。

## 3 遺 物

遺物は古代から中・近世まで出土しており、出土量は平箱62箱である。土器については時代別に説明を加えるが、そのほかは一括する。

### A 古代土器

古代の遺物は1996年度調査区を中心に、比較的多く出土している。

#### 1) 器種分類 (第1表・第8図)

須恵器には、杯・有台杯・蓋・長頸壺・短頸壺・甕・横瓶がある。

杯は浅く、身がやや開く底部ヘラ切り底(杯I類)と、やや深く、糸切り底(杯II類)とに分類される。

有台杯は、底部糸切りで、口径11~12cm、底部と身部に明瞭な稜を持つもの(有台杯I類)、口径13cm前後とやや大きく、底部と身部の稜が明瞭でなく、底部ヘラ切りのもの(有台杯II類)、II類と同様であるが、口径14cm以上で身のやや深いもの(有台杯III類)に分類した。

蓋は口径16cm以下(蓋I類)と16cm以上(蓋II類)に分かれる。

長頸壺は体部上半がくの字に屈曲し、底部高台が高いもの(長頸壺I類)、体部最大径が10cm以下と小さくやや胴長のもの(長頸壺IIa類)。器形は同じであるが、体部最大径が10cm以上のもの(長頸壺IIb類)、球体に近い体部で、最大径が10cm以上のもの(長頸壺III類)、広口で、肩部に突起が廻り、底部平底で、

高台のつかないのも（長頸壺IV類）とがある。

短頸壺・甕・横瓶は分類しない。

土師器には、椀・有台椀・有台盤・鍋・長釜・小釜がある。

椀は、口径及び器高指数によって分類した。I類は口径13cm以下のこぶりのもので器高指数27~33をa類、器高指数35以上をb類とした。II類は口径15cm以上のもので器高指数30以下（a類）、30以上（b類）とした。III類は口縁が外反するもので、1点のみの出土である。

有台椀は体部に棱のあるもの（I類）と浅い皿状のもの（II類）とがある。

有台盤は1点のみ。

鍋は口径25cm以下のもの（I類）と口径25cm以上のもの（II類）に分類し、II類は口縁部形態によりa、b類に2分した。

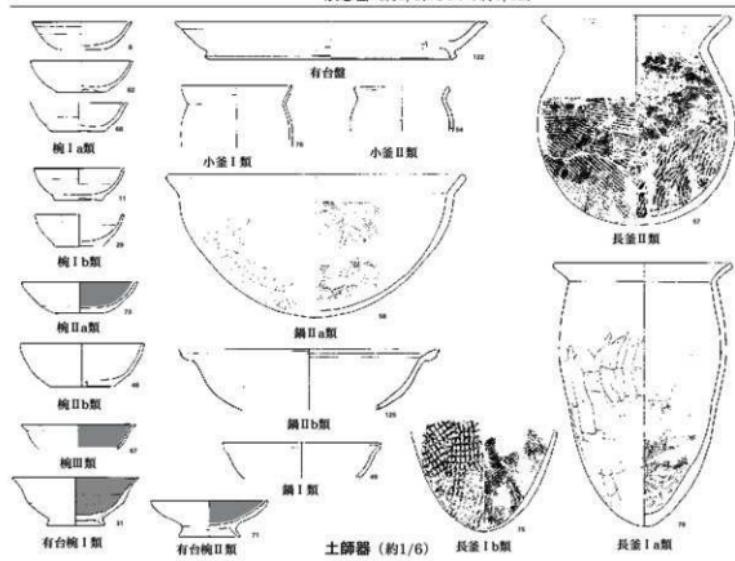
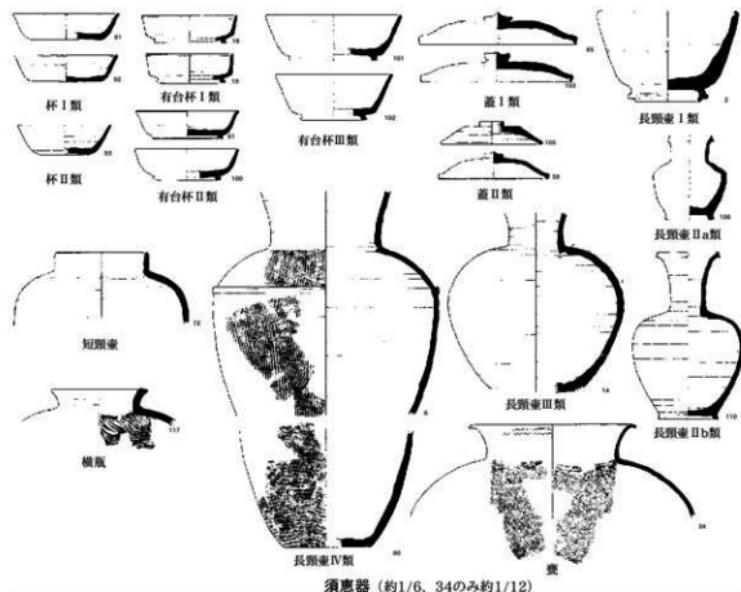
長釜は胴長（I類）と球体（II類）に分類した。I類には、下半部ケズリ調整とタタキ調整とがある。

小釜は口径15cm以下のもので、口縁部形態によりI・II類に分類した。

灰軸は蓋底部である。

種別	器種	分類	特徴
須恵器	杯	I類	底部へラ切り
		II類	底部糸切り
	有台杯	I類	口径11~12cm、底部と身部に明瞭な棱を持つ、底部糸切り
		II類	口径13cm前後、底部軽く簾切り
		III類	口径14cm以上、底部へラ切り
	蓋	I類	口径16cm以上、宝珠状つまみ
		II類	口径16cm以下、宝珠状つまみ
	長頸壺	I類	体部上半がくの字状に屈曲する。底部高台高い。
		II類	a 体部最大径が上半にあり、10cm以下と小型。やや胴長となる。底部高台付 b 体部最大径が上半にあり、10cm以上。やや胴長となる。底部高台付
		III類	球体に近い体部で最大径10cm以上。底部高台付
		IV類	広口で、肩部に突帯が廻る。底部平底で高台はつかない。
短頸壺	甕		
	横瓶		
	椀	I類	a 口径13cm以下、器高指数27~33、糸切り b 口径13cm以下、器高指数35以上、糸切り
		II類	a 口径15cm以上、器高指数30以下 b 口径15cm以上、器高指数30以上
土師器	有台椀	I類	体部に棱を持ち、深みのあるもの
	有台盤	II類	体部が皿状で浅いもの
	鍋	I類	口径25cm以下
		II類	a 口径25cm以上、口縁くの字状に外反、下半ケズリ b 口径25cm以上、口縁くの字状に外反肥厚、下半ケズリ
	長釜	I類	a 口径約20cm以上、下半ケズリ b 口径約20cm以上、下半タタキ
		II類	口径約20cm以上、体部球体、下半タタキ
		I類	口径15cm以下、口縁外反弱く、立つ
	小釜	II類	口径15cm以下、口縁外反
灰軸	蓋		

第1表 古代土器器種分類表



第8図 古代土器器種分類図

## 2) 遺構出土土器 (図版 22-1 ~ 図版 31-204)

SE100 (1)

甕口縁部破片である。口縁の外反はない。内外面タタキ。

SE1732 (2~12)

壺が多いのが特徴。I、II b、IV類がある。I類の2は体部がくの字状屈曲する。IV類の6は広口で平底である。8~11は土師器椀、11が器高指数が大きくやや深い。

SK1705 (13)

甕口縁部破片。端部が垂直に立つ。

SK1707 (14)

体部球体の壺である。

SK1714・SK1715 (15~35)

両土坑は近接、複合し、両土坑で接合する個体が多いため、一括して捉える。15は底部ヘラ切りの須恵器杯、16~20は須恵器有台杯でいずれもI類で特徴的である。底部は糸切り。21~26は須恵器壺。大小あり、球体に近い24 (II類)、胴長のもの21・23 (II b類) がある。25・26はIV類であるが、底部の造りに違いがある。25は、酸化焰焼成に近く、軟質。肩部に突帯が廻る。甕は多く、6個体を数える。いずれも大形であり、口縁部形態も異なる。34・35では口縁に波状文が廻る。29・30は土師器の椀で30は内黒、31は内黒の有台椀である。体部に稜を持つ。

SK1730 (36)

長頸壺 II a類の体部である。

SK1725 (37)

土師器長釜の頭部である。

SK1734 (38)

長頸壺 II b類の体部上半である。

SK1820 (39~52)

39~48は土師器の椀。48 (II a類) を除いてすべて I a類である。49は小形の鍋で、口縁が直立する。50~52が小釜 II類である。

SK1736A (53・54)

肩部不明の長頸壺は、下半部に明瞭なケズリが見られる。54の小釜には、スヌ付着。

SK1701 (55~58)

長釜3点と鍋1点が一括して出土したが、完形でなくまた各個体ばらばらの状態で出土した。55・56は長釜 I aで、丸底、下半部ケズリとなる。55は口縁くの字状に外反するが、やや反り気味で、胴下半部は直線的にすぼまる。56は口縁直線的に外反し、胴下半部にも丸みを持つ。57は長釜 II類でこれ1点のみである。くの字状に外反する口縁に球体の肩を持つ。外反する口縁は56に比べると長い。胴下半外面タタキ調整。58は大形の鍋。同じく口縁くの字に外反する。肩部はケズリ、刷毛調整である。以上4点とも煮炊具にもかかわらず、その使用痕跡（被熱、炭化物等）が認められない。

SX1716 (59)

II類の蓋である。

**SX1702 (60)**

底部平底となる長頸壺IV類である。外面にタタキ。

**SD700 (61～63)**

SD700は中世以降も出土しているが、ここでは古代分を掲載する。61は有台杯II類。底部ヘラ切りである。62の蓋は径16cmと小さい。63の長釜はII類で球体に近い胴部である。

**SD1744 (64)**

甕口縁部である。口縁端部上方につまみ上げられる。

**SD1750 (65)**

口径20cm近い大形の蓋である。

**SD1752 (66・67)**

67は内黒の土師器椀。口縁外反する

**SD1753 (68～71)**

68～70は土師器椀。68・69はI a類、70はやや深みのあるI b類であろうか。71は浅い有台椀で内黒である。

**SD1814 (72・73)**

73は椀II a類。72は短頸壺である。

**ピット (74～90)**

74～77はP4出土である。74は有台椀と思われる。身部は直線的に聞く。77は盤と思われるが器種不明。76の小釜は口縁外反少なく、薄手である。79はP11出土。口縁くの字状に外反。胴下半部外面ケズリ、内面ハケ。下半部比較的厚手である。84～87はP26出土。鍋84・87はいずれもII a類で、くの字状に外反する口縁端部がやや肥厚する。88・89はP50出土。88は長頸壺IV類で、下半部縦のケズリが見られる。89は土師器椀I a類。90は灰釉壺底部と考えられる。

### 3) 包含層出土土器

須恵器（図版27～91～図版28～117）

杯I類（91～93） 91・92はI類で底部ヘラ切り。器高指数低い。93はII類で底部糸切りで、やや深身。

有台杯I類（94～96） 94～96はI類。底部と身部境に明瞭な稜を持つ。底部は糸切りを行った後、ナデを加える。底部内面や丸み。97～100はII類。I類に比べ厚手で、底部ヘラ切り。101・102がIII類。大形の有台杯蓋（103～105）いずれも口径が異なる。103は大きく、これに対応する有台杯が認められない。

長頸壺（106～111） 106は小形で頸は短い。底部糸切り。110も底部糸切り。口縁端部は断面三角形でつまみ上げられる。111は球体のIII類である。

甕（112～116） 112は直線的に延びる口縁部で端部がつまみ上げられる。113～116は同一個体。外面上細かい格子タタキ。内面上半は背面と同じ格子タタキ、下半は平行タタキである。

横瓶（117） 内面青海波タタキ。

土師器（図版28～118～129）

椀（118～121） 118・119はI a類であるが、口縁部形態に若干違いがある。120はやや深くI b

類になると考えられる。121は口径15cm以上でIIa類である。

有台盤(122) 1点のみである。浅く、口径は40cm近いと考えられる。

鍋(123~125) 123・124はIIa類であるが、口縁部の形態が異なる。125は口縁部大きく外反し肥厚する。

長釜(126・127) 口縁部形態がやや異なる。126は直線的に外反するのに対して、127は端部が直立する。

甌(128) 甌把手であろうか。

灰釉(129) 灰釉壺底部と考えられる。

## B 中世土器

### 1) 器種分類(第2表・第9図)

中世土器としては、珠洲焼・中世土師器・青磁・白磁・瀬戸がある。

珠洲焼には、甌・壺・鉢・片口鉢がある。

甌は全体を窓える完形品がないため、一括して扱うが、口縁部形態には違いが認められる。

壺には、外面にタタキを施す大形のT種と、ロクロ整形の小型R種がある。

鉢・片口鉢は、完形品でないと区別ができないため、一括して扱う。口径20cm以下で拂り目がなく、片口がつかないものをI類とした。口縁は内湾気味に立ち上がる。II類としたものは、口径20~30cmのものであるが、片口・拂り目のあるものも認められる。III類としたものは口径30cm以上のものである。

II・III類ともに口縁部形態はI類に近い。IV類としたものは、口縁端部が内側に削がれるものである。

V類は口縁端部が肥厚し断面三角形となり、内面に波状文がつくものである。VI類は口縁やや外反し、端部は薄く丸みを持つ。内面には波状文がつく。

中世土師器には皿と脚付皿がある。

皿は底部糸きりのロクロI類と手づくねのII類に分類した。Ia類はいわゆる柱状高台と呼ばれている

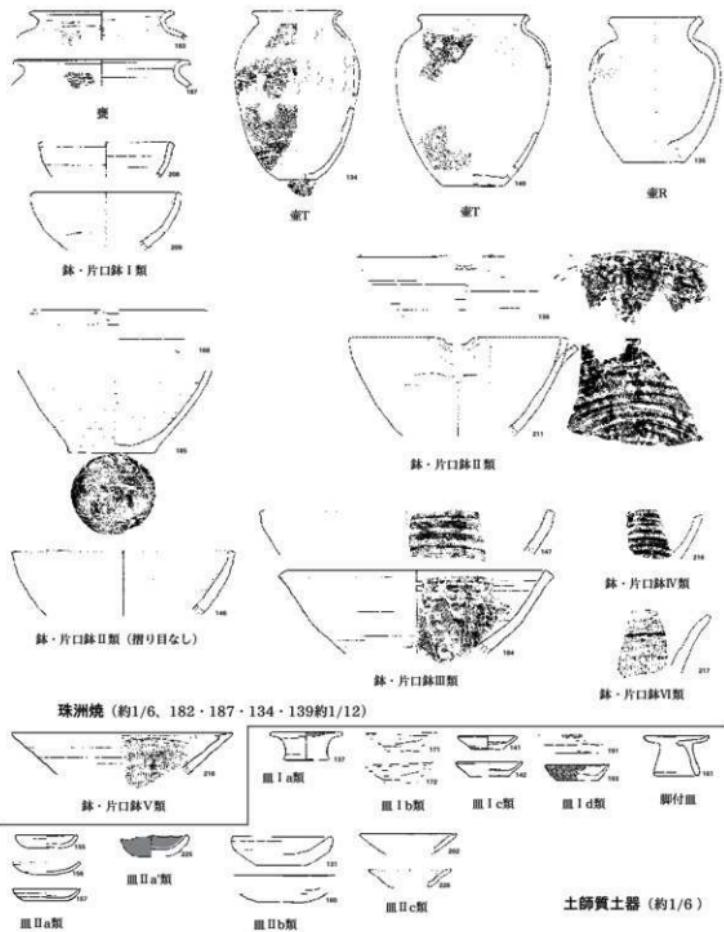
	甌		
珠洲	壺T		
	壺R	肩部櫛波状文	
鉢・片口鉢	I類	口径20cm以下、拂り目なし、口縁内湾ぎみに立ち上がる。端部直角または外側に切られる	
	II類	口径20~30cm、口縁内湾ぎみに立ち上がる。端部直角または外側に切られる。 拂り目のあるものとないものがある	
	III類	口径30cm以上、口縁内湾ぎみに立ち上がる。端部直角または外側に切られる	
	IV類	口縁端部が内側に切られる	
	V類	口径20~30cm、口縁内面端部断面三角形	
	VI類	口縁端部が薄くなり丸みを持つ	
土師器	皿	a 杖状高台糸切り	
		b 口径7~8cm、底部厚く小さい、糸切り	
		c 口径7~8cm、底部薄い、糸切り	
		d 口径9cm以上、底部厚い、糸切り	
	II類	a 口径7~8cm、手づくね、薄手	
		a 口径7~8cm、手づくね、厚手	
		b 口径10cm以上、手づくね、厚手	
	有台皿	c 口径10cm以上、手づくね、薄手	
青磁			
白磁			
瀬戸・美濃			

第2表 中世土器器種分類表

ものである。I b類は、口径7~8cmの小型で底部厚く1cm前後あるもの。I c類は口径は7~8cmと同様であるが、底部が薄く大きいものである。I d類は口径9cm以上と大きく、底部厚く仕上られる。II a類は口径7~8cmで底部も薄く仕上られる。II b類はa類と同様であるが、底部が厚く仕上されるもの。II c類は口径10cm以上と大きく、厚手のもの。II e類は薄手のものである。

脚付皿は皿II a類に足の長い脚を付けたものである。1点のみ。

青磁、白磁は碗と皿である。



第9図 中世土器種分類図

## 2) 遺構出土土器 (図版29 - 130 ~ 図版31 - 204)

SE385 (130 ~ 132)

130は柱状高台と思われる。132の青磁は底部厚く、見込みに文様がある。

SE420 (133 ~ 144)

井戸一括で出土している。133・134は壺T種である。口縁はコの字状に近い。135は壺R種で、肩部に波状文が2段廻る。口縁ぐの字状に外反する。136の片口鉢は口縁内湾しながら立ち上がる。櫛目は細く、6 ~ 7本で、櫛目端部は描えていない。137 ~ 142が土師皿である。いずれも底部糸切りで I a, I b, I c類がある。143・144は土師質の皿である。

SE430 (145 ~ 148)

145 ~ 147が鉢である。146の口縁端部形態は136に類似する。147の櫛は太い1本単位である。145底部は静止糸切り。148の青磁は内面劃花文である。

SE476 (149)

149は壺T種である。口縁ぐの字状に外反し、端部上方に延びる。内面に炭付着。

SE490 (150 ~ 164)

土師皿は底部糸切りのI類、手づくねのII類いずれも出土している。I類はb・c類、II類はa・b類である。161の脚付皿は類例がない。162は青磁碗で見込みに段を有する。163は底部の厚い皿。164は端反りの白磁である。

SE560 (165 ~ 180)

165は壺R種肩部。波状文がある。166は甕である。内外面被熱によりはでている。口縁は外方に大きく反り、端部は下方に丸まる。167・168は鉢で167底部は回転糸切りである。169 ~ 180が土師皿である。多くがI b類であるが、II類も認められる(180)。

SE580 (181)

181は青磁碗である。外面鏡の蓮弁、内面にも文様が見られる。

SE1504 (182)

片口鉢である。櫛は7本単位で太い。口縁部は外方に聞く。

SE1712 (183・184)

183の甕は、口縁が外方に大きく聞く。頸部内面ヨコナデが突帯状となる。端部では、沈線が廻る。

184の鉢は口縁直線的に聞く。櫛端部は描えていない。

SE1719 (185・186)

2点とも鉢である。185は口縁端部水平に切られる。櫛目はない。186は端部やや太く、水平に切られる。櫛目が施される。

SK1000 (187・188)

187の甕は、口縁反るよう大きくなり外反する。188の皿はII a類である。

SK1721 (189 ~ 191)

189の櫛目は太く端部を描えていない。190・191の皿はI d類で糸切りである。

**SX48 (192)**

青磁碗底部。高台内露胎。

**SX1508 (193~195)**

193は皿I c類。194・195は鉢で、描目が認められる。

**SD700 (196・197)**

196の皿はII c類。197は瓦器の壺と考えられる。頸部に浮文花文様が見られる。

**SD1753 (198)**

描り鉢で口縁部欠損する。

**ピット (199~204)**

各ピットから出土したものである。199は青磁で見込みに花文様がある。202は皿II c類で、類例は少ない。203は土師質で中央に円孔がある。器種不明。

## 3) 包含層出土土器 (図版31~205~図版32~234)

**珠洲甕 (205~207)**

205は外面平行タタキ、内面同心円・平行タタキであるが珠洲焼と考えられる。206は頭部がほとんどない。207は線刻で「ゆ」が認められる。

**鉢・片口鉢 (208~218)**

208・209は小型のI類で口縁は内湾気味に立ち上がる。210・211は大形のII類。211は波状の横目。216はIV類で口縁内側にそがれる。218は口縁断面三角形でV類。217は口縁丸みを持ち、内面波状文が廻る。

**土師器皿 (219~226)**

219~224は遺構出土のものと同じ。225は厚手で外面指押えが顕著。226はII c類で類例少ない。

**内耳鍋 (227)**

耳部分である。中世と考えたが時期不明。

**壺 (228)**

土師質である。肩部に波状の沈線が廻る。

**青磁 (229~232)**

229・230は文様の無い碗。口縁外反する。232も碗。外面雷文、内面にも文様がある。231は皿。軸厚く、底部接着面内側まで軸かかる。見込みに花文様。

**瀬戸 (233・234)**

233は内禿の碗。灰釉。234は波皿。越中瀬戸の可能性もある。

## C 近世土器

## 1) 遺構出土土器 (図版33~235~239)

**SE610 (235・236)**

いずれも越中瀬戸小壺である。口縁やや肥厚外反する。体部に丸み。

**SE670 (237)**

越中瀬戸小壺下半部である。

**SK1507 (238)**

越中瀬戸小壺である。口縁部直立する。体部丸みなし。

**ピット (239)**

唐津彌り鉢。口縁内部が突起状になる。櫛目は端部揃えず。口縁部に鉄軸。

2) 包含層出土土器 (図版33-240~図版34-267)

**伊万里染付 (240、241)**

240は皿底部。底部外面に「富貴長春」。見込みにも模様があるが詳細不明。241も皿。見込み蛇の目釉剥ぎ。唐草文。

**唐津 (242~246)**

242は皿。胎止め。243は京焼き風の椀である。250は小振りの椀。下半部から底部を除いて鉄軸。244~246は彌り鉢。244・245は内面突帯が退化した形態。246は口縁端部玉縁。

**越中瀬戸 (247・248)**

247は小杯。底部除き鉄軸。248の鉢も越中瀬戸と考えられる。

**そ の 他 (249・251~257)**

産地等不明のものである。249は灯明皿。見込み中央に芯受け。251は小型の底部。252は土師質の硬い焼。253は鉄軸のかかる甕。254は底部中空となる。257は軟質の甕。内外面鉄軸。255・256は瓦器。255は蓋であろうか。

**瓦 (258~266)**

258~261は、丸瓦で、内面に布目痕を残す。262はイブシ瓦。265・266は軒丸瓦。連珠三巴文と思われる。

**羽口 (267)**

径8cm程度と考えられる。

**D 石 製 品**

1) 遺構出土 (図版34-268~図版35-276)

**SK1365 (268)**

石鉢である。口径約30cm、深さ10cmと浅い。

**SE1718 (269・270)**

269は五輪塔の火輪部分である。上部に空風部受け孔がある。三角稜線は直線に近い。270は、石臼の上臼である。目は粗く太い。回転は正常（反時計）である。

**P429 (271)**

砥石である。

**SE1390 (273・274)**

いずれも五輪塔地輪部で、ほぼ同規模である。

**SE1500 (275・276)**

275は砥石と考えられる。276は平面欠損。用途不明。

## 2) 包含層出土 (図版34-272・図版35-277~288)

272は細長い硯。外周がかなり潰れている。277~284までは磁石である。角柱状と板状がある。285は皿状となっており、石皿であろうか。286は端部に抉りがある扁平な石である。287は滑石製で抉状耳飾りに近い。

## 石鐵 (288)

縄文時代と考えられる小型の石鐵。平面三角形状で無基、無柄。

## E 木 製 品

## 1) 遺構出土 (図版36-289~図版40-374)

## SE50 (289)

植物繊維の撚った紐を2本にして結んだものである。幅は約10cmである。

## SE100 (290)

形状、製品名不明。直径1cmの穿孔あり。

## SE130 (291)

漆紙である。赤外線撮影では、文字は確認できていない。円形の漆紙をハツ折にしている。

## SE420 (292~295)

黒漆塗りの有台皿(292)、箸(294)、曲げ物側板(295)、不明容器(293)が出土している。293は浅い皿状を呈し、下部に細長い脚を作り出している。

## SE430 (296~300)

箸(296・297)、曲げ物側板(300)等が出土している。299は、品名不明であるが、釘穴が直交する2方向から打たれている。298は直径1.7cmと小さい円形を呈し、中央に径1mmの小穴がある。円周端部は薄くなる。用途不明。

## SE476 (301~303)

301・302はいずれも曲げ物側板で301は穿孔穴外側にボタン状の木が添えられている。

## SE490 (304~328)

中世土師器皿が多く出土した井戸で、祭祀を行った可能性が高い。多くの木製品が出土している。306~312は箸状木製品で、実測外も数点ある。304は黒漆の皿。318は側面に切り込みが不規則に認められる。火きり白風であるが、一つ一つが小さく、斜めに切り込まれているのもあり、また回転摩擦痕跡も認められないことから、火きり白の可能性は低い。314・316は薄い板状のもので多く出土しているが、用途は不明。319は白木の櫛。321は薄い板に切り込みを入れたもので、鳥や馬形に見えないこともない。326は棒状であるが、太い方が扁平となる。

## SE560 (329~336)

中世土師器皿が多く出土した井戸で、祭祀を行った可能性が高い。多くの木製品が出土している。329は曲げ物底板で木釘が残る。332・333は糸縄枠の軸部分で、大きさ、造りが同じことから、同一糸縄枠の部品と考えられる。336は端部鶴頭状に尖る板状で約1寸間隔で穴が穿たれる。

## SE590 (337~341)

338は折敷底板と考えられるが、非常に薄い。337は一端を細くした材で、中央を舟形状に窄めてい

るが用途不明。339は板材であるが不明。340は底板と考えられるが、詳細不明。

**SE610** (342~346)

342の楕は、身下部に丸みを持つ。外面黒、内面赤漆である。343は箱物部材であろう。

**SE630** (347~357)

347は半裁木を利用した一本造りの下駄である。廃棄のおり折損している。348は部材の一部。平面形は弧を描いており、断面形は外側丸みを持つ。端部は三角形状に尖っており、組み合わせ式であることがわかる。外面黒漆塗り。349~354はコモツチである。長さ20cm前後のものと、10~14cmのものとがある。いずれも丸木を利用し、切断面を調整している。中央のえぐりは全周せず、半周である。355・356は曲げ物底板、357は側板である。355・356は木取りが異なる。

**SE670** (358~361)

358・359箸状木製品。360・361は部材で用途不明。

**SE900** (362・363)

362は断面やや湾曲を持つ板材で周間に木釘穴がある。丸い容器の側板または箱物であろうか。363は桶等の底板と考えられる。

**SE1241** (364)

364は曲げ物の側板であろうか。片面にススの付着を見る。

**SE1248** (365、366)

2点とも内外面黒漆塗りの皿。

**SE1250** (367)

板目材を使った曲げ物側板。桟皮による留め。

**SE1387** (368)

連歛である。廃棄の際、折損している。使用痕跡あまりなし。

**SE1500** (369)

曲げ物底板であるが、劣化著しい。

**SE1717** (370~372)

370は曲げ物側板、371・372は底板である。

**P445** (373)

丸木の柱根。

**P927** (374)

丸木の柱根。

2) そ の 他 (図版40~375・図版41~379)

375は樹皮。376は糸縄枠である。枠木は軸にはめ込み式で、木釘で留めている。軸は合わせ式で組んでいる。2つある軸の一方に小さい穴が穿たれる。377は曲げ物。内側一重半で木釘、桟皮留めし、その外側にもう一重巻いている。外側は、内側より低く蓋受けとしたと考えられる。底板は、外側から木釘留め。378は部材で両端に木釘穴がある。379はSE420出土の瓢箪である。

## F 土製品・金属製品 (図版41-380~382)

381は刀子。鋒が著しく、原形を留めない。現況で長さ12.9cmを測る。間部分は、上にも段が認められることから両面と考えられる。382は鎌である。矢先端部中央にも突起が認められることから、山形と考えられる。断面は扁平で軸部分の断面は四角である。軸と矢部分の接部には段があり、軸受けとなっている。380は、小型の土錘である。長さ4cm、中央部が膨らみ、両端がすぼまる。

## 4 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

海道遺跡は、新潟県上越市大字向橋に所在し、儀明川が開削した谷が埋没したと考えられる平坦面に立地している。本遺跡の発掘調査では、素掘りの井戸跡や土坑、土師器焼成遺構、溝跡、掘立柱建物跡等の遺構や、古代～中世の土師器・須恵器を主体とする遺物が多数確認されている。なお、上述した井戸跡内からは、木製品、鉄製品、加工材、種実遺体等が出土しており、これらの木製品や種実遺体の種類を調査することによって、当該期における植物資源利用が明らかになると期待された。そこで、本報告では、主として井戸跡内から出土した木製品や種実遺体の同定を行い、本遺跡における植物利用について検証する。

### A 木製品の樹種

#### 1) 試 料

試料は、井戸跡及び柱穴等から出土した等の木製品77点である。分析対象とした試料は、全て3断面の切片が採取された状態であったが、事前調査の結果、約半数の33点で断面の不足や切片の状態が不良であった。そのため、再試料採取が可能であった20点について、あらためて切片採取を行い、294は炭化した状態であったことから、実体顕微鏡で各断面を直接観察し、可能な範囲での同定を行うこととした。試料の詳細は結果とともに第3表に示す。なお、本分析で対象とした木製品のうち、出土状況等から帰属年代の明らかなものはSE420・560・1717から出土した木製品のみで、このほかの遺構では古代～中世の遺物が混在する状況が確認されている。そのため、前述の3遺構は出土遺物から得られた年代観を、このほかの遺構については調査所見に基づく埋没年代を示している。

#### 2) 分析方法

上述したように試料は全て切片作成済の試料であった。なお、再度切片作成を行った木製品20点は、いずれもPEGによる保存処理後の状態であったため、切片作成か所に水を浸けてPEGを溶かし、剃刀を用いて3断面の切片を作成した。各試料の切片は、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。炭化材である294は、各断面を実体顕微鏡で直接観察し、その特徴から種類を同定する。

### 3) 結 果

結果を別表に示す。本製品は、針葉樹6種類（カラマツ・スギ・ヒノキ・サワラ・アスナロ・ヒノキ科）と広葉樹8種類（コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ケヤキ・モクレン属・アジサイ属近似種・キハダ近似種・トチノキ）に同定された。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

**カラマツ** (*Larix kaempferi* (Lamb.) Carrière) マツ科カラマツ属

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、柔細胞、仮道管、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。柔細胞の末端壁は数珠状となる。放射仮道管の有縁壁孔の断面は主としてカラマツ型。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に3～5個。放射組織は単列、1～20細胞高。

**スギ** (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

**ヒノキ** (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

**サワラ** (*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

**アスナロ** (*Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

試料は、いずれも査定面と板面のみで、木口面は観察できなかった。軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1～4個。柔細胞内に樹脂が充填されているものが多くみられる。放射組織は単列、1～15細胞高。359は、放射組織内に樹脂が充填されていることからアスナロの可能性が高いが、分野壁孔が観察できないため、種類の同定には至らず、近似種とした。

**ヒノキ科** (*Cupressaceae*)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1～10細胞高。上記ヒノキ・サワラ・アスナロによく似ており、いずれかの可能性があるが、分野壁孔が観察できないために種類の同定には至らず、ヒノキ科とした。

**コナラ属コナラ亜属コナラ節** (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinu*s) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1～2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は单穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射

組織とがある。

**コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)** ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では梢円形、接線方向に1個幅で、単独で放射方向に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

**クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)** ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は2～4列、孔圈外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。308は木口面がなかった。サ139は年輪界及び早材部がなく、晩材部のみの観察であった。この2点について、観察が十分ではないため、近似種とした。

**ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino)** ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部は1～2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～8細胞幅、1～60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。304は、最初の切片が斜めであり、再切片作成では木口面の切片が作成できなかった。切片で断片的に観察できる特徴、木製品の用途、再切片作成時に遺物観察した際の特徴等からケヤキと考えられるが、断定には至らず、近似種とした。

**モクレン属 (*Magnolia*)** モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った梢円形～多角形、単独及び2～4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は單穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～40細胞高。

**アジサイ属近似種 (cf. *Hydrangea*)** ユキノシタ科

炭化しており、作成された切片では道管を有すること以外には組織の観察ができなかった。実体顕微鏡観察では、散孔材で、小径の道管が年輪界に一様にほぼ単独で散在する。道管の穿孔板の形態は観察できなかった。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～30細胞高であるが、複列部は5～6細胞高前後で、単列部が長く伸びる。放射組織は時に上下に連結する。現生との比較では、アジサイ属のノリウツギに似ている。しかし、道管の穿孔板の形態等、同定に必要な組織の観察が十分ではないため、近似種とした。

**キハダ近似種 (cf. *Phellodendron amurense* Ruprecht)** ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圈部は2～5列、孔圈外でやや急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線方向に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。また、大道管を中心にして道管内に茶褐色の充填物質が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～40細胞高。観察された特徴からキハダの可能性があるが、木口面の切片が斜めであり、小道管の配列状況などの観察が十分ではないために近似種とした。

**トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)** トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った梢円形、単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高で階層状に配列する。

## 4) 考察

分析対象とした木製品が出土した造構の年代は、古代、中世、近世、時期不明に分類され、これらの造構からは14種類の樹種が確認された。これら木製品の樹種は、スギが77点中39点とほぼ半数を占め、次いで、クリ（11点）、モクレン属・サワラ（6点）の順に多く、このほかの種類は1～3点といった傾向を示した（第3表）。これらの各種類の材質をみると、針葉樹のスギ、ヒノキ、サワラ、アスナロ、ヒノキ科は木理が通直で割裂性が高く、加工が容易で比較的耐水性も高い。カラマツは、木理が通直でないことが多く、捻れやすい欠点があるが、強度や耐朽性、耐水性が高い種類である。

一方、広葉樹のコナラ節、アカガシ亜属、クリ、ケヤキは、硬重で強度が高く、クリやケヤキでは耐朽性のある種類であり、モクレン属は日本産広葉樹では比較的軽い部類に入り、材は緻密で加工は容易な種類である。キハダも比較的軽い部類に入り、加工も容易であるが強度は高い種類であり、トチノキは、硬さは中庸で材は緻密であるが、加工は容易な種類である。アジサイ属のうち、ノリウツギは比較的硬重で強度が高い種類である。各時期の木製品の樹種の傾向をみると（第3表）、古代では曲げ物底板2点がヒノキとカラマツに同定された。

た。ヒノキは、板状の加工を施すのに適していることから、曲げ物底板には適した木材の一つといえる。新潟県内における調査事例では、スギ材の利用が多く認められ、ヒノキの利用は曾根遺跡で確認例がある〔川村1983〕。

一方、カラマツは、曲げ物底板としての調査事例は少なく、新潟県内においても出土例はほとんど認められない。このような背景としては、材質的な選択性も考慮する必要があるが、カラマツは火山災害地等の裸地にいち早く生育する先駆植物であり、新潟県内では天然の分布があまり見られないが、上越市周辺ではカラマツの自生が確認されており〔倉田1971〕、本道跡で認められたカラマツの

樹種	時期 種類										合計
	カラマツ	スギ	ヒノキ	サワラ	アスナロ	ヒノキ科	コナラ節	アカガシ亜属	クリ	ケヤキ	
縦板				2							2
曲げ物底板	1										1
管状木製品	1			1							2
箱蓋部材	1										1
板材	1	1									2
部材？	1										1
枕 板材									1		1
用具不明									1		1
曲げ物側板	8	1									9
曲げ物底板	2	1	1								4
椀							1				1
管状木製品	8					1		1			10
底板？								1			1
コモヅチ						4	2				6
火付き臼	1										1
下駄						1	1				2
舟書き	1	1									2
筒形の台か？	1										1
板片	1						1				2
机の柱							1				1
部材	1										1
不明	4				1	1	1	3		1	10
古代 曲げ物底板	1	1									2
曲げ物											1
曲げ物の一部 側板			1								1
折敷底板	1										1
木籠 湿器										1	1
舟書き	1										1
杜板							1	1			2
舟形木製品	1										1
部材	1	1									2
板材	1										1
不明板材	1			1							2
合計	1	39	3	6	2	2	1	1	11	2	6
										1	1
											77

1) 近似種は、各個別に含めた。

2) ?が付された製品は、それぞれの製品に含めた。

第3表 木製品の時期別・器種別種類構成表

利用は地域的な植生が差異に起因する可能性がある。ただし、この点については、当該期の古植生に関する調査事例を蓄積し、あらためて検討する必要がある。

中世と考えられる木製品は、曲げ物側板・底板、椀、箸状木製品、底板?、コモヅチ、火きり白、下駄、糸巻き、荷物の台?、板、杭の柱、部材、用途不明品と多様である。曲げ物側板・底板は、いずれも全て針葉樹材であり、スギが多く、このほかにサワラ、ヒノキ科が認められた。これらの樹種の特徴を考慮すると、古代の曲げ物底板で認められたヒノキと同様に、割裂性が高く、板への加工が容易な種類を選択していると考えられる。火きり白、荷物の台?、箸状木製品等でもスギが多く利用されており、当該期ではスギ材を多用する傾向が指摘される。本地域では、下削遺跡（上越市）や浦廻遺跡（白根村）で出土した中世の木製品にスギが多く用いられる傾向が認められている〔パリノ・サーヴェイ株式会社2003a・b〕。スギは、沖積低地や谷筋など、水分の多い環境によく生育し、現在でも本地域ではスギの自生が確認されている〔倉田1971〕。当該期における古植生は、詳細な調査例がなく言及することはできないが、スギ材が多く用いられる傾向を考慮すると、材質を考慮した選択性やスギの木材を容易に入手できる環境であったことが推測される。

一方、コモヅチは広葉樹材であり、クリとモクレン属が認められた。クリ及びモクレン属は、材質的には強度等は異なるが、6試料がこの2種類に集中することから、クリとモクレン属が選択・利用されていた可能性がある。下駄は、クリとケヤキであった。点数が少なく種類の選択性について言及することはできないが、履物として使用するため強度や耐朽性の高い樹種を利用していると考えられる。なお、上述した浦廻遺跡から出土した下駄では、クリやケヤキは用いらずスギが用いられる状況が確認されている。

椀は、横木取であり、樹種はケヤキであった。ケヤキは、ブナ属やトチノキ等と共に椀に利用される樹種の一つであり、出土例も比較的多い〔島地・伊東1988〕。新潟県内では、浦廻遺跡でブナ属、クリ、カツラ、ハリギリとともにケヤキが椀に認められており〔パリノ・サーヴェイ株式会社2003b〕。本分析結果と調和する。このような椀や皿にケヤキが利用される例は、古代の蔵ノ坪遺跡（中条町）でも確認されている〔パリノ・サーヴェイ株式会社2002〕。

近世と考えられる木製品は、桶側板、曲げ物底板、箸状木製品、箱物部材、板、部材、杭、用途不明品が認められる。杭及び用途不明品にクリが認められたが、このほかは全て針葉樹材であり、スギ、ヒノキ科ヒノキ、サワラ、アスナロで構成され、特にスギが多く利用される傾向を示す。これらの樹種の材質をみると、割裂性が高く加工性が高い種類を利用していると考えられる。また、各器種の点数が少なく、器種ごとの木材利用の差異は不明であるが、桶側板がいずれもサワラであり、スギが利用されない点は注目される。

## B 種実遺体

### 1) 試 料

試料は、2基の井戸跡（SE420（No.20）、SE590の5層（No.84））から検出された選別・分類済の種実遺体2試料である。

### 2) 分析方法

試料を双眼立体顕微鏡下で観察し、種実の形態的特徴を所有の現生標本及び原色日本植物種子写真図鑑〔石川1994〕、日本植物種子図鑑〔中山ほか2000〕等と比較し、種類を同定し、個数を数えた。同定後の

種実遺体は、乾燥剤とともに種類毎にビンに入れ、保管する。

### 3) 結 果

結果を第4表に示す。SE420 (No.20) から検出された種実はトウガンの種子、SE590の5層 (No.84) から検出された種実はヒヨウタン類の種子に同定された。以下に、本分析によって得られた種実の形態的特徴を記述する。

トウガン (*Bennicula hispida* (Thunb. ex Murray) Cogn.) ウリ科トウガン属

SE420 (No.20) から、種子が331個検出された。炭化個体26個を含む。淡～茶褐色、炭化個体は黒色。倒卵形でやや扁平。長さ10～12mm、幅5～5.5mm、厚さ2mm程度。基部は切形で梢円形の臍がある。種子両面の全周の縁には段差があり薄くなる。種皮は厚くやや堅い。

ヒヨウタン類 (*Lagenaria siceraria* Standl.) ウリ科ヒヨウタン属

SE590の5層 (No.84) から、種子が117個検出された。淡灰褐色。倒広皮針形でやや扁平。長さ10mm、幅6mm、厚さ2mm程度。頂部は角張り、基部には明瞭な臍と発芽口がある。種子表面はやや平滑で、両面外縁部の幅広く低い稜にある2本の縫締が明瞭な完熟種子である。

番号	遺構	時期	科名	種類名	部位	個数	備考
No.20	SE420	中世	ウリ科	トウガン	種子	331	炭化個体26個を含む
No.84	SE590	5層	不明	ウリ科	ヒヨウタン類	種子	117

第4表 種実同定結果

### 4) 考 察

中世と考えられるSE420からはトウガンの種子が331個、時期不明のSE590の5層からはヒヨウタン類の種子が117個検出された。トウガン、ヒヨウタン類は、古くから栽培のために持ち込まれた渡来種であり〔南木1991〕、トウガンは果実が食用に、ヒヨウタン類は果実が容器や食用にそれぞれ利用される。

これらの栽培植物の可食部分である種実が、井戸跡内から土器や木製品等とともに検出された状況を考慮すると、本遺跡に持ち込まれ利用された後の痕跡、すなわち、生活残渣等の可能性がある。また、トウガンの種子には炭化したものが含まれていることから、何らかの理由で火災の影響を受けたことが推定される。

なお、中世の井戸跡や土坑から検出された種実遺体の調査事例では、栽培植物が多く検出される傾向が報告されている〔金原ほか1992；金原1994など〕。新潟県内における当該期の井戸跡の分析調査では、下前川原遺跡（豊栄市）の中世と考えられる井戸跡から、ウメ、スモモ、モモ、イネ、オオムギ、アサ、マメ類、メロン類、ヒヨウタン類、ベニバナが検出された事例〔パリノ・サーヴェイ株式会社2004〕や、辛子田B遺跡（見附市）の中世と考えられる井戸跡から炭化した穀物類が検出された事例（未公表資料）が確認されている。

### 引用文献

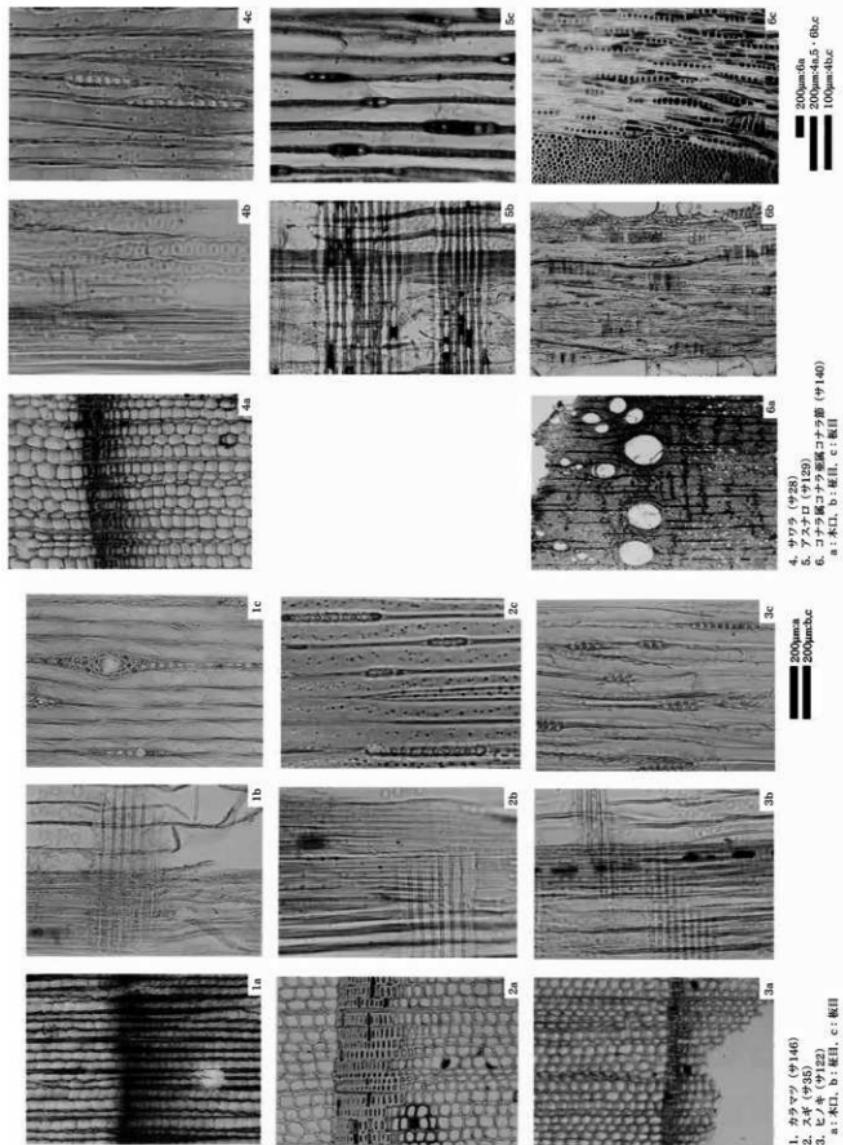
- 石川茂雄 1994 「原色日本植物種子写真図鑑」 石川茂雄図鑑刊行委員会 p.328  
 金原正明・粉川昭平・寺沢薫 1992 「植物遺体による畑作の解釈」『日本文化財科学会第9回大会研究発表要旨集』  
 日本国文化財科学会 p.10-11  
 金原正明 1994 「植物遺体分析による農耕の復元について」『日本文化財科学会第11回大会研究発表要旨集』

- 日本文化財学会 p.51-52
- 南木勝彦 1991 「古墳時代の研究 4 生産と流通!」『栽培植物』 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編 雄山閣 p.165-174
- 川村恵洋 1983 「曾根遺跡出土木材の識別」『新大演報』16 p.75-82
- 倉田 恒 1971 『原色日本林業樹木図鑑』第1巻(改訂版) 地球出版株式会社 p.331
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 『日本植物種子図鑑』 東北大出版会 p.642
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2002 「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 一般国道7号 中条バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 p.45-59
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2003a 「木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第120集 一般国道253号 上越三和道路関係発掘調査報告書 下割遺跡I』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 p.26-29
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2003b 「木製品の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第126集 一般国道8号白根バイパス関係発掘調査報告書 滝廻遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 p.45-51
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2004 「井戸出土種実遺体の自然科学分析」『下前川原遺跡 新潟県豊栄市下前川原遺跡発掘調査報告書』 豊栄市教育委員会 p.53-60
- 島地謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣 p.296

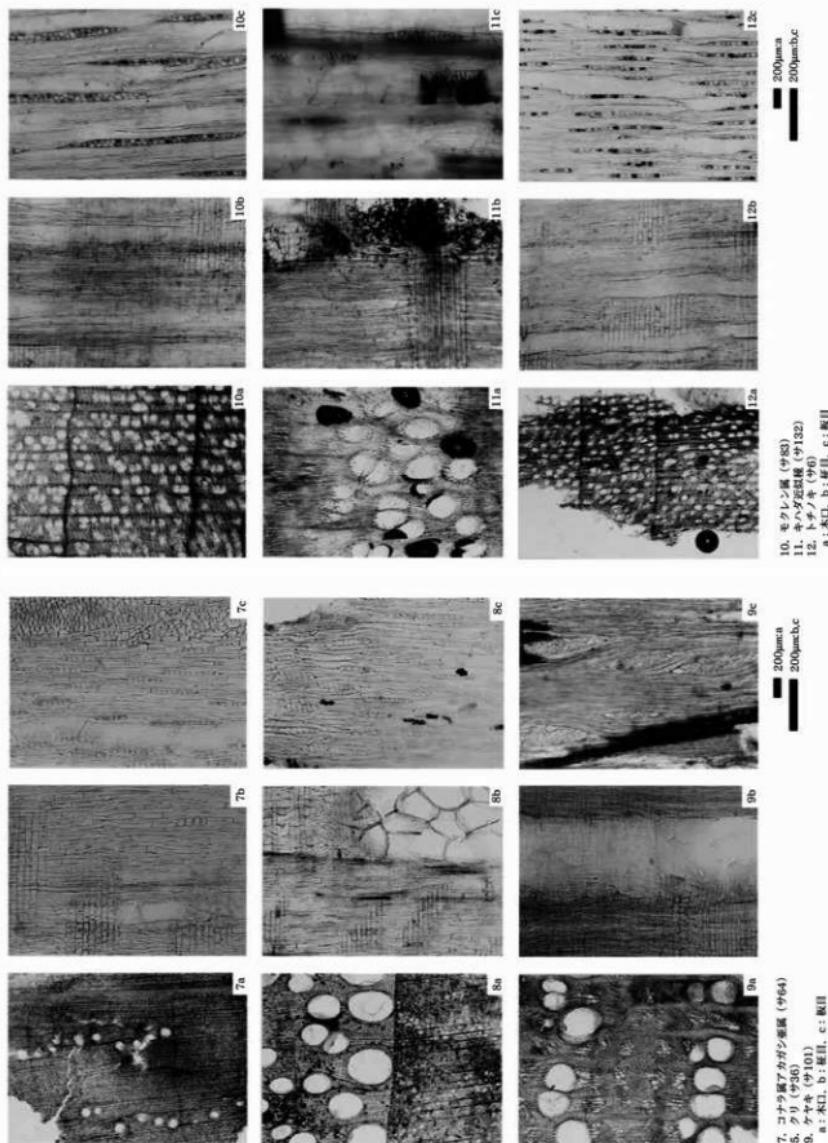


1. トウガン 種子 (No.20;SE420) 2. ヒヨウタン類 種子 (No.84;SE590 5枚)  
3. トウガン 種子 (No.20;SE420) 4. ヒヨウタン類 種子 (No.84;SE590 5枚)

第10図 種実遺体



第11図 梗出樹種の顯微鏡写真（1）



第12図 桟出樹種の断面鏡写真 (2)

## 5 まとめ

### A 遺構構

出土遺物からみると当遺跡は、平安時代・中世・近世にわたる。発掘調査時に層位による時期別調査が不可能であったこと、遺構覆土による時期相違判断がつかなかったことから、各時期における遺構の分布・規模等が明確でない。ここでは、遺構出土遺物から各時期の遺構分布を観察する。なお、遺構の中でピットは出土遺物が少なく、時期判別が難しいため、除外し、井戸・土坑・溝に限定した。遺構出土遺物は遺構一覧表のとおりである。また、出土遺物から見た遺構一覧は第5表のとおりであるが、出土遺物はあくまでその時期の上限を示すものであり、遺構機能時期、埋没時期を示すものでないことを確認しておきたい。

遺構の時期検討に当たり、時期別包含層出土遺物分布を検討する。検討に当たっては、以下のことが留意点である。

①本來完形品であれば、個体数として分布が把握でき一番いい。しかし、ほとんどが破片であり、個体識別が困難なものが多く、個体数を算出するのは不可能である。数量比較の場合、口縁部残存率による個体数の算出、破片数の比較、重量の比較等がある。包含層遺物を観察したところ、細片が多く器種選別が困難なものが多く存在すること、口縁部破片が非常に少ないと、口縁部残存率による比較はできないと判断された。重量による比較の場合、特に須恵器・珠洲焼等の壺となると、楕・皿類と非常に大きな差がでてしまうこと等から、破片数による比較とした。

②当初時期別、須恵器・土師器といった種別、壺・甕といった器種別に判別を試みたが、判別不可のものが多く、結局一覧表のような煮炊具・食膳具といった大分類となってしまった。

③碎片が多いため、判別不能のものも多く、厳格には分類は正確でない。また、約2cm以下のものは除外した。したがって数量は絶対なものではなく、出土数量の相対的な比較として見ていただきたい。

	井戸	土坑・SX		溝	
古 代	SE346	SK570	SK1730	SK1820	SD349 SD1753
	SE347	SK1557	SK1733A	SK1821	SD370 SD1804
	SE1386	SK1715	SK1733B	SK1822	SD640 SD1806
	SE1711	SK1705	SK1734	SX26	SD1743A SD1807
	SE1717	SK1707	SK1735	SK1701	SD1743B SD1808
	SE1720	SK1708	SK1736A	SX1702	SD1744 SD1811
	SE1732	SK1709	SK1737	SX1710	SD1745 SD1812A
	SE1713	SK1714	SK1739	SX1716	SD1746 SD1813
		SK1723	SK1740A	SX1727	SD1747 SD1814A
		SK1724	SK1740B	SX1819	SD1748B SD1815
		SK1725	SK1742		SD1750 SD1816A
					SD1751
中 世	SE100	SE560	SK1000		SD1748A
	SE130	SE580	SK1150		
	SE385	SE630	SK1313		
	SE420	SE660	SK1384		
	SE430	SE1387	SK1508		
	SE456	SE1712	SK1607		
	SE476	SE1718	SX1507		
	SE490	SE1719			
	SE496	SE1728			
	SE550				
近 世	SE610		SK500 SK1509		SD480
	SE670		SK690 SK1703		SD700
	SE900		SK1316		SD1752
	SE1500		SK1392		

第5表 出土遺物から見た遺構の年代

ID	古代										中世						近世			
	土器類			須恵器				灰釉 合計	合計	陶器焼				中世 土器類	青磁	合計	合計	合計		
	内墨 瓶類	表墨 瓶類	合計	杯類	蓋	垂頭 瓶類	盤類			垂頭 瓶類	素T・重 鉢・口	合計								
ID			0					0	0				0		0		0	0		
1E	11	1	21	33	3			10	13	46	1	2	3	4	7	2	2	2		
1F			0		1			7	8	8	3		3		3	1	1			
2A			0					0	0				0		0		0	0		
2A	22	27	49		1	3	4		53	116	116				116		0	0		
2C	13	46	59	6	7	6	19		78		3	1	4		4	20	28	48		
2D	35	80	115	5	7	21	33	148	1	22	12	35	4	1	40	17	23	40		
2E	42	1	125	168	11	7	9	35	62	4	234	2	13	81	23	7	2	32	4	8
2F	29	86	115	5	8	9	18	40		155	1	1	3	5	2	7	8	4	12	
3A	160	17	127	304	6	1	16	36	59		363			2	2			2	0	
3A	310	31	286	627	17	5	38	47	107	1	735			0		0	1	1	1	
3C	50	56	106	4	1	7	35	47		153		4	1	5	4	9	9	8	17	
3D	65	6	226	297		2	10	48	60		357	8	5	13	28	41	151	89	240	
3E	18	1	48	67	4	3	6	14	27		94	20	7	27	6	3	36	141	77	218
3F	22	25	47	7	5	3	15			62	8	2	10	13	2	25	46	6	52	
4A	94	81	175	16	5	60	78	159		334	4	6	10	1	11			0		
4A	446	7	375	828	42	10	63	110	225		1053	1	5	9	15		15		0	
4B			0					0	1	1				0		0		0	0	
4C	73	264	337	5	5	13	12	35		372	2	3	5	2	7	20	42	62		
4D	36	88	124	6	4	16	9	35		159	2	10	6	18	1	1	20	108	84	192
4E	10	55	65	9	4	20	9	42	1	108	1	86	5	92	10	1	103	117	96	213
4F	20	6	26	2		2	4	8		34	8	4	12		12	56	30	86		
4G		0	1				1			1		2		2	2	1	1	2		
5A	17	36	53		3	4	7		60		1	1		1		1	0		0	
5A	105	4	143	252	17	1	14	21	53	305		1	1		1		1	0		0
5B	11	42	53	8	3	6	5	22		75	1	1	2	3	5	8	8	16		
5C	51	2	115	168	12	3	9	6	30	198		1	1	2	3	5	21	26		
5D	26	2	84	112	21	11	10	16	58	170	2	5	7	9	16	21	35	56		
5E	22	32	54	3	1	7	2	13		67	1	3	1	5	13	1	19	21	27	
5F	1	4	5	3		3	2	8		13	2	1	3	4	7	15	23	38		
5G		1	1			2	1	3		4	5	3	8		8	5	4	9		
6A	16	3	19	1			1		20				0		0			0		
6A	14		14		3	2	5		19		1	1		1		1		0		
6B	12	60	72	1	5		5	11		83		1	1	9	10	8	1	9		
6C	12	68	80	5	4	6	12	27		107	1	1	1	3	3	10	7	17		
6D	49	195	244	32	12	13	16	73	z	319	1	7	8	16	2	18	37	23	60	
6E	11	60	71	8	2	4	3	17		88	9	8	17		17	29	10	39		
6F	3	6	9	3	1	5	5	14		23	1	4	4	9	1	10	48	27	75	
6G	1	1	2		1	2	3			5	3		3		1	4	20	5	25	
7B		0				0		0		0		0		0	0	2	2	2		
7C	6	25	31	1	1	3	2	7		38	2		2		1	3	5	5	5	
7D	20	42	62	7	1	7	15			77	2		1	3	5	8	13			
7E	2	13	15	1	5	2	8	1	24		2	1	3	1	4	11	8	19		
7F		0	2		2	3	2	7		7	5	3	8		8	12	12	24		
7G	2	2	1	2	1	6	10		12		3	4	7		7	13	12	25		
8C		3	3	1	1	1	1	4		7		0		0		0		0		
8D	17	1	12	30		2		2		32	1	1	2		2	1	2	3		
8E	17	6	23	3	3	2	8		31	1	1	2		2	5	2	7			
8F	2	1	3	2	1	3			6	3	3		3		3	14	10	24		
8G		0		1		1			1			0		0	0	3	2	5		
9D		0	1		1				1			0		0		0		0		
9E		0	1		1				1			0		0	0	1	5	6		
9F		0		1	1	1			1			0		0	0	1	5	6		
9G		0		0		0			0			0		0		0		0		
10D	2	2		2		2	4			0	1		1	6	3	9				
10E		1	1			0		1		1	1		1		1		0			
10F		0		0		0		0		0		0		0		0		0		
10G		0		0		0		0		0		0		0		0		0		
11D		0		0		0		0		0		0		0		0		0		
11E	3	3		0		3			21	21		21		21		1	1	1	1	
11F	1	4	5	2	1	3			8		1	1		1	4		4			
11G	2	2	4		0	4			1	1	2		2		2		0			
12E		0		0		0			0		0		0		0		0			
12F		2	2		0		2			0		0		0		0		0		
12G		2	2		0		2			0		0		0		0		0		

第6表 包含層遺物量集計表

## 1) 古代 (第13図)

古代遺物が出土している遺構は、1996年度調査区のあ・A-2~6区に集中する。B区より東側で古代遺物のみ出土遺構はほとんどない。地形的には北西側が高位で南東側に徐々に下がる傾向を示し、山裾に近い位置に古代集落が営まれていたことが想定される。1996年調査区にある掘立柱建物 (SB9・10・11) はいずれも長軸を北西方向に持ち、1995年度調査区では存在しない軸方向であり、これらも古代遺構の可能性が高い。発掘調査区が道路法線部に限定されているため全体の遺跡規模は把握できないが、山裾に沿って西側を中心に集落は広がっていたものと考えられる。

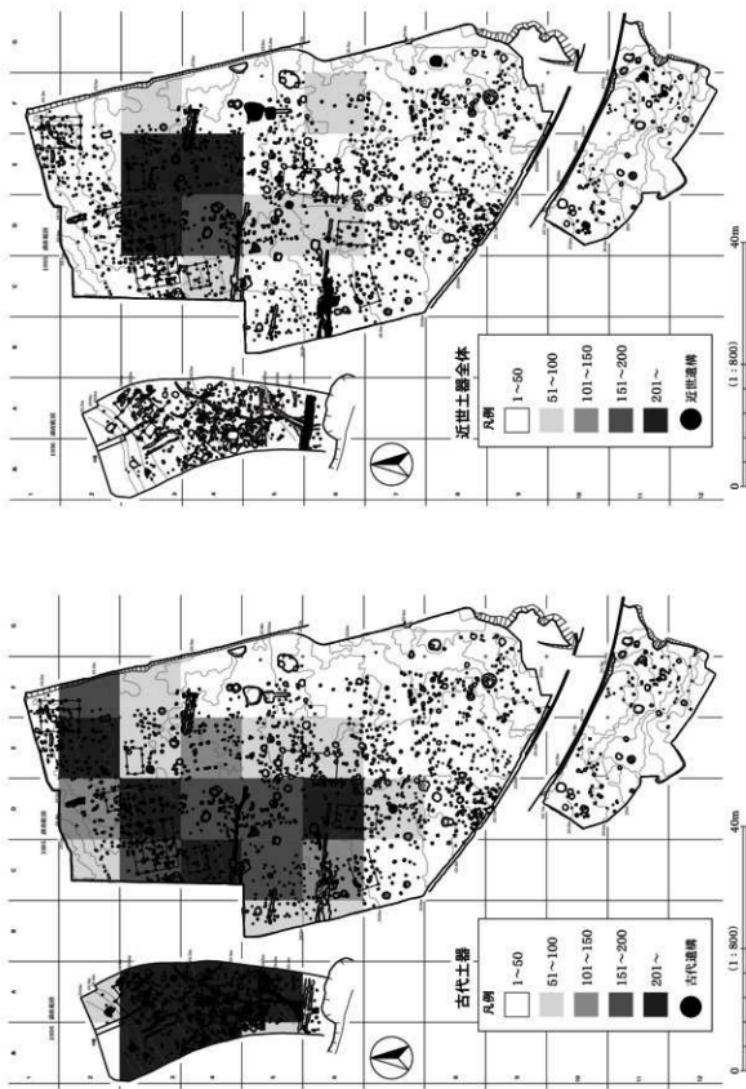
第13・14図は包含層出土遺物の分布を時期別に示したものである。点数で示しているが以下の前提で分布図を作成している。古代について全体遺物量の分布を見るとやはり1996年度調査区が多いことがわかる。また、1995年度調査区においてもC4・D3・E2のラインを中心として、その両脇に多いことがわかる。しかし、この地点において、古代遺構はほとんど確認されていない。遺物の多いラインは等高線にそった傾斜ラインであり、古代集落があったと思われる北西側から古代以降の土地開発に伴って土(包含層)を南東側に押し出した結果と考えられる。須恵器と土師器は、土師器数が圧倒的に多い。時期的に土師器の割合が多くなることもさることながら、壊破片の細片化による破片数の増加が大きな原因である。

注目される遺構として、SX1701がある。土師器壊・鍋4個体が一括して出土した土坑である。これは、個々の個体がまとまって出土したのではなく4個体の破片が混合した状態で出土している。このことは、この土坑に個体破片を廃棄したことを意味していると考えられ、この土坑の機能・用途と土器に関連性があるかどうかは検討を要する。出土の4個体は、全て煮炊具であるが、ススや炭化物といった使用痕跡が認められず、焼成時の不良品の廃棄と考えられる。この土坑そのものが、土師器焼成遺構かどうかは判断し得ないが、土坑の規模が小さく、平面形が方形であることなど、従来確認されている土師器焼成遺構とは異なることから、土師器焼成土坑である可能性は低いものと判断される。隣のSX1702では、鍛冶に関連する遺物が出土しており、それに関連した遺構の可能性もある。

## 2) 中世 (第14図)

中世の遺物量は、古代に比べると少ない。出土遺物からみた中世遺跡の分布は第14図のとおりである。確認できるのは井戸・土坑がほとんどである。1995年度調査区に散在する。1996年度調査区にも若干存在する。中世の井戸・土坑が20基程度確認できていることから、掘立柱建物は現場で確認できなかつたため図上推定となったが、建物もいくつか予想され、復元建物の中のいくつかは中世のものであろう。遺物の分布を見ると1995年度調査区の中央 (D・E2~6) を中心として、その周辺は少ない分布となっている。中世遺構の分布ともほぼ一致し、中世集落のほぼ中心を調査したことが窺える。このことは中世段階に整地し古代に比べ、やや低地に移動したことを物語っている。中世遺物で興味深いのは、包含層での土師器皿の出土が遺構に比べて非常に少ないことである。井戸等では一括して10点以上のところもあり、その差が著しいことがわかる。また、小型品のみであることも注意を要する。このことは、その用途に関係していると考えられる。古代の土師器椀は包含層でもかなりの出土量を示しているのとは異なっている。

第13図 包含層出土土器量分布図(1)





### 3) 近世

近世遺物の出土した遺構は少ない。SD700は複数の溝が重複しているようであるが、古代～近世までの遺物が出土している。ほぼ東西に近い溝で、約15m北側には平行して走るSD370がある。出土している遺物は古代であるが、近世の可能性がある。SD480からも近世遺物が出土しており、やはり東西に近い方向性を持っている。これらの溝に直交するようにSD1315があり、重複するSK1316・500からは、近世遺物が出土している。長軸が南北のほぼ東西棟で、SD700の東側延長ラインと南側梁間ラインとがほぼ一致するSB6も方位からすれば近世の可能性がある。このSB6の周辺にあるSE670・610・900はいずれも近世井戸である。明治時代の土地更正図を見ると、周囲には宅地も存在していたことがわかり、現在でも海道集落として存在する。

近世陶磁器は、江戸時代後半から明治に至るもののが出土したが、遺物は一部掲載したのみである。集計の結果、近世遺物（陶磁器）の分布は第13図のようになった。これによると3・4D・E区に集中しその周辺は次第に少なくなっていることがわかる。先述の土地更正図では、遺物の一番多く出土している3・4D・E区に宅地が存在する。この宅地が江戸後期まで測る可能性も十分あり、出土の陶磁器がこの宅地所有者のものである可能性は十分にある。

## B 遺物

### 1) 古代

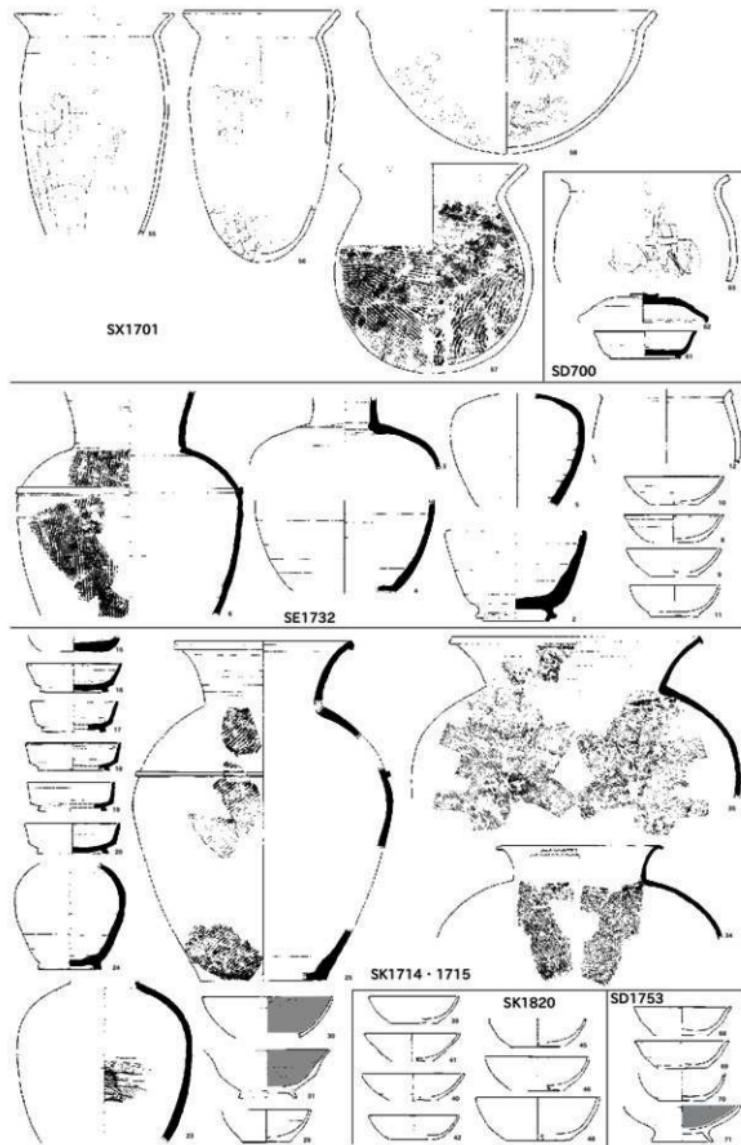
古代の遺物は、前述のように、1996年度調査区を中心に多く出土している。遺構出土土器を中心に土器の年代を検討する。なお、遺物の年代観、産地等は、上越市教育委員会笠澤正史氏の御指導による。

**SX1701** 煎炊具4個体の一括資料である。長釜2、鍋1、釜1である。長釜は口径に比して細身である。口縁は55が反りぎみに外反し、端部が細くなるのに対して、56は直線的に伸び、端部が面取りされる違いがある。調整はいずれも上半部ヨコナデ、下半部強い縦ケズリであり、薄く仕上げている。57の器形の類例は少ない。近い類例は、十日町市馬場上遺跡29号住居〔阿部ほか2003〕にあり、信州、北陸地域でも散見される。58の鍋も56と同じ口縁を持つ。57の釜を除いて、ケズリ調整で、薄く仕上げていることや、口縁が直線的で、端部つまみ上げ等の調整が認められること等から、9世紀までは降りず、8世紀後半階段の所産と考えられる。類似の長釜には79(P7)、83(P19)等がある。

**SD700** 63は丸みのある釜の可能性が高く、SX1701の57に近い器形をとるものと考えられる。61の有台杯は体部の開きが小さく、口縁端部が外反する。62の蓋は深みがあり、端部垂直に下りる。類似形態のものは、上越市今池SK103（市教委調査）にあり、8世紀末段階と報告されている。類似の杯には有台杯II類とした包含層出土の97～100がある。

**SE1732** 井戸一括資料である。6は突帶付き4耳壺で、滻寺・大貫窯跡でも多く生産されていたことがわかったが〔笠澤1998；小田2005〕、特に信州方面で特徴的な器種である。笠澤氏によれば、この6は、龍峰遺跡出土〔高橋2000〕に胎土、整形技法等が類似しており、信州牟礼・豊野産の可能性が高いとのことである。土師器柵の8～10は器高指數30以下の浅いもので、底部は比較的大きく、体部に丸みがあり、9世紀前半の特徴を持っている。14の把手付き壺は滻寺産であり、これら一括資料は9世紀前半に位置づけてよいと判断される。

**SK1714・1715** 多くの一括資料が出土している。15は杯I類で底部ヘラ切りであるが、厚手である



第15図 遺構資料からみた古代の土器

ことから、8世紀後半と考えられる。16～20は、有台杯I類としたものである。底部と体部の境に明確な稜を持ち、立ち上がるるものである。淹寺・大賀窯産である。この窯跡群は、8世紀末～9世紀中葉にかけて操業している。有台杯の特徴としては、古いもの（8世紀末）は浅くて径が大きいとされている。また、底部はヘラ切りと糸切りの両方が認められ、ヘラ切りの高台は内端接地、糸切りは外端接地となる〔笹澤2003d〕。当遺構出土のものは、底部ヘラ切りは認められず、糸切りである。高台部は、内端接地（16・17・19）と外端接地（18・20）の2者が認められる。明確な時期決定は難しいところであるが、9世紀初頭くらいであろうか。25の突帶付四耳壺や34も淹寺産である。図示した土師器は内黒2点あるが、1点はいわゆる稜挽である。土師器内黒稜挽は珍しい。口縁部がやや開いている。30の内黒も深みがあること、29の挽も同様で、9世紀前半までは瀬らないものと思われる。したがって、SK1714・1715は9世紀初頭から中葉にかけての遺物が廃棄されていたことになる。

**SK1820** 土師器挽が多く出土している。40・45のように浅くて底径の大きいものが見られ、また全ての土師器が口縁部外反が認められず、内湾するのがほとんどである。41のみ新しい傾向のものが見られる。総じて、9世紀前半から中葉に収まつてくるものと考えられる。

**SD1753** 土師器挽である。68・69は口縁外反が認められ、71は灰釉有台皿を模した内黒である。上越市縄手遺跡にも類似の皿が出土している。縄手遺跡〔笹澤2003c〕のものは内黒でなく、台部が三角形状で、71の台部が高く外に向くとの異なる。このことから、9世紀後半とされる縄手遺跡よりも若干くなるものと考えられる。

このように遺構出土遺物は、概ね8世紀後半から9世紀中葉に収まつくるものと考えられる。このことは、佐渡小泊須恵器がほとんど認められないことからも窺える。包含層出土土器では、須恵器杯I類とした91・92が底部ヘラ切りで8世紀後半、II類とした93は糸切りであるが、口縁は直線で開き気味に延びる。9世紀前半であろう。97～100は有台杯II類。底部厚くヘラ切りで、8世紀後半。蓋の内、103は口径大きく、8世紀初頭まで瀬る。土師器鍋の123・124は口縁端部面取されるが、125は肥厚する。125が新しい傾向を示す。

このほか、古代の遺物として、258～261の布目瓦がある。布目瓦を使用するような建物は確認できていないことから、持ち込んだものと考えられる。近くに布目瓦を焼いた向横古窯跡〔笹澤2003e〕があることから、そこの瓦の可能性がある。

## 2) 中世

中世の土器は、主に土師質土器皿・珠洲焼・青磁・白磁である。

**SE560** ロクロ土師器皿I b類が一括して多く出土している。全て同形態で、口径も8～9cmに収まる。非ロクロ土師器は1点で、口径約8cmとほぼ同じ大きさである。これに珠洲焼165～168が作う。166の甕は、口縁端部が引き出され下に垂下しており、古い形態を持つ。168の鉢は口縁が内湾気味に立ち上がり、拂り目が認められない。167の鉢は底部回転糸切りとなる。このような特徴は珠洲編年のI期に認められるもので、12世紀後半代の年代が与えられる。したがって、土師器皿も12世紀後半ということになる。平安時代末～中世に至る時代の土師質土器は上越市至徳寺遺跡で多く出土しており、標識資料となっている〔水澤・鶴巻2003〕。また、検討も行われている〔水澤・笹澤2001〕。それによれば、11世紀後半には、饗宴に伴う土師器の一括廃棄遺構が出現する。皿型の小皿が増加し、柱状高台皿も定量確認できるようになる。12世紀前半には、小皿と無台挽（いずれもロクロ）の単純な組み合わせとなる。

そして、12世紀後半には、それまでのロクロ成形による土師器が激減し、京都系技法である手づくね成形の土師器皿が主体となる。としている。SE560の皿は底部が厚く、柱状高台のなごりを持つ。手づくね土師器皿は確かに出土しているものの、主体はまだロクロ土師器である。12世紀後半と考えられるが、至徳寺とは様相が異なる。当遺跡で出土している土師器皿は全て小型であり、大型が認められないことも一つの特徴である。

**SE420** ここでは、ロクロ土師器皿Ⅰa類（柱状高台）1点、ロクロ土師器皿Ⅰb類2点、ロクロ土師器皿Ⅰc類3点の出土がある。SE560にⅠa類、Ⅰc類が加わったことになる。Ⅰa類の柱状高台は、本来11世紀～12世紀前半に認められるものである。Ⅰb類は、Ⅰb類より口径が小さく7～8cm、底部もやや薄くなる。Ⅰb類からの変化が窺われ、手づくね皿の形状に近づく。ここでは手づくねは出土していない。珠洲焼は133～136の4点の出土がある。133・134は壺T種と考えられる。いずれも口縁部形態に古い特徴を持つ。133はコの字状で端部が面取りされる。ⅠまたはⅡ期であろう。135の壺は体部に波状文を持つ。136の片口鉢は、口縁は内湾気味に立ち上がり、櫛目は細く、間隔を持つ。珠洲焼Ⅱ期の典型で、13世紀初頭となる。

**SE490** ここでは、土師質土器皿に輸入陶磁器が加わる。土師質皿は手づくねが主体を占める。ロクロ土師器では、依然としてⅠa類、Ⅰb類、Ⅰc類が認められる。手づくねでは、Ⅱa類、Ⅱb類がある。Ⅱa類は総じて底部薄いが、159のように厚手のものも認められる。161はⅡa類に高い脚を付けたもので、珍しい。輸入陶磁器は、白磁と青磁碗である。164の白磁碗は挽VII類でD期（12世紀中頃～後半）に当たる。163は龍泉窯系青磁碗Ⅳ類でやはりD期である。163も同様青磁碗Ⅰ類でD期である。ここでは珠洲焼は伴っていない。SK1000ではⅡ期と考えられる珠洲焼壺（187）に手づくね皿（188）が伴っている。SE385では、青磁碗Ⅰ類（132）に柱状高台（130）、手づくねⅡb類（131）が伴う。このⅡb類は木崎分類のA4類に近く、当該期に伴ったかどうか問題が残る。このように海道遺跡では、輸入陶磁器が伴うのは手づくねⅡ類になってからである。同様のことは板倉町仲田遺跡〔加藤2003〕でも見られる。12世紀と考えられる輸入陶磁器はほかに、SE430でも出土している。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類で珠洲焼Ⅰ期（146）、Ⅱ期（147）の鉢が伴う。

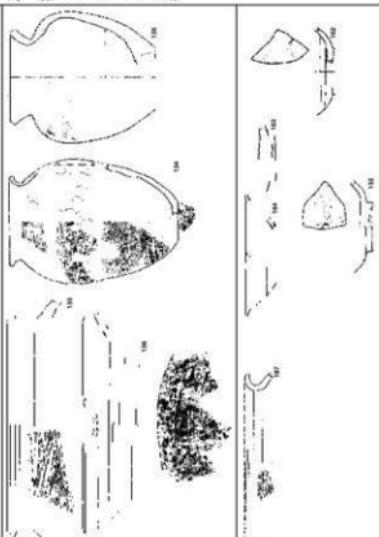
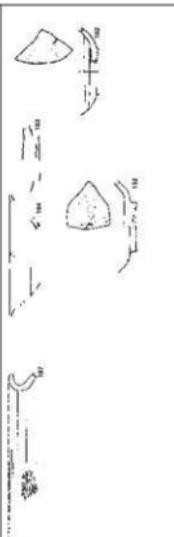
**SE385** Ⅲ期以降と考えられる珠洲焼鉢（189）にロクロ土師器皿Ⅰc類が伴うが、形態的には新しく、木崎山編年〔春日1992〕のB3類（14世紀末～15世紀）に近い形態を持つ。

このように、中世遺構からの出土遺物は珠洲焼Ⅰ・Ⅱ期に限定され、輸入陶磁器もD期に限られる。土師質土器皿の変遷ではロクロのⅠ類から手づくねのⅡ類への変化を考えるとSE560→SE420→SE490の変遷をたどると考えられるが、いずれの遺構でもⅠb類の出土があり、時間差は少ないものと考えられる。輸入陶磁器は珠洲焼Ⅱ期（13世紀初頭）に伴うことから、流通・長期使用等を考慮する必要があろう。

その他、珠洲焼ではSE1719の鉢185には、櫛目がなく、内湾気味の器形から、ⅠまたはⅡ期ものと考えられるが、186はⅢ～Ⅳ期に降るであろうか。同様の時期と考えられるものに208～211がある。212はⅣ期、206・218はⅤ期、217がⅥまたはⅦ期くらいであろう。205の壺破片はタタキが特異で、珠洲・須恵器の区別が難しい。このように珠洲焼は、Ⅲ期以降存在するものの量は少ない。

土師質土器皿では、ほかに手づくねのⅡc類（202・226）がある。形態的には新しく15世紀代まで降る。

輸入陶磁器では、SE560の181の青磁碗が上田BⅢ類〔上田1982〕で15世紀、199・230の青磁は、

口 ク ロ		手づくね	珠洲・輸入陶磁器	珠洲 Ⅰ・Ⅱ期	N Ⅰ
SE 5 6 0					
SE 4 2 0					

第16図 通報資料から見た中世の土器

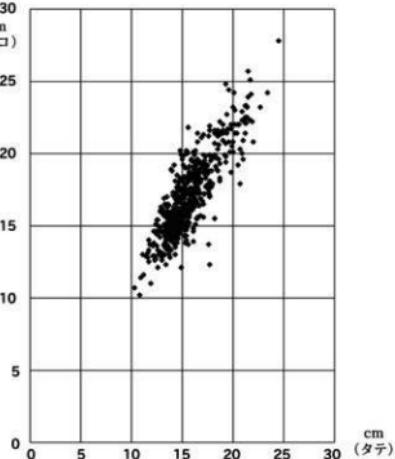
上田DまたはE類で14~15世紀、232は上田C2類で14世紀後半から15世紀前半である。229は白磁で、森田C類（森田）である。このように、輸入陶磁器は、12世紀~13世紀前半と、14~15世紀の2時期に分かれる。

### 3) 近 世

235~238の越中瀬戸壺は上越方面では多くの出土がある。明確な時期設定はできないが、[宮田1997]によれば17世紀後半~18世紀前半ということになる。播り鉢4点（239・244~246）は肥前系で、239は口縁内部に突帯が廻るII期（17世紀前半）の典型である〔家田2000〕。244・245はそれの退化形でIII期（17世紀後半）である。246は口縁が丸く肥厚する。III期の後半である。242は砂土目の皿でII期。243は京焼き風の椀でIIIまたはIV期。250も同様で、体部下半部に張りを持つことからIV期に当たる〔盛2000〕。240・241は伊万里皿。240の銘「富貴長春」はIV期に認められる〔大橋1993〕。241はIV期後半の18世紀後半と考えられる〔野上2000〕。

### 4) 井戸に廃棄された種実について

一覧表に示したとおり、井戸から多くの種実が出土している。主なものは、クリ・トチノキ・モモ・クルミ・トウガン・ヒヨウタン・米（穀）である。クリ・トチノキ・米（穀）については全てが炭化しており、保存用として貯えていたものが、火災等により炭化してしまい、井戸に廃棄されたものと考えられる。SE420（13世紀初）では、2,220点余りのクリ、270点余りのトチノキ、トウガン種335点が出土している。いずれも食用種である。クリの多くは実のみであるが、元来皮付きで保存されていたのが被熱で剥げてしまったものと判断される。皮のついた540点について、その大きさを縦長さ、横幅の計測値で表わしたのが第17図である。縦長さ平均15.76cm、横幅平均17.18cm、厚さ平均は11.93cmとなる。今日のクリと比べると小ぶりで、いわゆる山グリサイズである。当時どのような環境で生育したものか明確でないが、貴重な食料源として扱われていたことが窺える。トウガン種子の中にも炭化したものがかなり含まれていたことから、食物残滓として廃棄されたものではなく、栽培用の種として保存されていた可能性もある。クルミ・トチノキは近世遺構でも出土しており、近世のこの地域でも救荒食料として扱われていたことが窺われる。SE430では、ブロック状になった炭化した穀が多く出土した。穀であるので、やはり保存用としたものが、火災で炭化した結果と思われる。同時期の仲田遺跡でも同様な状態で出土している。



第17図 SE420出土クリ法量分布図

遺構名	時代	種 実 等								
		ク リ		トチノキ		モモ	クルミ	トウガン	ヒヨウタン	炭化米(麴)
		皮付き	皮 無	皮付き	皮 無					
SE50	不明					27 (8)				
SE100	中世					2 (1)				
SE130	中世		(1)	(1)		4				
SE385	中世		17 (44)	1	1 (10)	2 (4)				
SE420	中世	540	1787	6	267	[3]		335		
SE430	中世		9 (37)	3	3 (22)	15 (14)				多 数
SE456	中世		9 (65)		(41)	6 (3)		44	2	
SE476	中世		1 (1)	3	2 (13)	2				
SE490	中世									
SE550	中世			1	4 (93)	5 (1)				
SE560	中世	2	13 (12)		3 (29)	4 (1)				117
SE590	?					6 (4)				
SE610	近世	30	13 (25)	3	(4)	2 (2)	1 (1)			
SE630	中世			3						
SE900	近世					1 (1)				
SE1110	?							1		
SE1248	?					5				
SE1249	?					4 (2)				

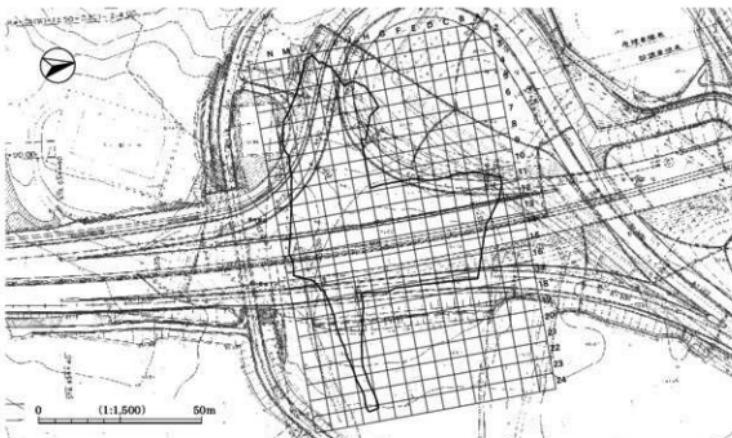
第7表 井戸出土種実等一覧

## 第IV章 大塚遺跡

### 1 調査の概要

#### A グリッドの設定

グリッドは、日本道路公団設定のセンター杭STA636 (X120313.3589, Y24071.0421) と STA636 + 60 (X120373.3561, Y24071.3164) を結ぶ線を基線とし、これに直交するラインで設定した。基線は真北方向を示し、磁北は $6^{\circ} 50'$ 西偏している。グリッドは10mメッシュを大グリッドとし、基線の東西方向を西から数字12…、南北方向を北からアルファベットABC…とした。また、大グリッドの中は、2mメッシュの25等分し、小グリッドとした。



第18図 グリッド設定図

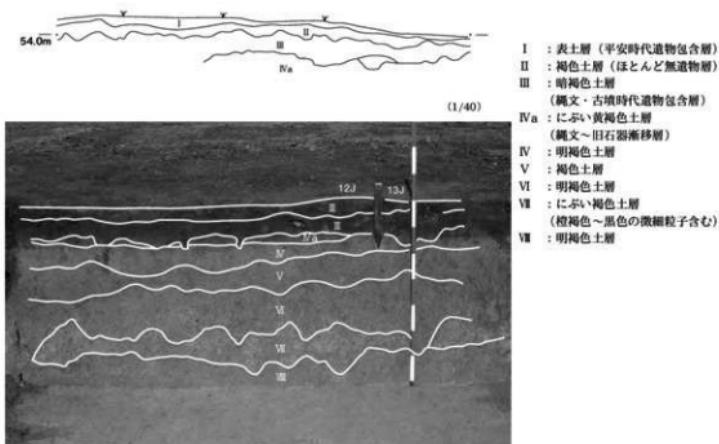
#### B 基本層序

当遺跡は、丘陵上にあることから、土層堆積も少なく、比較的浅い堆積状況を示している。基本層序は以下のとおりである（14L北壁東西ベルト、12J・13Jセクション写真）。

- I層：表土（腐植土層） 平安時代遺物包含。
  - II層：褐色土 炭化粒まばらに含む。ほとんど無遺物層。
  - III層：暗褐色土 炭化物をまばらに含む。古墳・縄文時代遺物包含層。
  - IVa層：にぶい黄褐色土 縄文～旧石器時代漸移層。
  - IV層：明褐色土
- なお、旧石器が確認されたことから、一部深掘りを行った結果、IV層以下は、次のようなである。
- V層：褐色土

- VI層：明褐色土  
 VII層：にぶい褐色土（橙褐色～黒色の微細粒子を含む）  
 VIII層：明褐色土

14L 1・2区北壁東西セクション図



第19図 基本土層断面図

## 2 遺構

### A 概要

確認された遺構は比較的少なく、各時代散発的である。縄文時代では、後期と考えられる竪穴住居跡1軒、陥穴、フラスコ状土坑等が確認されている。古代では平安時代の須恵器窯跡1基、ほか中世以降の溝等がある。なお、遺構番号については調査年度毎に重複して用いたため、ここでは遺構番号の頭に調査年度の95、96、97を付した。

### B 遺構各説

#### 1) 縄文時代

竪穴住居（95S11）（図版43・45・114）

16J区で検出された。丘陵のやや西側最高部に位置する。長径約2m、短径約1.5mの楕円形で確認面からの深さ12cmと浅い。断面形は皿状を呈する。長軸方向は北北西を指す。覆土は中央が黒色または灰黒色土層で周囲にいくほど褐色土が強まる。炉周辺には焼土が認められる。中央には石組の炉がある。平面形はほぼ正方形で、1辺約25cmである。石は5cm前後の割り石で、砂岩及び安山岩である。被熱している。柱穴は確認されていない。床面では、後期前葉の土器、球状土製品、土偶、小型磨製石斧などが出土している。

### フ拉斯コ状土坑

フ拉斯コ状土坑と認識したものは合計6基である。そのうち径1m以内、深さ0.5m前後の中形のものが5基、それ以上の大型のものが1基である。

#### 小フ拉斯コ状土坑（図版42・43・44・46・115・116）

97SK4 18L区に位置する。径約85cmの円形に近い。深さは約40cmである。現況で斜面西側は口部が広く立ち上がるが、東側はフ拉斯コ状に下部が膨らむ。出土遺物はない。

97SK8 同じく18L区に位置する。長径約1m、短径約70cmの楕円形を呈する。深さは約40cmである。覆土は黒褐色土。現況で斜面南側は口部が開くが、北側はフ拉斯コ状となる。出土遺物はない。

97SK9 18L区に位置する。長径約90cm、短径約70cmの楕円形を呈する。深さは約40cm。覆土は黒褐色土。現況では、斜面東側は口部が開くが、西側はフ拉斯コ状となる。出土遺物はない。

97SK12 18L区に位置する。径約0.8mの円形を呈する。深さは西側で約0.4m、東側で約0.15mとなる。山側（西）のみがフ拉斯コ状となる。出土遺物はない。

97SK117 13G区に1基单独で位置する。径約0.8mの円形で下部は径約0.9mとなる。深さは約0.5mである。覆土は黒褐色土。出土遺物はない。

#### 大フ拉斯コ状土坑（図版42・43・46・116）

97SK110 15I区に位置する。径約1.6mの円形。くびれ部で約1.4m、底部で約1.6mを測る。深さは1.1mである。覆土の堆積状況は、下部と上部で違いがある。下部は水平堆積しているのに対して、上部はそれを切るようにレンズ状堆積している。この堆積状況からすれば、いったん埋没した土坑を再び掘削したと考えることができる。覆土中からは、磨製石斧1点、磨石1点、縄文土器数点が出土している。

#### 一般的土坑（図版42・43・46・116・117）

96SK1 遺跡の北側斜面13Bに位置する小土坑である。長軸0.7m、短軸0.5mの不整形。深さは0.3mで断面形はU字状を呈する。覆土は暗い褐色土。出土遺物はない。

96SK2 調査区の一帯北側斜面11Bに位置する。長軸0.8m、短軸0.7mの不整形。深さは20cm程度と浅く、平らでない。覆土には炭片を含む。

97SK96 16Hに所在する不整形の土坑。長軸1.2m、短軸1.1m。断面は浅い皿状を呈し、中央深い部分で約0.3mとなる。覆土は黒及び黒褐色土で少量の炭化物を含む。中央部床面から約10cm浮いて、縄文土器底部が正立で出土した。

#### 陥穴（図版42・43・47・48・117～120）

規模により、二つに分類することができる。長さ、深さともに1m以内で底部断面形が丸みを持つ小さいもの（A類）と、長さ、深さともに1m以上で底部断面形が直角に角張る大きいもの（B類）である。大小各々が列をなす。

A類 95SK3・95SK4・95SK7・95SK8・95SK10の5基である。形状は円に近いが、やや楕円形である。95SK10は深さが60cmと一番浅く、ほか4基が直線状に並ぶのに対してややずれる。覆土は、IV層上の二次堆積が主体となる。95SK8では、下部から縄文土器片が出土しているが時期は不明。

B類 95SK2・95SK6・95SK5・97SK102・97SK98・97SK108・97SK109の7基がある。覆土の堆積状況は、95SK2・95SK6・95SK5がU字状に堆積しているのに対し、ほかはブロック状の不自然な堆積状況を示している。ほぼ直線状に並ぶ。ほぼコンタレベルに沿った並び方である。これに対し

てA類は、コンタレベルに直交する配置をとっている。97SK109を除いて出土遺物はない。97SK109では、上面で焼蹠がまとめて出土し、土器も2点含まれていた。土坑埋没後炉として利用したであろうか。

## 2) 古代以降

### 炭窯 (図版42・48・121)

2基確認されているが、時代は不明。

95SK11 3L区、調査区の最西端に1基のみ存在する。0.9×0.8mの隅円方形を呈し、断面形はフランコ状に下部が膨らむ。深さは0.3mと浅い。壁面は焼けしており、底部にはサクサクした硬化炭が10cmほど堆積する。

96SK3 11C区、調査区の北側に位置する。2×1.4mの不整形である。深さは0.4mで、北側が浅くなる。95SK11とは形態が異なる。最下部に10cmほど炭が堆積する。

### 竪穴住居 (図版42・44・50・121)

97SI10 19・20L・Mに位置する。方形の掘り込みから竪穴住居と判断した。斜面山側(北西側)で掘り込みを確認したが、反対側は認められない。1辺約4.4mを測り、深さは山側で約50cmである。覆土はしまりのない黒褐色土である。炉は明確でないが、中央付近で焼土が確認されている。柱穴も明確でない。覆土中より土師器が出土しているが、時期は明確でない。

### 土坑 (図版42・43・50・122)

95SK9 11・12K区に位置する。隅円長方形の土坑である。長軸2.15m、短軸0.7m、深さ50cmを測る。掘り込みはほぼ垂直である。覆土は、しまりの弱い褐色土を中心とする。出土遺物はない。

97SK111 15I区に位置する略円形の土坑である。直径約1.8m、深さ15cmで皿状を呈する。覆土はしまりなく、バサバサした褐色土である。出土遺物なく性格不明。

97SK137 11G区に位置する。長軸1.5m、短軸1.1mの隅円方形で深さは約40cmである。断面U字状で掘り込みは明確である。覆土は暗～黒褐色で全体に炭を多量に含む。焼土も若干含む。全体にしまりはなく、下部には炭片が認められる。出土遺物なく性格不明。

### 溝 (図版42～44・48・123)

96SD2 16K・L区に位置するL字状の溝。ほぼ東西南北に走る。溝幅約50cm、深さ20cmほどで浅い皿状を呈する。東西方向は調査区外に延びる。南北方向は約9m南で消滅する。覆土は暗褐色土でしまりはある。区画溝と考えられるが性格不明。

97SD18 16M区にある南北溝。北側は消滅するが、南側では調査区外に延びる。検出した長さ約4m、幅約70cm、深さ20cmほどで断面形皿状を呈する。覆土は明褐色土である。96SD2とは、規模、覆土に違いがある。出土遺物はない。性格不明。

97SD13 20～24LM区東西に現道に沿うように走る溝である。長さ約40mにわたって検出した。幅50～60cm、深さ25cmのU字状を呈する。覆土にはしまりがない。出土遺物はなく、時期、性格とも不明。

### 須恵器窯 (97SK17) (図版42・44・49・50・124～126)

南向き斜面の中腹。標高45～47mに構築された登窯である。下半部は後世の道路掘削のため窓壁等ではなく、底面のみ遺存していた。確認されたのは主体部分の燃焼部、焼成部である。窓上方に設けられる排水溝は確認されずまた、焚口は道の掘削で削平され、前庭部・灰原も削平されたか、あるいは法線外に

延びているものと考えられる。

遺存する部分の全長は7.05m、焼成部最大幅1.38m、燃焼部最大幅1.28mを測る。主軸はN45°Wを示す。燃焼部底面は約10°で南側焚口方向に傾斜している。焼成部は約23°で立ち上がっている。煙突部分は最上部で、当初土坑として調査していた部分であろう。明確に確認できる焼成面は1面のみである。

**燃焼部 窯室の中で最も良く焼けており、底面の粘土層は還元され、ガリガリに硬化している。焼成部との境は、傾斜角の変換するセクションC付近と思われる。**

**焼成部 セクションC付近より上部である。上半部では厚さ5~10cmの整地層が認められる。焼成部の焼土は、上部ほど少なくなっている。比較的しっかりした産みが3か所認められるほか、礫が65点出土している。また燃焼部も合わせて全面に甕の破片が認められた。これらの破片は酸化焰焼成し、二次被熱の痕跡も認められることから、甕と合わせて、焼台として用いられた可能性がある。**

**側壁 東側で特に良好に残存する。掘削の際に使用された工具痕が筋状に残存する部分もある。天井部(3層) ブロックには、スサを含んだものが認められる。**

**焼成遺物 焼台のほかは、杯1個体のみである。**

### 3 遺 物

出土遺物は、旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・中世各時代のものが出土しているが、主体を占めるのは縄文時代早期・中期である。出土遺物は全体で浅箱26箱である。

#### A 旧石器時代（図版67－854～856）

旧石器時代と思われる石器も数点認められる。854はナイフ形石器である。すでに、上越市史〔沢田2003〕に紹介されていることから以下に引用する。「末端の尖った剥片を素材として基部側の両側縁に加工が加えられている。基部正面は全面が加工におおわれ、裏面は縁辺のみに加工が見られる。石材は無斑晶質安山岩である。石器の形態はいわゆるベン先形ナイフ形石器に類似しており、後期旧石器時代の古い段階からAT降灰直後頃のどこかに位置づけられると思われる。」855は石刃、856は石核である。いずれも珪質岩または凝灰岩で、剥片も24点ほどある。確定な旧石器時代の判断は難しいが、855が縱長の剥片であること、当遺跡でこの石材が縄文時代の石器に用いられていないこと、隣接丘陵の蛇谷遺跡で同石質の旧石器時代遺物が多量に出土していること等から旧石器時代に属するものと考えた。855は断面三角形の縱長剥片で、調整は右側縁に一部あるのみである。856は石核。

#### B 縄 文 時 代

##### 1) 土 器

###### a 分 類（第8表）

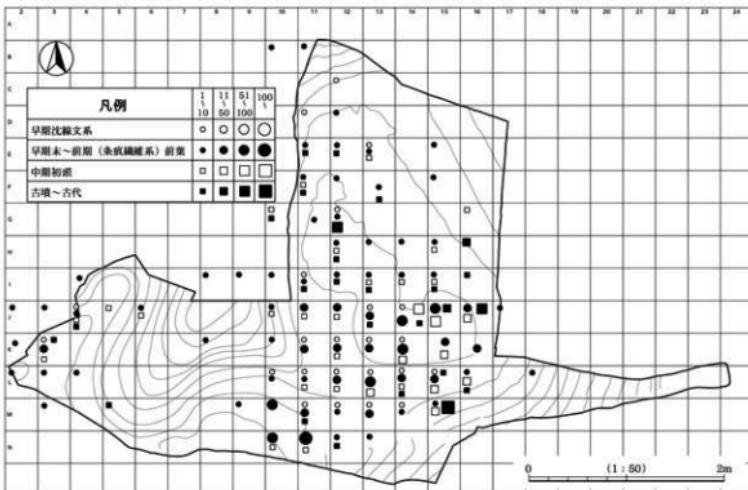
土器は早期・前期・中期・後期がある。早期はI類－無文土器、II類－押型文文系土器、III類－沈線文系土器、IV類－一条痕文（縞条体压痕文）系土器に分類される。沈線文系は、文様区画や貝殻腹縁文の在り方などでa～e類、条痕文系土器は施文工具などでa～d類に分類した。前期は、繊維を含む胎土で前期前半である。中期は、いわゆる新保系の土器で前期末の朝日下層式を含む。全体の器形、文様構成を窺える資料がほとんどないため、細分は行わない。中期後半、後期は断片資料である。

	I	無文土器			
	II	押型文土器	a 山形 b 椎円		
早期	III	沈線文	a 波状口縁が認められる。直曲線による幅広の区画。広い区内に間隔を置いた貝殻刺突 b 間隔の狭い2本沈線による横断区画。区内に貝殻沈線 c 間隔の狭い2本沈線による横断区画。区内に貝殻沈線区画 d 横沈線区画を主文様とし、波状文が加わる。沈線間に、刻みが付される e 橫平行沈線、沈線間にラ刻み（貝殻刺突の可能性あり）		
	IV	条痕文（絡条体圧痕）	a 格子目沈線を用いるもの b ハの字状の刺突を用いるもの c 繞条体圧痕を用いるもの d 条痕・無文		
	前期		羽状沈文・胎土織維		
	中期	初頭	朝日下層・新保		
		中葉			
後期	後葉				
	中葉				

第8表 純文土器分類表

## b 分 布 (第20図)

土器の分布を見ると、各時代ともおよそ尾根部分に分布していることがわかる。早期沈線文系は11～14J～Mに集中域があり比較的狭い分布域を示す。早期末～前期前葉にかけての条痕・織維系土器は10～16H～Nに集中域があり、より広い分布を示す。数量的にも多い。中期初頭は、13～16I～Lで狭い分布である。このように純文土器ではいずれの時代も尾根に沿った分布を示し、時期別特徴はない。ちなみに古墳～古代の土器は12G・15J・16J・15Mに集中がありブロック状の分布を示し、純文土器とは異なる在り方を示す。



第20図 時期別出土土器分布図

## C 遺構出土 (図版51-401~418)

## 95SK2 (401・402)

早期沈線文系と思われる。401は横沈線が2本走る。

## 95SK7 (403~405)

やはり早期沈線文系土器である。403はa類で幅広の沈線間に貝殻腹縁文を充填する。404は細い沈線。405は無文である。

## 95SK8 (406~411)

早期沈線文系土器である。406はやや太目の沈線で、口縁部には刻みが施される。407は細いクランク沈線。408・409はIII a類である。410は細い縱横沈線。411は横沈線である。

## 95SK9 (412)

早期沈線文系a類である。

## 97SK131 (413)

早期条痕文系土器である。細かい絡条体圧痕が認められる。

## 97SK110 (414・415)

中期初頭細集合竹管系土器である。414は口縁部破片。口縁断面三角形で口唇部に斜行連続竹管沈線を廻らす。外端部には燃条圧痕。415くの字状竹管沈線。

## 96SD2 (416)

中期初頭。竹管集合沈線による横及びV字状区画。

## 95SI1 (417)

豎穴住居出土の鉢である。口縁部沈線区画により無文帯とし、以下縄文RL。

## 97SK96 (418)

土坑中央に正立で出土。被熱により内外面はでる。時期は明確でないが、後期であろうか。

## d 包含層出土 (図版51-419~図版56-646)

## 早 期

I類 (419) 無文土器と考えられるが、口縁部の形状から早期と判断される。尖底になると考えられる。

II類 (420~423) 押型文土器である。山形 (a類) と楕円 (b類) がある。420・421は山形であるが、施文単位は明確でない。胎土に纖維を含む。422・423は楕円である。422は口縁部で端部外反が少ない。やはり単位は明確でない。胎土に纖維を含む。

IIIa類 (424~441) 波状口縁または平口縁で、沈線と貝殻腹縁文の組み合わせである。平行する沈線は少なく、曲線を描くものが多い。貝殻腹縁文は間隔をあけて施し、単位が長いものが多い。口唇部にも施される。427には円形刺突がある。胎土に纖維はほとんど認められない。

IIIb類 (442~461) 比較的幅の狭い2本沈線で、縱横区画を行い、その中に貝殻腹縁文を充填するものである。施文原体の長さは短い。胎土内の纖維はほとんど認められない。442は薄手である。

IIIc類 (462~468) やや厚手の波状口縁で胎土が灰色に近く、纖維を含む。III類の中で纖維を含むものはこの類のみである。間隔の狭い沈線を斜め、横、縱に配し、沈線内に貝殻腹縁文を充填する。特徴的である。

**III d類 (472~483)** 間隔の狭い平行沈線に波状文が加わるものである。477・481~483には、細かい刻みが充填される。477~483は胎土が類似し、同一個体の可能性がある。

**III e類 (469~471)** 横の平行沈線で区画し、その中をヘラ状工具による刻み（貝殻の可能性もあり）で充填するものである。胎土に繊維は含まない。

**IV a類 (484)** IV類は、いわゆる条痕文系土器である。厚手で繊維を含む。a類の484は上半部の破片で格子状の沈線文様。

**IV b類 (485~494)** ハの字状の刺突を用いるものである。このうち485~487は刺突が小さく、胎土がa類に類似することから、同一個体の可能性がある。胎土内に石英粒が顕著である。488~498も胎土に類似性があることから同一個体の可能性がある。491は口縁部破片。口縁に沿って、横ハの字状に刺突が廻る。490・493は縱長添付隆帯が認められる。498は尖底部。内外面に条痕文が認められるものがある。

**IV c類 (503~506)** 緒状体圧痕を有する土器である。503・504は口縁部破片。503は不規則に圧痕されるが、原体は不明。504はハの字状に圧痕される。原体は明確でない。505は横隆帶上及び両脇に圧痕される。506は太い横隆帶上に横に圧痕し、眼鏡状としている。

**IV d類 (495~502・507~512)** 495~498は、b類の下半部と思われる。内外面条痕が認められる。502は尖底部。胎土に多量の白色粒を含む。509は縱長隆帯が添付される。いずれも胎土内に多くの繊維を含む。

#### 前期 (513~530)

513~515は同一個体である。胸部にやや膨らみを持ち、口縁が緩く外反する。上半部に隆帯が廻る。隆帶に沿っては角押の連続刺突が廻り、下部に向って直線でおりる。隆帶上から口縁部は羽状縄文と思われる。516は表裏縄文。517・518・520・521は同一個体と思われる。口縁外側に連続角押刺突が廻る。519は口唇部に刻みが施される。522は円形刺突に見えるが、剥落と判断される。523は胎土に繊維を含まない。鋸歯状連続沈線が3段廻る。524は隆帶に沿って、連続角押刺突が廻る。525は結節回転文である。526~530は縄文のみである。527は尖底になるであろうか。

#### 中期初頭 (531~608)

細片が多く全体器形を窺えるものはないが、口縁がキャリバー状に聞くもの（531~538）、口縁が直線的に聞くもの（552~556）が認められる。口縁部文様としては、斜行右下り集合竹管沈線（533・536・538・544・550・556・560等）、ヘラ状沈線を加える格子目文（531・549・553・554・555等）、ハの字状沈線（543・551等）がある。特殊な突起もある（542・545・546・547・557）。これらには竹管円形刺突が加えられる。ヘラ沈線でなく、細い粘土組で格子目文様を表現するものが認められる（532・535・548・576・577）。このうち532・548では下部に縦に細い粘土組が添付される。また、548・576・577では隆帶状に細かい爪形文が認められる。口唇部の多くは、斜行、格子、ハの字である。569~571は胸部上半で、細い竹管沈線が縦に間隔をおいて施される。胸下部では、563・583のように、Y字状の区画もある。縄文では、綾縄文（594・595）、木目状撚糸文（598~605）がある。

606~608は底部である。隆帶及び横区画があることから、中期前葉に降る可能性がある。

#### 中期後葉 (609~613)

609・610は縦沈線と無文帶である。611~613は同一個体。縦隆帯が垂下する。

## 後 期 (616~618)

後期と思われる。617は区画内無文で、ミガキを加える。

## その他の縄文土器 (614・615・619~631)

縄文土器であるが、時期の明確でないもの。614・616は隆帶の貼り付けである。中期と考えられる。619~622は口縁無文帯である。やはり中期であろうか。

## 時期不明土器 (632~646)

時期の明確でないものである。632~634は沈線による文様である。632は口縁部。端部張り付隆帶に横ハの字沈線が廻る。633は頸部であろうか。635は大きく開く口縁部。口縁内側が少し窪む。外側には、弧状の集合沈線がある。636も類似の土器である。637はクランク状の沈線区画。壺頸部と考えられる。弥生土器の信州栗林系土器に類似する。638・639は柳状工具による平行沈線が認められる。640~643は同一個体である。細い竹管状沈線で文様を描く。644~646も類似する。644はハの字状竹管沈線である。

## 2) 土 製 品 (図版57~647・648)

いずれも95SI1の出土。647は小形の土偶である。高さ7cm、幅6cm、厚さ2.8cmを測る。頭・腕・脚・足の接合部で剥離する。腹部に膨らみを持つ。頭は、目・耳ともに左右対称でない。裏から見ると、耳の表現も認められる。648は球状土製品。長さ10.1cm、中央最大径5cm、中央を貫通する穴径1cm。形状は略円筒形である。中央に最大径があり、両端に向ってややすぼまり、端部が括れを持ち、再び少しひらむ。文様は沈線により横区画し、数本の沈線束で斜・弧状文様を充填する。タール状のものが一部付着する。

## 3) 石 器 (図版57~650~図版67~853)

石器は、剥片・チップを含め約400点出土した。このうち遺構から出土したものは少数で、ほかは包含層出土である。出土土器等から、石器は旧石器・縄文早期・前期・中期・後期に当たると考えられるが、個々石器の時期判断が難しいため、器種ごとに一括して報告する。出土土器量・遺構から見れば、縄文早期・中期当たりの石器が多いと予想される。第9表に出土石器の組成を表した。これによると、磨石類が33%と圧倒的に多い。次いで磨製石斧、特殊磨石、不定形石器、石錘、石鎌と続く。また、石材は第10表のとおりである。

## a 石 鎌 (650~660)

未完成を合わせて11点出土している。以下のように分類した。

## ・分 類

A類 基部が凹状で、中茎が無いもの (650~654) である。このうち650は基部凹部が明瞭であるが、ほかは凹部が明瞭でなくB類に近く、650に比べて小さい。

B類 基部が平らで三角形状を呈するもの (655~658) である。いずれもきれいな二等辺三角形を呈さ

	実測 個体数	未実測	合計	比率
石鎌	11	0	11	0.05
先史器	1	0	1	0.00
両極石器	6	0	6	0.03
石鑿	2	0	2	0.01
不定形石器	19	0	19	0.09
打製石斧	4	0	4	0.02
磨製石斧	32	0	32	0.15
石錘	18	0	18	0.08
磨石類	69	1	70	0.33
特殊磨石	24	0	24	0.11
石皿	3	0	3	0.01
砥石	11	10	21	0.10
台石	3	0	3	0.01
敲石	1	0	1	0.00
合計	204	11	215	1.00

第9表 出土石器組成表

	実測 標本 件数	未 充 満	合 計	黑 曜 石	珪 質 片	真 岩	凝 灰 岩	無 斑 晶 質 安 山 岩	チャ ート	安 山 岩	砂 岩	珪 化 岩	玉 髓	白 色 乾 燥 岩	蛇 紋 岩	碧 玉	珪 質 真 岩	玄 武 岩	流 紋 岩	ハ ン レ イ 岩	合 計
石錐	11	0	11	5	2	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
先尖端	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
両極石器	6	0	6	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
石匙	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
不定形石器	19	0	19	0	1	0	0	9	0	5	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	19
石核(旧)	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
剥片	0	186	186	38	24	6	4	81	9	4	6	9	1	0	2	2	0	0	0	0	186
打製石斧	4	0	4	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
磨製石斧	32	0	32	0	0	1	2	0	0	3	0	1	0	0	20	1	0	0	1	0	32
石錐	18	0	18	0	0	0	4	0	0	8	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
磨石類	69	1	70	0	0	0	7	0	0	42	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170
特殊磨石	24	0	24	0	0	0	1	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
石錐	3	0	3	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
砥石	11	10	21	0	0	0	0	0	0	1	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
台石	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
石刀(旧)	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ナイフ(旧)	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
砾石	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	207	197	404	43	29	7	21	96	15	88	57	10	1	21	3	2	4	2	1	4	404

第10表 石材別石器組成表

す、また主要剥離面を残すものが多い。

C類 基部が凹状で、中茎を有するもので1点(659)の出土である。側縁が緩く湾曲し、優美な対称形をなす。主要剥離面を残す。

#### ・分 布

集中して分布することなく、尾根頂部に散在する。

#### b 尖頭器(661)

1点のみの出土である。先端部のみで、ほかを欠損する。石質は無斑晶質安山岩。15J出土。

#### c 石 鋏(662・663)

つまみ状の突起を一端につけ、刃部を持つものである。2点の出土があり、いずれも刃部が横に長いものである。662は薄い剥片を利用しており、つまみ部は左上に来る。縦長剥片の側面を刃部とする。つまみ部基部裏面から軽い抉りを作り出す。つまみ部も扁平である。95S1付近で出土。663は縦長剥片の側面を刃部とする。刃部反対側の側面裏側にも調整が加えられる。つまみ部は、右側にある。基部片側に大きく抉りを作り出しているが片側には認められず、定型的なつまみとなっていない。

#### d 不定形石器(664～682)

19点と割合多く出土している。分類基準は〔高橋保雄1992〕に従った。

#### ・分 類

A類 中型スクレイパーで刃部外湾状となるもの(664～667)である。4点出土しているうち3点が無斑晶質安山岩で、1点は珪質真岩である。664・665・667は縦長剥片の側縁に刃部を持つ。666は縦

長剥片で、刃部の剥離は粗い。

**B類** 小型スクレイパーで、刃部外湾状となるもの（668～673）である。A類と同様縦長剥片の側縁に刃部を持つものと、横長剥片の側縁に刃部を持つものがある。全て裏面にも調整が入る。671は尖頭状で、側縁に粗い剥離が入る。672は、円形状に近い。

**D類** 鋭利な先端部を持つもの（674・675）である。横長剥片の一端にのみ調整を加え、尖頭状としている。

**F類** 小型で不連続剥離を持つもの（676）である。

**H類** 背面に自然面を持ち、無加工のもの（678～682）である。小形の自然円礫を横剥ぎしたものである。

**K類** 両面加工である（677）。大きな剥離調整で、側面は波状となる。

#### ・分 布

集中することではなく、尾根頂部に散在する。

#### e 両 極 石 器 (683～688)

両端に刃部を持つものである。6点の出土がある。石錐と類似の形態を取るが、使用目的でなく、使用結果として現れた剥離痕を持つ物を両極石器と考えた。いずれも小形で長さ6cm以内である。剥離は、両端とも片面のもの（683）、両端とも両面のもの（684）、片面と両面の組み合わせ（685～688）がある。石質はチャート、砂岩、凝灰岩である。散在して分布する。

#### f 打 製 石 斧 (689～692)

4点と少ない。〔高橋保雄1993〕分類にあわせると、B類の689（片面加工、浅角度剥離）、D類の690・691（両面加工、浅角度剥離）、F類の692（石錐に近似するもの）がある。692が珪質頁岩のほか、3点が無斑晶質安山岩である。

#### g 石 錐 (693～710)

扁平な自然転石で、両端に抉りのあるものを石錐としたため、用途は同じとは言えない。18点出土している。長さは5～8cm、重さ50～100gが圧倒的に多い。710のように厚味があり、断面球体形状を持つものもある。693は極端に小形で重さ10gに過ぎない。石質は砂岩、安山岩、凝灰岩である。ほとんどの両端、両面に剥離が認められるが、700のように片面のみのものもある。694では側面にタタキ、708では側面にタタキ、磨りが認められる。

#### h 磨 製 石 斧 (711～742)

32点と多く出土している。

#### ・分 類

**A類** 定角式磨製石斧である。正裏面と側面に稜を持ち、基部断面形が長方形または隅円長方形を呈する。7点出土している（711～717）。石質は、白色蛇紋岩、ハンレイ岩、凝灰岩である。711はほかのA類と比べるとやや対称性に欠ける。側面は自然面を残しているように見える。712～717は使用による破損と考えられる。

**B類** 両側面に明確な稜を持たない。全面に磨きが及ばない。表裏面で磨きの稜線が複数残るものである。24点と多く出土している(718~725・727~742)。このうち15点が白色蛇紋岩で、ほかは玄武岩、安山岩、凝灰岩、珪化岩、ハンレイ岩がある。718は大きさ、重量ともにほかを圧倒する。形状は短冊形であるが、基部の方が大きく、重い。側面は緩い湾曲を示し、中央での断面は台形様を示す。719は細長く片刃で断面かまぼこ状を示す。裏面は刃部側1/4が磨かれている。722も断面かまぼこ状。720・721は扁平な細長い自然縞を利用して、成品としているもので、形状は非対称である。いずれも刃部は尖る。723~727は、長さ約10cm以上の大型品である。723は短冊型で、まだ全面に剥離痕が残り、未成品と考えられる。一部磨きが認められるが、刃部も付けられていない。724・725・727は両端に丸みを持つ形状。全面に磨きが及ばず、剥離面が多く残る。刃部はいずれも尖るが、725・727は断面薄く、扁平である。724は断面や丸みを持つ。長軸に沿って斜めに擦切り痕がある。728~733は中型である。いずれも部分的に剥離痕が残る。特に側縁部は磨き調整がない。全て扁平で、刃部は比較的平ら。片刃状を呈するものが多い。734~737は小型。734は側面に少し湾曲を持つ。片面に深い剥離痕を大きく残す。735は左右対称形をとる。きれいな片刃であるが刃の側面は直線でない。刃部使用による剥離が認められる。737は先端の丸い刃部である。736は95S11出土。出土土器から縄文後期と考えられる。小形で、刃部は直線となる。739・740は刃部のみである。741のみ形状が異なる。きれいな側面を持ち、断面表面はやや丸みを持ち、裏面は直線で、面全体が平らできれいに磨かれている。刃部は両刃状で、特に裏面がきれいな稜を持って刃部に至っている。表面は緩やかに刃部に至る。刃部には使用による欠けや摩耗が認められる。742は磨きのあるものとして、一応磨製石斧に含めた。横剥ぎの扁平剥片を両面磨いているが、磨きの及ばない部分が多くある。基部は細く、刃部は広く丸みを持つ。頁岩。

**C類** いわゆる局部磨製石斧状を呈す(726)。1点のみの出土。中央にやや膨らみを持ち、刃部側面はやや上向きに湾曲する。磨きは刃部付近のみである。

#### ・分 布

やはり集中ではなく、散在する。

#### i 磨 石 類 (743~810)

68点と最も多く出土している。分類は[高橋保雄 1992]によった。

#### ・分 類

**A類** 磨痕のみ(743~747・812)。4点と少ない。845は大きいがこの類に含めた。石材は安山岩、凝灰岩、ハンレイ岩がある。812も適当ではないが一応ここに含めておく。両面に磨痕があり、両端から剥離が加えられている。

**B類** 磨痕+凹痕(748~758)。11点出土している。安山岩が多く、ほかに凝灰岩、砂岩がある。円形の扁平縞を用いたものに748~752がある。凹が両面にくるもの(748・759)、片面のみのもの(750・751)、側面にも凹がくるもの(752)がある。磨痕は表裏側面いずれかに認められる。細長い自然縞を用いたものに753~756がある。凹が両面にくるものは754のみでほか3点は片面。磨痕は表裏側面。757・758は砂岩の板状素材を用いている。表裏面に凹痕がある。

**C類** 磨痕+敲打痕(759)。1点のみの出土である。側面に一部敲痕がある。

**D類** 磨痕+凹痕+敲打痕(760~764)。5点出土している。砂岩と安山岩である。760・761は細長

い自然縁。両面に凹痕。側面に敲打痕がある。762・763は円縁。762は両面、763は片面凹痕である。764は角柱状の素材を用いている。全面利用している。

**E類 凹痕 (765~796)。** 32点と最も多く出土している。安山岩、凝灰岩、砂岩である。765~772が円形に近い素材を利用している。全て両面に凹痕を有する。773~793は細長い素材。多くは両面に凹痕があるが、素材が長くなるほど連続した凹数は多くなる傾向がある。785・786は側面にも凹痕を有する。792は、大きい素材の破片で、当類に分類するのは不適当かもしれない。794~976は砂岩の板状素材を用いている。形状はまちまち。

**F類 凹痕+敲打痕 (797~807)。** 11点出土している。砂岩が多く、ほかは安山岩である。細長い素材を利用しているものが多い。基本的には表裏面に凹痕であるが、801~803のように側面にも凹痕があるものもある。敲打痕は表裏面、側面のほか、804~806のように端部に敲打痕の認められるものもある。

**G類 敲打痕 (808~810)。** 3点の出土である。810は両端部に敲打痕を認める。

#### ・分 布

分布は、ほかの石器と同様、尾根の一一番高位コンタに沿った地点に集中する（15Lから北西方向12Fにかけて）。また、離れて一番西側の2~4J~K付近にも集中域がある。

#### j 敲 石 (811)

1点のみである。白色蛇紋岩で、端部に敲痕を認める。

#### k 特 殊 磨 石 (813~836)

「三角形・四角柱・楕円形などの河原石（転石）を素材とし、その稜の部分に細長い機能面を有するもの」[北村1990]である。分類は[北村1990；土橋2003]によった。

#### ・分 類

**A類 稜線上の磨面のもののもの (813~820)。** 813・815は断面楕円形であるが、ほかは三角形状の素材である。818は稜2面に磨痕があるが、ほかは一面である。1点を除いて全て安山岩。

**B類 稜上の磨面のほかに磨面があるもの (821~829)。** 全て安山岩。細長い素材で、長軸複数面の磨面を有する。822のように全周するものもある。また821のように両端部にも磨面を持つものがある。

**D類 稜上の磨面のほかに、磨面・端部の敲打痕があるもの (830~832)。** いずれも片面端部に敲打痕がある。全て安山岩。

**E類 稜上の磨面のほかに、凹痕があるもの (833)。** 磨面は小さい。

**F類 稜上の磨面のほかに、凹痕・磨面があるもの (834)。** 凹痕は小さい。

**G類 稜上の磨面のほかに、凹痕・端部の敲打痕があるもの (835)。**

**H類 稜上の磨面のほかに、凹痕・磨面・端部の敲打痕があるもの (836)。**

#### ・分 布

ほかの石器と同様に、尾根頂上部分布する。また、西側3K区にも2点ほどある。

#### l 石 盆 (837~839)

定型的なものはない。837は丸い扁平縁で両面に磨痕がある。838は95SI1（純文後期）出土。片面砥石状、片面石皿状であるが一応石皿に入れた。両面とも使用面は凹み、片面には筋状に稜が認められる。

被熱している。839は摩耗していて、磨面は明確でない。

#### m 台 石 (840~842)

凹や敵が認められるが、手持ちで使用しにくいと思われるものを台石とした。いずれも砂岩である。840・841では敵痕、842では凹痕がある。

#### n 磨 石 (843~853)

853を除いて全て砂岩である。破片化したものが多く、元形状をとどめない。843~845は滑らかな磨面を持つ。848~852は磨面に筋がある。筋断面は、銳角状の鋭さではなく、どちらかと言えば丸みを持つ。853は838に類似し、片面には緩い稜線が認められる。同じく95SI1出土。

### C 古墳時代

#### 1) 遺構出土 (図版68~857~859)

##### 97SI10 (857~858)

ほとんど出土遺物がない。いずれも甕の破片。857は口縁部。くの字状に外反する。ヨコナデは顕著でなく、厚手である。858はハケ調整。後期くらいであろう。

##### 97SK11 (859)

甕である。内面ハケ調整。

#### 2) 包含層出土 (図版68~860~875)

860は、甕または壺の底部で、小さい。861は高杯であろうか。862・863も甕または壺の底部。底部ケズリ調整。これらは、中期に入る可能性がある。864~870は甕である。864~866は口縁くの字状に開き、ヨコナデ。867は口縁開き小さい。869・870は底部。864・869は底部やや崖み。872・873は瓶。872は多孔底になると考えられる。873は把手。871は、直線的に開く口縁で、ハケ調整。瓶の上半部の可能性がある。874・875は内黒高环。

### D 古 代 (図版68~876~図版70~909)

#### 1) 包 含 層 (図版68~876~図版69~891)

##### 須恵器 (876~887・889~890)

876~878は杯。876は薄手の底部でヘラ切り。877は底部ヘラ切りで丸みがある。878は糸切り。879・880は有台杯。いずれもヘラ切り。881~883は蓋。881は内面に丸みを持つ。884~886が長頸甕。885は肩に稜を持つ。887は広口甕。888は灰釉壺頸部。889は甕。口縁部で開きは大きくな。波状文が2段廻る。

##### 土師器 (890・891)

890は糸切りの杯。891は、潰れた状態で出土した。口縁の開きは少ない。上部カキメ。下半部タタキ。

#### 2) 97SK17 (須恵器窯跡) (図版69~898~図版70~909)

全て甕破片で、焼台として使用したものと考えられる。898~900(図版50、須恵器甕A)は同一個体

で青灰色。901～909（図版50、須恵器甕B）が同一個体で、酸化により茶化している。特に901～909では、焼台として使用した時にできたと考えられる黒斑が多く認められる。

### E 中 世（図版69～892～897）

892は壺R種。頸部直立し、口縁の開きは小さい。893・894は壺T種。893は口縁部外反大きい。895・896は甕。895は口縁が小さい。897は搾り鉢である。

## 4 ま と め

### A 遺 構

大塚遺跡で検出された遺構は、縄文時代早期～前期、中期、後期、古墳時代後期、平安時代、近世以降と多期に渡る。しかし、各時期とも多くの遺構が存在するわけではなく、集落を形成したことはなかった。縄文早期～前期の遺構としては、いわゆる陥穴がある。遺構の頭で述べたように、小型のA類と、やや大型のB類とがあり、A類は斜面に直交するラインで並び、B類はコンタに沿った平坦な並びを見せる。形状はいずれも井戸状に垂直断面を示す。新潟県内の陥穴状遺構は、[田海1999]によれば、A～Fの6類に分類されている。当遺跡の遺構はC類に分類される。この上越方面においても上信越自動車道の建設に伴う丘陵上の発掘調査が進展するにしたがい、陥穴状遺構の検出例も増加している。陥穴全体の中で、C類は類例が少なく、上越方面では糸魚川市原山遺跡〔寺崎1988〕、妙高高原町仲ノ沢遺跡、新井市萩清水遺跡等で検出されている。この遺構は通常列をなすのが一般的で、大きさや形状、設置場所・条件は、狩猟対象物によって異なっていたと考えられる。遺構の時期（早期）の遺物も比較的認められることから、狩猟サイト的性格の遺跡であり、住居を伴う居住地は別に構えていたであろう。

中期初頭も一定量の土器出土を見たが、明確な遺構は存在しない。

後期中葉の遺構として小型の竪穴住居1軒がある。やや細長い精円形を呈し、柱穴はない。規模は4×3mと一般的である。中央の石圓炉の形状は方形に近い。当該期の炉は地床炉か円形の石圓炉が一般的で、方形は少ない。上越方面では、妙高高原町兼保遺跡、中郷村龍峰遺跡に後期の住居跡が検出されているが、いずれも地床炉か円形石圓炉である。また、新潟県内においても後期になると円形炉が多数を占める。後期前半には方形炉も残ることから、その最終段階の炉と言える。

プラスコ状土坑は、時期が明確でない。小形は4基西側斜面にまとまって存在する。大形は97SK1101基のみであるが、SK111もその可能性がある。これは北側斜面にある。いずれも中央頂部の周囲に位置する。後期のS11居住者に対応するものかもしれない。

古墳時代の遺構としては竪穴住居97SI10がある。斜面地に1軒のみの確認で、性格は明確でない。

古代の須恵器窯SK17は調査区内で1基のみの確認である。出土した須恵器は焼台として使用したと考えられる須恵器甕破片2個体分のみで、焼成不良品等は一切ない。削平のため下部の灰原部分が残存していないためかもしれない。壁面からは1回の焼成が確認され、また焼台として使用した須恵器甕には、焼成時に遺物をおいた部分の黒ずみが認められることから、少なくとも1回は焼成を行ったと考えられる。斜面地の調査が行われていないが、数基の存在も予想される。このように当遺跡はいずれの時代も居住地としての性格を持つものでなく、狩猟・生産・キャンプサイト的なものである。

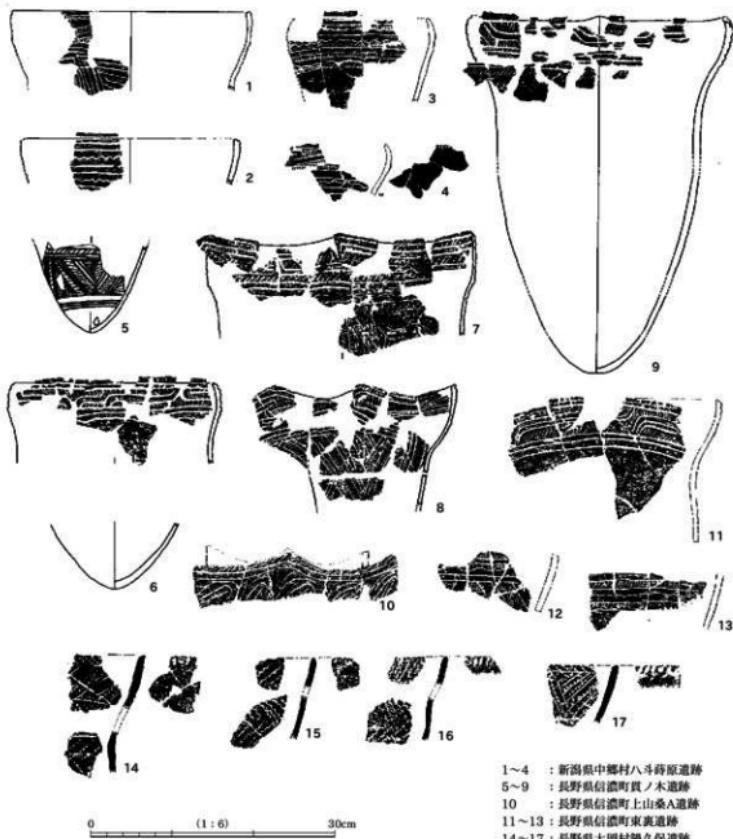
## B 遺 器 物

## 1) 土 器

## a 縄文時代早・前期

上越地方における当該期の遺跡は、上信越道や国道バイパス関連の発掘調査によって近年増加し、次第にその様相が明らかになりつつある。早期の土器は、大きく撫糸文系（表裏縄文含む）土器→押型文系土器→沈線文系土器→条痕文（結条体压痕）系土器の変遷をたどる。

I類とした無文土器は胎土・口縁部形態から早期と考えられる。口縁端部が緩く外反する器形は押型文土器以降にはあまり認められず、前段階の撫糸文系土器の流れを汲むものと判断される。



第21図 周辺の沈線文系土器

II類の押型文土器も4点の出土しかない。全て縦縫を含んでおり、山形・楕円を密に施していることから押型文土器3期終わりの卯ノ木第II類型〔小熊1997a・2004〕に当たるであろう。上越方面では、八斗蒔原遺跡〔坂上2004〕、松ヶ峯No202〔小島1991〕・No237〔小島1993〕等で出土している。

III類としたものが一番多く出土している沈線文系土器であり、ほとんどに貝殻刺突が付加される。中郷村八斗蒔原遺跡にも良好な資料があり、そのうちC類に当たる。全体の器形、文様構成は判然としないが、口縁部は内湾ぎみに開くのが多い。この類は最近長野県でも資料が増加し、特に新潟県境に近い長野県上水内郡信濃町貫ノ木遺跡〔中島1998〕では、全体器形・文様構成のわかる資料が出土している。それによれば口縁は内湾ぎみに開き、底部尖底となる。口縁は平口縁と波状口縁がある。また文様は上半部のみで、下部が無文になるものと、同下半にまで文様の及ぶものとがある。当遺跡出土III類は、これらとの類似性が強い。また、同町東裏遺跡東裏団地地点〔中村2004b〕、上山桑A遺跡〔中村2004a〕や関東地方の群馬県前橋市柳久保遺跡〔笠懸野岩宿文化資料館2004〕においても類似の土器が知られる。いわゆる田戸上層式と呼ばれる段階であり広範囲に分布している。

IIIa類としたもののうち、424は八斗蒔原遺跡C3類に当たり、長野県で貫ノ木段階に後続するされる新水B遺跡〔福島1981〕、鍋久保遺跡〔笠澤ほか1976〕に類似する。425・426は大きな波状となるもので、周辺地域では小波状口縁はあるもののあまり見られず、むしろ東北地方に求めることができる。また、口縁に沿った沈線が認められず、直接口縁端部から文様（沈線・貝殻刺突）が始まる文様構成は類例が少なく、先述の鍋久保遺跡や新水B遺跡、遠く福島県常世遺跡〔芳賀1975〕等で確認することができる。領塚正浩は、常世I式関連資料（並行型式）として、新水B・鍋久保両遺跡を挙げ、田戸上層式の新しい段階に並行すると見解を示している〔領塚1999・2005〕。

IIIb類としたものは縦横区画で直線的文様構成である。この類は八斗蒔原遺跡、貫ノ木遺跡、柳久保遺跡で広く知られる。糸魚川市原山遺跡（未発表）、上川村北野遺跡〔荒谷2003〕でも認められる。461のようなハの字状刺突は東裏遺跡にある。IIIc類とした462～468は、表面が灰褐色で縦縫を含みほかと異なる胎土を持つ。波状口縁で胴部上半斜平行沈線の区画で、貫ノ木遺跡出土土器に類似する。

III類も破片資料であり、器形・文様構成とともに明らかでなく、一部文様の類似性の説明にとどまらざるを得ない。このIII類を細分する材料は持っていない。

## II・III類を八斗蒔原遺跡と比較すると、次のようになる。

①八斗蒔原遺跡には押型文土器卯ノ木第I類型、太い沈線を用いる田戸下層式があるが、大塚遺跡では認められない。

②押型文土器卯ノ木第II類型（大塚II類）は両遺跡に存在する。

③八斗蒔原遺跡C3類、D類が大塚遺跡ではほとんど認められない。この3点から、八斗蒔原A・B類とC1・2類とD類とは時期的な変遷であることが裏付けられた。ただし、C3類とD類との時期的関係は明確でない。なお、この類と長野県との関係は、八斗蒔原遺跡報告に詳しい。

IV類としたものは、いわゆる条痕文系土器である。出土量は少ない。このうち484～499は径2mm前後の石英粗粒を多量に含み、ほかと明確に区別される。口縁部にはハの字状の横連続刺突で490のように縱棒状浮文。また484のような斜格子沈線があり、底部は尖底となるが丸みがなく直線状で、接地面は少し平坦となる。内面には浅い条痕が認められる。類例はあまり認められないが、新井市萩清水遺跡の条痕文系土器の中に、ハの字状沈線や斜格子目を施したものがある。県外では、群馬県中棚遺跡〔関根2000〕、横川大林遺跡〔関根2000〕等に求められる。大きなハの字状刺突はあまり類例がない。時期的

には鶴ヶ島台段階～茅山段階とされている。

絡条体圧痕の認められる土器は5点と少なく全体を窺い知れない。SK131出土の413は細い原体で、条痕も認められない。細い原体は絡条体の中でも新しい後半期のものとされる〔小熊2000〕。新井市萩清水遺跡、関川谷内遺跡、大堀遺跡等類例が多い。一方、503～506は比較的太く、506は縦帶に圧痕しているため眼鏡状となる。縦帶上の圧痕は八斗苅原遺跡にも類例がある。絡状体では古い方とされる。さて、これら絡条体圧痕文土器と前述の条痕文土器IVa・b・d類が共存するかどうかであるが、その判断材料は今のところない。

前期としたもののうち、513～515は類例が見当たらない。口唇部のハの字状の細い沈線は布目式土器〔前山1994b〕に共通するが胸部の縦帶や刺突は見当たらない。515～522のような口縁に沿って刺突を施すものは、前期初頭とされる塙田式土器〔下平1994〕に認められ、また513の胸部縦帶も塙田式にある。このような共通性から513～522は前期初頭に位置づけられると考えられるが、その出自・系統は明確でない。525は間山段階と思われる。523・524は前期としたが、違う可能性もある。特に523は胎土が早期沈線文系土器に類似している。

### b 繩文時代中期

中期初頭は、比較的まとまっているが、復元できたものではなく、全体を窺い知ることはできないが、ほぼ同一時期の資料として捉えることができる。いわゆる朝日下層・新保式と呼ばれるもので、新潟県内では劍野E式〔金子1967〕とされているものである。文様に竹管を多用するのが特徴である。中期初頭第1期〔高橋・寺崎1999〕にあたり、堀之内町清水上初頭①期〔寺崎1996〕、見附市山崎A遺跡〔佐藤1991〕、巻町豊原V群1期〔前山1994a〕が対応する。

器形の代表的なものはいわゆるキャリパー状の深鉢で531が典型である。口縁部文様は上下二つに分かれ、上半には半裁竹管と沈線による斜格子目文が一般的である。区画は縦区画で、和泉A遺跡や信州地方山間部の曲線的な文様区画はない。この斜格子目を細い浮線文で描いているものが2点(532・535)ほどある。前期末の手法を受け継いでいる。胸部文様においても576・577に浮線文が用いられている。口縁部の多くに撫糸圧痕が認められるが、532では竹管による爪形を用いている。新潟県において、爪形を口唇に用いる例は非常に少ない。格子目のほか、上半には斜行または矢羽状の沈線もある。口縁部下半は、531や565の斜行の沈線のほか、格子目(563・566)もある。また、569・570の縦沈線は、中期初頭3段階まで存続する。胸部と口縁部境の文様としては、563・565といった横沈線や、572・573といった斜格子がある。胸部文様は木目状撫糸文が多く、ほかは縦沈線である。563・583のようなY字状の文様も初頭の特徴である。

414・552～556といった、口縁が直線状に開き、端部が肥厚し内面に文様を有する器形は、ほかに類例が少ない。文様は前記と同じである。556は浮線の斜格子である。

上越地方の山間部ではいわゆる新保新崎様式と異なる文様構成を持つ土器(和泉A遺跡、長野県松原遺跡)が存在するが、当遺跡は海岸部に近いこともあり、北陸や県内海岸部に近い土器構成であると言える。

時期不明とした632～646のうち、632・633・644は壺形であり、縄文早期・前期には認められない器形である。いずれもハの字状沈線で、考えられるのは弥生中期前半、栗林式以前の土器である。長野市塙崎遺跡群松節地点資料〔石川2002〕には、壺て沈線等によるハの字状の文様が多く認められ、それらに関連する可能性もある。また、637は筒状の器形のくびれ部と考えられ、群馬県新保富士塙式土器

【小野1993】との関連性を指摘できる。これらは、破片資料であり、胎土は縄文土器と類似することから、断定には至らず可能性にとどめておく。その他、沈線の土器も不明である。

## 2) 石 器

縄文時代の石器は一覧表のとおりである。全体で215点出土した。時期別出土量から言えば、一番多いのが縄文早期から前期前半、次が中期初頭である。したがって石器の多くは早期～前期前半と考えられる。組成を見ると、磨石類が33%、特殊磨石が11%で合計44%を占めることが特徴である。このことは、中郷村ハド蔵原遺跡〔坂上2004〕や閑川谷内遺跡〔立木2003〕でも同様である。次いで磨製石斧が多いことも特徴と言える。中でもB類とした、側面に明確な棱を持たず、全体に磨きが及ばないものが多く、ほとんどが白色の蛇紋岩である。早期から前期の特徴的な石斧であろう。

上越地方での早期～前期の調査例は増加しているが、閑川谷内遺跡I報告において近接遺跡の石器組成の比較を行っている〔江口1998〕。それに最近の調査例を追加したのが、第11表である。この表は用途の区分〔鈴木1996〕別の割合を比較したものである。用途別に狩猟具（石鏃・尖頭器・石錐）、採集・加工具（打製石斧・磨製石斧・範状石器）、調理具（磨石類・特殊磨石・石匙）に分類されるが、不定形石器や両極石器など、用途の明確でないもの、製作道具的石器は除外した。したがって、石器組成の全体ではない。鈴木〔鈴木1999〕によればブロック4とした上越地方では、岩野E遺跡〔小池1986〕（早期中葉～前期前葉）に代表されるように採集・加工具・狩猟・漁労具・調理具の順をとり、磨製石斧が高率の出土をみること、石錐の比率が高まるこことも特徴として挙げている。しかし、今回分析した上越地方山間部の遺跡は、逆に調理具が卓越しており、異なる結果が出ている。一方大塚遺跡では、磨製石斧が多いこと、石錐が多いこと等岩野E遺跡に共通する結果も出ている。ただ、大塚遺跡では早期のほか、前期・中期初頭・後期中葉も定量出土しており、単純な比較はできない。特に、石錐の出土が多く、前期の所産の可能性が大きい。調理具が卓越するのは、ブロック2とした下越地方、ブロック3とした中越地方山間部に共通する。

前期において多くの遺跡で調理具が卓越する。

各遺跡とともに遺跡全体を調査しているわけではなく、調理具は遺跡内で使用する道具、採集具・狩猟具は遺跡外で使用する道具ということを考慮すると、この表から導き出せる生産活動の比較には難しいものがある。

	閑川谷内 A地点Ⅳ区		閑川谷内 B地点Ⅰ区		中ノ沢B区 Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ層		大 塚		閑川谷内 B地点Ⅱ区		ハド蔵原		大 塚		
	点数	比率(%)	点数	比率(%)	点数	比率(%)	点数	比率(%)	点数	比率(%)	点数	比率(%)	点数	比率(%)	
狩 猟 具	石 鏃	2	3.9			6	13.6	15	30.6	17	10.8	11	9.5	11	6.8
	尖頭器							1	2.0	3	1.9			1	0.6
	石 锥							1	2.0			1	0.9	18	11.1
計		2	3.9	0	0.0	6	13.6	17	34.7	20	12.7	12	10.4	30	18.5
採 集 ・ 加 工 具	打製石斧	1	1.9	1	3.8			1	2.0			2	1.8	4	2.4
	磨製石斧	3	5.8			1	2.3			5	3.2	13	11.3	32	19.8
	範状石器					6	13.6	1	2.0						
計		4	7.7	1	3.8	7	15.9	2	4.1	5	3.2	15	13.1	36	22.2
調 理 具	特殊磨石	35	67.3	16	59.2	15	34.2	13	28.5	65	41.4	28	24.3	24	14.8
	磨石類	11	21.1	10	37.0	13	29.5	16	32.6	67	42.7	56	48.7	70	43.2
	石 匙					3	6.8	1	2.0			4	3.5	2	1.3
計		46	88.4	26	96.2	31	70.5	30	61.2	132	84.1	88	76.5	96	59.3
合計		52	100.0	27	100.0	44	100.0	49	100.0	157	100.0	115	100.0	162	100.0

第11表 石器の用途別構成

### 3) 有孔球状土製品

後期の住居跡から1点の出土がある。これについては、[小島1983・1991]、[岡本1989]に詳しい。それによると、有孔球状土製品の出現は縄文後期中葉または前葉で弥生時代までであるとされる。中央に孔が貫通することを条件に様々な形態が存在する。当遺跡出土のものは、細長い紡錘系で両端近くに少しくびれがある。類似の形態は、石川県米泉遺跡〔岡本1989〕等に認められる。文様単位は、最大径のある中央に対して上下対称の横区画で、その中を数本の沈線による弧状、直線模様を充填している。類似の文様構成は、先述の米泉遺跡、富山県早月上野遺跡〔小島1983・1991〕等で確認される。

有孔球状土製品の分布は現在のところ北陸を中心とした日本海側と関東東京湾沿岸に集中する。その用途については、弾み車、紡錘車、編物用の鍤、漁具等あるが、いずれも定説となっていない。

## 要 約

### 〔海道遺跡〕

- 1 海道遺跡は、新潟県上越市大字向橋字海道1031-1ほかに所在し、関川左岸の丘陵から平野部に入った標高約24mの沖積地高田面に位置する。現況は水田・山林であった。
- 2 調査は上信越自動車道の建設に伴い、平成7・8年度に実施した。調査面積は4,800m<sup>2</sup>である。
- 3 調査の結果、古代・中世・近世の集落跡であることが明らかとなった。しかし、層位的に確認されたわけではなく、各遺構の帰属時期の明確なものは少ない。全体で検出された遺構には、掘立柱建物11、井戸62、土坑63、溝53などがある。
- 4 遺物は、各時代の土器、石製品、木製品等である。古代では8世紀後半～9世紀前半の土師器・須恵器、灰釉などがある。中世では珠洲焼、輸入陶磁器、中世土師器などである。また石製品五輪塔、石鉢などもある。井戸からたくさんのクリ、米(穀)が出土している。近世では、伊万里・唐津・越中瀬戸等がある。

### 〔大塚遺跡〕

- 1 大塚遺跡は上越市大字灰塚字大塚834-1ほかに所在し、関川左岸、標高約65mの段丘上に位置する。現況は山林であった。
- 2 調査は、上信越自動車道建設に伴い、平成7～9年に実施した。調査面積は14,300m<sup>2</sup>である。
- 3 調査の結果、旧石器時代・縄文時代(早期・前期・中期・後期)・古墳時代・古代・中世各時代の遺物が出土した。
- 4 検出された遺構には、縄文時代の竪穴住居1(後期)・フラスコ状土坑6・陥穴状土坑12・土坑3、古代の竪穴住居1・須恵器窯1、中世の溝3等である。
- 5 旧石器時代ではナイフ形石器、縄文時代早期～前期の土器では、押型文土器・沈線文系土器・絡条体・正彎文系土器・条彎文系土器等がある。中期では初頭の新保系土器等がある。縄文後期の竪穴住居跡からは、土偶・有孔球状土製品が出土している。縄文の石器では、石鑓・打製石斧・磨製石斧・磨石類・特殊磨石・石錘・砥石などがある。特に蛇紋岩製の不定形な磨製石斧が目立つ。
- 6 古墳時代～中世では、土師器・須恵器・珠洲焼等がある。

## 引用・参考文献

- 荒川隆史ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 和泉A遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 阿部恭平ほか 2003 『十日町市埋蔵文化財調査報告書第22集 馬場上遺跡発掘調査報告書』 十日町市教育委員会
- 荒谷伸郎 2003 『第V章遺物 2土器・土製品』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第119集 北野遺跡I（下層）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 家田淳一 2000 『肥前（佐賀県）の製品について 陶器の編年 2. 楠鉢・鉢・片口・水差・茶入・土瓶・水注・灯火具』『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会
- 石川智紀 1996 『海道遺跡』『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成7年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川日出志 2002 『樂林式土器の成立過程』『長野県考古学会誌 99・100号』 長野県考古学会
- 上田秀夫 1982 『14～16世紀の青磁碗の分類について』『貿易陶磁研究』No2 日本貿易陶磁研究会
- 江口志麻 1998 『第VI章まとめ 1縄文時代 B・石器』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第90集 関川谷内遺跡I』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 遠藤 佐 2005 『新潟県における弦線文土器の様相』『第18回縄文セミナー 早期中葉の再検討』 縄文セミナーの会
- 大橋康二 1993 『考古学ライブラリー55 肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社
- 岡本郁栄ほか 2003 『第2編 通史 原始・古代』『板倉町史 資料編』 板倉町
- 岡本 勇ほか 1967 『大貝遺跡の調査』 立教大学考古学研究会
- 岡本恭一 1989 『第8章第3節 有孔球状土器製品』『金沢市米泉遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 小熊博史・北村 亮 1994 『新潟県における縄文早期・前期初頭の土器様相』『第7回縄文セミナー早期終末・前期初頭の諸様相』 縄文セミナーの会
- 小熊博史 1997a 『卯ノ木遺跡出土土器の研究 I -押型文土器の再検討-』『長岡市立科学博物館研究報告第32号』 長岡市立科学博物館
- 小熊博史 1997b 『新潟県における押型文系及び弦線文系土器群の様相』『押型文と弦線文 本編』長野県考古学会 縄文時代（早期）部会
- 小熊博史 2000 『新潟県における絆条体压痕土器の様相』『第13回縄文セミナー 早期後半の再検討』 縄文セミナーの会
- 小熊博史 2004 『新潟県における縄文文化形成期の様相―縄文時代早期をめぐる諸問題―』新潟県考古学会 平成15年度 第3回研究発表会資料
- 尾崎高宏 2003 『上越内地（米堀地区・下割遺跡隣接地）試掘調査』『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成14年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 尾崎高宏 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第152集 下馬場遺跡・細田遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小田由美子 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第149集 上信越自動車道関係発掘調査報告書XVI 滝寺古窯跡・大貴古窯跡』 新潟県教育委・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野和之 1993 『群馬県埋蔵文化財事業団調査報告書第154集 新保富士塚遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 笠懸野岩宿文化資料館 2004 『第39回企画展 底の尖った土器』
- 春日真実・野野博司・笠澤正史・高橋 勉 2003 『第5章古代 第2節 遺跡と遺物』『上越市史資料編2 考古』 上越市
- 春日真実 1992 『第VII章 まとめ 2遺物 C中世』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第28集 木崎山遺跡』 新潟県教育委員会
- 加藤 学 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第128集 仲田遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 金子拓男 1967 「新潟県柏崎市剣野E地点遺跡出土遺物について」『信濃19-2』 信濃史学会
- 川村浩司 2000 「第Ⅲ章 弥生～室町時代の遺物 1 弥生～飛鳥時代の遺物」『龍峰遺跡発掘調査報告書遺物編』 中郷村教育委員会
- 北林八洲晴山 1975 「青森県埋蔵文化財調査報告書第27集 千歳遺跡(13)」 青森県教育委員会
- 北村 亮 1990 「第Ⅲ章 岩原I遺跡 4 遺物 B石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第56集 岩原I遺跡上林塚遺跡』 新潟県教育委員会
- 小池義人 1986 「第3章 遺跡各説 C岩野E遺跡 6まとめ b石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第45集 中原遺跡・岩野A遺跡・岩野E遺跡』 新潟県教育委員会
- 小池義人ほか 1998 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第90集 関川谷内遺跡I』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人ほか 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第96集 裏山遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人ほか 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第108集 小重遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小島俊彰 1983 「有孔球状土製品」『縄文文化の研究9』 有山園
- 小島俊彰 1991 「有孔球状土製品と硬玉製小珠」『縄文時代2』 縄文時代文化研究会
- 小島正巳 1991 「妙高山麓採集の押型文土器—松ヶ峯No202・208遺跡ほか(17遺跡)ー」『新潟考古学談話会会報 第7号』 新潟考古学談話会
- 小島正巳 1993 「妙高村松ヶ峯No.237遺跡の縄文早期土器」『新潟考古』第4号 新潟県考古学会
- 小島幸雄 1991 『新潟県上越市 中島廻り発掘調査報告書』 上越市教育委員会
- 駒井和愛・吉田章一郎 1962 『斐太』 慶友社
- 笠澤 浩ほか 1976 「長野県更級郡大岡村鍋久保遺跡の調査」『長野県考古学会誌第23・24号』 長野県考古学会
- 笠澤正史 1998 「上越市滝寺1号窓跡出土の凸帯付四耳壺」『上越市史研究第三号』 考古部会
- 笠澤正史 2003a 「第3章弥生時代 第2節 7 吹上遺跡」『上越市史資料編2 考古』 上越市史編さん委員会
- 笠澤正史 2003b 「第5章古代 第1節時代概説」『上越市史資料編2 考古』 上越市史編さん委員会
- 笠澤正史 2003c 「第5章古代 第2節28 繩手遺跡」『上越市史資料編2 考古』 上越市史編さん委員会
- 笠澤正史 2003d 「第5章古代 第2節29 滝寺・大貫古窓跡群」『上越市史資料編2 考古』 上越市史編さん委員会
- 笠澤正史 2003e 「第5章古代 第2節30 向橋古窓跡群」『上越市史資料編2 考古』 上越市史編さん委員会
- 坂井秀弥 1984 「今池遺跡群における奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 今池・下新町・子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 坂上有紀 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第129集 八斗蔵原遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤雅一 1991 「第5章まとめ A埋没谷出土の縄文土器について」『山崎A遺跡発掘調査報告書』 見附市教育委員会
- 沢田 敦 2003 「第1章 旧石器時代 2 大塚遺跡」『上越市史 資料編2 考古』 上越市
- 品田高志 2003 「第3章弥生時代 第1節 時代概説」『上越市史資料編2 考古』 上越市史編さん委員会
- 島田昌幸 1997 「海道遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成8年度』(財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団)
- 下平博行 1994 「3塚田式の設定とその様相について」『塚田遺跡』 御代田町教育委員会
- 上越市教育委員会 1993 「小安遺跡」『新潟県上越市内調査確認概要報告書』
- 杉田健一 1998 「大塚遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成9年度』 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木俊成ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 上越春日・木田地区発掘調査報告書IV 一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木俊成 1996 「第VII章まとめ 3石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第72集 清水上遺跡II』 新潟県教育

- 委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
鈴木俊成 1999 「第2章 縄文時代 第5節 具道具と技術 第2項 早期から晩期の石器組成」『新潟県の考古学』  
新潟県考古学会
- 関根慎二 2000 「群馬県における早期後半の土器」『第13回縄文セミナー 早期後半の再検討』 縄文セミナーの会
- 高橋一功 1994 「第II章 遺跡の位置と環境 1. 地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 上越春日・木田地区発掘調査報告書IV 一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋 保・寺崎裕助 1999 「第2章 縄文時代 第2節 縄文土器 第4項 中期」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
- 高橋 勉 1985 『昭和59年度 新井市遺跡確認調査報告書—上百々遺跡・高柳宮ノ本遺跡—』 新井市教育委員会
- 高橋 勉 2000 「第III章 弥生～室町時代の遺物 2 奈良～室町時代の遺物」『龍峰遺跡発掘調査報告書遺物編』 中郷村教育委員会
- 高橋保雄 1992 「第IV章 五丁歩遺跡 4 遺物 B石器類」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第57集 五丁歩遺跡・十二木遺跡』 新潟県教育委員会
- 親跡 真 1988 『図録 南田遺跡』 中郷村教育委員会
- 親跡 真 1992 『図録 植ノ木町遺跡』 妙高村教育委員会
- 立本(土橋)由理子<sup>著者</sup> 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第75集 大堀遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 立本(土橋)由理子<sup>著者</sup> 1997a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第83集 萩清水遺跡 三本木新田B遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 立本(土橋)由理子<sup>著者</sup> 1997b 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第84集 中ノ沢遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 立本(土橋)由理子<sup>著者</sup> 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第94集 西福田新田遺跡・郷清水遺跡・上中島遺跡・上滝ノ沢遺跡・中の原D遺跡・岸畑B遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 立本(土橋)由理子 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第124集 開川谷内遺跡II』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 立本(土橋)由理子 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第131集 小野沢西遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寺崎裕助 1988 「第IV章 原山遺跡 3節 道構 B その他の道構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第50集 原山遺跡・大塚遺跡』 新潟県教育委員会
- 寺崎裕助 1996 「第VII章まとめ 1 土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第72集 清水上遺跡II』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寺崎裕助 2003a 「第2章 縄文時代 第2節 17 山星敷I遺跡」『上越市史資料編2 考古』 上越市史編さん委員会
- 寺崎裕助 2003b 「第2章 縄文時代 第2節 18 出雲遺跡」『上越市史資料編2 考古』 上越市史編さん委員会
- 寺崎裕助 2003c 「第2章 縄文時代 第2節 22 黒田古墳群」『上越市史資料編2 考古』 上越市史編さん委員会
- 田海義正 1987 「東カナクソ谷遺跡 土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第47 宮ノ平遺跡ほか9遺跡』 新潟県教育委員会
- 田海義正 1999 「第2章 縄文時代 第4節 生業 第2項 狩猟」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
- 中郷村教育委員会 1996 『龍峰遺跡発掘調査報告書I 道構編』 中郷村教育委員会
- 中郷村教育委員会 2000 『龍峰遺跡発掘調査報告書II 遺物編』 中郷村教育委員会
- 中島英子 1998 「第2章 貫ノ木遺跡」『財団法人長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書35 貫ノ木遺跡・西岡A遺跡』 建設省関東地方建設局・財団法人長野県埋蔵文化財センター
- 中野純・立木宏明 2003 「第2章 縄文時代 第2節 8 善光寺浜遺跡」『上越市史資料編2 考古』 上越市
- 中村由克 2004a 『上山桑A遺跡発掘調査報告書』 長野県信濃町教育委員会

- 中村由克 2004b 『東裏遺跡東裏団地地点・町道柴山線地点発掘調査報告書』 長野県信濃町教育委員会
- 西川博孝<sup>ほか</sup> 1984 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IV-No.7遺跡』 千葉県文化財センター
- 野上建紀 2000 『肥前(佐賀県)の製品について 磁器の編年 1. 碗・小杯・皿・紅皿・紅猪口』『九州陶磁の研究』 九州近世陶磁学会
- 芳賀英一 1975 『常世遺跡の早期縄文土器に就いて』『造光器第9号』
- 橋本 淳 2005 『北関東における沈縄文土器の様相』『第18回縄文セミナー 早期中葉の再検討』 縄文セミナーの会
- 秦繁治・岡本郁栄 1986 『峯山B遺跡』 板倉町教育委員会
- 福島邦雄 1981 『新水-長野県北佐久郡望月町新水A.B遺跡緊急発掘調査報告書』 望月町文化財調査報告第7集 望月町教育委員会
- 木間信昭・室岡 博 1976 『兼保遺跡 新潟県中頸城郡妙高高原町兼保遺跡発掘調査報告』 妙高高原町教育委員会
- 前山精明 1994a 『豊原遺跡』『巻町史資料編1 考古』巻町
- 前山精明 1994b 『布目遺跡』『巻町史資料編1 考古』巻町
- 水澤幸一・榎澤正史 2001 『伝至徳寺跡の遺物様相～中世前半を中心として～』『上越市史研究第6号』 上越市史専門委員会
- 水澤幸一・鶴巻康志 2003 『第1章 中世 第2節 遺跡と遺物 9 至徳寺遺跡』『上越市史叢書8 考古一中・近世資料一』 上越市史専門委員会考古部会
- 三ツ井朋子<sup>ほか</sup> 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第85集 大洞原C遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 宮田進一 1997 『越中瀬戸』・『越中瀬戸の変遷と分布』『中世の北陸』 桂書房
- 盛 韶雄 2000 『肥前(佐賀県)の製品について 陶器の編年 1. 碗・皿』『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会
- 室岡 博・早津賢二 1986 『中古遺跡』 妙高村教育委員会
- 室岡 博 1986 『兼保遺跡(D地区)』 妙高村教育委員会
- 室岡 博 1994 『道添遺跡I』 妙高村教育委員会
- 室岡 博 1995 『道添遺跡II』 妙高村教育委員会
- 山崎忠良 1997 『大塚遺跡』『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成8年度』 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第134集 下割遺跡II』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山田 聰 1996 『大塚遺跡』『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成7年度』 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山本信夫 2000 『太宰府市の文化財第49集 大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編一』 太宰府市教育委員会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 領塙正浩 1999 『常世式土器の再検討～常世I式土器の成立過程と編年の位置をめぐって～』『長野県考古学会誌87・88号』 長野県考古学会
- 領塙正浩 2005 『東北・北海道地方における早期中葉の土器編年』『第18回縄文セミナー 早期中葉の再検討』 縄文セミナーの会

別表1 海道遺跡 遺構一覧表

種別	No.	グリッド	形 状	長 軸 (m)	短 軸 (m)	深 底 (m)	時 期	出 土 遺 物
1995年度								
SE	50	2D24, 3D4	円	1.05	1.05	1.95	不明	
SE	100	3D11	楕円	1.50	1.10	1.85	中世	珠洲、須恵器、土師器、铁斧、鐵
SE	130	3C22・23, 4C2		2.50	1.95	1.65	中世	珠洲、須恵器、土師器
SK	240	3D7	円	1.0	0.95	0.50	?	
SE	346	2E16	円	0.88	0.90	0.10	古代?	須恵器、土師器
SE	347	1E23, 2E3		1.0	0.92	0.80	古代?	須恵器
SK	348	1E19・20		0.70	0.70	0.35		
SE	385	4D7・8・12・13	楕円	1.80	1.20	1.80	中世	須恵器、珠洲織貝、青磁、柱状高台、手づくね皿、磁石、土師器
SE	420	3E23・24	不整円	1.50	1.30	1.30	中世	珠洲、中世土師器
SE	430	4D14・15	不整円	2.35	1.70	2.10	中世	珠洲、中世土師器、青磁、須恵器、土師器
SE	456	4D19・24	円		0.85	1.80	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	476	5C15・20, 5D11・16	不整	1.20	1.15	2.13	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	490	5D1・6	不整	1.80		1.65	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	496	5D14・19	圓丸方形	1.20	1.15	1.40	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	550	5D13・14	不整円	1.20	1.15	2.00	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	560	3E22, 4E2	不整円	1.0	0.95	1.55	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	580	7C6・11	不整円	1.20	1.05	1.75	中世	珠洲、青磁
SE	590	7C17	不整円	0.90	0.90	2.0	?	土師器
SE	600	7D116	不整	1.15	1.0	1.20	?	土師器
SE	610	5E12・17	不整	1.05	1.0	1.85	近世	越中織貝、京燒風、須恵器、土師器
SE	620	4F18・23	不整円	1.0	1.0	0.95	?	
SE	630	4F23	不整円	1.50	1.40	0.95	中世	珠洲、土師器
SE	650	6D24・25	円	0.95	0.85	1.50	?	土師織貝
SE	660	7D4・5	楕円	0.95	0.85	1.05	中世	珠洲
SE	670	5D20	圓丸方形	1.10	0.95	1.80	近世	越中織貝、須恵器、土師器
SE	900	6E13	楕円	1.05	0.80	1.70	近世	唐津、珠洲、須恵器、土師器
SE	1110	8D4・9	円	1.40	1.40	1.50		
SE	1120	8D14・19	不整円	1.15	0.85	1.75		
SE	1240	5F20	不整円	1.05	1.05	1.40		
SE	1241	5E6・11	不整円	1.20	1.0	1.65	?	
SE	1244	7D10・15	円	0.95	0.95	1.15		
SE	1245	7D25	円	0.90	0.85	1.15		
SE	1246	8E11・16	不整円	1.15	1.05	1.80		
SE	1247	6C11		1.15	0.85	1.36		
SE	1248	6C16		1.42	1.07	1.50		
SE	1249	7F6	不整円	0.70	0.70	0.80		
SE	1250	5F24・25	圓丸方形	0.75	0.65	0.50		
SE	1260	8D7・12	不整円	1.40	1.40	1.75		
SE	1364	8G17・22		0.95	0.90	1.07		
SE	1365	9G6		1.36	0.90	1.08		
SE	1385	7D25, 8D5	不整	1.80	1.60	1.30		
SE	1386	7D13	円	1.40	1.40	1.65	古代?	須恵器、土師器
SE	1387	6D10, 6E6		0.76	0.76	1.47	中世	珠洲、土師器
SE	1389	5E8	円	1.0	0.95	0.95+		
SE	1390	5E13・14	円	1.0	0.95	1.35		
SE	1391	8D23	不整	0.80	0.73	1.15		
SE	1500	10D13・18	不整	1.40	1.05	2.45	近世	近世唐津、唐津
SE	1501	10D9・10	円	0.90	0.85	1.35		
SE	1502	10D9・14	円	0.80	0.80	1.25		
SE	1503	10D8	円	0.90	0.90	0.70		
SE	1504	10D5・10	円	1.50	1.50	1.0		
SK	350	3D7		0.75	0.60	0.55		
SK	401	3F16	円	1.05	1.05	0.20	?	
SK	403	1E25, 1F21	圓丸方形	1.0	0.95	0.23	?	
SK	475	5B9・10	楕円	1.30	1.0	0.15	?	土師器
SK	500	5F2・3・7・8		3.45	3.20	0.28	近世	瓦、空風
SK	510	4C23・24	圓丸方形	1.25	1.0	2.20	?	
SK	570	3E11	不整	1.45	1.10	0.60	古代?	須恵器、土師器
SK	690						近世	珠洲、中世土師器、近世陶輪器
SK	1000	8F23・24, 9F3・4		2.35	2.30	1.04	中世	珠洲、須恵器、中世土師器
SK	1130	6E23, 7E3	不整	1.15	0.95	0.85	?	
SK	1140	4G21, 5G1		約2.9		0.33		
SK	1150	5F20・25	不整	2.70	2.50		中世	珠洲、土師器、須恵器
SK	1180	6E7・8・12・13		0.85	0.80	0.66		

別 表

梯級	No.	グリッド	形 状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期	出 土 遺 物	
								珠洲	近世
SK	1243	7D5・10	不整円	1.0	0.83	0.73	?		
SK	1261	8D7・12	不整	0.90		1.10	?		
SK	1313	8F17	円	1.20	1.20	0.50	中世	珠洲	
SK	1316	5F					近世	越中瀬戸、唐津	
SK	1332	6E5	不整円	1.20	1.20	0.10			
SK	1384	6D1・2・6・7		2.02	1.64	0.26	中世	珠洲、土師器、須恵器	
SK	1388	7G14・21	不整	1.10	0.65	0.4以上			
SK	1392	8G1・2・6・7	不整	1.90	1.70	0.35	近世		
SK	1393	9D3	不整	1.55		0.55			
SK	1509	11F15・12		1.30	1.25	0.59	近世?	土師器、瓦?	
SK	1510	11G6		1.40	1.04	1.05			
SK	1511	12F5	円	0.75	0.65	0.45			
SK	1512	12F7		0.98	0.85	0.62			
SE	1514	11E9	円	0.75	0.70	1.05			
SK	1515	11E1・6		0.60	0.60	0.55			
SK	1557	11F21					古代?	土師器	
SK	1606	11G7		1.75	1.30	1.06			
SK	1607	11F18		1.05	0.83	0.38	中世	珠洲	
SK	26	2D8		1.50	0.50	0.31	古代?	土師器	
SE	487	4F1	円	1.0	1.0	0.80			
SX	520	5C3・4		1.90	1.05	0.38			
SK	1505	11E7・12	円	1.20	1.20	0.35	?	土師器	
SX	1506	11E2・7	不整	1.10	0.95	0.15			
SK	1507	11F24	不整	1.10	0.90	0.30	近世	越中瀬戸	
SK	1508	11E11		1.63	1.51	0.94	中世	珠洲、土師器	
SD	345	1E24		約2.0	0.50	0.10			
SD	349			6.45	0.40		古代?	土師器	
SD	370	4C22		約16.0	0.60	0.30	古代?	土師器縫片	
SD	479	4E5		約3.05	0.60	0.39	?	?	
SD	480	4F2・7		約5.55	0.80	0.28	近世	陶磁器	
SD	640	6D6・10		約3.0	0.90	0.17	古代?	土師器	
SD	700	6B6・9・1~14		14.40	3.30		近世	須恵器、土師器、珠洲、越中瀬戸、唐津	
SD	1315	5F12・13		約4.9	1.95	0.32			
P	15	2D16	方形	0.40	0.38	0.31		土師器	
P	16	2D12	椭円	0.36	0.26	0.28		土師器	
P	17	2D17	椭円	0.58	0.30	0.28		土師器	
P	18	2D17	方形	0.28	0.27	0.22		土師器、須恵器	
P	20	8D7	円	0.25	0.25	0.21		土師器	
P	28	2D21	椭円	0.34	0.27	0.29		土師器	
P	31	2D22	円	0.30	0.30	0.45		土師器	
P	33	2D23	円	0.37	0.33	0.33		土師器	
P	35	2D13	円	0.46	0.41	0.23		土師器	
P	37	2D18	椭円	0.40	0.30	0.30		土師器	
P	40	2D19	円	[0.4]	0.35	0.15		土師器、縫片	
P	44	2D19	円	0.39	0.36	0.35		土師器	
P	49	3C5	円	0.31	0.29			土師器	
P	53	3C5	円	0.32	0.28	0.39		土師器	
P	57	3C9	椭円	0.52	0.39	0.55		土師器	
P	59	3D12	方形	0.48	0.36	0.41		土師器	
P	63	3D2	方形	0.56	0.46	0.54		土師器	
P	68	3C10	椭円	0.34	0.21	0.47		土師器	
P	69	3C10	円	0.47	0.45	0.62		土師器	
P	71	3D2	椭円	0.27	0.22	0.47		土師器	
P	72	3C13	真方形	0.61	0.36	0.48		土師器	
P	73	3C14	椭円	0.83	0.65	0.53		土師器、須恵器	
P	74	3C13	円	0.40	0.34	0.45		土師器	
P	75	3C19	円	0.39	0.36	0.26		土師器	
P	76	3C14・19	椭円	0.51	0.40	0.52		須恵器	
P	79	3C10	椭円	0.38	0.29	0.39		須恵器縫片	
P	83	3D8	円	0.39	0.33	0.41		土師器	
P	86	3D8・9	椭円	0.38	0.31	0.33		糸切り土師器	
P	88	3D9・10	椭円	0.41	0.32	0.06		糸切り土師器	
P	91	3D4	椭円	0.44	0.28	0.46		土師器	
P	93	2D23	円	0.30	0.26	0.23		土師器	
P	99	3D12	長方形	0.74	0.50	0.44		糸切り土師器、須恵器	
P	101	2D13	円	0.57	0.34	0.39		土師器	

標識	No.	グリッド	形 状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時 期	出 土 遺 物
P	102	3D14	楕円	0.78	0.64	0.40	土師器	
P	103	3D19	楕円	0.71	0.54	0.38	土師器	
P	104	3D18	円	0.37	0.33	0.30	土師器	
P	109	4D4	円	0.40	0.33	0.21	土師器	
P	110	4D4	円	0.38	0.30	0.27	土師器	
P	112	4D4	円	0.24	0.23	0.22	近世陶磁器	
P	119	3D22	円	0.41	0.35	0.58	土師器	
P	121	3C14	方形	0.50	0.44	0.59	土師器	
P	124	3C17	楕円	0.37	0.30		土師器, 手切り觸	
P	125	3C17	方形	0.32	0.27		土師器	
P	126	3C17	方形	0.43	0.36	0.38	土師器	
P	129	3C19	円形	0.35	0.28	0.43	土師器	
P	131	3C19	方形	0.51	0.43	0.66	土師器, 頭蓋器	
P	154	4C12	楕円	0.36	0.32	0.24	土師器	
P	156	4C12	楕円	0.43	0.40	0.52	土師器	
P	161	4C13	楕円	0.35	0.28	0.24	土師器	
P	162	4C13	楕円	[0.14]	[0.1]	—	土師器	
P	167	4C15	円	0.40	0.39	0.35	土師器	
P	169	4D16 · 21	楕円	0.42	0.32	0.31	土師器	
P	188	4D18	方形	0.42	0.36	0.28	土師器	
P	198	4D14	円	0.27	0.25	0.21	土師器	
P	199	4D8 · 9	円	0.53	0.53	0.41	土師器	
P	200	4D7	楕円	0.41	0.34	0.41	土師器 (中世)	
P	206	4D19	円	0.28	0.24	0.25	土師器	
P	210	4D23	楕円	[0.44]	0.39	0.24	土師器	
P	211	3D2	楕円	0.43	[0.35]	0.31	中世織物?	
P	212	3D2	円	0.27	[0.25]	0.24	土師器	
P	213	3D3	円	[0.57]	0.50	0.53	土師器	
P	214	3D3	楕円	[0.46]	0.30	0.51	土師器	
P	216	3C15	円	0.48	0.41	0.53	土師器	
P	217	3D21	方形	0.43	0.37	0.51	土師器	
P	219	2D19	円	0.43	0.36	0.35	土師器	
P	222	3C18	楕円	0.34	[0.25]		土師器	
P	225	3C22	楕円	0.25	0.20	0.72		
P	229	3D12					土師器, 頭蓋器	
P	230	3D10	長方形	0.40	0.29	0.34	土師器	
P	238	4D3	楕円	0.30	0.26	0.34	土師器	
P	249	1E18 · 19	円	0.34	0.33	0.58	砾石	
P	292	2E10	円	0.35	0.34	0.25		
P	312	3E1 · 2	円	0.28	0.25	0.31	土師器	
P	324	2E5	長方形	0.28	0.18	0.18	土師器	
P	341	3C15	楕円	0.23	0.19	0.26	青磁	
P	351	1F16	円	0.56	0.51	0.59		
P	355	2F1	楕円	0.64	0.51	0.34	頭蓋器	
P	379	4E1	円	0.25	0.24	0.18	土師器	
P	392	2F1	円	0.23	0.21	0.13	頭蓋器	
P	393	2F1	円	0.42	0.36	0.30	土師器	
P	411	3C20	楕円	0.38	0.31	0.34	土師器	
P	445	4F2	円	0.38	0.37	0.52		
P	462	4E7	方形	0.37	0.36	0.18	珠洲	
P	484	3E3	円	0.67	0.59	0.70		
P	497	4E11	円	0.30	0.30	0.29	土師器	
P	538	5D2	円	0.24	0.22	0.07	土師器	
P	540	5C12 · 13	円	0.84	0.74	0.90		
P	540	5C12 · 13	円	0.85	0.75	0.89	土師器	
P	567	5B8	円	[0.22]	[0.19]		土師器	
P	568	5C8	楕円	0.36	0.29	0.16	土師器	
P	576	5B14	円	0.21	0.18	0.17	土師器	
P	585	5B14	楕円	0.40	0.26	0.21	土師器	
P	587	5B14 · 19	楕円	0.37	0.35	0.12	土師器	
P	589	5B15	不整形	0.46	0.45	0.20	土師器	
P	596	5C16	円	0.27	0.26	0.28	土師器	
P	601	5B19	円	0.27	0.23	0.25	土師器	
P	604	5B25	楕円	0.34	0.18	0.09	土師器	
P	607	5B5	長方形	0.59	0.42	0.25	土師器	
P	611	5C18 · 23	楕円	0.29	0.22	0.11	土師器	

別 表

種類	No.	グリッド	形 状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期	出 土 遺 物
P	614	SC23	円	0.25	0.23	0.16	土師器	
P	623	SD7	円	[0.24]	[0.21]		土師器	
P	625	SD12	円	0.36	0.35	0.30	土師器	
P	628	SD18	円	0.44	0.38	0.16	須恵器	
P	631	SD18	方形	0.52	0.50	0.44	土師器	
P	637	SD13	楕円	0.44	0.36	0.43	土師器	
P	639	SD17	円	[0.22]	[0.21]		土師器	
P	641	SB25	方形	0.54	0.47	0.16	土師器	
P	653	SC1	円	0.27	0.24	0.37	須恵器, 輪	
P	664	SD17	楕円	0.36	0.29	0.24	土師器	
P	679	SC13	楕円	0.32	0.25	0.15	土師器	
P	681	SC18	楕円	0.28	0.21	0.14	土師器	
P	686	SC14	楕円	[0.24]	[0.2]		土師器	
P	691	SC24	楕円	0.34	0.24	0.28	土師器	
P	697	SD7 · 12	円	0.23	[0.2]	0.13	土師器	
P	698	SD7	楕円	0.48	[0.37]	0.17	土師器	
P	764	TD22	楕円	0.30	0.24	0.23	土師器	
P	782	TD1	方形	0.49	0.39	0.28	土師器	
P	803	TD14	方形	0.39	0.36	0.22	土師器	
P	803	TD13 · 14	円	0.62	0.53	1.68		
P	807	TD19	円	0.30	0.28	0.14	土師器	
P	820	SE12	方形	[0.42]	[0.34]		土師器	
P	828	SE22	楕円	0.80	0.67		土師器, 珠洲, 吉瓶	
P	832	SE13 · 14 · 18 · 19	円	0.61	0.56	0.60		
P	833	SE18	楕円	1.00	0.74	0.75	須恵器	
P	834	SE23	円	0.73	0.69	0.48	土師器, 珠洲	
P	838	SE4	楕円	0.30	0.19	0.11	土師器	
P	845	SE24 · 25	方形	0.49	0.43	0.50		
P	855	SE15	楕円	0.22	[0.18]	0.13	土師器	
P	860	SE25					珠洲	
P	900	SE13	楕円	1.05	0.84	1.35	土師器, 須恵器	
P	909	SE23	楕円	0.34	0.25	0.27	土師器	
P	930	SD23 · 24	楕円	1.08	0.90	0.36	土師器, 越中瀬戸, 輪, 瓦	
P	946	SE12	楕円	0.86	0.66	0.41	土師器, 唐津焼, 丸	
P	977	TF1	円	[0.37]	0.34	0.42	須恵器, 瓦	
P	979	TF6	楕円	0.42	0.33	0.13	瓦	
P	986	TF7 · 12	長方形	0.56	0.45			
P	1001	TE25, TF21	円	0.41	0.35	0.17	須恵器	
P	1023	SD16	楕円	0.59	0.25	0.27	土師器	
P	1030	SD22	楕円	[0.49]	0.35	0.35	裡	
P	1031	SD22	楕円	0.48	0.35	0.26	裡	
P	1042	SD18	楕円	0.37	0.31	0.37	裡	
P	1051	SD23	不整形	0.96	0.35	0.38	須恵器	
P	1076	SD4	楕円	0.39	0.29	0.34	土師器	
P	1085	SD10	円	0.31	0.27	0.22		
P	1093	SD20	楕円	0.50	0.24	0.32	土師器	
P	1098	SD20	楕円	0.52	0.40	0.47	須恵器	
P	1130	SE23, TE3	円	1.16	0.98	0.85	珠洲焼, 須恵器	
P	1136	SE7	楕円	0.33	0.26	0.28	土師器	
P	1158	SE8 · 9	円	0.72	0.66	0.90		
P	1162	SE13	方形	0.56	0.53	0.37	須恵器	
P	1171	SE23	円	0.24	0.23	0.17	中世土師器	
P	1176	SE4	円	0.51	0.43	0.44		
P	1186	SE5	円	0.43	0.37	0.38	土師器, 須恵器	
P	1187	SE5 · 10	円	0.48	0.43	0.55	土師器, 中世土師器, 珠洲, 須恵器	
P	1188	SE15	楕円	0.50	0.42	0.19	土師器, 須恵器	
P	1192	SE25	楕円	0.50	0.43	0.59	現代茶碗	
P	1193	SE25	不整形	0.42	0.32	0.35	現代茶碗	
P	1194	SE5	楕円	0.20	0.16	0.18	土師器	
P	1197	SE10	円	0.38	0.33	0.17	土師器	
P	1203	SF1	楕円	0.48	0.35	0.10	須恵器	
P	1207	SF16	楕円	0.30	0.23	0.24	土師器	
P	1211	SF16	円	0.25	0.22	0.28	土師器, 須恵器	
P	1223	SF8	円	0.26	0.22	0.35	土師器	
P	1225	SF13	方形	0.29	0.25	0.04	京焼	
P	1515	NE1 · 6	円	0.62	0.58	0.57	中世土師器? 直部穿孔	

種類	No.	グリッド	形 状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期	出 土 遺 物
P	1576	11F24	円	0.22	0.20	0.15		唐津織り跡
P	1589	11G11	楕円	[0.177]	[0.14]			土師器
P	1605	11F6・7・11・12	楕円	0.67	0.31	0.06		土師器
P	1606	11G7・12	不整	1.75	1.33	0.87		珠洲織り跡、須恵器
P	1273	9F16	円	0.31	[0.28]	0.36		
P	1274	9F16	円	[0.33]	0.31	0.37		
P	192	4D19	楕円	0.58	[0.39]	0.59		
P	193	4D19	楕円	0.44	[0.34]	0.30		
P	203	4D19	不整	0.27	[0.26]	0.19		
P	204	4D19	楕円	0.31	[0.22]	0.43		
P	551		円	0.45	[0.37]	0.54		
P	553		円	0.50	0.44	0.18		
1996年度VI層								
SE	1711	4あ4・9	円	0.70	0.70	2.55	古代	土師器、須恵器
SE	1712	4あ20	楕円	1.00	0.70	2.70	中世	珠洲、須恵器、土師器
SK	1715	4あ9	不整	0.90	0.85	0.22	古代	須恵器、土師器
SE	1717	4A1	円	0.95	0.95	3.56	古代	須恵器、土師器
SE	1718	4A16・21	円	1.50	1.40	3.40	中世	珠洲、中世土師器、須恵器、土師器
SE	1719	4A16	円	1.05	0.85	2.05	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	1720	4A21	円	1.00	1.00	1.30	古代	土師器、須恵器
SE	1728	5あ5	不整	1.00	0.90	2.30	中世	土師器、須洲
SE	1731	5A4・5・9・10	円	1.00	0.90	1.85	?	
SE	1732	5A1	円	1.25	1.25	1.75	古代	須恵器、土師器
SK	1703	3A9・15	不整	1.00	0.80	0.10	近世?	土師器、近世陶器
SK	1704	3A8	不整	0.80	0.60	0.27	?	
SK	1705	3A12	円	0.50	0.50	1.28	古代	土師器、須恵器
SK	1706A	3A19	不整	1.05	0.75	0.10	?	
SK	1706B			0.73	0.68		?	
SK	1707	3A24	円	1.05	1.00	0.39	古代	須恵器
SK	1708	3A7	楕円			0.15	古代	土師器、須恵器
SK	1709	3A11	不整	1.10	0.85	0.22	古代	土師器、須恵器
SE	1713	4あ25	円	1.15	1.15	2.2+	古代	土師器、須恵器
SK	1714	4あ9	楕円	1.15	0.95	0.90	古代	土師器、須恵器
SK	1722	4A18	円	0.65	0.60	0.30	?	
SK	1723	4A15	円	0.80	0.70	0.33	古代	土師器
SK	1724	4A12	楕円方形	1.25	0.75	0.50	古代	土師器
SK	1725	4A17	不整	1.40	1.00	0.75	古代	土師器
SK	1729A	5あ5・10	不整	1.70	1.20	0.50	?	
SK	1729B	5あ5・10	不整	1.30	0.85	0.75	?	
SK	1730	5あ10	不整	1.20	0.80	1.00	古代	土師器、須恵器
SK	1733A	5A12	楕円	0.80	0.55	0.30	古代	土師器、須恵器
SK	1733B	5A12	円	0.60	0.60	0.89	古代	土師器
SK	1734	5A8	円	1.30	1.30	0.45	古代	土師器
SK	1735	5A6	不整	0.75	0.35	0.14	古代	土師器
SK	1736A	5A6・7・12	不整	0.85	0.65	0.60	古代	土師器、須恵器
SK	1736B	5A6・7・12		0.65	0.45	1.10	?	
SK	1737	5A6・7・12		0.55	0.40	0.10	古代	土師器
SK	1738	5A8	円	0.95	0.85	0.70	?	
SK	1739	5A1	円	0.55	0.50	0.20	古代	土師器、須恵器
SK	1740A	5A1		0.53	0.52	0.37	古代	土師器、須恵器
SK	1740B	5A1		1.48	0.97	0.75	古代	土師器
SK	1741	5A4・5		0.57	0.56	0.70	?	
SK	1742	5A2		0.96	0.70		古代	土師器、須恵器
SK	1701	2A21	方形	1.40	1.10	0.35	古代	土師器
SK	1702	3あ3	不整	1.25	1.15	0.25	古代	土師器、須恵器
SK	1710	3A13	不整	1.50	1.00	0.21	古代	土師器、須恵器
SK	1716	4あ15				古代	須恵器、土師器	
SK	1726	4A4	不整	1.00	0.90	0.10	?	須恵器
SK	1727	4A16	楕円	1.05	0.85	0.35	古代	土師器
SD	1743A	3A8・9・14		4.50	0.30	0.08	古代	土師器、須恵器
SD	1743B	3A8・9・14		2.05	0.26		古代	土師器
SD	1744	3A21～4A20		1.54	0.20	0.06	古代	土師器、須恵器
SD	1745	3あ・A		2.15	2.30	0.16	古代	土師器
SD	1746	3あ・A		0.85	0.40	0.17	古代	土師器
SD	1747	3あ・A		0.35	0.25	0.19	古代	土師器
SD	1748A	3・4・5A		15.80	1.40	0.09	中世	土師器、須洲

別 表

標識	No.	グリッド	形 状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期	出 土 遺 物	
								土師器	鐵器
SD	1748B	3・4・5A		1.80	1.20	0.14	古代	土師器	
SD	1749A	2・3A		2.86	0.65	0.10	?		
SD	1749B	2・3A		1.30	0.50		?		
SD	1750	4A11・12		2.78	0.28	0.07	古代	土師器, 鐵器	
SD	1751	5A・あ		9.30	0.72	0.26	古代	土師器, 鐵器	
SD	1752	5・6・あ・A		9.00	2.90	0.23	近世	土師器, 鐵器, 近世磁器	
SD	1753	5A13・14・17・18・22		10.05	0.35	0.37	古代	土師器, 鐵器	
P	19a	4A23	円	0.53	0.53	0.54		土師器鍋, 土師器碗, 土師器釜, 中世土師器, 他破片	
P	19b	4A23	橢円	0.40	0.30	0.50		土師器鍋, 土師器碗, 土師器釜, 中世土師器, 他破片	
P	26	4A23	橢円	0.65	0.50	0.43		土師器鍋, 土師器碗, 土師器釜, 中世土師器, 他破片	
P	34	4A23	橢円	0.36	0.19	0.59		土師器鍋, 土師器碗, 土師器釜, 中世土師器, 他破片	
P	35	4A23	橢円	0.42	0.32	0.29		土師器鍋, 土師器碗, 土師器釜, 中世土師器, 他破片	
P	4	5A3	橢円	0.64	0.47	0.57		土師器小釜, 中世土師器, 鍋形鉢, 梶, 陶瓶	
P	16	4A19	円	0.40	0.35	0.35		土師器碗	
P	13	3A9	橢円	0.17	0.21	0.18		土師器皿(中世), 中世土師器	
P	7	3A8	不整	0.75	0.50	0.68		土師器碗	
P	506(B)	4A13	橢円	0.51	0.34	0.23		銅器容器底部,	
P	62	4A7	円	0.44	0.43	0.66		灰陶壺底部	
1996年度発掘									
SK	1820	4A19		1.40	1.20	0.22	古代	土師器	
SK	1821	4A5		0.97		0.38	古代	土師器	
SK	1822	4A22		0.93	0.64	0.73	古代	土師器	
SX	1817	3あ24・25・19				0.04	?		
SX	1818			2.37	1.06	0.11	?	土師器	
SX	1819	3A24				0.14	古代	土師器	
SD	1801A	3A8~13				0.05	?		
SD	1801B	3A8~13				0.05	?		
SD	1802A	3A7~13				0.06	?		
SD	1802B	3A7~13				0.12	?		
SD	1803	3A					?		
SD	1804	3A					古代	土師器	
SD	1805A	3あ~3A				0.04	?		
SD	1805B	3A					?		
SD	1806	3あ~3A				0.28	古代	土師器	
SD	1807	3A				0.08	古代	土師器	
SD	1808	3A				0.08	古代	土師器	
SD	1809	3A~4B				?			
SD	1810A	3A				0.07	?		
SD	1810B	3A				?			
SD	1810C	4B				?			
SD	1811	3あ~3A				0.16	古代	土師器	
SD	1812A	3A				0.05	古代	土師器	
SD	1812B	4A				0.10	?		
SD	1813	4B				0.07	古代	土師器	
SD	1814A	3あ					古代	土師器, 鐵器	
SD	1814B	4B				0.09	?		
SD	1815	3あ				0.07	古代	土師器	
SD	1816A	3あ				0.09	古代	土師器, 鐵器	
SD	1816B	3あ							
SD	1823	5A11~14				0.16	?		
SD	1824						?		
P	62	4A7	円	0.50	[0.43]	0.68	古代	土師器	
P	38	4A13	長方	0.74	0.44	0.21	古代	土師器	
P	72a	4A16	橢円	0.36	0.26	0.45	古代	土師器	
P	72b	4A16	円	0.35	0.32	0.34	古代	土師器	
P	17	4A23	円	0.61	0.52	0.44	古代	土師器	
P	39	4A13	橢円	0.52	[0.32]	0.47	古代	土師器	
P	11	4A24・25	円	0.52	0.47	0.41	古代	土師器	
P	41	4A2	円	0.24	0.22	0.16	古代	土師器	
P	40	4A2	円	[0.35]	0.27	0.37	古代	土師器	
P	30	4A14	円	0.23	0.18	0.07	古代	土師器	
P	69	4A16	橢円	0.27	0.21	0.49	古代	土師器	
P	33	4A8	橢円	0.68	0.58	0.27	古代	土師器	
P	54	4A6	円	0.33	0.29	0.38	古代	土師器	
P	20	4A18・19	円	0.53	0.24	0.19	古代	土師器	
P	9	5A11	橢円	0.33	0.24	0.39	古代	土師器	

種類	No.	グリッド	形 状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期	出 土 遺 物
P	3	5A4	楕円	0.56	0.52	0.89	古代	土師器
P	13	4・9	楕円	0.36	0.27	0.35	古代	土師器
P	7	5A16	円	0.30	0.30	0.87	古代	土師器
P	10	5A14	楕円	0.62	0.50	0.55	古代	土師器
P	19	5A6・7	楕円	0.38	{0.25}	0.37	古代	土師器
5AP	4	4A23	楕円	0.64	0.46	0.65	古代	土師器
P	1	5A3・4A23	円	0.42	0.39	0.31	古代	土師器
P	6	5A13	円	0.58	0.57	0.66	古代	土師器
P	53	4A6	楕円	0.48	0.22	0.52	古代	土師器
P	8	5A12	方形	0.37	0.34	0.19	古代	土師器
P	26	5A1	長方	1.12	0.67	0.86	古代	土師器
P	22	5A8	円	0.50	0.42	0.42	古代	土師器
P	27a	5A1	円	0.32	0.31	0.08	古代	土師器
P	27b	5A1	円	0.25	0.22	0.09	古代	土師器
P	27c	5A2	円	0.27	0.24	0.28	古代	土師器
P	15	5A7	円	0.42	0.37	0.17	古代	土師器
P	5	5A14・19	円	0.57	0.56	0.64	古代	土師器
P	29	5A22	楕円	{1.01}	0.69	0.25	古代	土師器
P	18	3A9・10	不規	0.44	0.25	0.08	古代	土師器
P	25	5A19	不整	0.54	0.47	0.48	古代	土師器
P	24	4A22	円	0.18	0.16	0.29	古代	土師器
P	6	4あ15・20	不規	0.60	0.42	0.55	古代	土師器
P	13	4あ10	円	0.19	0.16	0.24	古代	土師器
P	5	4A16・19	楕円	0.43	{0.32}	0.23	古代	土師器
P	61	4A21	楕円	0.54	0.42	0.73	古代	土師器
P	26	4A23	楕円	{0.65}	0.50	0.40	古代	土師器
P	34	4A23	円	0.53	{0.53}	0.29	古代	土師器
P	18	4A24	方形	0.34	0.33	0.46	古代	土師器
P	29	4A2・3	円	0.54	0.49	0.14	古代	土師器
P	13	4A3	円	0.25	0.24	0.57	古代	土師器
P	56	4A2	円	0.31	{0.26}	0.14	古代	土師器
P	67	4A12・13	円	0.28	0.23	0.57	古代	土師器
P	2	4A11	楕円	0.43	0.34	0.83	古代	土師器
P	12	4A17	楕円	0.33	0.24	0.39	古代	土師器
P	4	4A16	円	0.30	0.29	0.32	古代	土師器
P	23	4A9・11	円	0.71	0.66	0.48	古代	土師器
P	79	4A21	円	0.27	0.23	0.34	古代	土師器
P	22	4A13・14・18・19	楕円	0.41	0.30	0.35	古代	土師器
P	19a	4A23	円	{0.53}	{0.53}	0.58	古代	土師器
P	19b	4A24	楕円	{0.41}	{0.28}	0.5	古代	土師器
P	25	4A6	不規	1.15	0.44	0.51	古代	土師器
P	45	4A13	円	0.40	{0.38}	0.26	古代	土師器
P	59	4A11	楕円	0.51	0.31	0.22	古代	土師器
P	70a	4A16	円	0.30	0.25	0.48	古代	土師器
P	70b	4A16	円	0.08	0.07	0.39	古代	土師器
P	9	4A3	不規	0.41	0.35	0.37	古代	土師器
P	3a	4A6	円	0.43	{0.37}	0.12	古代	土師器
P	3b	4A6	円	0.29	{0.26}	0.22	古代	土師器
P	1	4A6	楕円	0.54	0.33	0.50	古代	土師器
P	77	4A21	楕円	0.33	0.24	0.39	古代	土師器
P	6	4A8	楕円	0.39	0.32	0.13	古代	土師器
P	16	4A19	円	0.40	0.37	0.35	古代	土師器
P	1	2A23	楕円	0.40	0.33	0.27	古代	土師器
P	14	3A2・7	楕円	0.62	0.44	0.26	古代	土師器
P	11	3A7	円	0.57	0.51	0.14	古代	土師器
P	6	3A18	長方	0.72	0.57	1.21	古代	土師器
P	19	3A18・19	楕円	0.54	0.44	0.88	古代	土師器
P	10	3A6	楕円	0.55	0.45	0.95	古代	土師器
P	12	3A21	楕円	0.60	0.51	0.72	古代	土師器
P	9	3A6	楕円	0.56	0.43	0.48	古代	土師器
P	3	3A3・8	楕円	0.42	{0.31}	0.10	古代	土師器
P	7	3A13・8	楕円	0.75	0.52	0.65	古代	土師器
P	1	3A3	楕円	0.55	0.36	0.35	古代	土師器
P	16	3A9	円	0.37	0.32		古代	土師器
P	3AP15a	3A20	円	0.32	0.28	0.10	古代	土師器
P	15b	3A2	円	0.31	0.27	0.29	古代	土師器

別 表

別表2 海道遺跡 掘出物観察表（土器・土製品） 1. 回転方向 時：時計回り、逆：逆時計回り 2. 底部調整 糸切り：回転糸切り

発見 No.	通鑑	グリット	部位	種類	器形	分類	高さ 口径	底径 /16	底径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	底縁 (cm)	回転 方向	底部調整	体部調査	備考
1	SK100	3D11, 4K24	I - VI	底面部	盤	I			11.2				?			内面タガ
2	SE1732 P24	4あ5 - 10, 3A4 4A6, 5A2 - 6, 6C4	I - VI V	底面部	長脚盤	I				8		18	?			ヨコナデ 内面剥落
3	SK1732	3あ15, 3A12 - 16	VI	底面部	長脚盤	II b										ヨコナデ
4	SE1732 4A13	3あ (9), 3A5, 1 - 6	III - VI	底面部	長脚盤	II b							?			ヨコナデ
5	SK1732 P12	3A21, 3C9, 4A11 - 12	I - II	底面部	長脚盤	II b						17				ヨコナデ
6	SK1732 SK1818	3A10, 3A8 - 11 - 12 4A3 - 15, 4A1 - 2 - 12	III - V VI	底面部	長脚盤	II										タタキ 刃イツタイ
7	SK1732	3あ23, 4A15	III - VI	底面部	盤											ヨコナデ
8	SK1732		VI	上部部	桶	I a	0.28		12.0	5.2	3.5		?			ヨコナデ
9	SE1732		VI	上部部	桶	I a	0.28		12	6	3.4		?			ヨコナデ 壁面
10	SE1732		VI	上部部	桶	I a	0.29		12.6	6	3.6		?			ヨコナデ
11	SK1732		VI	上部部	桶	I b	0.35		11.4	6.2	4		?			ヨコナデ
12	SK1729		VI	上部部	長足	I a										ヨコナデ
13	SK1705	3A7 - 12, 4あ15	III - V	底面部	盤	I			25.6							ヨコナデ 口縁のみ
14	SK1707 SD1752 P14	3A4 - 12 - 15 - 18 - 19 - 24 4A4	III - VI	底面部	長脚盤	III										ヨコナデ 内厚把手1・自然筋
15	SK1714		VI	底面部	杯	I			9				?			ヘア切り
16	SK1714 SK1715	4あ1 - 4	VI - VI 上	底面部	有柄杯	I			12	7.4	3.7		?			系切り
17	SK1715 SD1752		VI	底面部	有柄杯	I			11	7	3.9		?			系切り
18	SK1715		VI	底面部	有柄杯	I			12	9	3.5		?			ヨコナデ
19	SK1715 SK1714 P1	4あ10	VI	底面部	有柄杯	I			11	7.4	3.7		?			ヨコナデ
20	SK1715	4あ5 - 10 - 15	III - VI	底面部	有柄杯	I			12	9	3.8		?			ヨコナデ
21	SK1715 SK1732 P20	4あ (9)	VI	底面部	長脚盤	II b										ヨコナデ
22	SK1714	4あ14 - 4A12	III	底面部	長脚盤	II b										ヨコナデ 頂部有段
23	SK1715 SK1715	3あ14 - 15, 4あ (9) 3A19 - 23 - 25, 4A4	III - VI	底面部	長脚盤	II b						22.2				ヨコナデ
24	SK1715 SK1714 P4 - 5	4あ3 - 5, 4A7 - 11	III - VI	底面部	長脚盤	III										ヨコナデ
25	SK1715	4あ (9)	VI	底面部	長脚盤	IV			28	18						タタキ 内面スス・無色化・平底
26	SK1715 SK1714	4あ15	VI上	底面部	長脚盤	IV						8.8	?			ヨコナデ 底面・高台なし・底部ケツリ
27	SK1715	4あ (9)	VI	底面部	盤	I			25							ヨコナデ
28	SK1715 SK1715 SD1811	2A22 3A12	VI	底面部	盤				12							ヨコナデ
29	SK1714		上部部	桶	柄	I b	0.37		11.1	6.1	4.1		?			ヨコナデ
30	SK1714		上部部	桶	柄	I a	0.38		16.4	6.8	6.2		?			ヨコナデ 内黒
31	SK1714		上部部	有柄杯	柄	I			15.8							ヨコナデ 内墨染
32	SK1715	4あ3 - 5 - 10 - 15 4M6	III - VI VI上	底面部	盤	I										タタキ
33	SK1715	3あ25, 4あ3 (9) 4A24	VI上	底面部	盤	I										タタキ
34	SK1715 SK1722	3A14, 4あ (9), 4C14 4D1, 5 - 6B - D	I - VI	底面部	盤	I										タタキ
35	SK1715 SK1722	2C19, 4あ4 (9), 10 - 15 - 20, 4A11 - 14, 5A2	I - VI VI - VI I - 6	底面部	盤	I			62							タタキ
36	SK1730		底面部	長脚盤	II a							10				ヨコナデ
37	SK1725		上部部	長足	II a							?	?			ヨコナデ
38	SK1734	4D23, 4E21	I - III	底面部	長脚盤	II b										ヨコナデ
39	SK1740		VI	上部部	桶	I a	0.31		11.2	6	3.5	?	?			ヨコナデ
40	SK1740		VI	上部部	桶	I a	0.27		13	6	3.5	?	?			ヨコナデ
41	SK1742	5A2	VI	上部部	桶	I a	0.28		12.7	5.2	3.6		?			ヨコナデ
42	SK1742	5A2	VI	上部部	桶	I a	0.27		11.4	5.5	3.1		?			ヨコナデ
43	SK1742	5A2	VI	上部部	桶	I a			5.1			?	?			ヨコナデ
44	SK1742	5A2	VI	上部部	桶	I a			6			?	?			ヨコナデ
45	SK1820		I	上部部	桶	I a	0.30		12.1	6.9	3.6	?	?			ヨコナデ 余計?
46	SK1820		I	上部部	桶	I a	0.33		12.9	6.6	4.3	?	?			ヨコナデ
47	SK1820		I	上部部	桶	I a						6.2	?			ヨコナデ
48	SK1820		I	上部部	桶	I a	0.35		15.5	8	5.5	?	?			ヨコナデ

場合 No.	道種	グリッド	期位	種類	頭幅	分類	高さ 口径	飛行率 /16	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底入深 (cm)	回転 方向	底深調節	体部調整	備考
49	SK1820		I	土鱈類	鰐	I			20							ヨコナデ
50	SK1820		I	土鱈類	小笠	II			15							ヨコナデ
51	SK1820		I	土鱈類	小笠	II			13							ヨコナデ
62	SK1820		I	土鱈類	小笠	II			7.5				?			ヨコナデ
53	SK1736A SD1745 SD1811	3A20, 4-4 4A3 - 4	III - VI VI, I	底走類	長脚類	II b			11.4	12.2			?			ヨコナデ
54	SK1736A SK1797		VI	土鱈類	小笠	II			11.6				?	?		ヨコナデ 口縫内側～各スズ
55	SK1701	2A21	VI	土鱈類	長笠	I a			20							ヨコナデ 下平ケズリ
56	SK1701	2A	VI	土鱈類	長笠	I a			19.4							ヨコナデ 下平ケズリ
57	SK1701	2A	VI	土鱈類	長笠	II			23		26.5					ヨコナデ タキ
58	SK1701		VI	土鱈類	鰐	II a			37		16.1					ヨコナデ 下平ケズリ
59	SK1716			底走類	鰐	II			14	34						天井ケズリ
60	SK1702	2A16 - 18 - 21 3あ2 - 4 - 9 - 10 - 15, 3AS - 11 - 23	III - VI VI, I	底走類	長脚類	IV										外タキ 内ヨコナデ
61	SD700	6C6	I - 7	底走類	有右輪	II			12.8	8.8	3.5		順	ヘラ切り	ヨコナデ	
62	SD700	6C		底走類	鰐	I			16	3.7			?			ヨコナデ 内持ナデ
63	SD700-5	6C13		土鱈類	長笠	II					23.2		?			ヨコナデ チブクね
64	SD1744 P4	3A21 - 22 4A3 - 16, 4B-3	III - VI VI, I	底走類	鰐											ヨコナデ 口縫のみ
65	SD1750		VI	底走類	鰐	I			19.8	4.1			順			ヨコナデ ケズリ
66	SD1792 1753	5A8 - 21 6A1 - 4	III - VI VI, I	底走類	長脚類	II						16				ヨコナデ 体部のみ
67	SD1752		VI	土鱈類	鰐	II	0.00		14.4				?	?		ヨコナデ 内漏
68	SD1753		VI	土鱈類	鰐	I a	0.20		12.4	6.2	3.7		順	無切り	ヨコナデ	
69	SD1753		VI	土鱈類	鰐	I a	0.30		11.8	6	3.5		?	無切り	ヨコナデ	
70	SD1753		VI	土鱈類	鰐	I b					5.6		順	?	ヨコナデ	
71	SD1753		VI	土鱈類	有右輪	II			16.6	7.6	4.6		?	?	ヨコナデ 内漏	
72	SD1814	4C12, 5A4	I - II VI, I	底走類	短脚類				11.4							カギ目
73	SD1814A	I - VI	I - VI	土鱈類	鰐	II b	0.27		14.8	6.2	4		?	無切り	ヨコナデ 内黒	
74	P4	4A24, 5A3	VI	土鱈類	有右輪	II			16.1							ヨコナデ
75	P4	5A3		土鱈類	長笠	I b										外タキ 内ハラ
76	P4	5A3		土鱈類	小笠	I			14				?	?		ヨコナデ 口縫内側スズ
77	P4	5A3		土鱈類	?						19					
78	P7	2A8		土鱈類	鰐	I a	0.29		12	6	3.5		?	無切り	ヨコナデ	
79	P11	3A7		土鱈類	長笠	I a			22.3		(33.4)					外上ケズリ ヨコナデ 内ハラ
80	P13	4A3	表土	底走類	長脚類	II						15				ヨコナデ 白黒鰐・駄子
81	P13	3A9		土鱈類	鰐	II a					4.7					ヨコナデ
82	P16	4A18		土鱈類	鰐	I a	0.31		12.7	6.2	3.9					ヨコナデ
83	P19	4A		土鱈類	長笠	I a									ヨコナデ 下平ケズリ	
84	P19 - 26	4A		土鱈類	鰐	II a			33.2							ヨコナデ ケズリ
85	P26	4A		土鱈類	鰐	I a	0.31		13	6	4		?	無切り	ヨコナデ	
86	P26	4A		土鱈類	小笠	II					5.2		?	無切り	ヨコナデ	
87	P26 - 35	4A13	VI	底走類	鰐	II a			28.8						ヨコナデ ケズリ	
88	P38 P50b	3A17 4A6 - 13	VI上	底走類	長脚類	IV					10.4					
89	P50b	4A6		土鱈類	鰐	I a	0.33		11.6	6	3.8		?	無切り	ヨコナデ	
90	P62	4A7		反鰐	鰐						11					
91	6E23		II - III	底走類	鰐	I			13.2	9	3.2		順	ヘラ切り	ヨコナデ	
92	3F2		I - II	底走類	鰐	I			13	9.2	3.3		順	ヘラ切り	ヨコナデ	
93	4A24, 5A14			底走類	鰐	II			11.6	6.1	3.8		?	無切り	ヨコナデ	
94	T:5A5 - 6A9			底走類	有右輪	I			12.4	7	3.8			無切り→ ナギ	ヨコナデ	
95	4A13 - 15		III - VI VI上	底走類	有右輪	I			12	6.8	3.8		順	無切り→ ナギ	ヨコナデ	
96	4A1 - 2		VI	底走類	有右輪	I			12	7.2	3.4			無切り→ ケズリ	ヨコナデ	
97	4E13		III	底走類	有右輪	II					8		順	ヘラ切り	ヨコナデ	
98	4E21		I	底走類	有右輪	II			12.6	8.2	2.5		?	ヘラ切り	ヨコナデ	

別 表

場合 No.	遺傳	グリッド	部位	種類	部位	分類	高さ 口径	残存率 /16	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	回転 方向	底深調整	体深調整	備考
99	BBG	I - III	頭部器	有台形	II				8.8				前	ヘラ切り	ヨコナデ	内面ナデ
100	2F2	I - III	頭部器	有台形	II				13	8.4	4		?	?	ヨコナデ	
101	2C9 - 24, 3C9 - 19, 3D7	I - II	頭部器	有台形	III				17	11	5.7		前	ヘラ切り	ヨコナデ	
102	5D25	I - II	頭部器	有台形	III				14.6	8.2	5.8		?	?	ヨコナデ	
103	6C7 - 12		頭部器	蓋	I				19		3.9		前	ヨコナデ、 ケズリ	内面手持ナデ	
104	2F21, 3K1		頭部器	蓋	I				17				前	ヨコナデ、 ケズリ	シガミ・浅縫	
105	4A2		頭部器	蓋	II				12.3		2.9			ヨコナデ		
106	5C10	I	頭部器	長脚器	II a				5.4	6	10.7		前			口縫～斜自然船
107	4C10 - 14 - 18 5A18, 5B4	I - VI III - V	頭部器	長脚器	II b							22			ヨコナデ	
108	2B6, 3A14	V	頭部器	長脚器	II b								前	あ切り	ヨコナデ	
109	3A16		頭部器	長脚器	II b						8			ヨコナデ、 ケズリ		
110	4A12 - 13 - 17	III - VI 上	頭部器	長脚器	II b				7.5	7.6	21.2		?	あ切り	ヨコナデ	
111	3A18 - 21, 4A1 - 7 - 15	III - VI	頭部器	長脚器	III							18.5			ヨコナデ	
112	Ts4.8 - 9 - 10		頭部器	蓋	I						30.6				ヨコナデ	
113	4A8 - 10, 4A2	V - VI 上	頭部器	蓋										タタキ	同一個体(113～116)	
114	2F17, 3F18	I - III	頭部器	側											ヨコナデ	同一個体(113～116)
115	3E5 - 12	II	頭部器	側											ヨコナデ	同一個体(113～116)
116	3F11	II - III	頭部器	側											ヨコナデ	同一個体(113～116)
117	5D19	I	頭部器	側板					10					内タタキ		
118			土瘤器	桿	I a	0.30			12.4	5	3.7		?	あ切り	ヨコナデ	
119	5あれ5	VI a	土瘤器	桿	I a	0.30			12.6	7.6	3.8		?	あ切り	ヨコナデ	内面使用痕
120	4A24		土瘤器	桿	II b						6.6		?	あ切り	ヨコナデ	
121	4A11 集中	VI	土瘤器	桿	II a	0.34			18.6	7	5.3		?	あ切り	ハクタ	
122	6C14	I - III	土瘤器	有台形					39.0	20.6	4.8			ヨコナデ		
123	4A6	VI上	土瘤器	蓋	II a				37.2					ヨコナデ、 タタキ		
124	Ts4A18		土瘤器	蓋	II a				34.8					ヨコナデ、 タタキ		
125	3A20	VI	土瘤器	蓋	II b				33					ヨコナデ、 タタキ		
126	4A11 集中	VI	土瘤器	長蓋	I a				24.5					ヨコナデ		
127	4C3	I - II	土瘤器	長蓋	II a				19.8					ヨコナデ		
128	3B20	I - II	土瘤器	コシケナ										把手?		
129	2F23		軸輪	車					14					ヨコナデ		
130	SE385	4D12 - 13	中骨 土瘤器	蓋	I a				5				前	あ切り	粗状高台	
131	SE385		中骨 土瘤器	蓋	II b	0.30			12.5	6.4	3.7			手づく ねたび	口縫部ナデ	直張使用痕
132	SE385	4D12 - 13	青縞	柄					6					内タタキ		見込み文庫
133	SE420	3E23	4 - 6 7 - 9	珠潤	蓋T				26.6					タタキ		
134	SE420	3C23 - 24, 3E23 - 24	I - II II - 6	珠潤	蓋T				21.4	10			?	?	タタキ	
135	SE420	2D3, 2F21 - 23, 3C19 - 23, 3D5 - 12, 3E22 - 24 4E4 - 5	4 - 6 1 - 6	珠潤	蓋灰				12	8.0	18.4	16.5			ヨコナデ	波状文2段
136	SE420	3C25, 3E15 - 23, 24, 4E4	I - II 6 - 6	珠潤	錫 片口錫	II			26.2					ヨコナデ	細かいクシヘ - 7本	
137	SE420	3C23	中骨 土瘤器	蓋	I a				8.8	5.8	3.6		?	あ切り	ヨコナデ	内凹
138	SE420	3C23	中骨 土瘤器	蓋	II b						4.4		?	あ切り	ヨコナデ	
139	SE420	3E23 - 24	6	中骨 土瘤器	蓋	I b	0.32		8.4	3.8	2.7		?	あ切り	ヨコナデ	
140	SE420	3C23	中骨 土瘤器	蓋	I c	0.22			7.2	5	1.6		?	あ切り	ヨコナデ	
141	SE420	3C23	中骨 土瘤器	蓋	I c	0.22			7.4	4	1.6		前	あ切り	ヨコナデ	
142	SE420	3C23	中骨 土瘤器	蓋	I c	0.22			8.2	4.8	1.8		前	あ切り	ヨコナデ	
143	SE420	3C23, 3E23	7 - 9	中骨 土瘤器	錫				17					ヨコナデ		
144	SE420	3C23	中骨 土瘤器	錫?							7.2		前	あ切り	ヨコナデ	
145	SE430	4D14 - 15	1 - 4	珠潤	錫 片口錫	II					11.6		?	止 あ切り	ヨコナデ	
146	SE430	4D14 - 16	4	珠潤	錫 片口錫	II					28		?	?	ヨコナデ	

場合 No.	遮線	グリッド	部位	種類	部位	分類	高さ 口径	内径半 径/16	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底入深 (cm)	回転 方向	底座調整	体部調整	備考
147 SE430	4D14 - 15		珠鋼	珠 片口錠	皿				26						ヨコナデ	
148 SE430	14D14 - 16	1-0	青龍	皿						16						内面文様
149 SE470	SC15	14	珠鋼	鏡T						27.6						タタキ 内面底
150 SE490			中世 土彌形	皿	1b	0.32			8.7	4.6	2.8		逆	曲切り	ヨコナデ	
151 SE490			中世 土彌形	皿	1b					5.3			?	曲切り		
152 SE490			中世 土彌形	皿	1b					5.4			順	曲切り		
153 SE490			中世 土彌形	皿	1c	0.23			7.4		1.7			曲切り		
154 SE490			中世 土彌形	皿	1a	0.18			8.3		1.5			手づくね		
155 SE490			中世 土彌形	皿	1a	0.21			7.8		1.6			手づくね		
156 SE490			中世 土彌形	皿	1a	0.19			8.4		1.6			手づくね		
157 SE490			中世 土彌形	皿	1a	0.18			8.5		1.5			手づくね		
158 SE490			中世 土彌形	皿	1a									手づくね		
159 SE490			中世 土彌形	皿	1a	0.22			7.7		1.7			手づくね		
160 SE490			中世 土彌形	皿	1b	0.27			12.8		3.4			手づくね		
161 SE490			中世 土彌形	有台皿					8	5.3 (W)	5.1					
162 SE490			青龍	皿											見込み文様	
163 SE490	6		青龍	皿						5.6(W)						
164 SE490			白龍	皿						15.2						
165 SK560	9 - 10		珠鋼	鏡							8.6					波状文
166 SK560	9 - 10		珠鋼	鏡	1					39.4						内面ハゲル
167 SK560	SE22	1	珠鋼	珠 片口錠	II								順	曲切り	ヨコナデ	内面白銀板
168 SE560	9 - 10		珠鋼	珠 片口錠	II				21.2							
169 SE560			中世 土彌形	皿	1b	0.33			8.8	4.2	2.9		順	曲切り	ヨコナデ	内面スヌ
170 SE560			中世 土彌形	皿	1b	0.27			9	4.5	2.4		順	曲切り	ヨコナデ	全面スヌ
171 SE560			中世 土彌形	皿	1b	0.26			8.8	4	2.3		順	曲切り	ヨコナデ	内面スヌ
172 SE560			中世 土彌形	皿	1b	0.31			8.4	4	2.6		順	曲切り	ヨコナデ	全面スヌ
173 SE560			中世 土彌形	皿	1b	0.26			8.6	4	3.1		順	曲切り	ヨコナデ	全面スヌ?
174 SE560			中世 土彌形	皿	1b	0.32			8.7	4.2	2.8		逆	曲切り	ヨコナデ	内面スヌ
175 SE560			中世 土彌形	皿	1b	0.25			9.2	4.5	2.3		順	曲切り	ヨコナデ	内面スヌ
176 SE560			中世 土彌形	皿	1b	0.32			8.7	4.2	2.8		順	曲切り	ヨコナデ	内面スヌ
177 SE560	9	中世 土彌形	皿	1b	0.35				8.4	4.4	2.9		順	曲切り	ヨコナデ	スヌ?
178 SE560	9	中世 土彌形	皿	1b	0.28				8.8	4	2.5		順	曲切り	ヨコナデ	二次焼成
179 SE560	9	中世 土彌形	皿	1b	0.28				8.5	3.8	2.4		順	曲切り	ヨコナデ	二次焼成
180 SE560			中世 土彌形	皿	1a				(8)	16.8	1.2			手づくね	ヨコナデ	二次焼成 ひげけ
181 SE580	PC3		青龍	皿						15						
182 SK1504	1		珠鋼	珠 片口錠	II				28.6	1.5	10			静止系切り	ヨコナデ	五本クシ 7本
183 SK1712			珠鋼	鏡	1					34.6						
184 SK1712	V1		珠鋼	珠 片口錠	III				31					ヨコナデ	6本クシ	
185 SK1719	10		珠鋼	珠 片口錠	II				24.5	10.6	10.4		逆	静止系切り	ヨコナデ	
186 SE1719	V1 - 10		珠鋼	珠 片口錠	II				29.9							10本クシ
187 SK1000	9F3 - 4		珠鋼	鏡	1				42						タタキ	
188 SK1000	9F3 - 4		中世 土彌形	皿	1a	0.18			8.2	5	1.5			ヨコナデ	手づくね	
189 SK1721	V1		珠鋼	珠 片口錠	II				[27.6]						3本クシ	
190 SK1721	V1		中世 土彌形	皿	1d	0.24			9.8	6	2.3		?	?	ヨコナデ	
191 SK1721	V1		中世 土彌形	皿	1d	0.24			9.8	5.4	2.3		順	曲切り	ヨコナデ	

## 別 表

場合 No.	造様	グリッド	部位	種類	部位	分類	高さ 口径	内径半 径(cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	最大深 (cm)	回転 方向	底深調整	体部調整	備考
192 SX48	4F1		青緑	網							6.1					底深高台内露筋
193 SX1508			中根 土彌器	網	I c	0.25		8	5.1	2				曲切り	ヨコナデ	スス・灯明面
194 SX1508			珠潤	目口錦												
195 SX1508			珠潤	目口錦												
196 SD700	6C6		中根 土彌器	網	II c						6.4			手づくり	ヨコナデ	
197 SD700	6C6	II	珠潤	網							18					側面花模様
198 SD753		V1	珠潤	目口錦												10本クシ
199 P3	4あ		青緑	網							6					更熱・足込み・花 形・高台内露筋
200 P99	SD12		中根 土彌器	網	I b	0.31		8.1	3.7	2.5			回転系切 り		ナデ	
201 P1130			珠潤	縫り錦												
202 P1187	8E5・10		中根 土彌器	網	II c						12			手づくり	ナデ	
203 P1515	6C6		?	?							7.6			曲切り		底深穴
204 P1606			珠潤	目口錦							27					
205 a	ZAG・15・17・21 4A4	III~V	珠潤	網												
205 b	ZAG・15・17・21 4A5	III~V	珠潤	網												
206	4あ20		珠潤	網										ダタキ		「印」の字
207	4あ19		珠潤	網												
208	IE25・287	I・III	珠潤	目口錦	I				16.2					ヨコナデ		
209	4D19	I・II	珠潤	目口錦	I				18					ヨコナデ		
210	4C14	I・II	珠潤	目口錦	II				26.4					ヨコナデ		
211	2D17	I・II	珠潤	目口錦	II				[39.3]					ヨコナデ		細かいカシ13本・幅 波状
212	3D3	I・V	珠潤	目口錦	II				27.8					ヨコナデ		
213	4A3		珠潤	目口錦					8				曲切り			
214	4A22		珠潤	目口錦							12			静止系切 り		
215	5F25		珠潤	縫り錦										ヨコナデ		細かいカシ
216	8E18	I・III	珠潤	網										ヨコナデ		底深穴
217	10H1	I	珠潤	縫り錦										ヨコナデ		波状文・4本クシ
218	4A6	V1	珠潤	目口錦	N				28					ヨコナデ	三本クシ	
219	4E23	I・II	中根 土彌器	網	I a				5.5				回転系切 り		ナデ	
220	5E24	II・III	中根 土彌器	網	I b	0.33		8.5	3.8	2.8			回転系切 り		ナデ	
221	5D1	III	中根 土彌器	網	I b	0.32		8.4	4.3	2.7			回転系切 り		ナデ	
222	2B8	I・III	中根 土彌器	網	I b								回転系切 り		ナデ	
223	4・8・10	III	中根 土彌器	網	I c	0.22		8.5	5.2	1.9			回転系切 り		ナデ	内外面スス
224	5E24	III	中根 土彌器	網	I c	0.21		6.2	4.4	1.3			回転系切 り		ヨコナデ	
225	5E3	中根 土彌器	網	II a'	0.32			8.4	4.6	2.7					ナデ	内外面黒色
226	7D13	I・III	中根 土彌器	網	II c	0.00		10.4					手づくり		ナデ	内スス
227	6D5	I・III	中根 土彌器	内耳鍵												
228	3D24	I・II	中根 土彌器	網	?				17					ヨコナデ		波状文
229	2D21	I・II	青緑	網					17							
230	3P9	I・II	青緑	網					14.8							無文
231	2E12	II・III	青緑	網					14.4	8	4.1					無物・足込み・花 形・高台内露筋
232	3F4	II・III	青緑	網												口縫なし・内外面黒色
233	5F25		繩口?	?					5.4							波状?足込み内円形筋 はざ・すれ・まもう
234	6B6	I・II	繩口?	波組					14					ヨコナデ		
235	SE610		越中	?					10					ヨコナデ		
236	SE610		越中	?					11.2					ヨコナデ		
237	SE670	SD20	越中	?							11			曲切り	ヨコナデ	

報告 No.	遺跡	グリッド	層位	種類	頭椎	分類	高さ 口径	口径半 径/16	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底人深 (cm)	回転 方向	底深調査	体部調査	備考
238 SK1507	11P24			越中	董				10.6				13.5	順		
239 PF46	7E12			唐津	櫛り跡				31							
240	2D11	I・II	伊万里	董												「福貴長舟」
241	4D20	I・II	伊万里	董					13.4	6.8	2.6					見船跡
242	2P23	I・II	唐津	董	I型						4.2					前止・船唐津
243	3P20			唐津	董						4.6					京焼風・口縁なし
244	4P25	I・II	唐津	櫛り跡					31.2							鉄船
245	6D5	I・II	唐津	櫛り跡					34.4							
246	6D5	I・II	唐津	櫛り跡					23							
247	2E16	I・II	越中	小柄			6	4.2	3.3				順	赤切り	鉄船・舟下・底部切跡	
248	4E1	I・II	越中?	鉢?			20.5	13.6	8					赤切り	ヨコナギ	
249	3E16	I・II	越中?	幻明彌										赤切り	内曲つまみ・スズ	
250	6D5	I・II	?	?			7	3.5	5.1					赤切り?	手下・底岸面	
251	5F14	III	?	董					3				?	?	高台村(小部)	
252	4C12	I・II	?	?					7						高台・赤地? (土塁?)	
253	4F21	I・II	?	盤			15.8									鉄船
254	3P19	I・II	?	?					5.2							中央?
255	5F1	I・II	瓦質	?			7.2									内部?
256	4C18	I・II	瓦質	?			19.4									盤
257	6E5	笠置 近世 上層部	董				36						順			内外曲輪船
258	5B8	I・II	瓦	布田												
259	3D16	I・II	瓦	布田												
260	4D22		瓦	布田												
261	5F11	田	瓦	布田												
262	4E24	I・II	瓦	イグニ瓦												
263	8P21	I・II	瓦	軒丸												
264	6G21	I・II	瓦	軒丸												
265	4F2	瓦	軒丸													
266	5F20	瓦	軒丸													
267	7C10	田	田口													

別表3 海道遺跡 掘出し物觀察表（木製品）

報告 No.	通番	グリッド	層位	法量 (cm)			幅	高さ	底深	底面	幅	高さ	底深	底面	幅	高さ
				長	幅	厚										
268	SE150		縦? 縮	6.8	5.2	1.2										縫り縫を込んでる
269	SE100	3D11	平明	11.9	5.65	2.3	トチノキ									形状不規則、底面に幅1cmの草先底
270	SK130	3C22 - 23	縦縞	7.7	4.5	1.9										底面約15cmの円筒と考えられる、中心でハコ形、文字なし
272	SE420	30-23	有白瓦 潜窓	(横) 3.7												内外曲輪、被熱、積木底
293	SE420		不明 足付き	14.85	14.6	2.6										前面下脚の足、背面側け痕
294	SE420		實体木製品	3.8	0.7											変化している
295	SE420		曲げ物板	14.1	3.3	0.4	スギ									幅付用、内曲げき
296	SE420	4D14 - 15 - 19 - 20	實体木製品	19	0.7	0.6	スギ									曲面丸く変化
297	SE420	4D14 - 15 - 19 - 20	實体木製品	6.8	0.4	0.4	スギ									変化や丸く
298	SE420	4D14 - 15 - 19 - 20	平明 ボタン状木製品	1.7	1.5	0.3										圓筒薄ぐ丸み、穴小さい
299	SE420	4D14 - 15 - 19 - 20	漆材	14.35	1.1	0.8	スギ									前面に貼り穴(3mm)とそれに直営する穴(縫約7mm)がある。小穴間隔4.2cm、大穴間隔6cm
300	SE420	4D14 - 15 - 19 - 20	曲げ物板	14.5	1.9	0.4	サワラ									幅付用、木穴
301	SE476	SC5, SD11	曲げ物板	3.1	8.6	0.8										内曲げき、外曲げ、押え木(釣り穴か)
302	SE476	SC5, SD11	曲げ物板?	5.3	2.9	0.8	スギ									削り片?
303	SE476	SC5, SD11	糸の柱	11.7	5.1	4.8	カリ									糸の柱らしく切跡、糸とする
304	SE490	SD1 ~ 6	董 (漆)	(横) 3.9			(高) 1.35									底部をよく内外曲面底、横木取
305	SE490	SD16	じゅもじ? 釣子板木製品	13.6	3.5	0.4										幅付用、左右非対称
306	SE490	SD16	實体木製品		0.5	0.4	スギ									先端部分に削りくなる
307	SE490	SD16	實体木製品	9.6	0.65	0.3	スギ									前面丸形
308	SE490	SD16	實体木製品	6.9	0.9	0.92	クリ近鉤脚									前面丸形
309	SE490	SD16	實体木製品	12.6	0.5	0.5	スギ									先端丸く変化
310	SE490		實体木製品	14.7	0.8	0.5	スギ									前面四角
311	SE490		實体木製品	17.8	0.8	0.5	スギ									前面四角
312	SE490	SD16	實体木製品	22	0.55	0.3	スギ									前面長形
313	SE490	SD16	曲げ物板	18.35	7	0.5	スギ									内曲げき、板目
314	SE490	SD16	利明木製品 (板材)	31.7	3.3	0.4	スギ									端面こげ、板目材
315	SE490	SD16	曲げ物板	25.7	2.4	0.2	スギ									接着部隙違え、空の穴、板目材
316	SE490	SD16	平明木製品 (板材)	16.3	3.1	0.5	スギ									穴あり
317	SE490	SD16	曲げ物板	25.7	5.3	0.5	サワラ									木釘跡、板目

## 別 表

番号 No.	通帳	グリッド	種類	法寸 (cm)			細則	備考
				長さ	幅	厚さ		
318	SE490		丸きり四?	18.9	1.6	1.2	スギ	丸きりの直脚なし。矧み開脚狭く、丸きり一定せず
319	SE490	SD16	轍	3.25	3	0.9		白木の轍
320	SE490	SD16	近板(※活用しているか) 木柄(半切形)	6.1	1.7	0.3		曲げ物直板、火による穴
321	SE490	SD16	不明木製品(板状)	7.5	1.8	0.5	スギ	両面に丸ぐり、切り込み(セリ形?)
322	SE490	SD16	不明木製品(板状)	10.4	1.6	0.6	スギ	直脚中央部や軒ぐりみ、斯面かまぼこ状
323	SE490	SD16	板舟	11.55	4.5	0.3	スギ	縦目、両端切脚、薄い
324	SE490	SD16	板舟	8.2	4.6	0.9	クリ	全く不明
325	SE490		不明木製品(板舟)	43.4	4.4	1	スギ	縦目、端脚斜め切り口
326	SE490	SD16	不明(棒状)	22.7	1.3	0.82	スギ	両面丸く、ヘラ状
327	SE490		不明(棒状)	24.2	1.3	1.1	ヒノキ料	鶴材利用、斯面内形(丸きり形?)
328	SE490	SD16	不明	21.7	3.6	1.9	コナラ属アカシヤ便箋	斯面西側、片側削脚、丸ぐり
329	SE560	SE22, 4E2	曲げ物直板	15.3	14.6	1.6	ヒノキ料	鉄六石頭、内面古物書
330	SE560	SE22, 4E2	曲げ物板舟	7.2	3	0.3	スギ	縦目利用、けびき、木舟元
331	SE560		板舟	37.5	13.3	3.8	モクレン属	片面焼火
332	SE560		曲げ舟	15	14	2.2	スギ	●部分、正面板を少し、西側に棹木をめ込むタイプ、 少し丸ぐりみが混在する。棹木を留める木打が凹溝 に残る。中央に楕円形の穴穴(近板3.5cm)がある他、 一隅に径1.3cmの穴もある。縦目利用
333	SE560		曲げ舟	14.5	13.6	2.5	セワラ	
334	SE560		不明木製品(板状)	17.7	3.3	2.8	モクレン属	鶴材黄材、両面加工
335	SE560		不明	9.5	2.8	2.1	モクレン属	直脚状、鶴材加工
336	SE560	SE22 - 4E2	不明	8.5	1.95	0.48	モクレン属	直脚扁平板、径5mmの通穴(△3.3cm開脚)
337	SE590		舟形木製品	30.8	7.9	3.3	スギ	鶴材利用、削い溝あり、未品?
338	SE590		折伏板舟	29.5	6.6	0.2	スギ	縦目、釘目、背面埋み
339	SE590		不明板材 植物板	31.9	13	0.7	スギ	縦目、舟形便箋工場、植物等削平せず(ちょうど雪割り)
340	SE590		漆材	33	4	1	スギ	過渡からばく丸丸、過渡多くの変名、径6mm、 20mm、板舟
341	SE590		板舟	45	8.3	2.6	スギ	縦目、難燃性くなる
342	SE610	SE12 - 17	漆舟柄					舟面墨、内面赤墨、模木型
343	SE610		船形木材	13.3	4	0.8	スギ	西端木舟、舟面舟所付近に、延板
344	SE610		織機脚?	15.4	5.85	1.3	セワラ	舟面削み、下部薪による埋込み
345	SE610		脚?	9.3	1.2	0.5	スギ	舟面長方形、3個の穴、(径2~3mm)
346	SE610		板舟材	46.8	8.9	2.8	クリ	直脚
347	SE630		下駄	21.2	12.2	6.45	セワラ	過渡、平底木、側面埋み、右半面、切削跡
348	SE630		脚?	16.4	4.2	1.3	スギ	舟面墨、外表面墨丸み、内面半し。過渡二角形状に変る
349	SE630		コモヅチ	19.2	4.3	3.8	モクレン属	丸木、半周のみ丸削り丸くやり
350	SE630		コモヅチ	10.3	3.5	3.8	セワラ	丸木、半周ために丸ぐり
351	SE630		コモヅチ	14	3.3	3.2	クリ	丸木、半周丸ぐり(中心丸いやはずれ)
352	SE630		コモヅチ	21	3.7	3.6	クリ	丸木、半周丸ぐり、部分的に皮膜あり
353	SE630		コモヅチ	11.6	3.8	3.4	クリ	丸木、半周のみ丸削り丸くやり、丸ぐり側面凹
354	SE630		コモヅチ	20	4.5	3.5	クリ	丸木、半周のみ丸削り丸くやり
355	SE630		曲げ物直板	32.3	16.2	1.5	スギ	縦目利用、釘目埋入
356	SE630		曲げ舟	29.2	7.95	1.4	スギ	縦目利用、物置跡、木打跡なし
357	SE630		曲げ物直板	23.85	6.7	1.45	スギ	縦目利用
358	SE670		書代木製品?	21.9	0.7	0.7	スギ	生地少し丸る、茎葉条色材植物
359	SE670		黒状木製品	6.3	0.6	0.5	アラチコ近似種	瓦屋又船
360	SE670		用途不明	51.6	2.7	1.9	クリ	直脚状、長脚の「ノヨゴ」ほど丸ぐり
361	SE670		板舟	36.6	9.9	0.85	ヒノキ	一端切削痕、90°以上、板舟
362	SE900	SE13	船形脚?	34.4	11.85	1.3	セワラ	上丁方向に等間隔の穴打、中央に溝、難燃性くなる。内 面瓦刀物
363	SE900	SE13	板舟	31.8	8	1.7	スギ	板材材、両面木打跡2個、油面底板か
364	SE1241		不明板材 片舟(スヌ材) 曲げ物脚?	8.2	2.7	0.3	アヌナロ	中や内溝
365	SE1248		木組 船脚	(底) 7.1	(丁) 8.5	(高) 0.9	ヤハガ近似種	内外面墨跡、底面白木、模木底
366	SE1248	GC16	轍	(底) 7.3	(丁) 9.6	(高) 1.3		内外面墨跡、模木取
367	SE1250	59/24 - 25	曲げ物の一部脚板	15.9	14.5	1	ヒノキ	天井墨跡、内面けびき、板舟による留め、板舟脚
368	SE1387	60/10, 60/6	7脚	19.9	9.5	4.85	クリ	半面脚脚、過渡、足跡なし、切削
369	SE1500		曲げ物直板	23.2	12	1.8	スギ	木綿織化
370	SE1717	AA	曲げ物脚	16.4	9.9	0.1	スギ	縦目板舟脚、縦脚木舟脚、背景に溝
371	SE1717	AA	曲げ物直板	19.9	22.1	1.8	カラマツ	縦目板舟脚、側面穴
372	SE1717	AA	曲げ物直板	19.9	14.9	8	ヒノキ	縦目、内面瓦刀物
373	P445	4/2	柱舟	44.6	18.8	15.5	クリ近似種	丸木利用、底面調査
374	P927	6F18	柱舟	25.1	11.6	8.4	コナラ属コロナリ属異國ナラ	丸木利用
375				18.4	10.2	0.8		本表皮
376			曲げ舟	(高) 30.5	19.1	19	スギ	触受け墨紙み合せれど、木舟少し込み。木舟による留め
377			曲げ舟	(高) 20.5		12.3	スギ	内側、茅手で木打及び底面、内面けびき。その 内側も一俵一俵で木打仕上げ、内側約2.7cm低い(蓋が つくか)。底面は側面から木舟留め、内面付物
378			漆材	30	4.6	0.9	セワラ	板状漆材、両面に2個一対の穴、片面に物切り面

別表4 海道遺跡 掘出遺物観察表（石器・石製品・金属製品等）

報告No.	遺構	グリッド	所位	種類	石質	長軸(cm)	短軸(cm)	幅(cm)	重さ(g)	備考
268	SK1365	8G7		石碑	(上)浮	29.2	(高)10	(底)16.8	2,130	
269	SE1718	4A	10	五輪塔		26.1	24.9			
270	SE1718	4A	S8	石臼	(中)	31.3		14.3	12,040	
271	P249	IE18		砾石		8.5	3.9	3.7	147	
272		ZE15	I ~ III	穂		12	4.3	1.4	130	表面も使用
273	SE1390			五輪塔?		27.2	26.5	(高)21.4	22,500	
274	SE1390			五輪塔?		24	23.8	(高)20.3	18,620	
275	SE1500			砾石?		20.5	10	6.8	1,550	
276	SE1500			?		19.8	15.3	6.9	2,700	
277		4E19	I ~ III	砾石		9.6	3.1	3.5	180	
278		4D24	I ~ III	砾石		10.4	3.4	2.9	153	
279		4あ3、P9 - Cゾコ		砾石		6.2	3	2.9	70	
280		4F21	I ~ III	砾石		8.6	6.5	1.1	91	
281		3E16	I ~ II	砾石		7.6	5.5	1.2	79	
282		6F17	B - III	砾石		4.2	3.7	1.5	33	
283		6B10	I - III	砾石		6.2	5.9	2.2	112	
284		4D20	I - II	砾石		6	5.2	1.9	88	
285		4A11	VI層上	石椎?		10	9.1	5.2	630	
286		5F24		石椎?	(中)	10.2		1.8	210	
287		3A15	V	块状耳飾?	滑石	(長)3	(厚)0.7	0.9	3	
288		4E14	I ~ III	石雕	黒曜石	2	1.8	0.5	1,27	
279	SE420			ひょうたん						
380		3A11	V	土器		(長)4	(厚)1.2	(宍)0.4	2	
381	SE1712	4あ		刀子	鉄	12.8	2.3	0.5	24.88	
382	SE130	3C22 - 23		山形	鉄	12.9	4.6	1.3	37.09	

別表5 大塚遺跡 遺構一覧表

1995 (H7)										
種別	グリッド	性格	時代	長径	短径	深さ	出土遺物			
95SK 1	16J	壁穴住居	縄文後期	2	1.5	0.12	土器・土偶・球状土製品・磨製石斧・砾石			
95SK 2	14J	溝し穴	縄文早期	1.35	1	1.2	土器			
95SK 3	14J	溝し穴	縄文早期?	0.9	0.78	0.95				
95SK 4	13K	溝し穴	縄文早期?	0.92	0.9	0.92	特殊磨石・磨石類			
95SK 5	13K	溝し穴	縄文中期?	1.2	1.06	1.26				
95SK 6	12L	溝し穴	縄文中期?	1	0.93	1.4				
95SK 7	13L	土坑	縄文	0.76	0.71	0.75	土器			
95SK 8	13M	土坑	縄文早期	0.71	0.71	0.76	土器			
95SK 9	11 - 12K	土坑	縄文早期	2.15	0.7	0.48	土器			
95SK 10	14K	土坑	縄文中期	0.78	0.76	0.65				
95SK 11	3L	窟室	古代以降	0.93	0.84	0.3				
1996 (H8)										
種別	グリッド	性格	時代	長径	短径	深さ	出土遺物			
96SK 1	13B	土坑	縄文?	0.7	0.5	0.3				
96SK 2	11B	土坑	縄文?	0.9	0.67	0.3				
96SK 3	11C	鍵窓?	古代以降	2.07	1.45	0.38				
96SD 2	16KL	方形凹面溝	古代以降	0.4~0.6	0.1~0.2					
1997 (H9)										
種別	グリッド	性格	時代	長径	短径	深さ	出土遺物			
97SK 4	18L	フ拉斯コ?	古代以降	0.85	0.85	0.4				
97SK 8	18L	フ拉斯コ?	?	1	0.7	0.4				
97SK 9	18L	フ拉斯コ?	?	0.9	0.7	0.4				
97SI 10	19 - 20LM	壁穴住居	古墳	4.4		0.5	土師器			
97SK 12	18L	フ拉斯コ?	?	0.8	0.8	0.4				
97SD 13	20 ~ 24LM	新しい溝	近世以降	0.6	0.25					
97SI 17	19M	新旧溶接窓	平安	7.05	1.38		瓦			
97SD 18	16M	SD2鍵窓?	古代以降	0.6	0.2					
97SK 96	16H	土坑	縄文	1.2	1.2	0.3	土器底部			
97SK 98	16H	溝し穴	縄文中期?	1.2	1	1.1				
97SK 102	17G	溝し穴	縄文中期?	1.2	0.94	1.45				
97SK 108	15I	溝し穴	縄文中期?	1	1	1.15				
97SK 109	15I	溝し穴	縄文中期?	0.88	0.88	1	集石・土器			
97SK 110	15I	フ拉斯コ	縄文中期初	1.6	1.6	1.1	打製石斧・磨石・土器			
97SK 111	15I	土坑	?	1.8	1.8	0.15				
97SK 117	13G	フ拉斯コ	?	0.8	0.8	0.5				
97SK 131	?	?	縄文早期							
97SK 137	11G	土坑		1.5	1.1	0.4				

別表6 大塚遺跡 掘出遺物觀察表（縦文・弥生）

1. 確認既：×有りせず ○含まず ○含みます ①多く含む ②色調 「高麗 楽器と色彩」小山・竹原(1994)による。  
 2. 第1・2・3石：柱石・瓦石・埴輪・角石・チャート、白：白色粘土、無色等の範囲により多く出土されたものから記した。

報告No.	グリッド	南偏	遺構	埋積	時期	器種	分類	目測(cm)	出土	編號	色調(直)	色調(直)	文様	備考	
401	SK2	縦文	?	深鉢	Ⅲe				×	灰黄褐	灰褐		2本洗錠		
402	SK2	縦文	?	深鉢	Ⅲe				白	灰褐	褐		灰文		
403	SK7	縦文	早期	深鉢	Ⅲa				×	に赤い黄褐	褐		洗錠 及び鉄劍		
404	SK7	縦文	早期	深鉢	?				×	煙	煙		銀文		
405	SK7	縦文	?	深鉢	?				砂	明褐色	褐		無文		
406	SK8	縦文	早期	深鉢	Ⅲ				白	に赤い黄褐	に赤い黄褐	口付銅戈錠			
407	SK8	縦文	?	深鉢	Ⅲb				砂	明褐色	明褐色		化粧		
408	SK8	縦文	早期	深鉢	Ⅲa				砂	煙	煙		灰文。具頭直底		
409	SK8	縦文	早期	深鉢	Ⅲa				砂	煙	煙		灰文。具頭直底		
410	SK8	縦文	早期	深鉢	Ⅲb				白	に赤い黄褐	に赤い黄褐	平行起線			
411	SK8	縦文	?	深鉢	Ⅲe				砂	明褐色	褐		釐毛丸頭		
412	SK9	縦文	早期	深鉢	Ⅲa				砂	灰黄褐	灰黄褐	鐵頭	鐵頭。具頭直底		
413	SK131	縦文	中期	深鉢	Ⅲc				砂	◎	灰褐	灰褐	内板無文		
414	5 SK110	縦文	中期前	深鉢					長	明褐色	褐		口付銅鑿。平行起線。折り出し		
415	7 SK140	縦文	中期前	深鉢					長	煙	灰褐		くの字状起線。平行起線		
416	158.32	楕上	SD2	縦文	中期前	深鉢			×	明褐色	赤褐色		縦。斜。斜Y字彫画。手付起線		
417	SII	縦文	後期	深鉢	16				白	浅褐色	黑褐		口付銅鑿。平行起線。折り出し		
418	SK96	縦文	?	深鉢	?				白	○?	赤褐色	赤褐色	口付無文。うい		
419	14K	田	縦文	早期?	深鉢				×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	無文	裏面によるハバ全面		
420	15K	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			○	に赤い黄褐	に赤い黄褐	山形押型			
421	15K	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			○	に赤い黄褐	に赤い黄褐	山形押型			
422	15K	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲd			白	○	に赤い黄褐	に赤い黄褐	筋形押型文		
423	3K	I	縦文	早期	深鉢	Ⅲd			白	○	に赤い黄褐	に赤い黄褐	筋形押型文		
424	3K	I	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			砂	灰	灰褐	灰褐	具頭直底		
425	14J3	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			白	×	褐	白	に赤い黄褐。具頭直底		
426	14J3	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			白	×	褐	白	に赤い黄褐。具頭直底		
427	11L	縦文	早期	深鉢	Ⅲa				白	×	褐	白	口付銅鑿		
428	12M	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	灰	具頭直底		
429	14M	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	平行起線	平行起線。具頭直底		
430	11P16	縦文	早期	深鉢	Ⅲa				白	×	赤褐色	褐	洗錠。具頭直底		
431	11L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			×	灰	灰褐	灰褐	具頭直底		
432	11M, 12L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底	432 - 435 - 461同一脚		
433	13L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			砂	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	具頭直底	内部屈折部	
434	14M	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	具頭直底	具頭直底		
435	3K	I	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	具頭直底	具頭直底		
436	11D25	三層下	縦文	早期	深鉢	Ⅲa	右・長		×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底			
437	13K	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底			
438	13K	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底			
439	13L, 23	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲa			白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		
440	11J20	縦文	早期	深鉢	Ⅲa				砂	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	具頭直底		
441	11J21	縦文	早期	深鉢	Ⅲa				白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		
442	12M	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			×	?	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		
443	13M	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲd			白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		
444	12L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			×	灰	灰褐	灰褐	洗錠。放文		
445	13L	田	縦文	早期	深鉢	?			?	?	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠		
446	12G11	縦文	早期	深鉢	Ⅲb				白	×	灰褐	褐	洗錠。具頭直底		
447	14L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底			
448	14L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底			
449	12C22	縦文	早期	深鉢	Ⅲb				白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		
450	14M	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	平行洗錠。放文		
451	12K22	縦文	早期	深鉢	Ⅲb				白	×	に赤い黄褐	明褐色	洗錠。具頭直底		
452	14L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	平行洗錠。具頭直底		
453	13J21	縦文	早期	深鉢	Ⅲb				白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		
454	14J3	縦文	早期	深鉢	Ⅲb				白	×	灰褐	灰褐	洗錠。具頭直底		
455	13L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底	432 - 435 - 461同一脚	
456	13E2	縦文	早期	深鉢	Ⅲb				白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		
457	11N	縦文	早期	深鉢	Ⅲb				白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		
458	13L	縦文	早期	深鉢	Ⅲb				白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		
459	11M	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			白	×	褐	黑褐	洗錠。具頭直底		
460	12L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			白	×	褐	褐	洗錠。具頭直底		
461	12L	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲb			白	×	に赤い黄褐	に赤い黄褐	平行洗錠。洗錠。具頭直底	432 - 435 - 461同一脚	
462	13L・E	田	縦文	早期	深鉢	Ⅲc			白	◎	灰褐	灰褐	平行洗錠。洗錠。具頭直底	664 - 667 - 662同一脚	
463	12L	縦文	早期	深鉢	Ⅲc				白	◎	に赤い黄褐	に赤い黄褐	洗錠。具頭直底		

番号 No.	グリッド Grid	層位 層位	遺構 遺構	時期 時期	埋跡 埋跡	分類 分類	口径 (cm)	勘定 勘定	纏繩 纏繩	色調 (表) 色調 (表)	文様 文様	備考 備考	
464 13L	田	縄文	早期	埋跡	田c			○	从黄海	に赤い黄緑	盤平行沈縁、画面内に趙刺突	64-65-162同一個体	
465 1K	I	縄文	早期	埋跡	田c			○	海灰	从黄海	浅灰、内削鉢、民鉢刺突		
466 13L	田	縄文	早期	埋跡	田c	白	○	に赤い黄緑	从縫	斜向沈縫			
467 13L	田	縄文	山形?	埋跡	田c	白	○	从黄海	に赤い黄緑	平行沈縫	164-165-162同一個体		
468 13L	田	縄文	早期	埋跡	田c	白	○	从黄海	に赤い黄緑	尤鉢、只鉢刺突			
469 13L	田	縄文	早期	埋跡	田e	砂	×	に赤い黄緑	に赤い黄緑	平行沈縫、只鉢刺突			
470 12M	田	縄文	早期?	埋跡	田e			×	海灰	に赤い黄緑	沈縫開キザミ		
471 11J20	縄文	早期	埋跡	田e	白	×	海灰		に赤い黄緑	斜平行沈縫、只鉢刺突			
472 14K	田	縄文	早期	埋跡	田d	砂	×	に赤い黄海	明赤海	尤鉢、コリ平行輪文、波状文			
473 13E-24	縄文	早期	埋跡	田d	黄土・砂	白	×	海	海	平行沈縫、山形沈縫			
474 12J18-15	縄文	早期?	埋跡	田d	白	×	に赤い赤海	に赤い黄緑	跳縫、浅灰、波状文				
475 14L	田	縄文	早期	埋跡	田d			○	に赤い赤海	明赤海	尤鉢、只鉢刺突		
476 14L21	田	縄文	早期	埋跡	田b	砂	×	橙	に赤い黄緑	沈縫開斜縫			
477 11L	田	縄文	早期	埋跡	田d	白	×	黑海	暗海	波状、平行沈縫、沈縫開キザミ			
478 11L	田	縄文	早期	埋跡	田d	白	×	暗海	橙	波状、平行沈縫			
479 11L	田	縄文	早期	埋跡	田d	白	×	暗海	橙	波状、平行沈縫			
480 11L	縄文	早期	埋跡	田d	白	○	黑	暗海	暗海	平行沈縫			
481 11L	縄文	早期	埋跡	田d	石	×	黑海	暗海	沈縫	尤鉢、カザミ			
482 11L	田	縄文	早期	埋跡	田d	白	×	黑海	赤海	沈縫開斜縫上にキザミ			
483 11K	田	縄文	早期	埋跡	田d	白	○	灰	に赤い海	に赤い海	沈縫開斜縫キザミ		
484 B1	縄文	早期	埋跡	N/a	石	○	黑	暗海	暗海	斜平行沈縫			
485 10N8- 9	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	暗海	暗海	縱斜開斜縫(斜方)			
486 10N8- 9	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	暗海	暗海	縱斜開斜縫(斜方)			
487 10N8- 9	田	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	暗海	暗海	縱斜開斜縫(斜方)		
488 11N11	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	に赤い	模二字狀旋轉密文				
489 ?	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	に赤い	模二字狀旋轉密文				
490 11N17	田	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	暗	暗海帶、隙帶に沿った斜突			
491 11N17	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	黑	11N17 總二字狀旋轉密文				
492 ?	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	に赤い	暗海帶、隙帶に沿った斜突				
493 ?	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	に赤い	暗海帶、隙帶に沿った斜突				
494 10N8- 9	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	赤	に赤い赤海	黑海	無、斜斜突			
495 11N17	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	に赤い	各部 極二字狀旋轉密文				
496 11N17	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	に赤い	模二字狀旋轉密文				
497 11N17	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	に赤い	内面斜底				
498 11N17	縄文	早期	埋跡	N/b	石	○	黑	に赤い	内面斜底				
499 11N11	縄文	早期	埋跡	N/d	石	○	黑	に赤い	内面斜底				
500 10N8- 9	縄文	早期	埋跡	N/d	石	○	赤	○?	明赤海	外赤底			
501 11N17	縄文	早期	埋跡	N/d	石	○	黑	に赤い	暗海	無、斜斜突			
502 15K	田	縄文	早期	埋跡	N/d	白	○	黑	暗海	暗海	支鉢		
503 15K	田	縄文	山形	埋跡	N/c	○	黄海	に赤い	暗海	斜張口形			
504 14K16	縄文	早期	埋跡	N/c	石 (多)	○	黑	に赤い	黄海	斜張口形			
505 13K	縄文	早期	埋跡	N/c	白	○	赤	に赤い	暗海	斜張口形			
506 16K	田	縄文	早期	埋跡	N/c	石 - 布	○	明赤海	に赤い	暗海	斜張口形、隙帶に沿った斜突		
507 6I	縄文	早期	埋跡	N/d	石	○	黄	に赤い	暗海	無			
508 11K	田	縄文	早期	埋跡	N/d	○	赤	に赤い	暗海	外赤文、内赤底			
509 11N	縄文	早期	埋跡	N/d	石 (多)	○	赤	に赤い	暗海	漆文、内形斜突、斜底			
510 11U18	縄文	早期	埋跡	N/d	赤	○	明赤海	に赤い	暗海	漆文、無			
511 15H6	縄文	早期	埋跡	N/d	赤	○	赤	に赤い	暗海	羅一體ハケ工具			
512 10N8- 9	縄文	早期	埋跡	N/d	石	○	橙	に赤い	暗海				
513 11N	田	縄文	早期	埋跡	白 - 長	○	に赤い	黄緑	田11Nサザミ・織縫作、隙帶に沿つて斜張口形底文	田11Nサザミ・織縫作、隙帶に沿つて斜張口形底文	513 - 514 同一個体		
514 11N	田	縄文	早期	埋跡	白 - 長	○	に赤い	黄緑	田11Nサザミ・織縫作、隙帶に沿つて斜張口形底文	田11Nサザミ・織縫作、隙帶に沿つて斜張口形底文	513 - 514 同一個体		
515 11N	田	縄文	山形	埋跡	白	○	海灰		外赤文、竹筒型底文、底削?				
516 11N	田	縄文	山形	埋跡	長	○	黄海	に赤い	黄海	獨立E1K、黃海、口割開文			
517 11N17	田	縄文	山形	埋跡	赤	○	赤	に赤い	暗海	口割開、口沿各點斜削凹、蓋底?			
518 11N17	田	縄文	山形	埋跡	赤	○	赤	に赤い	暗海	口割開、口沿各點斜削凹、蓋底?			
519 B	I	縄文	山形	埋跡	赤	○	赤	に赤い	黄海	織E1K 7.7口割開サザミ			
520 11N	田	縄文	山形	埋跡	赤 - 黒	○	に赤い	暗海	口割開	口割開底文、蓋底?			
521 11N11	田	縄文	山形	埋跡	黒文	○	赤	に赤い	暗海	口割開			
522 14J	田 - 田	縄文	山形	埋跡	白 - 白	○	赤	橘	橘	橘文			
523 14 - 15K	田	縄文	早期	埋跡	赤 - 赤	○	赤	に赤い	黄緑	移E工具柄文3段			
524 15J	田	縄文	早期	埋跡	白	○?	に赤い	黄緑	に赤い	黄海	独立E1K、隙帶間通縫角押		
525 3K	I	縄文	山形	埋跡	石	○	海灰		橘	橘文II。ループ文			
526 B	I	縄文	山形	埋跡	砂	○	赤褐色		橘	橘文I。E1K - RL			
527 11N22 #1	田	縄文	山形	埋跡	赤	○	に赤い	黄緑	外赤文				

No.	グリッド	層位	遺構	種類	時期	沿縁	分類	日標 (cm)	勘上	織編	色調 (表)	色調 (裏)	文様	備考	
528 14L	Ⅲ - Ⅳ	縄文	山崩	遺跡		長・自	◎	にかい・織	に示・海	織支?					
529 3K	I	縄文	山崩	遺跡		赤・×?		にかい・織	織	多角?					
530 3K	II	縄文	山崩	遺跡			◎	織	にかい・織	縄文Ⅱ			体感、内部炭化物		
531 14K19	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		石・長	×	灰纖	にかい・織	手形起縫・斜子・筋状体直直					
532 14J	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡			×	にかい・織	江示・織	円平隕起縫					
533 4J	Ⅲ	縄文	中期前段	遺跡		雲・石	×	赤織	織	斜平隕起縫文					
534 15L23	II	縄文	中期前段	遺跡		石	×	明赤織	織	白然直直・新平隕起縫					
535 12K	II	縄文	中期前段	遺跡		砂	×	灰黃纖	にかい・黃織	汎斜斜格子・斜文					
536 15L23	II	縄文	中期前段	遺跡		雲	×	赤織	赤織	斜平隕起縫にくる斜縫文					
537 14K	II	縄文	中期前段	遺跡			×	明赤織	赤織	口形然直直・手形起縫					
538 15J4	縄文	中期前段	遺跡			灰	×	灰纖	灰纖	口形然直直・手形起縫(斜)					
539 15L24	縄文	中期前段	遺跡			小砂利	×	にかい・黃纖	に示・黄織	手形起縫・斜文					
540 15L12	縄文	中期前段	遺跡			小砂利	×	にかい・織	織	斜前縫・甚明直直・口形然直直・手形起縫					
541 15L18	縄文	中期前段	遺跡			砂	×	にかい・黃纖	赤織	白然平隕直直・斜直直・弧形					
542 15K	II	縄文	中期前段	遺跡		石・灰	×	赤織	織	口形然直直・手形起縫・皆口凹斜直					
543 15L20	縄文	中期前段	遺跡			石	×	にかい・黃纖	に示・黄織	手形起縫・口形然斜体直直					
544 16J	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		雲・長	×	赤織	赤織	斜平隕起縫文					
545 15M9	II	縄文	中期前段	遺跡		石・長	×	明黃纖	明黃纖	手形起縫文					
546 15K	II	縄文	中期前段	遺跡			×	にかい・黃纖	織	手形起縫・甚竹斜斜・絞竹強直直					
547 15K	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		石	×	にかい・黃纖	に示・黄織	口形斜直直・堅竹斜斜・彌リ村行形序文(タコ地圖)					
548 14K	II	縄文	中期前段	遺跡		長・雲	×	赤織	赤織	汎斜斜格子・斜子・タナシ織					
549 15M8	I	縄文	中期前段	遺跡		雲・長	×	織	赤織	上弓格子・下弓平隕起縫・闇文					
550 15J11	縄文	中期前段	遺跡				×	明赤織	に示・黄織	手形起縫文					
551 15L23	縄文	中期前段	遺跡			石・長	×	灰纖	にかい・織	手形起縫・くの字					
552 15J10	縄文	中期前段	遺跡			雲・灰	×	織	織	口形然直直・内斜格子					
553 15J10	縄文	中期前段	遺跡			長	×	織	に示・黄織	口形然直直・内斜斜文					
554 15J16	縄文	中期前段	遺跡				×	明黃纖	に示・黄織	口形然直直・内面斜格子					
555 15J4	縄文	中期前段	遺跡			雲・石	×	灰纖	織	口形然直直・内斜斜・外弓形斜直直					
556 15L	II	縄文	中期前段	遺跡		白・G	×	にかい・織	に示・黄織	各弓形斜・脚・弓形斜・口形然直直・外弓形斜直直・口形然直直・斜弓形斜直直					
557 15L	II	縄文	中期前段	遺跡			×	織	織	弓形斜直直・内平隕直直・内弓形斜直直					
558 15L	II	縄文	中期前段	遺跡		雲・長	×	赤織	赤織	口形然直直・外斜斜起縫・闇文					
559 15L	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡			×	明赤織	明赤織	斜平隕起縫文					
560 14J16	縄文	中期前段	遺跡			長	×	赤織	赤織	口形然直直・斜向沈織					
561 15J16	縄文	中期前段	遺跡			長	×	織	織	手形起縫・斜向					
562 14K	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		白	×	織	織	波紋直縫・斜向沈織					
563 16J	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		長	×	織	織	手形起縫・斜子					
564 14J14	縄文	中期前段	遺跡			×	赤織	に示・黄織	口形然直直・斜向沈斜起縫						
565 15 - 16KL	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		小砂利	×	にかい・黃纖	に示・黄織	斜腹扁平起縫					
566 14J19	縄文	中期前段	遺跡			白	×	にかい・黃纖	に示・黄織	斜腹扁平起縫・斜格子	566回一體				
567 15J24	縄文	中期前段	遺跡			雲・石	×	にかい・黃纖	に示・黄織	斜平隕起縫					
568 15J11	縄文	中期前段	遺跡			長・自	自	赤纖	灰纖	手形起縫子・平行縫					
569 14J3	II	縄文	中期前段	遺跡		白	×	織	明織	明織	斜平隕起縫				
570 15K	II	縄文	中期前段	遺跡			×	にかい・黃纖	赤織	斜平隕起縫					
571 16J	II	縄文	中期前段	遺跡		赤	×	赤織	赤織	明赤織					
572 15J3	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		角・白	×	赤織	赤織	手形起縫・斜子	573回一體				
573 15K	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		雲・明	×	明黃纖	明黃纖	手形起縫・斜子	572回一體				
574 15K	II	縄文	中期前段	遺跡		赤	×	明赤織	に示・黄纖	平行平隕起縫・斜格子					
575 14K	II	縄文	中期前段	遺跡			×	明赤織	明赤織	手形起縫・斜子					
576 15K	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		雲	×	赤織	に示・黄纖	斜腹斜直直・甚・手形起縫・甚斜斜					
577 14K	II	縄文	中期前段	遺跡		雲	×	赤織	赤織	甚斜斜・甚直・手形起縫・甚斜・甚直					
578 15J20	縄文	中期前段	遺跡			主・白	×	明赤織	に示・黄纖	手形起縫文					
579 14J14	縄文	中期前段	遺跡			白	×	明織	に示・黄纖	斜手形起縫					
580 15J13	縄文	中期前段	遺跡			白	×	織	相織	斜手形起縫					
581 14J17	縄文	中期前段	遺跡			赤	×	にかい・織	に示・黄纖	斜手形起縫					
582 15J2	縄文	中期前段	遺跡			長	×	織	に示・黄纖	織・斜手形起縫					
583 16J	II	縄文	中期前段	遺跡		主・白	×	明黃纖	明黃纖	手形起縫・甚・手形起縫・甚					
584 15J22	I	縄文	中期前段	遺跡		×	にかい・黃纖	に示・黄纖	斜手形起縫						
585 15M13	I	縄文	中期前段	遺跡		白	×	にかい・黃纖	に示・黄纖	斜手形起縫					
586 15 - 16K - I	Ⅲ - Ⅳ	縄文	中期前段	遺跡		砂	×	にかい・黃纖	明前織	手形起縫					
587 14K	II	縄文	中期前段	遺跡		白	×	明織	に示・黄纖	斜・手形起縫文					
588 14J8	II	縄文	中期前段	遺跡		長・白	×	織	織	手形起縫文					
589 16J	II	縄文	中期前段	遺跡		雲	×	赤織	明赤織	斜手形起縫・通縫の字狀					
590 15L23	II	縄文	中期前段	遺跡		小砂利	×	にかい・黃纖	に示・黄纖	斜手形起縫					
591 15J4	縄文	中期前段	遺跡			×	にかい・黄纖	に示・黄纖	手形起縫継の字						

No.	グリッド	層位	遺構	種類	時期	沿縁	分類	口縁 (cm)	歯土	繊維	色調(表)	色調(裏)	文様	備考
592	15・16R・L	Ⅲ・Ⅳ	繩文	中期前段	埋葬				青	×	にかい・赤褐色	明暦	竪連続くの字	
593	16J	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				石	×	青	にかい・青	網目状隕石柄、爪形、細い縦光條文	
594	14J	Ⅲ・Ⅳ	繩文	中期前段	埋葬				赤・白	×	青	青	縦文10cm、縫くり2列	
595	14L	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				×?	にかい・青	にかい・青	縦文無地?		
596	15・36KL	Ⅲ・Ⅳ	繩文	中期前段	埋葬				青・石	×	青	にかい・青	繩文無地?	
597	14K	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				石・灰	×	にかい・青	青	縫、顔面隕石柄	
598	12D10	I	縄文	中期前段	埋葬				砂	×	にかい・青	灰黄褐色	木竹状熱帯(1)	
599	表上		繩文	中期前段	埋葬				砂	×	にかい・青	にかい・青	木竹状熱帯(3)	600同一個体
600	72T		繩文	中期前段	埋葬				砂	×	明暦	にかい・青	木竹状熱帯(3)	599同一個体
601	15・16E・L	Ⅲ・Ⅳ	繩文	中期前段	埋葬				白・砂	×	にかい・青	青	木竹状熱帯	
602	15M		繩文	中期前段	埋葬				赤	×	にかい・赤褐色	灰黄褐色	木竹状熱帯文1・L	
603	12J		繩文	中期前段	埋葬				砂	×	明暦	明黃褐色	木竹状熱帯文(1)	
604	16L	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				砂	×	にかい・青	灰黃褐色	木竹状熱帯文(3)	
605	16M	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				白・砂	×	にかい・青	青	縫連続	
606	13H	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				白・赤	×	赤褐色	にかい・青	縫帶、ハラ工具縫連続継突	
607	16J	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				×	青	青	縫	縫連続	
608	13L	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				白	×	明暦	緑	縫直向、横連続、縫列突	
609	12H18		繩文	中期前段	埋葬				砂	×	明暦	緑	縫直向、縫充填 L	
610	13H3		繩文	中期前段	埋葬				長	×	にかい・青	緑	縫直向、縫充填 L	
611	15J	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				白	×	にかい・青	灰黃褐色	縫直向、縫充填、すり消し	
612	15J	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				白・砂	×	青	青	縫帶	513同一個体
613	14G1		繩文	中期前段	埋葬				砂	×	にかい・青	青	縫帶	612同一個体
614	13L	Ⅲ	繩文	古窓	埋葬				×	にかい・青	青	にかい・青		615同一個体
615	15J16		繩文	古窓	埋葬				×	にかい・青	青	にかい・青	曲線縫帶	614同一個体
616	12J7		繩文	古窓?	埋葬				白	×	にかい・青	青	無	
617	16J	Ⅲ	繩文	後期	埋葬				×	青	灰黃褐色	灰黃褐色	すり消し縫文、無文、縫文列、赤影	
618	12H15	II	繩文	中期後段	埋葬				石	×	浅青	にかい・青	口縫直向文、沈輪、縫文 L	
619	14J	Ⅲ・Ⅳ	繩文	古窓	埋葬				白	×	海葵	灰黃褐色	縫直向 L	
620	14L		繩文	中期?	埋葬				白	×	灰黃褐色	灰黃褐色	口縫肥厚 L	
621	14L	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				白	×	海葵	海葵	口縫肥厚文、虎模、縫文 L	
622	14L	Ⅲ・Ⅳ	繩文	中期前段	埋葬				×	灰黃褐色	海葵	海葵	口縫肥厚、無文、下闇文	
623	2L		繩文	後期?	埋葬				白・砂	×	にかい・青	青	にかい・青	
624	15L	Ⅲ・Ⅳ	繩文	?	埋葬				砂	×	青	青	縫直向	
625	10H8		繩文	?	埋葬				砂	×	にかい・青	青	縫文 L	
626	14L	Ⅲ・Ⅳ	繩文	古窓	埋葬				白	×	灰黃褐色	海葵	縫文 L	
627	15M	II	繩文	古窓	埋葬				白	×	にかい・青	青	縫文 L	
628	14F14G20	Ⅲ・Ⅳ	繩文	?	埋葬				小砂利	×	にかい・青	青	縫直向 L	
629	14L	III・IV	繩文	中期前段	埋葬				×	にかい・青	青	にかい・青	直線的状態	
630	13B	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬				小砂利	×	にかい・青	青	直線的状態	
631	15L	Ⅲ・Ⅳ	繩文	中期前段?	埋葬				×	にかい・青	青	にかい・青	縫文 L ?, 創代	
632	11K16	?	繩文	早期	埋葬				白	×	にかい・青	青	縫直向	
633	11H8		繩文	早期	埋葬				×	にかい・青	青	青	八字状沈輪	
634	10H7		繩文	後期	埋葬				白	×	にかい・青	灰黃褐色	糸状物	
635	10H8		繩文	?	?				×	にかい・青	青	青	直線状沈輪	
636	11H8		繩文	早期	埋葬				×	灰黃褐色	青	青	沈輪	
637	11H17		繩文	中期後段	埋葬				白	×	にかい・青	青	口縫直向 L (沈輪太い沈輪区画)、縫文 L	
638	12H20	?	?	?	?				×	青	青	青	縫直平行沈輪 ?, 2段	
639	14H16		?	?	?				×	青	青	青	縫直平行沈輪 (14Jと同一個体)	
640	12O8	?	繩文	早期	埋葬				×	にかい・青	青	青	沈輪	
641	12O8		繩文	早期	埋葬				×	にかい・青	青	青	沈輪	
642	12O14	?	繩文	早期	埋葬				×	にかい・青	明黃褐色	沈輪		
643	12O13	?	繩文	早期	埋葬				白	×	にかい・青	青	沈輪	
644	11H8	?	繩文	早期	埋葬				白	×	浅青	灰黃褐色	矢羽根状沈輪	
645	10H7	?	繩文	?	埋葬				×	にかい・青	青	青	直線状沈輪	
646	10H17	?	繩文	?	埋葬				×	灰黃褐色	青	青	直線	
	SII	繩文	後期	埋葬	?				長	×	青	青	數本単位の弧輪、直輪	
	SII	繩文	後期	?	?				白	×	青	青	耳糸	
14J3	Ⅲ	繩文	早期	埋葬	?			○?	灰黃褐色	青	青	青	直線状沈輪	
14J	Ⅲ	繩文	中期前段	埋葬	?			灰・石	×	赤褐色	青	青	口縫直向 L (直)、斜格子	

別表7 大塚遺跡 掘出遺物観察表（石器）

発見 場所 No.	遺物 名稱	グリッド 番位	所 在	石 材	形 態	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重 (g)	備 考
650	1303		チャート	石器	A類	28.5	22.5	4.5	1		
651	141	II・III	雲母石	石器	A類	20	17	5	0.5		
652	151	II・III	雲母石	石器	A類	19.5	13	5	1		
653	1319		雲母石	石器	A類	20	16.5	4	1		
654	11122-1		チャート	石器	A類	24	18	4.5	1		
655	1307		雲母石	石器	B類	19	16.5	5	1		
656	13K21		片状頁岩	石器	B類	23	18.5	6	2		
657	3K		雲母石	石器	B類	18	14.5	3.5	0.8	茎部欠損	
658	10M		チャート	石器	B類	18	16	4	1		
659	16J19		無規則質安山岩	石器	C類	32	24	5	2.4	中東次核	
660	13J14		片質頁岩	石器		35.5	25	9.5	9	丸品	
661	15J11		無規則質安山岩	石器		41	34	10	14		
662	142	III	片質頁岩	石器		38.5	52	7	12		
663	10H22		チャート	石器		30	46	9	13.37		
664	表土				不定形石器	A類	44	61	12	28.5	
665	B	I	片質頁岩または泥灰岩	不定形石器	A類	110	46	18	97		
666	12E11	II	無規則質安山岩	不定形石器	A類	59	28	9	17		
667	11H15		無規則質安山岩	不定形石器	A類	33.5	65	9	19		
668	10F4		片質頁岩	不定形石器	B類	33	48	8	8.3		
669	14J23	II	無規則質安山岩	不定形石器	B類	36.5	60	11	19		
670	3K		無規則質安山岩	不定形石器	B類	31	43.5	9	11		
671	13K	II・III	無規則質安山岩	不定形石器	B類	48	30	13	18.5		
672	96K332	15L18	安山岩	不定形石器	B類	58	64	18	60.2		
673	12G15		波紋岩	不定形石器	B類	63	38	12	25.58		
674	12J21		無規則質安山岩	不定形石器	D類	78	41	13	42		
675	13M7	II	片質頁岩	不定形石器	D類	40	25	12	9.5		
676	15J	II・III	無規則質安山岩	不定形石器	F類	27	46	9	12.5		
677	14E	II	無規則質安山岩	不定形石器	K類	69	39	23	61		
678	11J3		安山岩	不定形石器	H類	125	85	14	146		
679	11J16		安山岩	不定形石器	H類	103	56	15	84		
680	13H15		玄武岩	不定形石器	H類	88	59	13	84		
681	13B9		安山岩	不定形石器	H類	81	49	16	58		
682	11H15		安山岩	不定形石器	H類	85	51	11	57		
683	13K		砂岩	向拋石器		50	32	14	33		
684	16J	II・III	燧石岩	向拋石器		59	46	21	51		
685	10M		チャート	向拋石器		40	30	14	22		
686	13J		チャート	向拋石器		41	32.5	14	23.8		
687	13M		砂岩	向拋石器		46	32	9	15		
688	12J21	紀岩	燧石岩	向拋石器		47	37.5	11	20		
689	97SK110			打製石斧	B類	143	55	25	192		
690	14J8		無規則質安山岩	打製石斧	D類	89	64	26	138		
691	10H2		無規則質安山岩	打製石斧	D類	88	45	20	68		
692	10H13		片質頁岩	打製石斧	F類	88	66	29	103		
693	12L		燧石岩	石器		35	32	9	10		
694	12K22		砂岩	石器		92	44	14	43	9.9%有り	
695	14J	II・III	砂岩	石器		67	51	15	45		
696	12K19	II	安山岩	石器		59	50	13	50		
697	15J	III	安山岩	石器		64	42	13	52		
698	12L	III	砂岩	石器		65.5	52	18	79		
699	B	I	安山岩	石器		57	52	15	65		
700	20D13	II	安山岩	石器		81	68	21.5	149.6		
701	3K	II	燧石岩	石器		57	62	18	74.5		
702	10M	II	安山岩	石器		72	56	22	119.5		
703	-	表土	安山岩	石器		66	52.5	19	82		
704	15K	III	安山岩	石器		77	50	22	94		
705	14J	III	安山岩	石器		72	42	17	59		
706	14K	III	砂岩	石器		80	50	20	106		
707	10K20		砂岩	石器		84	42	13.5	60		
708	13L	III	砂岩	石器		88	40	18	68	タテキ・スリアリ	
709	10H12		燧石岩	石器		89	51	22	109		
710	11D23	III	燧石岩	石器		77.5	69	50	352		
711	12B1		ハンレイ岩	打製石斧	A類	135	50	24	276		
712	13H18		白色燧石岩	打製石斧	A類	32	54	13	47		
713	C	I	白色燧石岩	打製石斧	A類	103	33	21	114		

報告 No.	地塊	グリッド	部位	石 材	形 異	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重 (g)	備 考
714		13K	I	白色細粒岩	砂製石津	A類	19	49	14	24	
715		15G11		白色細粒岩	砂製石津	A類	56	22	22	42	
716				ハンレイ岩	砂製石津	A類	61	47	20	92	
717		13H8		超灰岩	砂製石津	A類	49	47	23	63	
718		16H17		安山岩	砂製石津	B類	157	77	43	885	
719		15M3	I	安山岩	砂製石津	B類	15	36	16	130	
720		11G3		超灰岩	砂製石津	B類	110	41	14	93	
721		15L13		安山岩	砂製石津	B類	113	50	19	148	
722		15K	III	武奈岩	砂製石津	B類	43	52	17	54	
723		11D		白色細粒岩	砂製石津	B類	133	66	29	410	
724		12D		白色細粒岩	砂製石津	B類	116	56	25	240	
725		10H12		白色細粒岩	砂製石津	B類	133	56	25	214	
726		11H12		白色細粒岩	砂製石津	C類	117.5	65	23	212	
727		12D16		白色細粒岩	砂製石津	B類	96	82	16	84	
728		12B15		白色細粒岩	砂製石津	B類	77	56	16	110	
729		12.23	III	白色細粒岩	砂製石津	B類	77	48	17	76	
730		25	I	白色細粒岩	砂製石津	B類	74	44.5	15	75	
731				白色細粒岩	砂製石津	B類	67	45	15.5	67	
732		14K	II・III	白色細粒岩	砂製石津	B類	61	38	10	39	白色できめ細かい粒子（玄武岩成岩）
733				白色細粒岩	砂製石津	B類	63	45	12	55	
734		10H17		輝石岩	砂製石津	B類	53	39	15	44	
735		10B25		ハンレイ岩	砂製石津	B類	60	31	11	31	
736	9583			白色細粒岩	砂製石津	B類	31	31.5	6	9	
737		15J	III	輝石岩	砂製石津	B類	37	27	9	17	
738		15G1		白色細粒岩	砂製石津	B類	17	33	11	60	
739		11N21・22	III	白色細粒岩	砂製石津	B類	31	28	8	65	
740		14K	II・III	白色細粒岩	砂製石津	B類	36	29	7	60	
741		真1		白色細粒岩	砂製石津	B類	62	40	9	78	
742		7F2		真岩	砂製石津	B類	42	27	6	5 小形	
743		3K	I	輝石岩	砂石類	A類	103	94	41	870	
744	9551			安山岩	砂石類	A類	69	60	29	146	
745		4K	III	安山岩	砂石類	A類	158	134	46	1449	
746		11D23		安山岩	砂石類	A類	98	81	51.5	513	
747		12M	III	ハンレイ岩	砂石類	A類	102.5	84.5	37	502	
748		2K	I	安山岩	砂石類	B類	99	87	36.5	414	
749		2K	I	輝灰岩	砂石類	B類	92	85	42	390	
750			I	輝灰岩	砂石類	B類	91	67	34	265	
751		14H17		安山岩	砂石類	B類	94	82	45	494	
752				安山岩	砂石類	B類	71	62	38	291	
753		13F17		安山岩	砂石類	B類	135	69	38	471	
754		13G18		安山岩	砂石類	B類	112	52	29	221	
755		10H2		安山岩	砂石類	B類	89	45	35	179	
756		13L	III	安山岩	砂石類	B類	80	52	37	205	
757		14J	I	砂岩	砂石類	B類	101	67	30	209	
758		3K	I	砂岩	砂石類	B類	92	70	37	265	
759		12K	III	安山岩	砂石類	C類	100	82.5	52	476	
760		12L	II	砂岩	砂石類	D類	105	64	41	389	
761		11F22		安山岩	砂石類	D類	114	64	38	346	
762		14D17		砂岩	砂石類	D類	110	92	39	520	
763		H	I	砂岩	砂石類	D類	105	99	66	955	
764		15L19	III	安山岩	砂石類	D類	88	56	43	287	
765		H	I	安山岩	砂石類	E類	71.5	61	32.5	171	
766		4J		安山岩	砂石類	E類	97	81.5	52	486	
767		11H11		安山岩	砂石類	E類	98	85	45.5	344	
768		2K	I	輝灰岩	砂石類	E類	89	76	45	316	
769		12B3	III	安山岩	砂石類	E類	104	86	50	449	
770		10H13		安山岩	砂石類	E類	100	79	46	426	
771		13D23		安山岩	砂石類	E類	91.5	79	32.5	274	
772		12B6	III	安山岩	砂石類	E類	95	74	39.5	267	
773		11H11	II	安山岩	砂石類	E類	137	104	58	1030	
774		13J	III	安山岩	砂石類	E類	100	80	30	304	
775		12B5		安山岩	砂石類	E類	102	62	41	309	
776		真2		安山岩	砂石類	E類	94.5	76	43	424	
777		15N	II	安山岩	砂石類	E類	76	61	51	373	
778		13K	II・III	安山岩	砂石類	E類	119	74	29	330	
779		13F	II・III	安山岩	砂石類	E類	91	54	34	166	

報告 No.	測線	グリッド	部位	石 材	形 異	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重 (g)	備 考
780	11H7		安山岩	磨石類	E類	116	64	45	367		
781	2K	I	安山岩	磨石類	E類	95	48	34	195		
782	14E21		安山岩	磨石類	E類	109	77	50	481		
783	14L	II	安山岩	磨石類	E類	97	54	32	291		
784	97SK110		安山岩	磨石類	E類	101	71	48	382		
785	A・K	I	安山岩	磨石類	E類	81	41	35	128		
786	10E23		砂岩	磨石類	E類	94	59	38	188		
787	15E23		凝灰岩	磨石類	E類	90	56	31	204		
788	16L	II・III	安山岩	磨石類	E類	107	68	31	248		
789	12F5		安山岩	磨石類	E類	97	54	36	219		
790	3K	I	安山岩	磨石類	E類	134	61	49	299		
791	10E3		凝灰岩	磨石類	E類	152	88	58	1110		
792	12D23		安山岩	磨石類	E類	117	107	70.5	1128		
793	16D20		安山岩	磨石類	E類	105	79	41	288		
794	12F5		砂岩	磨石類	E類	128	111	40	458		
795	10F6		砂岩	磨石類	E類	93	60	28	197		
796	11H12		砂岩	磨石類	E類	77	76	21.5	178		
797	10F18		砂岩	磨石類	F類	109	78	48.5	534		
798	6I		安山岩	磨石類	F類	136	83	33	461		
799	4K	I	砂岩	磨石類	F類	59	53.5	20	86		
800	14E17		砂岩	磨石類	F類	170	75	66	773.78		
801	14J	II・III	砂岩	磨石類	F類	148	42	35	279		
802	B	I	砂岩	磨石類	F類	102	50	41	290		
803	12B.2		砂岩	磨石類	F類	128	70	29	289		
804	14J11		安山岩	磨石類	F類	118	80	46	622		
805	12B.18	II	砂岩	磨石類	F類	124	61	33	310		
806	B	I	砂岩	磨石類	F類	106	73	50	377		
807	15J	I	砂岩	磨石類	F類	101	49	31.5	178		
808	97SK4		凝灰岩	磨石類	G類	118	71	54	670		
809	4K	I・II	砂岩	磨石類	G類	82	81	34.5	248		
810	3J	II	安山岩	磨石類	G類	72.5	93.5	66	590		
811	11K	III	白雲母輝石	晶石		82	41	20	124		
812	3J	II	安山岩	磨石類?		147	169	50	1640		
813	C	I	安山岩	特殊磨石	A類	131	47	68	550		
814	16J	II・III	安山岩	特殊磨石	A類	130.5	58.5	70	610		
815	10J3		凝灰岩	特殊磨石	A類	155	50	73.5	850		
816	16K	II・III	安山岩	特殊磨石	A類	137	44.5	57	416		
817	11D23	III	安山岩	特殊磨石	A類	140	49.5	58.5	572		
818	2K	I	安山岩	特殊磨石	A類	155	80	58	840		
819	14J	III	安山岩	特殊磨石	A類	163	76	49	810		
820	14K	II・III	安山岩	特殊磨石	A類	89	64	66	463		
821	14J16		安山岩	特殊磨石	B類	175	80	54	1150		
822	11J15	III	安山岩	特殊磨石	B類	127	66.5	65.5	840		
823	97SK4		安山岩	特殊磨石	B類	121.5	56	37	322		
824	黄土		安山岩	特殊磨石	B類	124	56	40	432		
825	B	I	安山岩	特殊磨石	B類	85	68.5	48.5	370		
826	16K	II・III	安山岩	特殊磨石	B類	92	73	58	483		
827	C	I	安山岩	特殊磨石	B類	81.5	67	78	514		
828	13L	III	安山岩	特殊磨石	B類	77	73.5	59	390		
829	14J17		安山岩	特殊磨石	B類	81	62	40	212		
830	15K	III	安山岩	特殊磨石	D類	175.5	71	46	730		
831	11H14		安山岩	特殊磨石	D類	167	73	62	925		
832	11N7	III	安山岩	特殊磨石	D類	75.5	67	60.5	312		
833	16H12.		安山岩	特殊磨石	E類	135	39	50	378		
834	11H14		安山岩	特殊磨石	F類	134	65	36	439		
835	6I	III	安山岩	特殊磨石	G類	80	52	46	224	タタキあり	
836	3K		安山岩	特殊磨石	H類	86.5	65.5	46.5	374		
837	13K20	III	安山岩	石		352	280	67	8860		
838	9551		安山岩	石		158	194	79	2460	被削	
839	11D23	III	凝灰岩	石		327	354	74	1140		
840	12B.3	III	砂岩	石		156	110	39	764		
841	10H7		砂岩	石		141	89	44	443	タタキ	
842	10H12		砂岩	石		157	127	130	3153	タタキ	
843	14J11		砂岩	石		141	129	43	610		
844	16J	II・III	砂岩	石		92	82	28	205		
845	11J22		砂岩	石		156	151	29	800		

報告 No.	遺構	グリッド	層位	石・材	形・態	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考
846	16K	III	砂岩	砾石			190.5	77	56	670	
847	16II16	III	砂岩	砾石			101	69	40	352	クボミ・タタキ
848	15K	III	砂岩	砾石			73	46	38	136	鶴鉢石
849	15L	III	砂岩	砾石			64	58	21	91	鶴鉢石
850	13II15	III	砂岩	砾石			85	84	27	285	クボミ・タタキあり、鶴鉢石
851	A	I	砂岩	砾石			229	238.5	62	3465	鶴鉢石
852	A	I	砂岩	砾石			307.5	226	75	4780	鶴鉢石
853	95831		安山岩	砾石			292	315	116	10160	
854	-		無斑麻栗安山岩	ナチュ			31	20	6	238	
855	14II11		片貝質または凝灰岩	GII			109	46	22	112.28	
856	B	I	片貝質または凝灰岩	GII			76	82	52	385	

別表8 大塚遺跡掲載遺物観察表（古墳以降）

報告 No.	グリッド	層位	遺構	種類	刃面	頭部	口縁	底盤	高さ	最大径	測定方 向	札記調査	体部調査	備考
857	5II10		97810	土師器 古墳 - 後	直	裏						内外面ハケ		
858	5II10		97810	土師器 古墳 - 後	直	裏						内外面ハケ 内腹ミガキ		
859			958K11	土師器 古墳 - 後	直	裏						内ハケ		
860	16Z			土師器 古墳 - 中	直	裏			2.4					直面
861	15M5	II	土師器 古墳 - 中	高杯										
862	19E3		土師器 古墳 - 中～後	直					5.4					武家ケズリ
863	16M	III	土師器 古墳 - 中	直					4.8					
864	15K	II・III	土師器 古墳 - 後	直	裏	19.5	8.3	[23.4]				内外面ハケ		直 高ケズリ
865	15M13	I	土師器 古墳 - 後	直?		[16.8]						ヨコナデ		
866	12M13・B	III	土師器 古墳 - 後	直		12.7						口縁ナデ		赤色和合む
867	13P13		土師器 古墳 - 後	直		14						口縁ヨコナデ	内ハケ	
868	13D24		土師器 古墳 - 後	直								内外面ハケ		
869	H	I		土師器 古墳 - 後	直				7.4					荒面内各面ヤツリ
870	15M3	II	土師器 古墳 - 後	?		5.8						ケズリ		
871	19O4		土師器 古墳 - 後	麻		14						口縁ヨコナデ直Sハケ?		
872	19D4		土師器 古墳 - 後	コシキ?		5.8						内ハケ		多穴式土器
873	C	I	土師器 古墳 - 後	コシキ								ケズリ		把手
874	13L	III	土師器 古墳 - 後	高杯		照付16						ハケ		内黒
875	14Z23	II	土師器 古墳 - 後	高杯								ヨコナデ		
876	C - 14L	I・S・B	第二章 古代	杯		10.4						特付 ハラ切り		
877	15L25	I	東周期 古代	杯		12.6	9.8	4.1				ヨコナデ		ヨコナデ 内輪出目によるL
878	3K	I	東周期 古代	杯		11.5	8	3.6				ヨコナデ		
879	16H12	I	東周期 古代	有台杯					10			ヨコナデ		
880	3K	III	東周期 古代	有台杯					6.5			ヨコナデ		
881	3K	I	東周期 古代	直		16.2								天削ヤツリ 天削
882	16H12・16P13	4・5・6	東周期 古代	直		15.3		2.15						白色斜日立つ
883	16H12	1h・3	東周期 古代	直										
884	3J	I・H	東周期 古代	直瓶								ハラ切り		
885	13P13・11E16・10G4	III	東周期 古代	直瓶								ヨコナデ		
886	3K	I	東周期 古代	長瓶								ヨコナデ		内底船
887	16・18C・15G1・16H2・E	I・II	東周期 古代	直	18.2	12	[26.8]					内底タタキ・ヨコナデ		
888	2L	I・II	灰陶 古代	長瓶								ヨコナデ		
889	13J		東周期 古代	直								波状文2段		
890	12K	廿・卅	土師器 古代	杯	12.2	5	3.3					ヨコナデ		
891	13A・13H2S・24		土師器 古代	直	22.4		34.5					ヨコナデ タタキ		身上半部又ス
892	12K	II・卅	陶器 中世	直筒	10.8							ヨコナデ		
893	16J	II・III	陶器 中世	直筒	T	18.3						ヨコナデ タタキ・ヨコナデ		
894	C-1		陶器 中世	直								外・タタキ		
895	C-1		陶器 中世	直								外・タタキ		
896	14K	廿・卅	陶器 中世	直								外・タタキ		
897	14L	III	陶器 中世	横引縫		12						不明		
898			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3988
899			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
900			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
901			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
902			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
903			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
904			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
905			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
906			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
907			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
908			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998
909			978K17	東周期 古代	直							内外・タタキ		底面3998

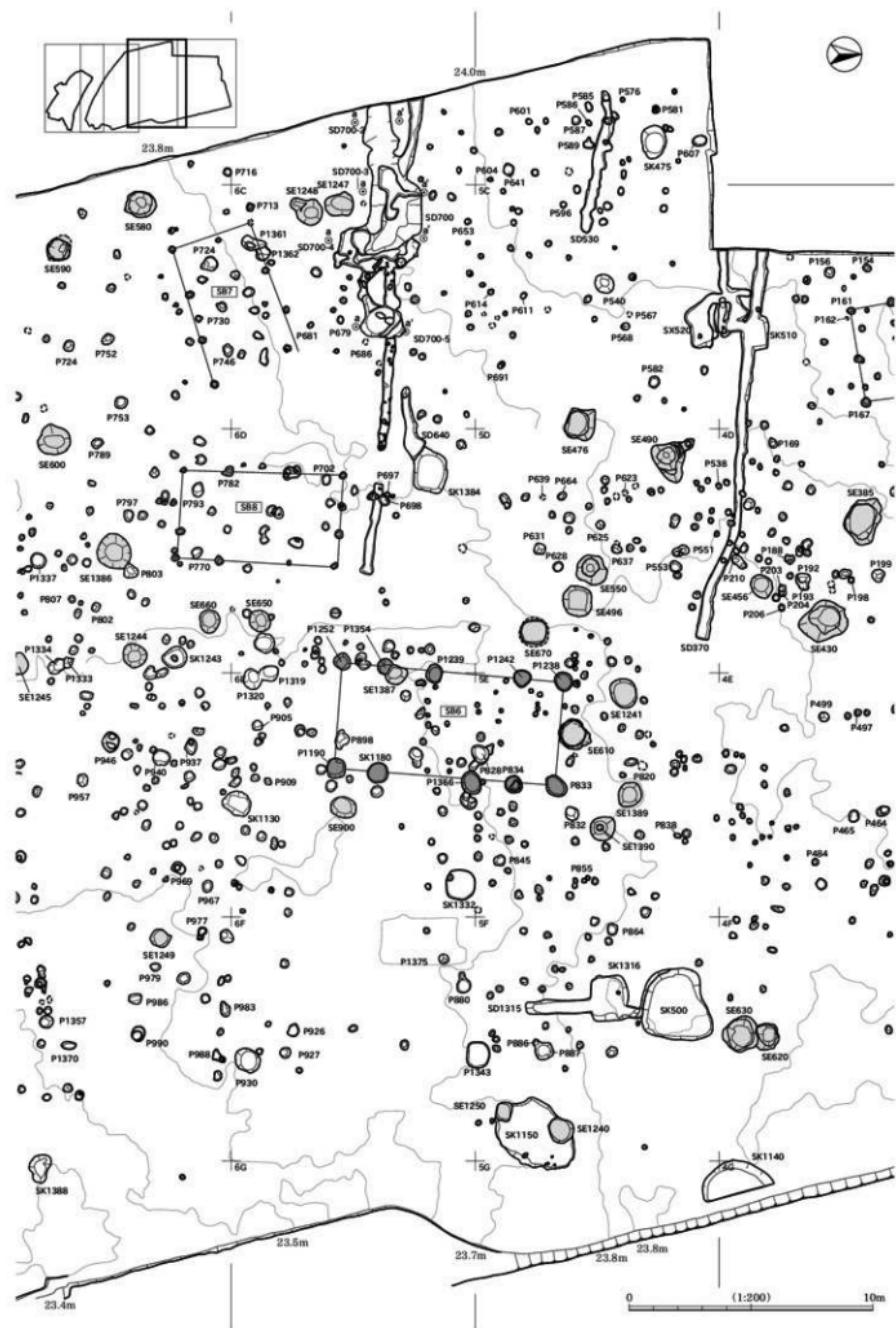
## 図 版

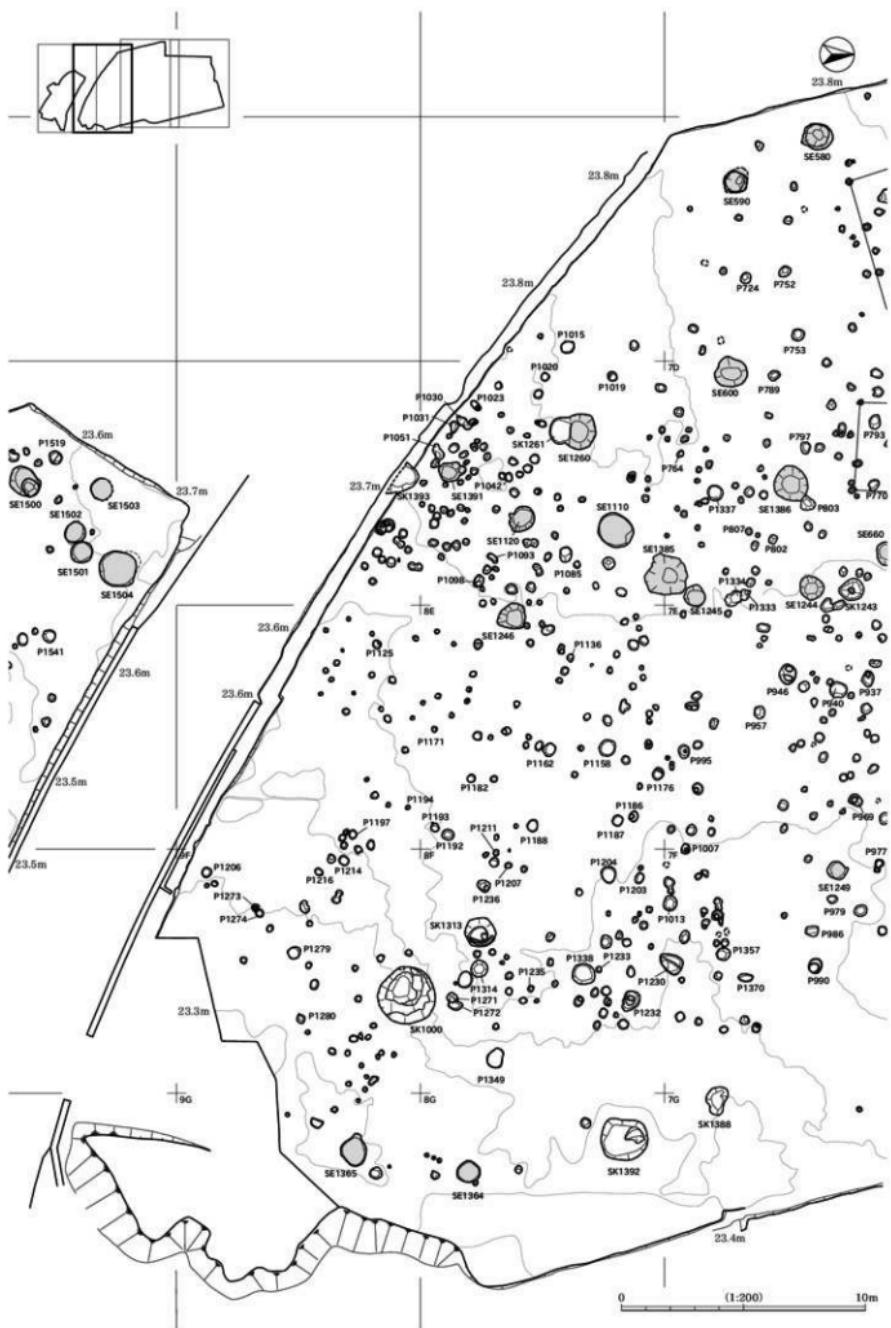
### 凡 例

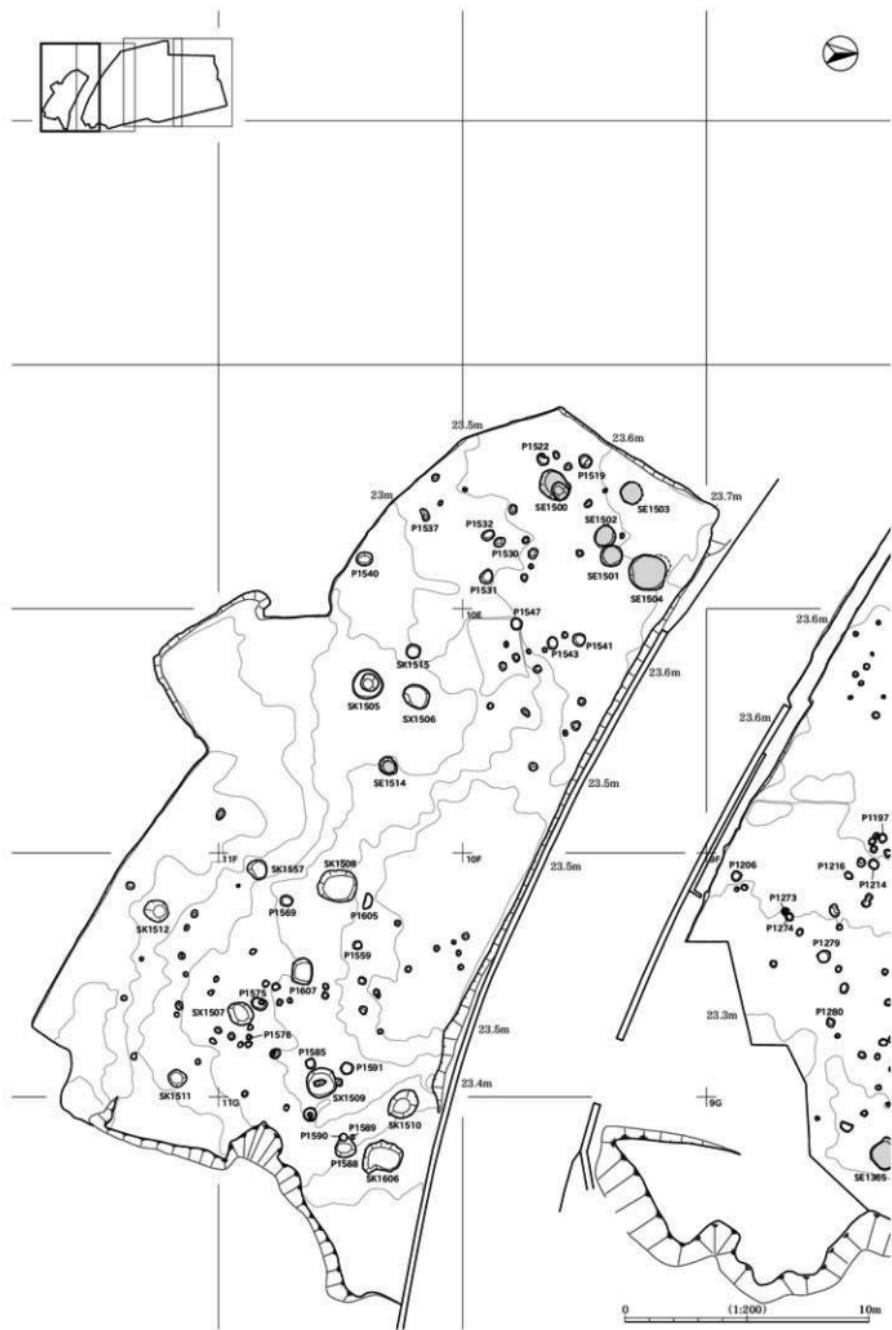
- 1 土器図版において断面黒つぶしは須恵器である。
- 2 大塚遺跡土器図版において、断面アミ掛けのあるものは胎土に繊維を含むことを示す。
- 3 その他のアミ掛け等の凡例は各図版に示す。



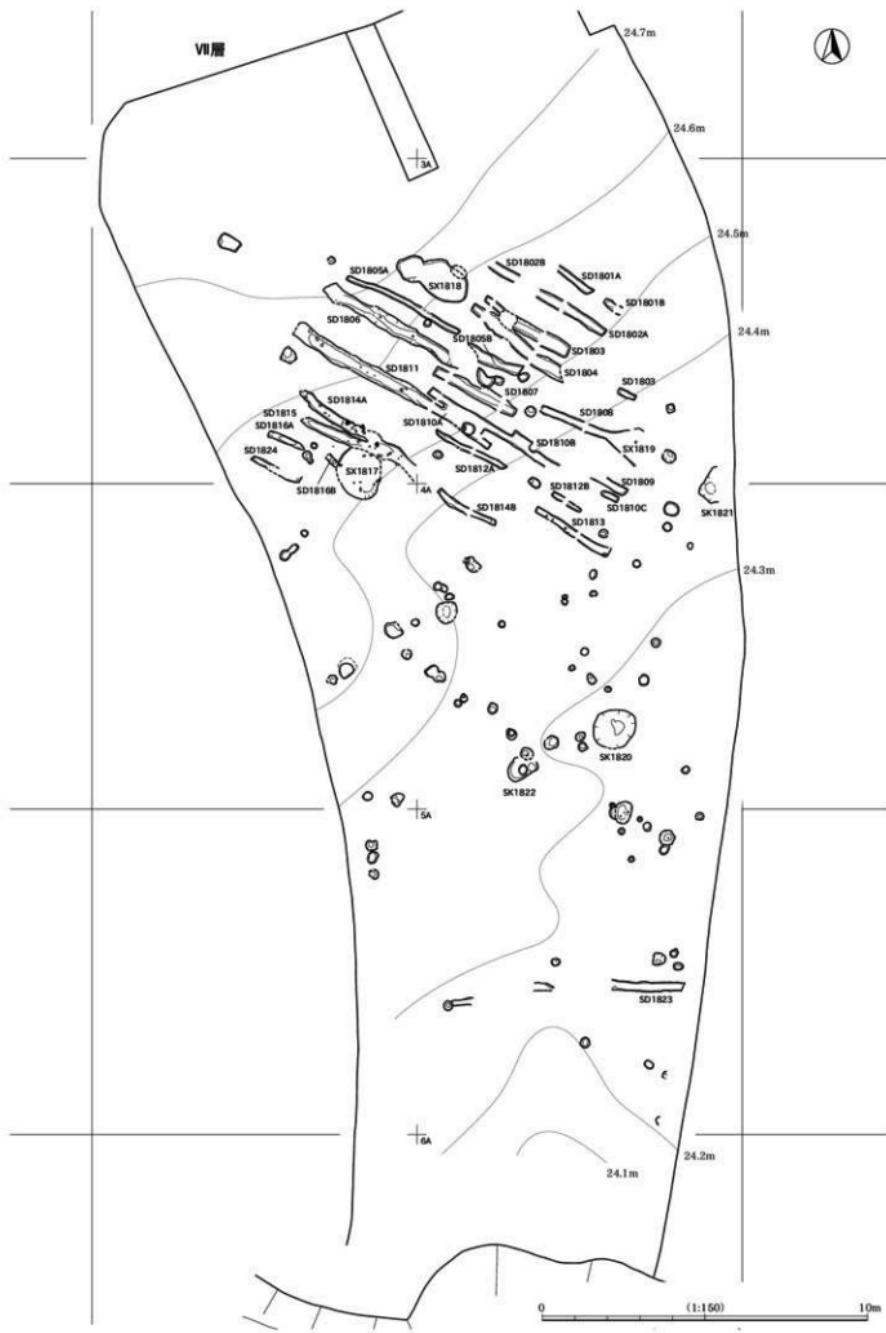


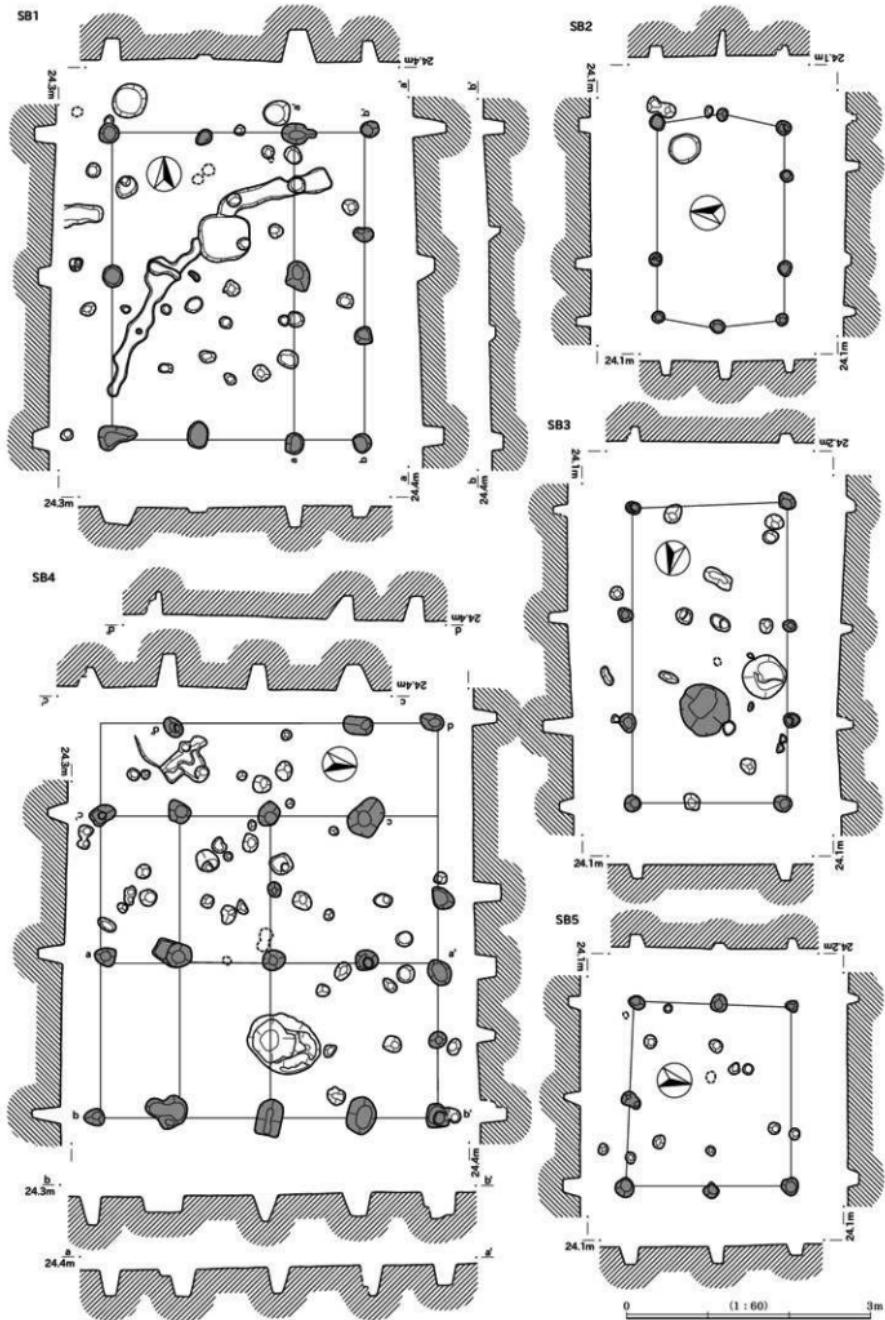


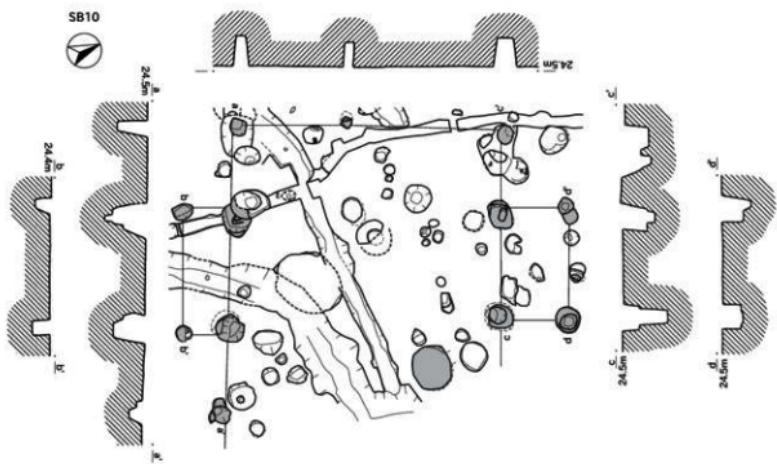
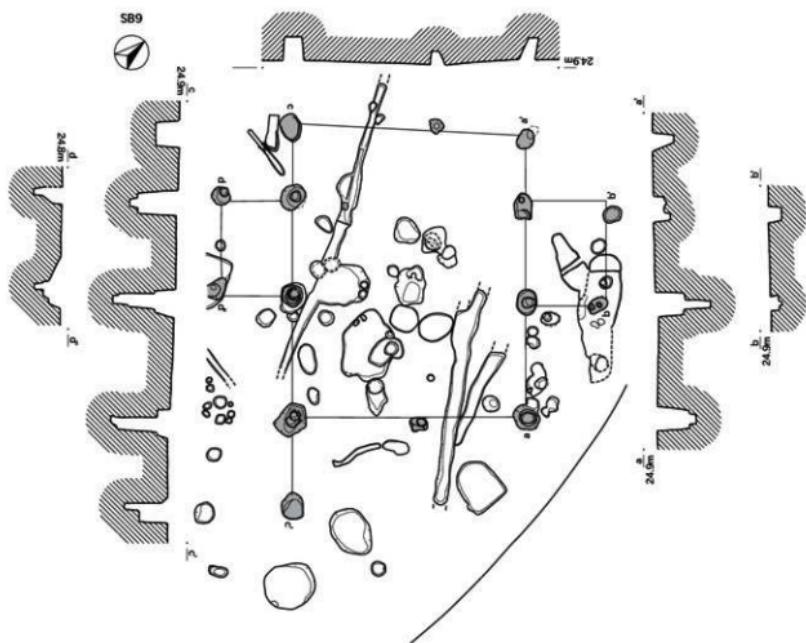


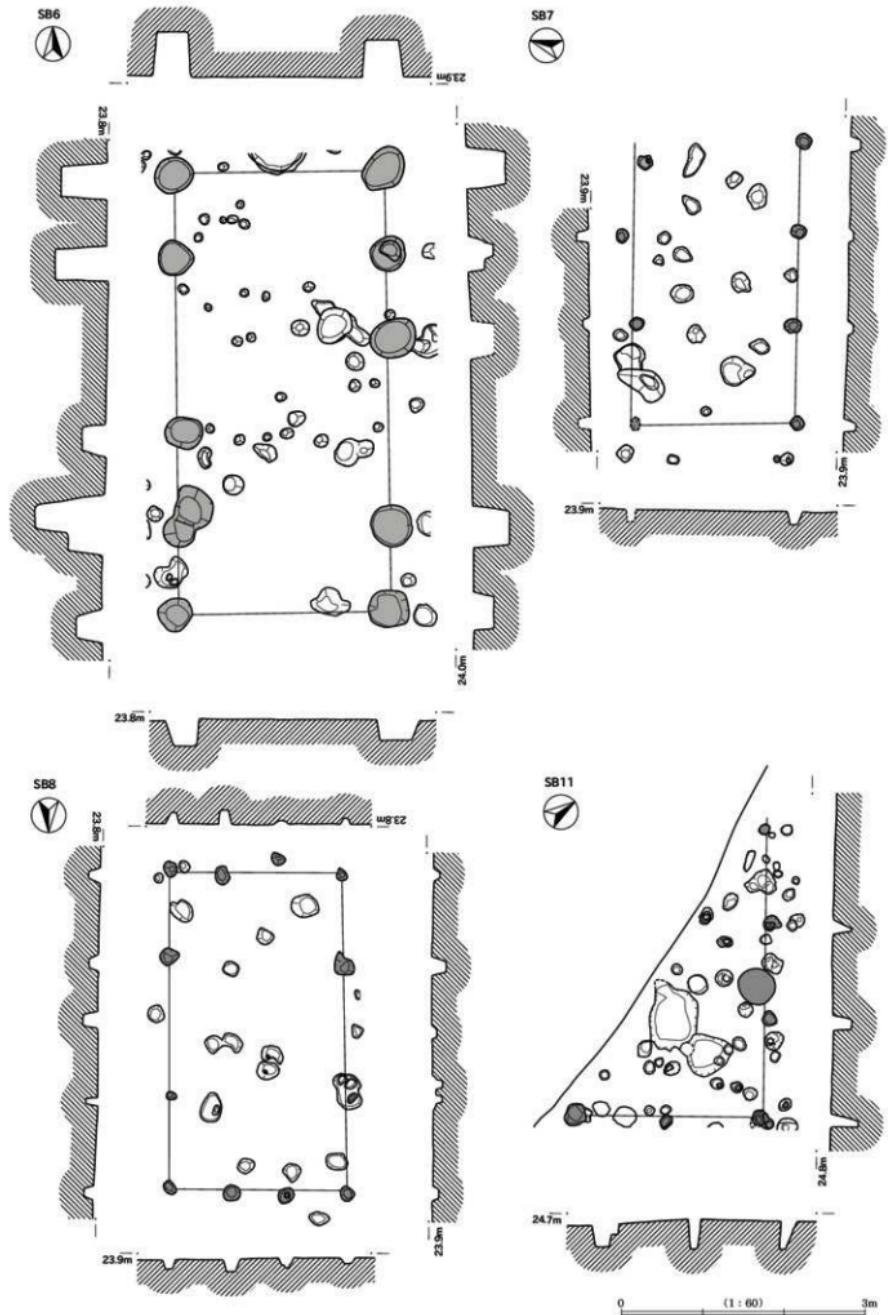




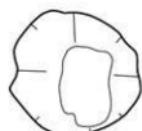




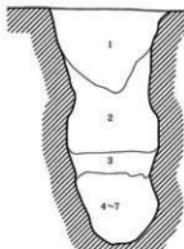




SE50



24.4m



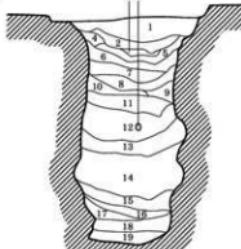
SE50

- 1 堀切色土・粘性・しまりあり 腐化物含
- 2 堀切色粘質土・しまり前 腐化物含
- 3 堀切色シルト質土・粘性・しまりあり 黏分沈着
- 4 黏分土(コケ系)・粘質土・しまり前 黏分含
- 5 岩波灰土(灰色)・しまりなし 黏分含
- 6 岩波灰土
- 7 岩波灰土(灰色)・粘性・しまりあり 黏分含
- 8 岩波灰土
- 9 岩波灰土(灰色やや黄緑色がかったり) 大粒の底
- 10 岩波灰土(灰色やや黄緑色含)
- 11 岩波灰土(灰色にぼじ) 粘性あり しまりややあり
- 12 岩波灰土(灰色にぼじ) 粘性あり しまりややあり
- 13 オリーブ褐色粘土・しまりややあり
- 14 岩波灰土(鉛質)・しまり前 岩波色(岩波色)ブロック
- 15 岩波灰土(灰色)・しまり前 黏分含
- 16 岩波灰土(灰色)・しまり前 黏分含
- 17 岩波色粘土・しまりなし 岩波色粘土ブロック入
- 18 岩波色粘土・しまりなし 岩波色粘土ブロック入
- 19 岩波色粘土(より高い)・しまりなし 未分解有機物多

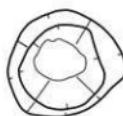
SE100



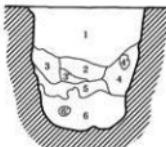
24.4m



SE346



24.4m



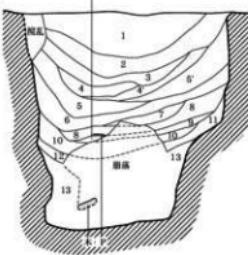
SE346

- 1 堀切色土・粘性ややあり しまりあり 腐少
- 2 岩波灰土・粘性・しまり前 腐化物含
- 3 オリーブ色粘土・粘性・しまりあり
- 4 明褐色粘土(鉛質)・しまり前 黏性・しまり前
- 4' 岩波灰土(灰色)・しまり前 黏性・しまりあり
- 5 岩波灰土(灰色)・しまり前 黏性・しまりややあり
- 6 岩波色粘土・粘性あり しまりややあり
- 7 岩波色粘土・粘性・しまりあり

SE385



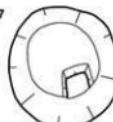
24.1m



SE385

- 1 堀切色土・粘性少・しまりあり 腐化物少
- 2 岩波土(より低い)・粘性少・しまりあり 黏分少 1~3cm明褐色ブロック
- 3 岩波色土・粘性少・しまりややあり 腐化物・塊少
- 4 岩波色土・粘性ややあり・しまり前 腐化物少
- 5 岩波土(より高い)・粘性少・しまり前 腐化物少
- 5' 岩波色土・粘性ややあり・しまり前 腐化物少
- 6 岩波土・腐泥土・粘性・しまりややあり 腐化物少
- 7 岩波土・腐泥土・粘性・しまりややあり 腐化物少 小粒混多
- 8 岩波色粘土
- 8' 岩波色土・粘性あり・しまり前 腐化物少
- 9 岩波灰土・粘性あり・しまり前 腐化物少
- 10 岩波灰土・粘性あり・しまり前 腐化物少
- 11 岩波灰土・粘性あり・しまり前 腐化物少
- 12 岩波色土・粘性あり・しまり前 腐化物少
- 13 岩波色粘土・粘性あり・しまり前 腐化物少
- 14 岩波色土・粘性あり・しまり前 腐化物少
- 15 岩波色土・粘性あり・しまり前 腐化物少
- 16 岩波色土・粘性あり・しまり前 腐化物少
- 17 岩波色土・粘性あり・しまり前 腐化物少

SE347



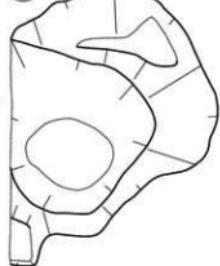
24.4m



SE347

- 1 堀切色粘質土・濃岩色粘土ブロック層 腐少 粘性ややあり・しまり前
- 2 淡白色粘土ブロック層 粘性あり・しまりややあり

SE130



SE130

- 1 岩波色土(よりやや高い) 粘性ややあり しまりあり
- 2 岩波土・粘性ややあり しまりあり
- 3 淡褐色土・粘性ややあり しまりあり
- 3' 濃岩色粘土(オリーブ色)・粘性・しまりややあり
- 4 岩波色土(鉛質)・粘性・しまり前
- 5 岩波色土(より高い)・粘性ややあり・しまり前 岩波色粘土ブロック層入
- 6 岩波色土(鉛質)・粘性ややあり しまり前
- 7 岩波土(鉛質)・粘性・しまり前 黏性あり しまり前
- 8 岩波色粘土(鉛質)・粘性あり しまり前
- 9 濃岩色粘土(鉛質)・粘性あり しまり前
- 10 岩波色粘土(鉛質)・粘性・しまり前
- 11 濃岩色粘土(鉛質)・粘性・しまり前
- 12 岩波色粘土(鉛質)・粘性・しまり前
- 13 濃岩色粘土(鉛質)・粘性・しまり前
- 14 濃岩色粘土(鉛質)・粘性・しまりなし 褐紙出上
- 15 岩波色土(鉛質)・粘性・しまりなし
- 16 濃岩色粘土・粘性あり・しまりなし
- 17 濃岩色粘土・粘性ややあり

0

(1:40)

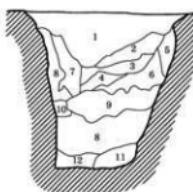
2m

## 海道遺跡 遺構個別図 5

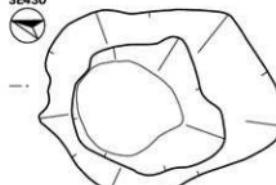
SE420



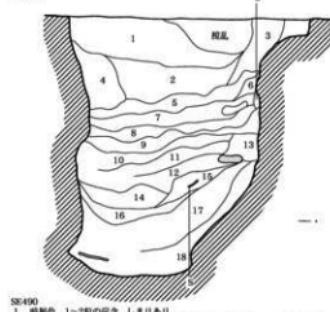
24.2m



SE430



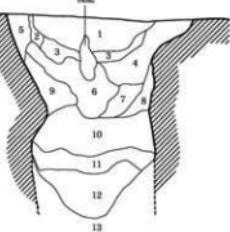
24.2m



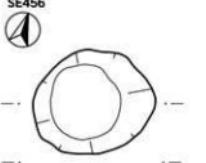
SE430

- 1 黒褐色 厚さ1~8cmの黒褐色土ブロック多層 粘性少  
しまりややあり 大粒混少量
- 2 黄褐色(灰) 粘性少 しまりややあり 大粒混少量
- 3 黄褐色(灰) 粘性少 しまりややあり 大粒混少量
- 4 黄褐色(灰) 黑褐色少 しまりややややり 大粒混少量
- 5 黄褐色土 黑褐色少 しまりややややり 大粒混少量
- 6 5~8cmのブロック 黑褐色 しまりややややり 大粒混少量
- 7 黑褐色と黄褐色の混合 黑褐色 しまりややややり 大粒混少量
- 8 黄褐色
- 9 黄褐色 黑褐色少 しまりやや 大粒混少量
- 10 黄褐色 黑褐色少 しまりやや 小粒混少量
- 11 黄褐色 黑褐色少 しまりやや 大粒混少量
- 12 黄褐色 黑褐色少 しまりやや 小粒混少量
- 13 黄褐色 黑褐色少 しまりやややや 距離多い
- 14 黄褐色 黑褐色少 しまりやややややや 大粒混少量
- 15 黄褐色 黑褐色少 しまりやや 大粒混少量
- 16 黑色 黑褐色少 しまりやや
- 17 黄褐色 黑褐色少 しまりやや 大粒混少量
- 18 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや 大粒混少量

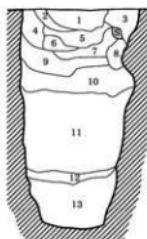
SE490



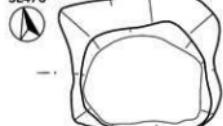
SE456



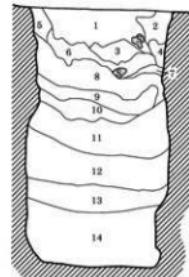
24.2m



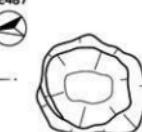
SE476



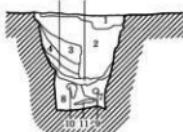
24.2m



SE487



24.2m



SE456

- 1 黄褐色土 黑褐色 黑褐色少 しまりやや
- 2 黄褐色土(灰) 太粒混 黑褐色少 しまりやや
- 3 黄褐色土(灰) しまりやや
- 4 黄褐色 黑褐色少 しまりやや
- 5 黄褐色 黑褐色少 しまりややややり 大粒混少量
- 6 黄褐色 黑褐色少 しまりややややり 大粒混少量
- 7 黄褐色土(灰) 黑褐色少 しまりやや
- 8 黄褐色土 黑褐色少 しまりややややり 大粒混少量
- 9 黄褐色土(灰) 10mmのブロック 距離 多 黑褐色 しまりやややや
- 10 黄褐色土(灰) 7.2mmのブロック 距離 多 黑褐色+ホタル
- 11 黑褐色土(灰) 距離 多 黑褐色+ホタル
- 12 黑色炭化
- 13 青灰色土 黑褐色少 しまりやや
- 14 青灰色土 黑褐色少 しまりやや

SE476

- 1 黄褐色(灰) 黑褐色少 黑褐色少 しまりやや
- 2 黄褐色土+ホタル 黑褐色少 しまりやや
- 3 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 4 黄褐色(灰) 黑褐色少 しまりやや
- 5 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 6 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 7 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 8 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 9 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 10 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 11 黑褐色と白色土上のブロック 黑褐色 しまりやや
- 12 黑褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 13 黑褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 14 黑褐色土 黑褐色少 しまりやや

SE487

- 1 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 2 黄褐色土+ホタル 黑褐色少 しまりやや
- 3 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 4 黄褐色土+ホタル 黑褐色少 しまりやや
- 5 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 6 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 7 黄褐色土+ホタル 黑褐色少 しまりやや
- 8 黄褐色土+ホタル 黑褐色少 しまりやや
- 9 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 10 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや
- 11 黄褐色土 黑褐色少 しまりやや

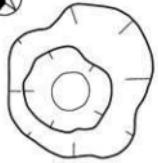
0 (1:40) 2m

SE496



24.2m

SE550



24.2m

SE550

1

暗褐色(赤) 黄土粒 しまりあり

2 暗褐色 色濃い しまりあり

3 暗褐色(赤) 黄土粒 しまりあり

4 暗褐色(赤) 黄土粒 しまりあり

5 暗褐色 しまりあり

6 暗褐色(赤) 黄色粒 しまりあり

7 暗褐色 しまりあり

8 暗褐色(赤) 4~同じ 明褐色ブロック 大粒度

9 暗褐色(赤) 黄土粒少 しまりややあり

10 暗褐色(赤) 黄土粒少 しまりややあり

11 暗褐色 しまりややあり

12 暗褐色(赤) 黄土粒 しまりややあり

13 暗褐色+白色(赤) 黄土粒少 しまりややあり

14 暗褐色 黄土粒 しまりややあり

15 暗褐色 しまりややあり

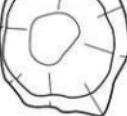
16 暗褐色 黄土粒 しまりややあり

17 暗褐色 黄土粒 しまりややあり

18 暗褐色 黄土粒 しまりややあり

19 暗褐色 黑色粗じり土 延多 黏性あり しまり面

SE580



25.1m

SE580

1

暗褐色土 (暗褐色土の合)

2 暗褐色土 (暗褐色土の合)

3 暗褐色土 (暗褐色土の合)

4 暗褐色土 (暗褐色土と混合)

5 +褐色(赤)ブロック

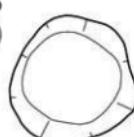
6 褐色土と暗褐色の混合

7 暗褐色土 (暗褐色土と)

8 明褐色(赤)土

9 ?

SE560



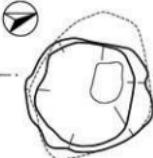
23.8m



SE610



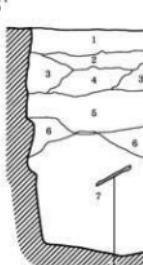
SE590



SE600



24.0m



SE600

1

暗褐色土 脆性・しまりあり

2 うすい暗褐色土 脆性・しまりあり 延少

3 暗褐色土 黄土粒少 1.2mm程度

4 やや褐色+暗褐色土 黄土 しまりあり

5 暗褐色土 脆性・しまりあり

6 暗褐色土 黄土粒少 しまりあり

7 暗褐色土 黄土粒少 6より多い

8 暗褐色土 脆性・しまりあり

9 暗褐色土 黄土粒 しまりあり

10 暗褐色土 脆性・しまりあり 9より多い



SE600

1 暗褐色土 (暗褐色土と褐色ブロック)

2 褐色土 (褐色ブロック)

3 暗褐色土 黄土粒少

4 明褐色土 黄褐色

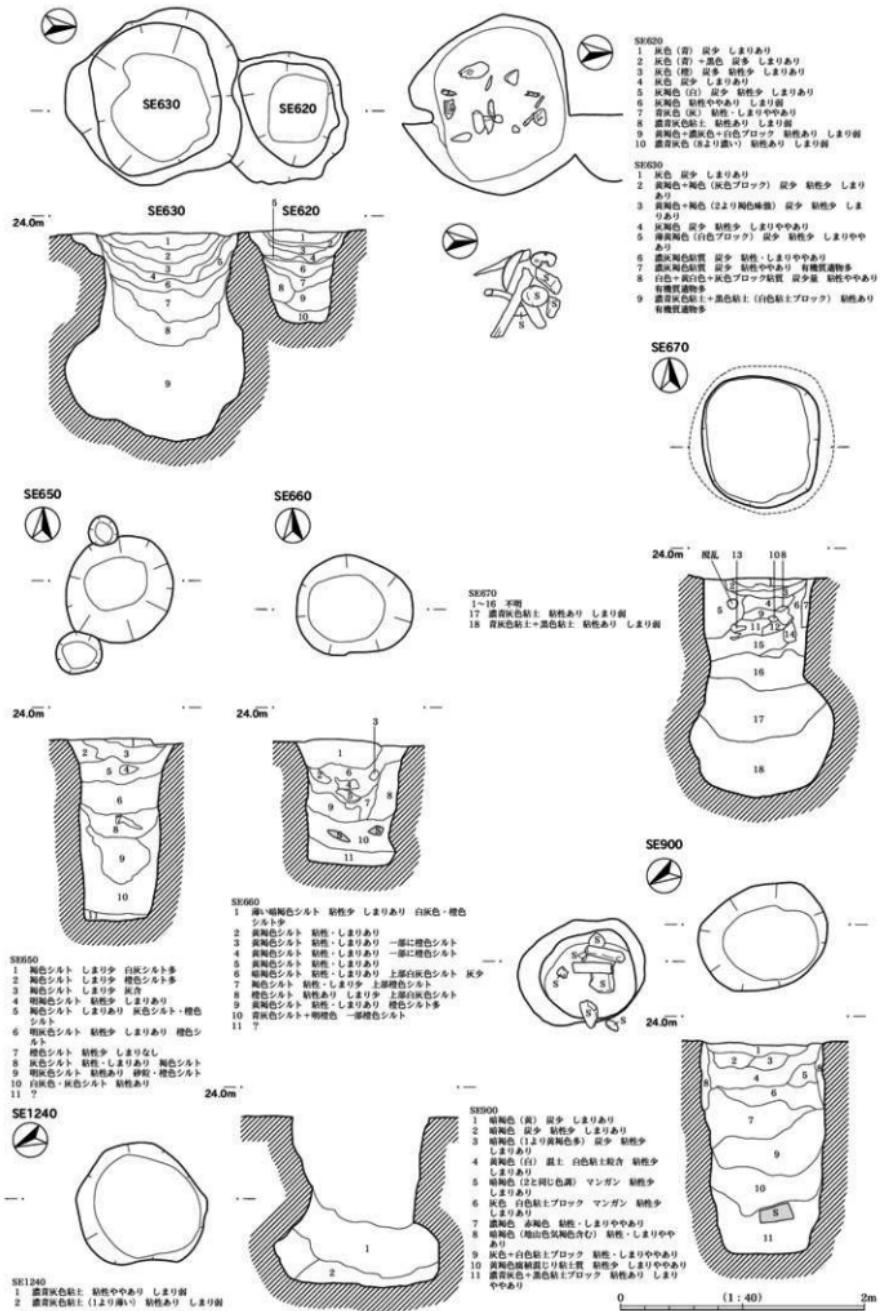
5 暗褐色土 (暗褐色土と褐色)

6 暗褐色土 (やや青みがかった)

7 ?

0 (1:40) 2m

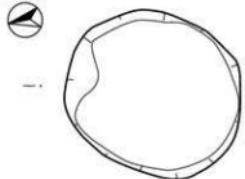
海道遺跡 遺構個別図 7



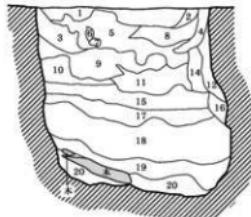
図版 15

海道遺跡 遺構個別図 8

SE1110



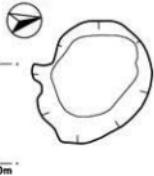
24.0m



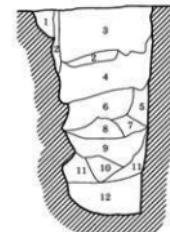
SE1110

- 1 黒褐色土：しまりあり 層少
- 2 黒褐色土：しまりあり
- 3 黒褐色土：しまりあり
- 4 黑褐色土：しまりあり 3より薄い
- 5 黑褐色土：しまりあり
- 6 黑褐色土：しまりあり 3より薄い
- 7 黑褐色土：しまりあり 3より薄い
- 8 黑褐色土：しまりあり 1-2.2より薄い
- 9 黑褐色土：しまりあり より若干薄い
- 10 黑褐色土：しまりあり
- 11 黑褐色土：しまりあり 9より薄い
- 12 黑褐色土：しまりあり 4より薄い
- 13 黑褐色土：しまりあり 3より薄い
- 14 黑褐色土：しまりあり 3より薄い
- 15 黑褐色土：しまりあり 3より薄い
- 16 黑褐色土：しまりあり
- 17 黑褐色土：しまりあり 1.8より薄い
- 18 黑褐色・灰褐色のブロック：しまりあり 脆性やあり
- 19 灰褐色土：弱性・しまりあり 灰色ブロックに同じ
- 20 黑褐色土：弱性あり しまりややあり 有機灰黑色

SE1120



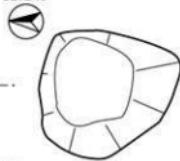
24.0m



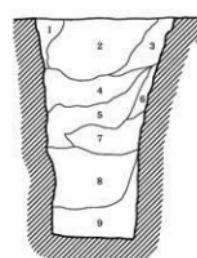
SE1120

- 1 黒褐色粘質土：しまりあり 下部灰多
- 2 黒褐色粘質土：しまりあり
- 3 黒褐色粘質土：弱性
- 4 黒褐色粘質土：弱性・しまりややあり
- 5 黑褐色粘質土：弱性・しまりややあり 黄褐色シルト多
- 6 黑褐色粘質土：弱性・しまりややあり 黄褐色シルト少
- 7 黑褐色粘質土：弱性・しまりややあり 黄褐色シルト少
- 8 黑褐色粘質土：弱性・しまりややあり 2.2より薄い 黄褐色シルト少
- 9 黄褐色シルト：弱性・しまりあり 黄褐色シルト少
- 10 黑褐色粘質土：弱性・しまりあり
- 11 黑褐色粘質土：弱性・しまりあり 白灰色シルト少
- 12 白灰色シルト：弱性・しまり強・黄褐色シルト少

SE1246



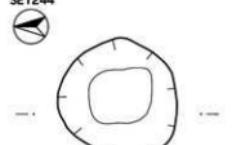
24.0m



SE1246

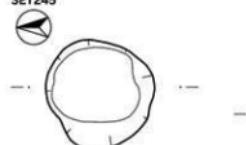
- 1 黒褐色土：弱・しまりあり
- 2 黑褐色土（褐色）：弱性少・しまりあり
- 3 黑褐色土（黃）：黄色土ブロック：弱性少・しまりややあり
- 4 黑褐色土（灰）：弱性少・しまりあり
- 5 黑褐色粘質土：弱性・しまりあり 黄褐色シルト少
- 6 黑褐色シルト：弱性・しまりあり 黄褐色シルト少
- 7 黑褐色（灰色やや薄い）：弱性少・しまりややあり
- 8 黄褐色：弱性・しまりややあり
- 9 黄褐色粘質土：弱性あり・しまりややあり
- 10 黄褐色粘質土：弱性あり・しまりややあり

SE1244

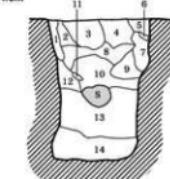


24.0m

SE1245



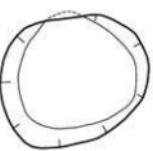
24.0m



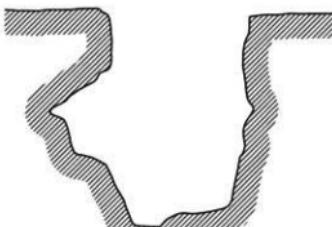
SE1245

- 1 黑褐色土+灰褐色土上ブロック：しまりあり
- 2 黑褐色土：弱性あり
- 3 黑褐色土+灰褐色土：しまりややあり
- 4 黑褐色土+灰褐色土上ブロック：弱性なし・しまりあり
- 5 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土：弱性少・しまりややあり
- 6 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土：弱性少・しまりややあり
- 7 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土：弱性少・しまりややあり
- 8 混接褐色土+黑褐色土：弱性ややあり・しまり弱
- 9 黑褐色土+灰褐色土上：弱性ややややあり・しまり弱

SE1241



24.0m



SE1241

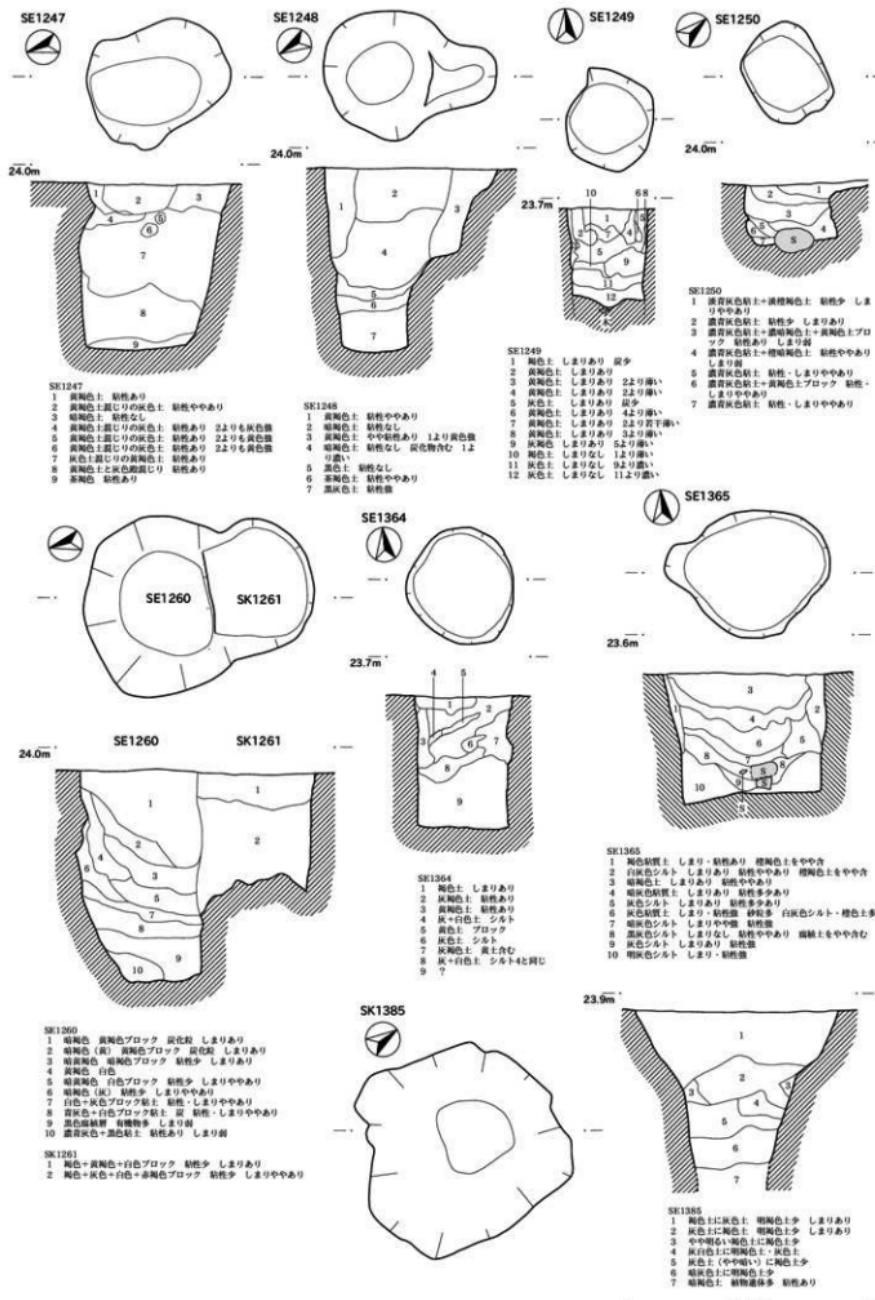
- 1 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上ブロック：しまりあり
- 2 黑褐色土：弱性あり
- 3 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 4 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 5 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 6 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 7 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 8 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 9 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 10 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 11 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 12 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 13 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少
- 14 黑褐色土+灰褐色土上+灰褐色土上：弱性少・しまり少

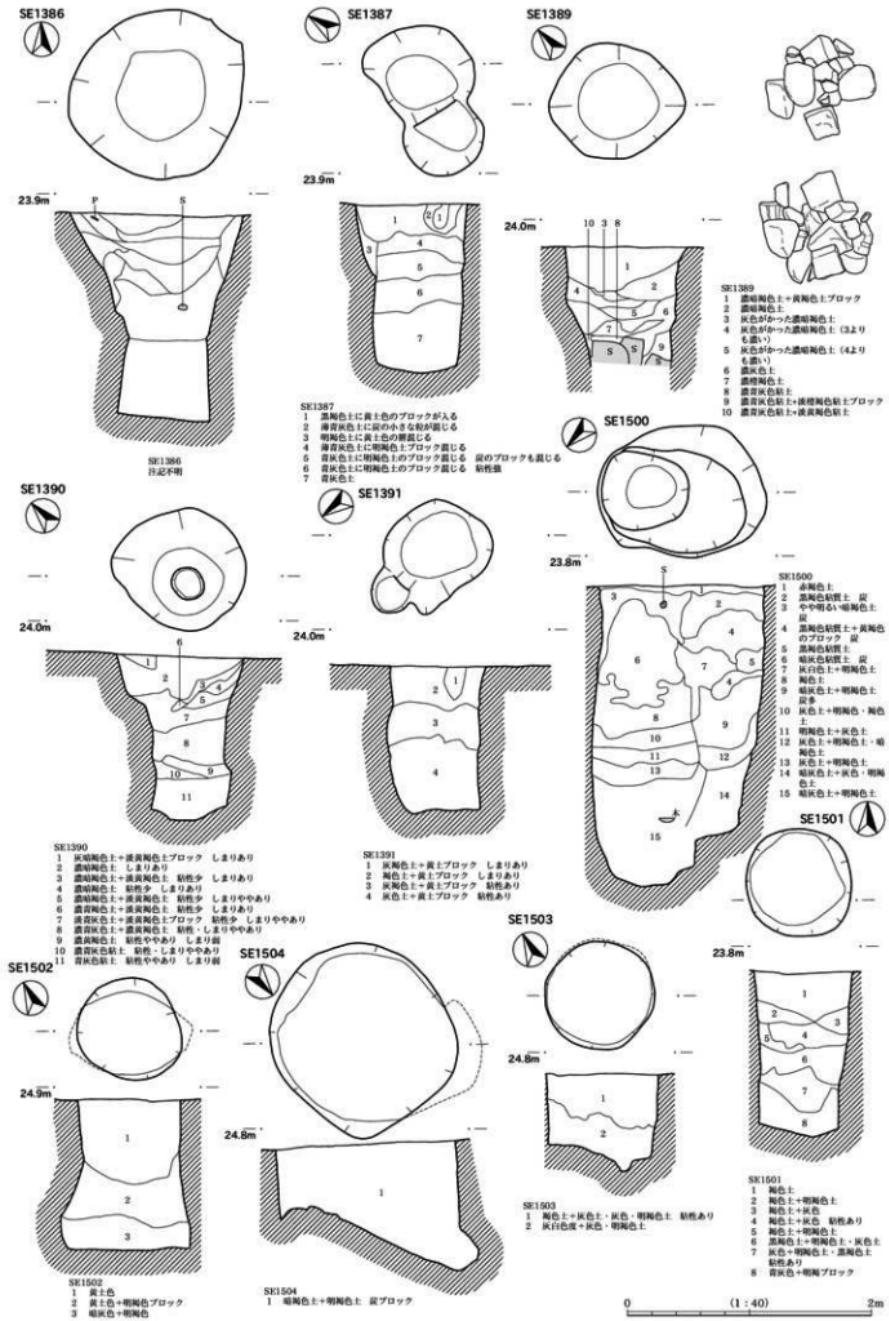
0

(1:40)

2m

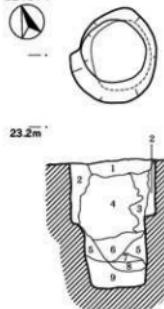
海道遺跡 遺構個別図 9





## 海道跡 道構個別図 11

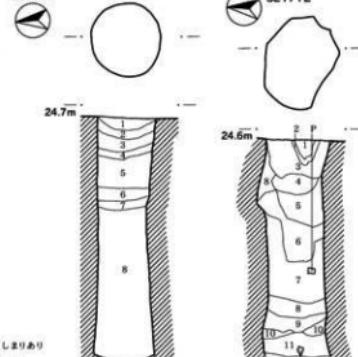
SE1514



SE1514

- 1 海色底質上 棕褐色シルト 細粒ややあり しまりあり
- 2 黄褐色土 しまりあり
- 3 黄褐色地山 黄褐色土 しまりややあり
- 4 黄褐色シルト 黄褐色 地山 しまりややあり
- 5 黄褐色底質上 棕褐色シルト 細粒ややあり しまりあり
- 6 黄褐色シルト 黄褐色 地山 しまりあり
- 7 黄褐色シルト 黄褐色 地山 しまりややあり
- 8 黄褐色シルト 黄褐色 地山 しまりややあり
- 9 黑褐色細土 黄褐色 しまりなし 組織連体層

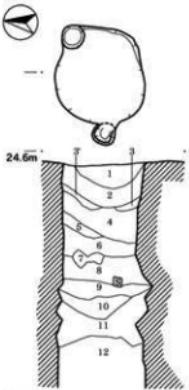
SE1711



SE1711

- 1 始端褐色土 褐化物
- 2 黄褐色地山 黄褐色物多
- 3 黄褐色土
- 4 黄褐色土 黄褐色地山 ブロック
- 5 黄褐色土  
6 黄褐色土 しまりなし
- 7 黄褐色地山 ブロック 5層複数層
- 8 不明(底層)

SE1717



SE1718



SE1717

- 1 黄褐色土
- 2 黄褐色土 層少
- 3 黄褐色土 (鉄質)
- 3' 黄褐色粉が少なく2層・4層より黄色が強い
- 4 黄褐色土  
5 黄褐色土  
6 黄褐色土 よくしまる  
7 黄褐色土  
8 黄褐色土  
9 黄褐色土  
10 黄褐色土  
11 黄褐色粘土 (鐵化土)  
12 黑褐色細土

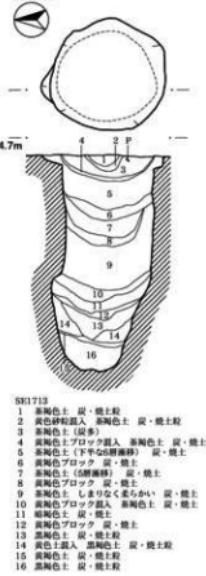
SE1718

- 1 黄褐色土 よくしまる
- 2 黄褐色土 (ブロック状)
- 3 黄褐色ブロック 黄褐色土 よくしまる
- 4 黄褐色土 多量褐色土 しまりなし
- 5 黄褐色土  
6 黑褐色土  
7 黄褐色土 (4・5・6に比べてよくしまる)
- 8 黄褐色土  
9 黑褐色土  
10 黄褐色土  
11 黄褐色土  
12 黑褐色細土
- 13 黄褐色土  
14 黄褐色土  
15 黄褐色土  
16 黄褐色土  
17 黄褐色土  
18 白褐色青灰土  
19 黄褐色土 (鉄化底質)  
20 黄褐色土  
21 黄褐色土  
22 青灰色粘土  
23 黑灰色粘土  
24 黄褐色土  
25 黄褐色粘土

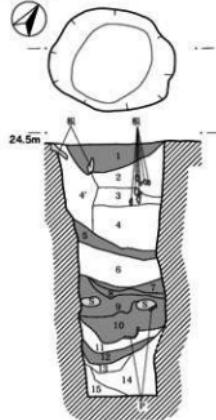
SE1712



SE1713

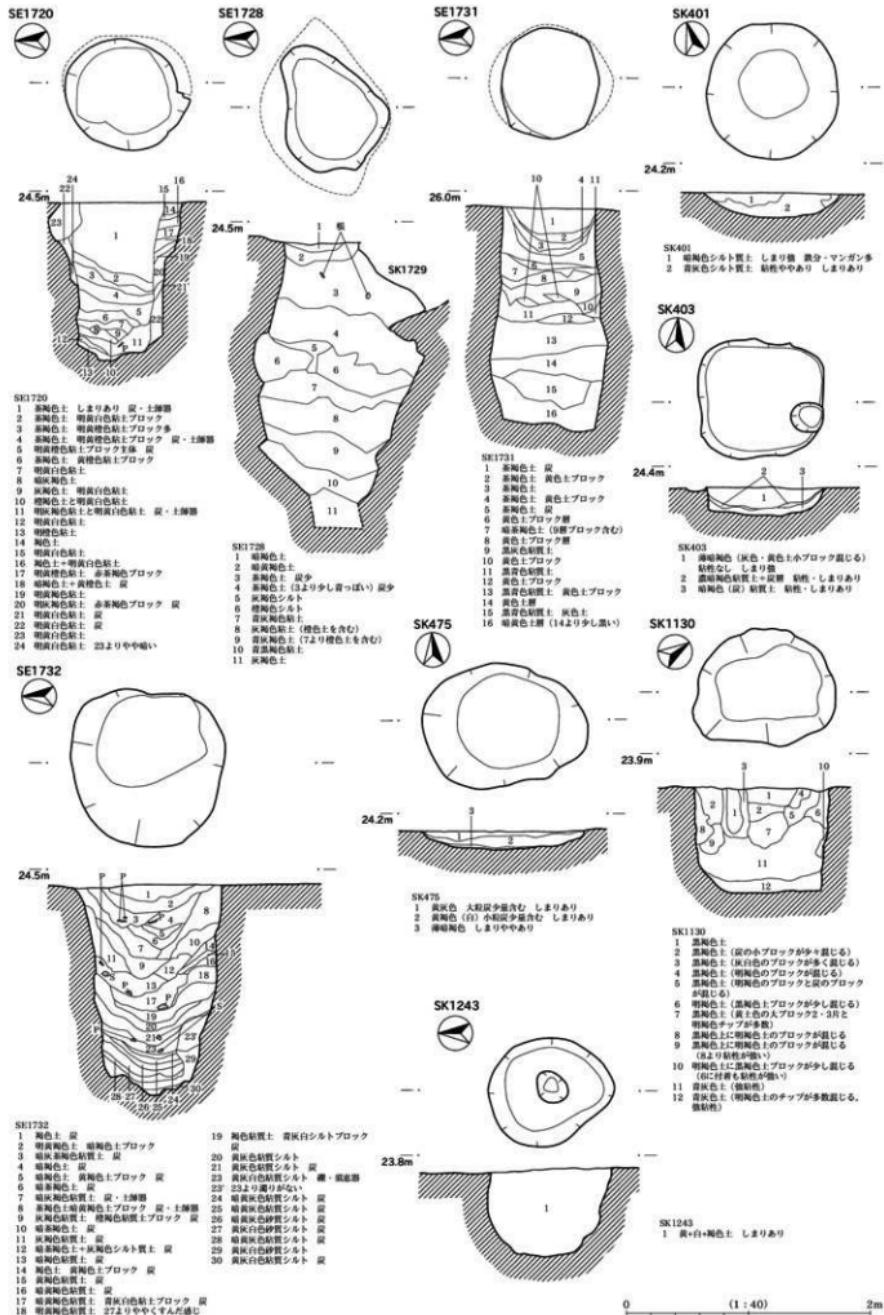


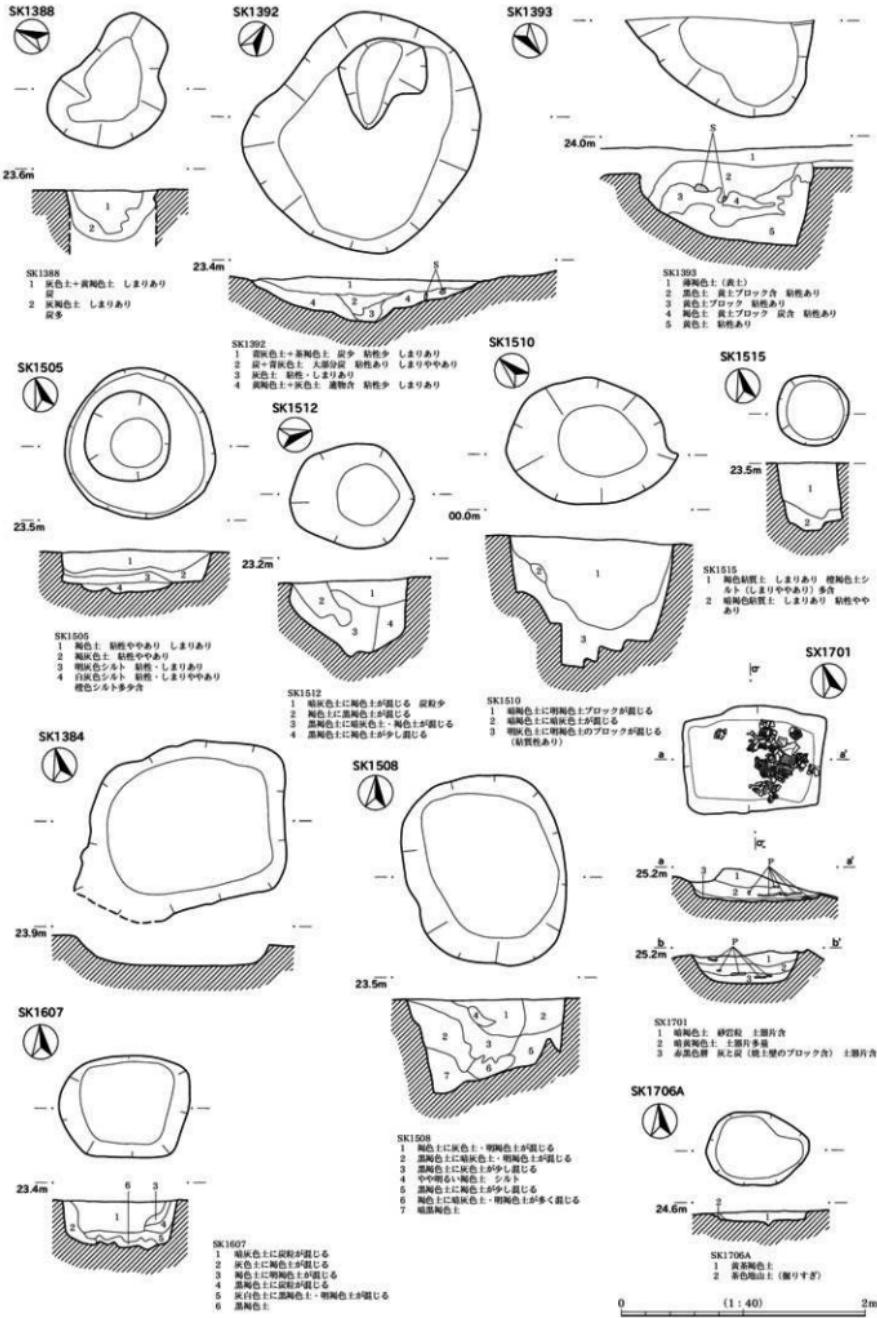
SE1719

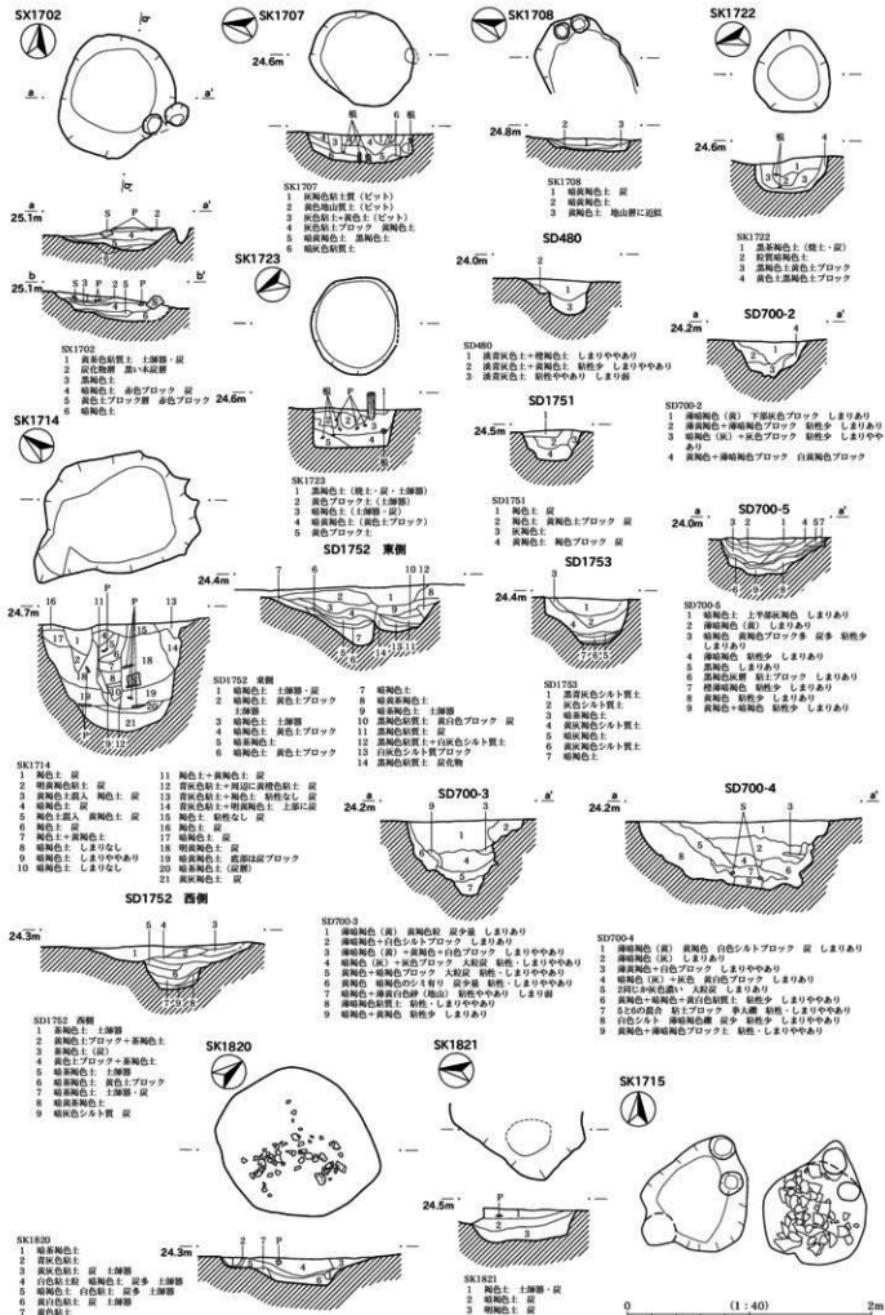


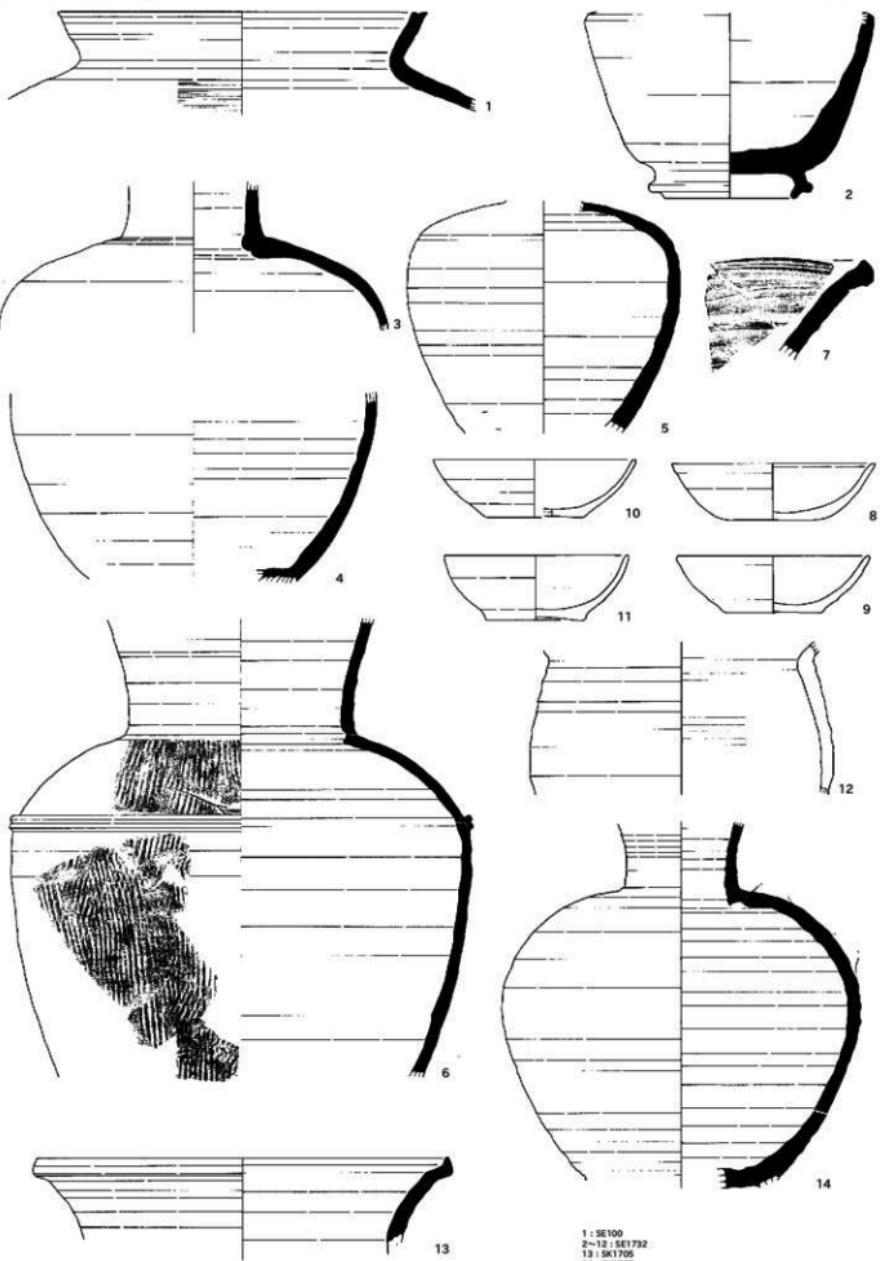
SE1719

- 1 黄褐色土 侵入 固くよくしまる
- 2 黄褐色土 侵入 固くよくしまる 固くよくしまる
- 3 黄褐色土 黄褐色ブロック (侵入) 固くよくしまる
- 4 黄褐色ブロック 黑褐色土 (侵入・土壤層 柔らかめ)
- 4' 4より薄く白色ブロック
- 5 黑褐色土 黑褐色土 (侵入)
- 6 黄褐色土 黄褐色土 (侵入)
- 7 黄褐色土 黄褐色土 (侵入)
- 8 黄褐色土 黄褐色土 (侵入)
- 9 黄褐色土 黄褐色土 (侵入)
- 10 黄褐色土 黄褐色土 (侵入)
- 11 黄褐色土 黄褐色土 (侵入)
- 12 黄褐色粘土 黄褐色土
- 13~16 不明



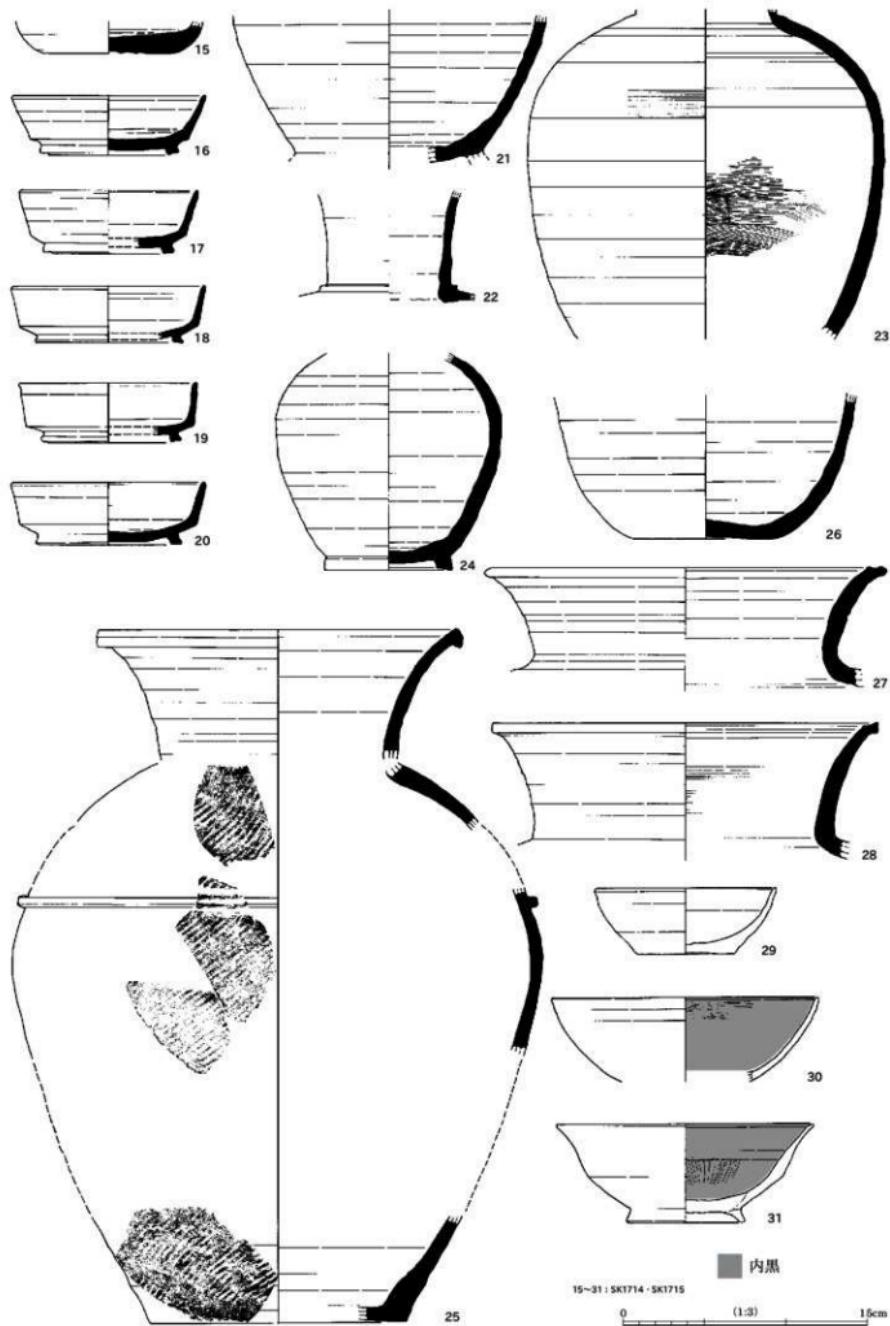


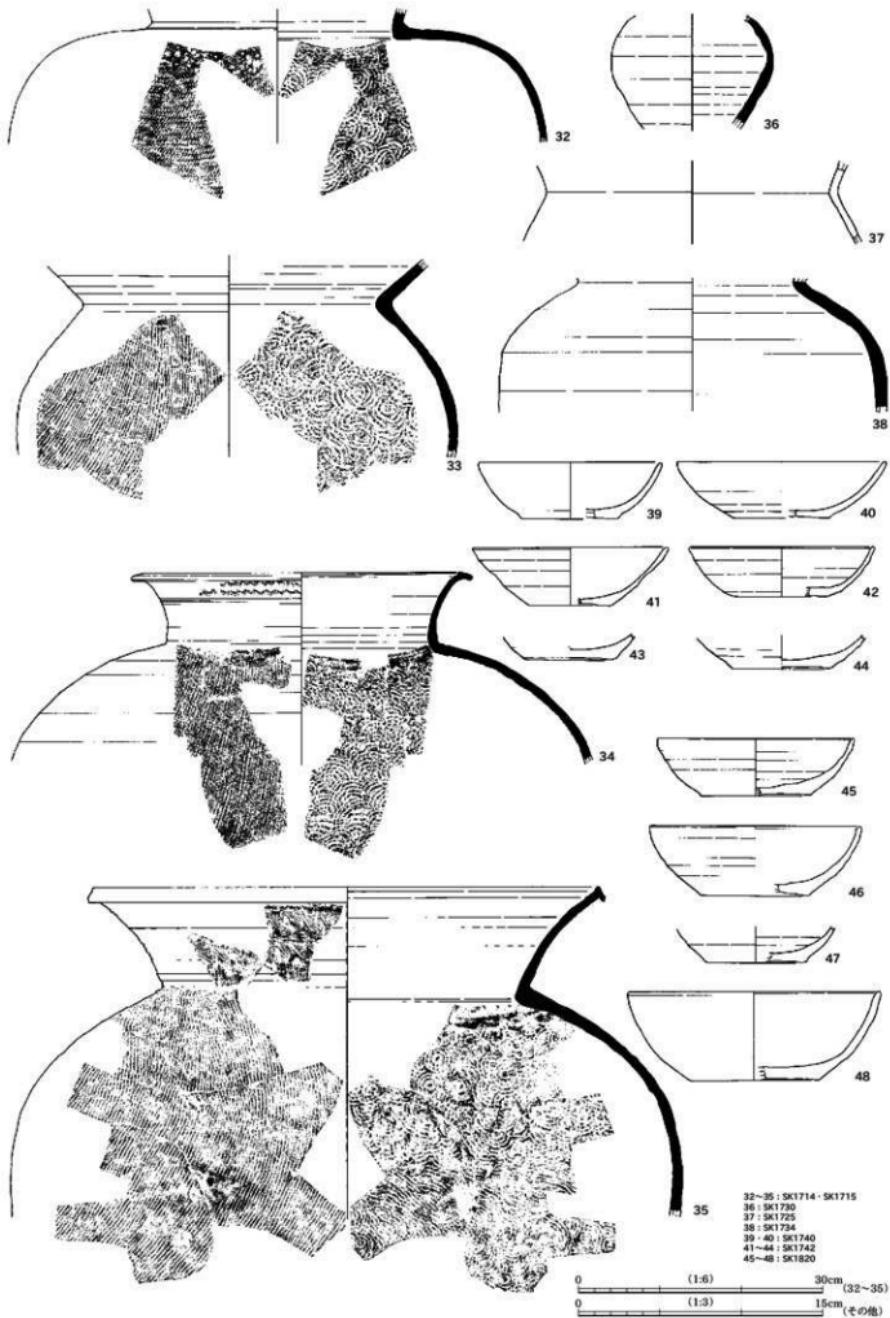


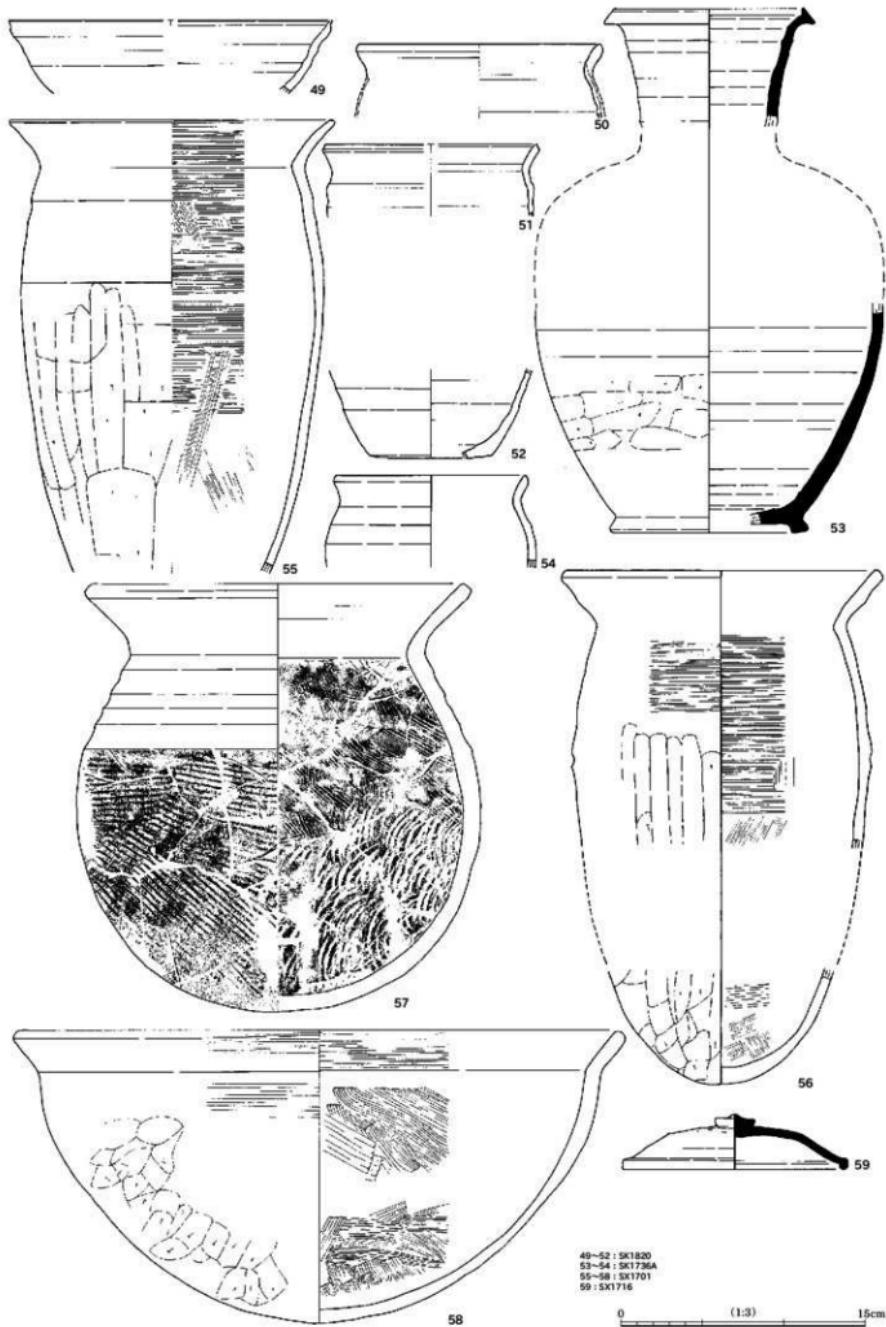


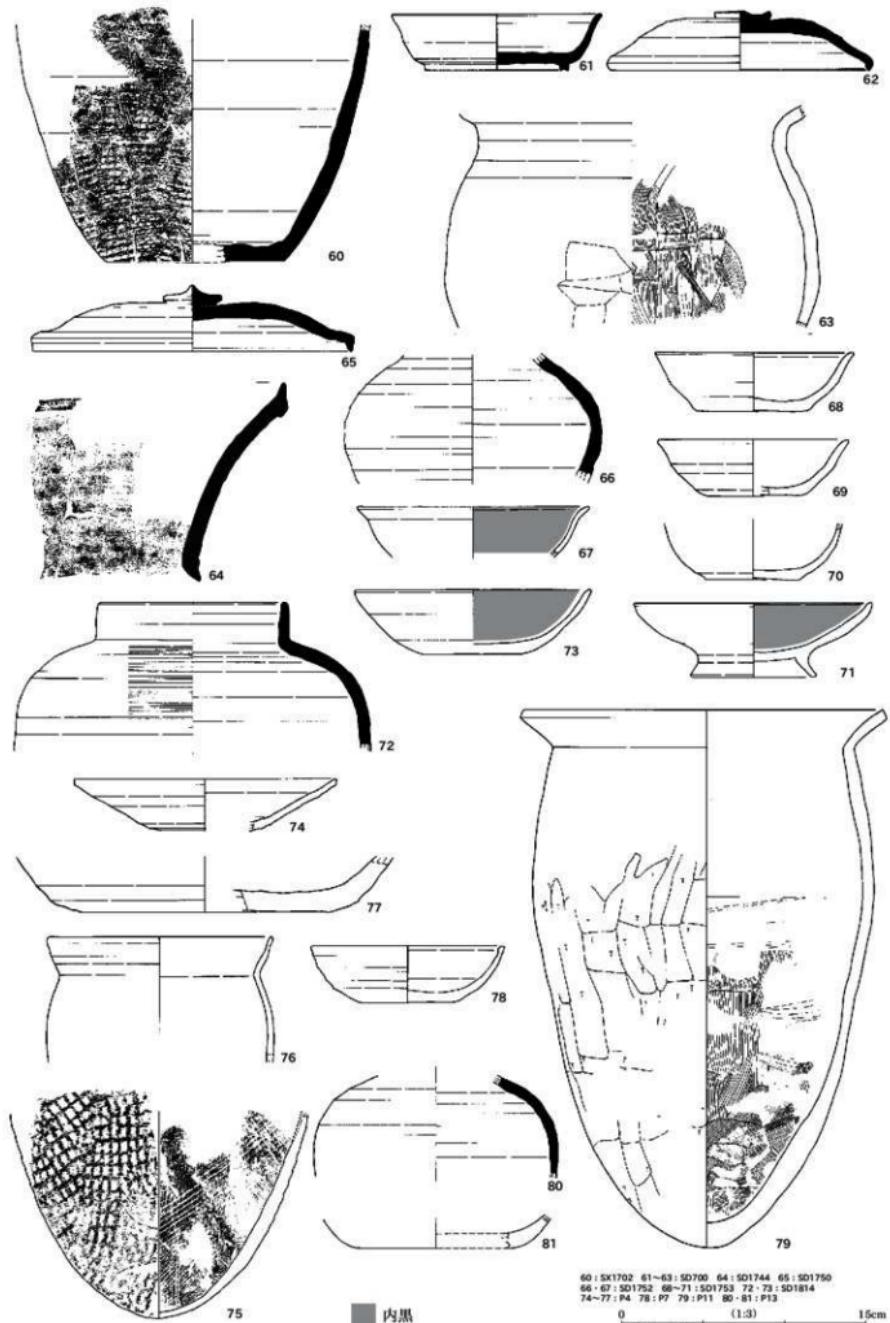
1 : SE100  
 2~12 : SE1792  
 13 : SK1705  
 14 : SK1707

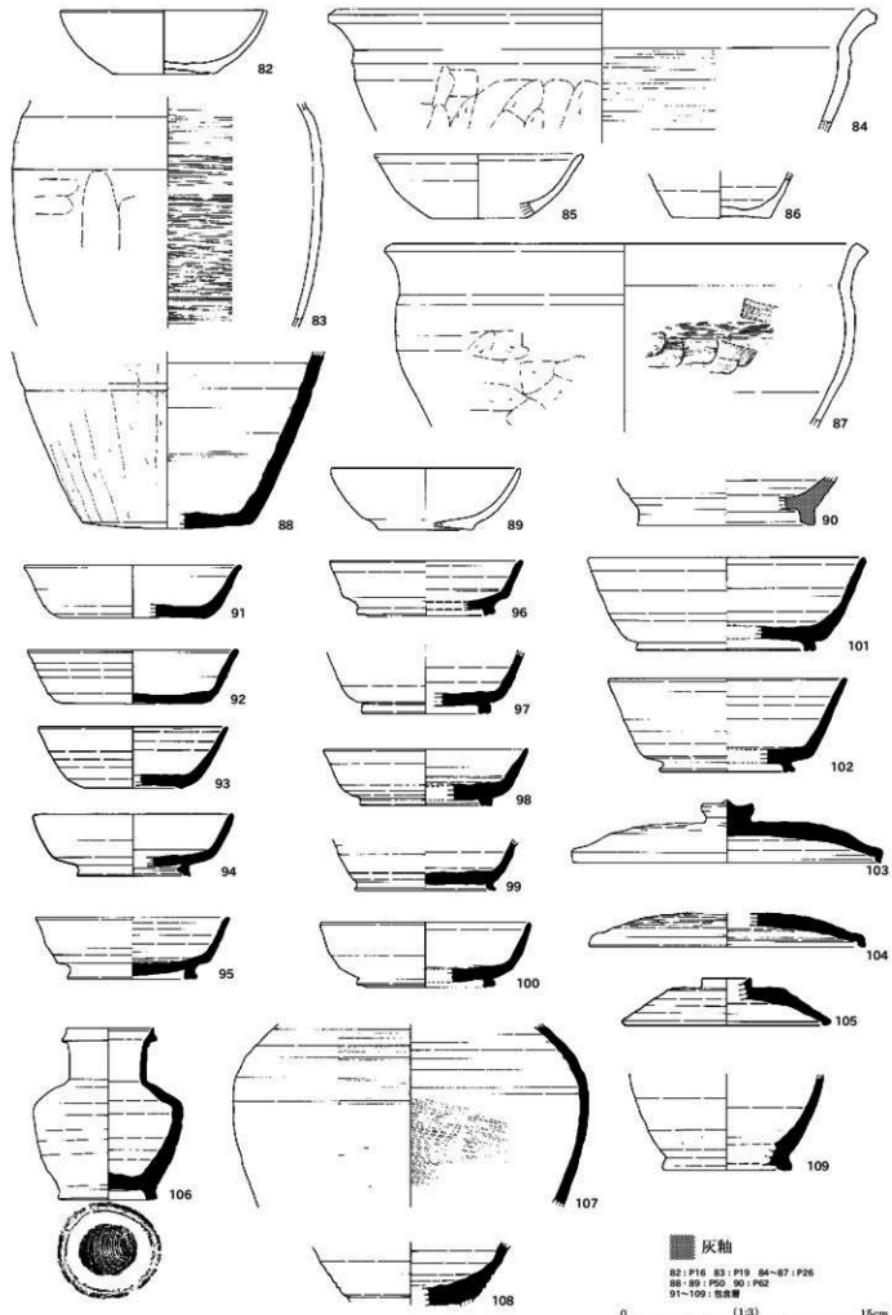
0 (1.3) 15cm



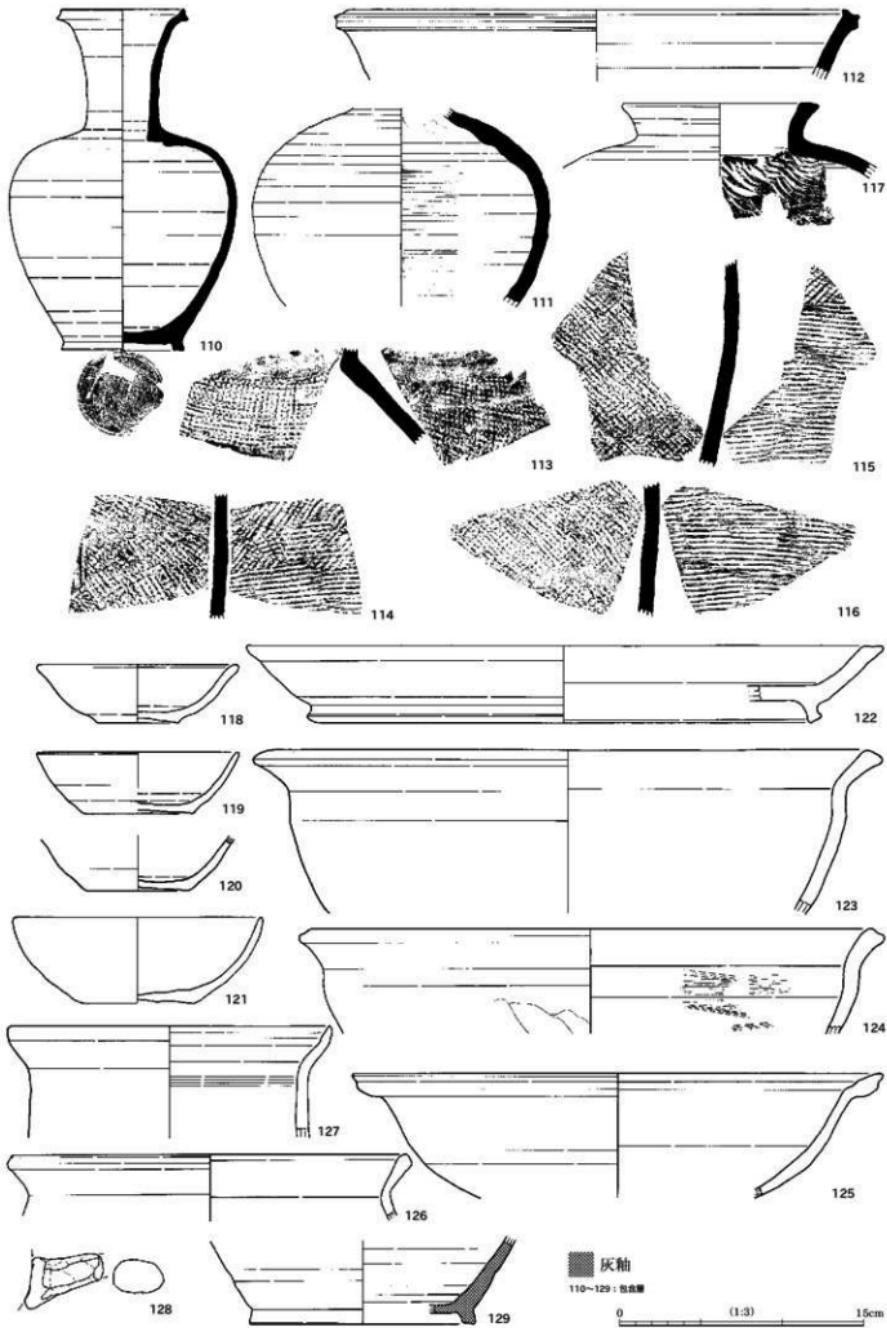


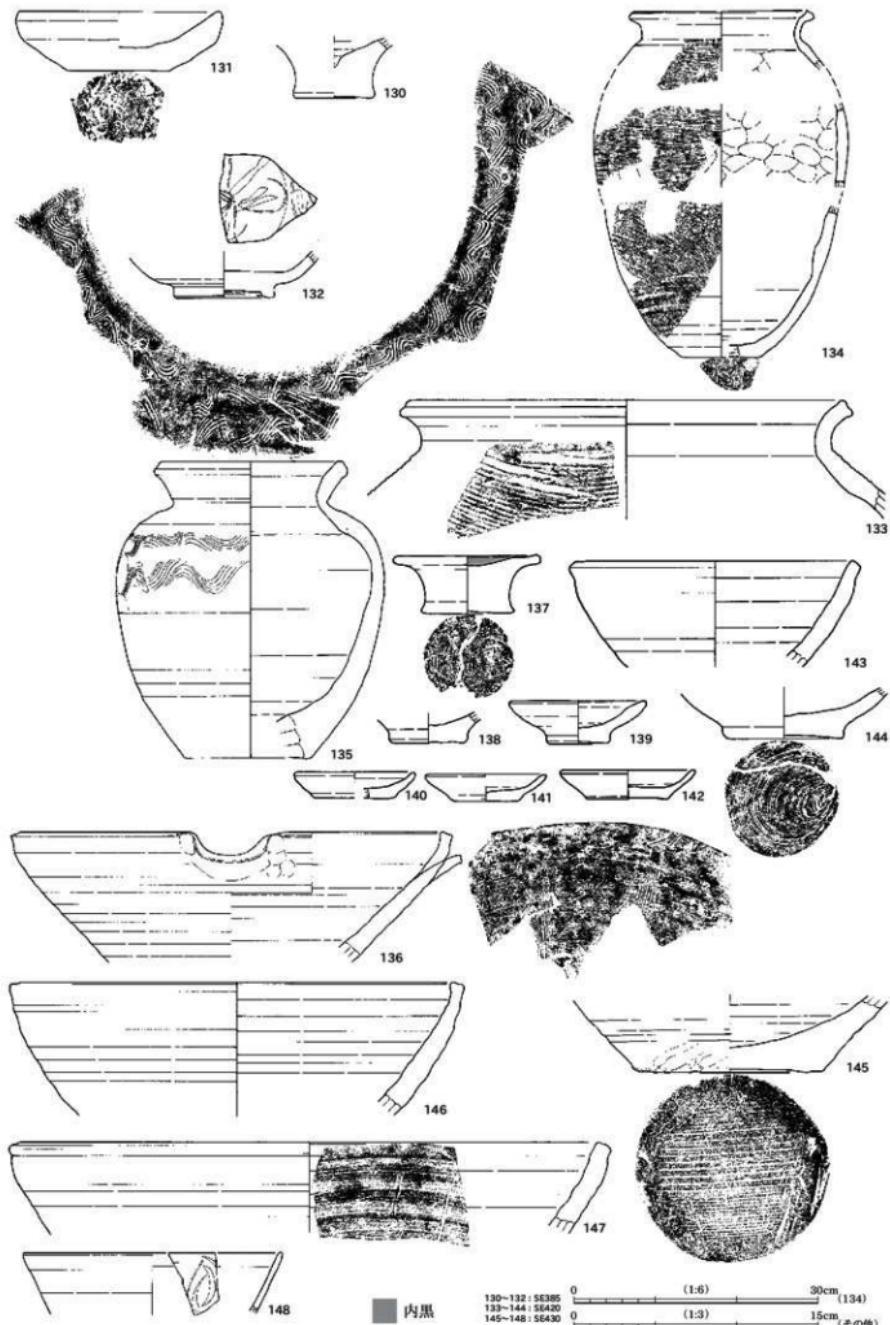


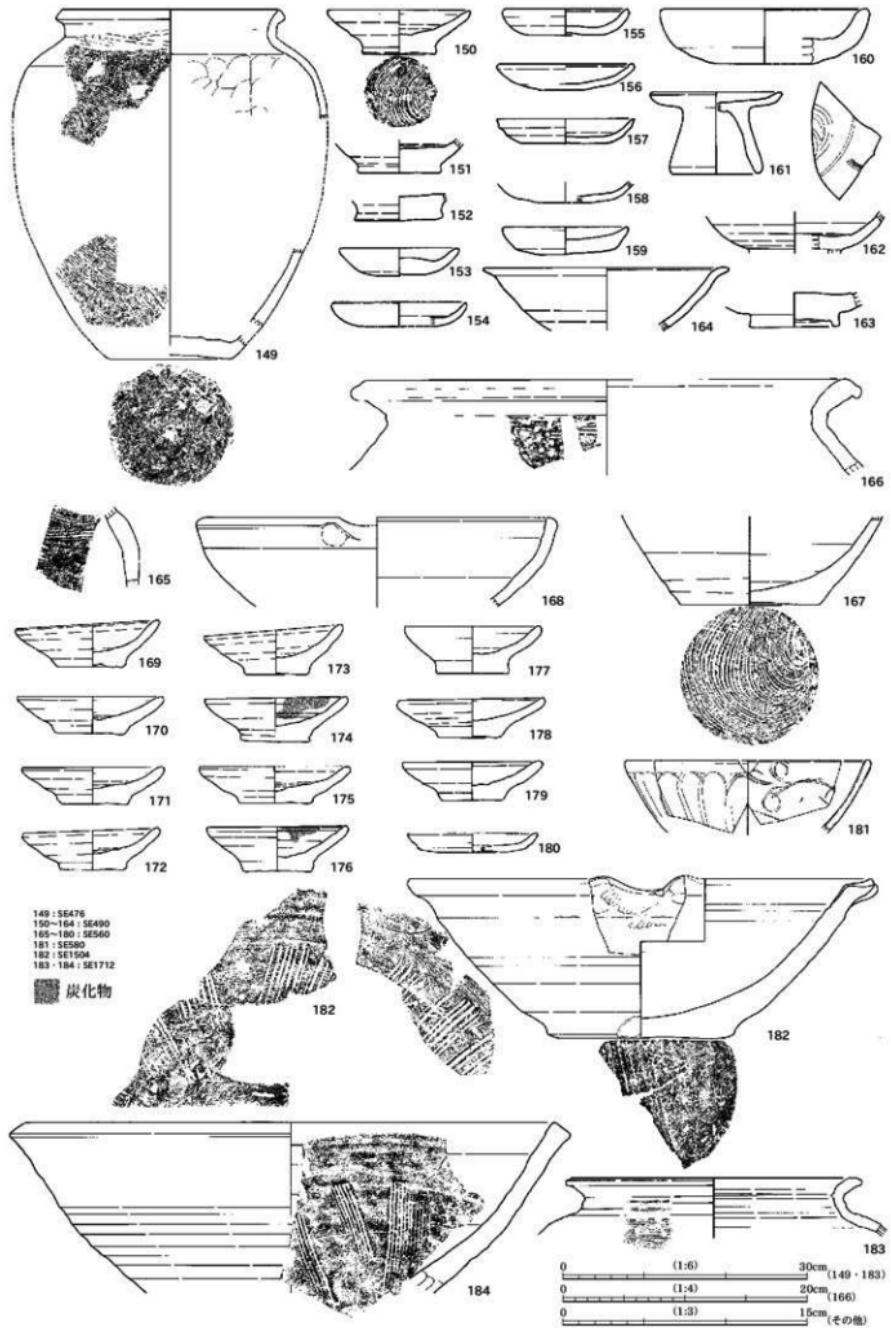


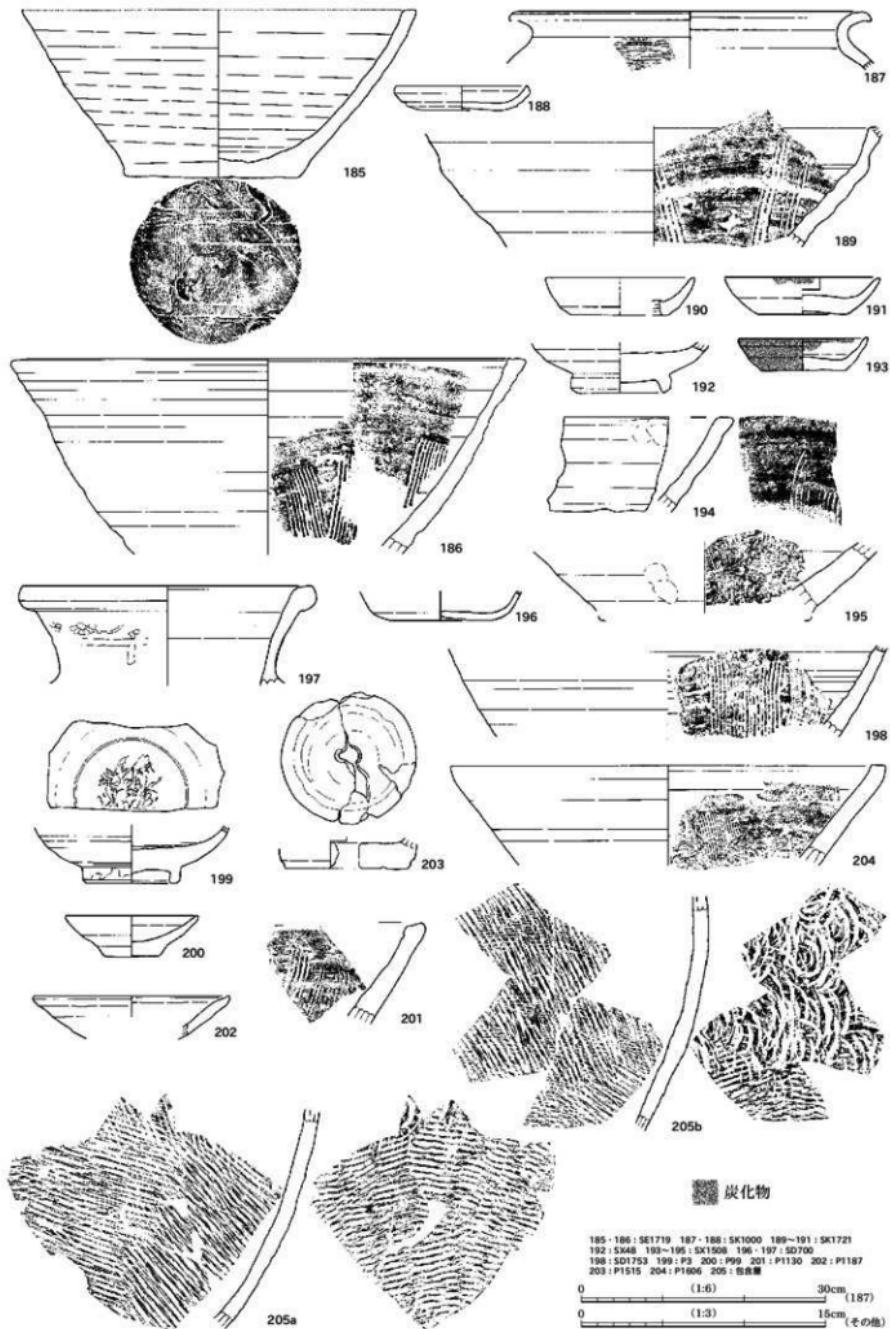


0 (1:3) 15cm









185-186: SEI719, 187-188: SK1000, 189-191: SK1721

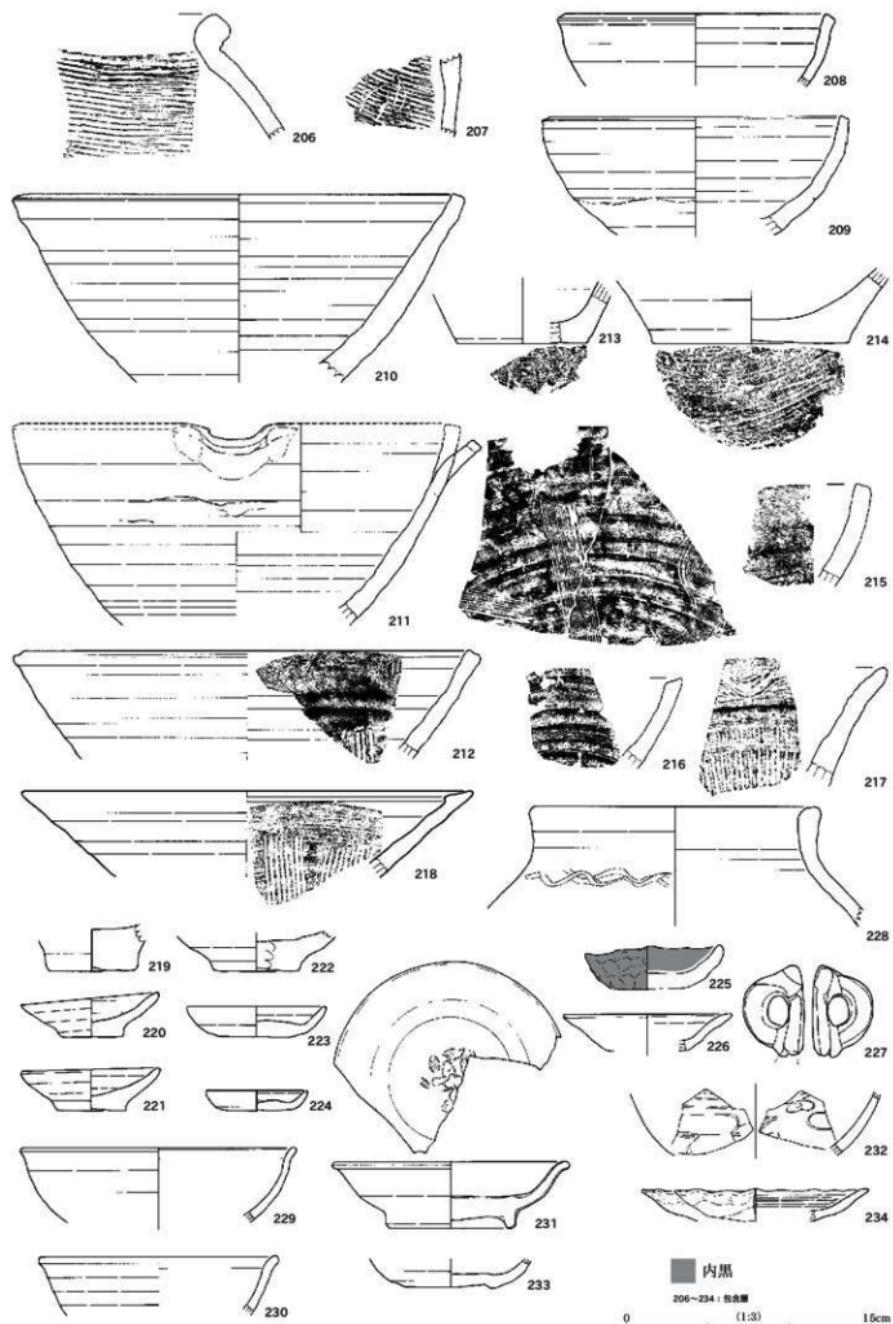
192: SK448, 193-195: SK1598, 196-197: SD700

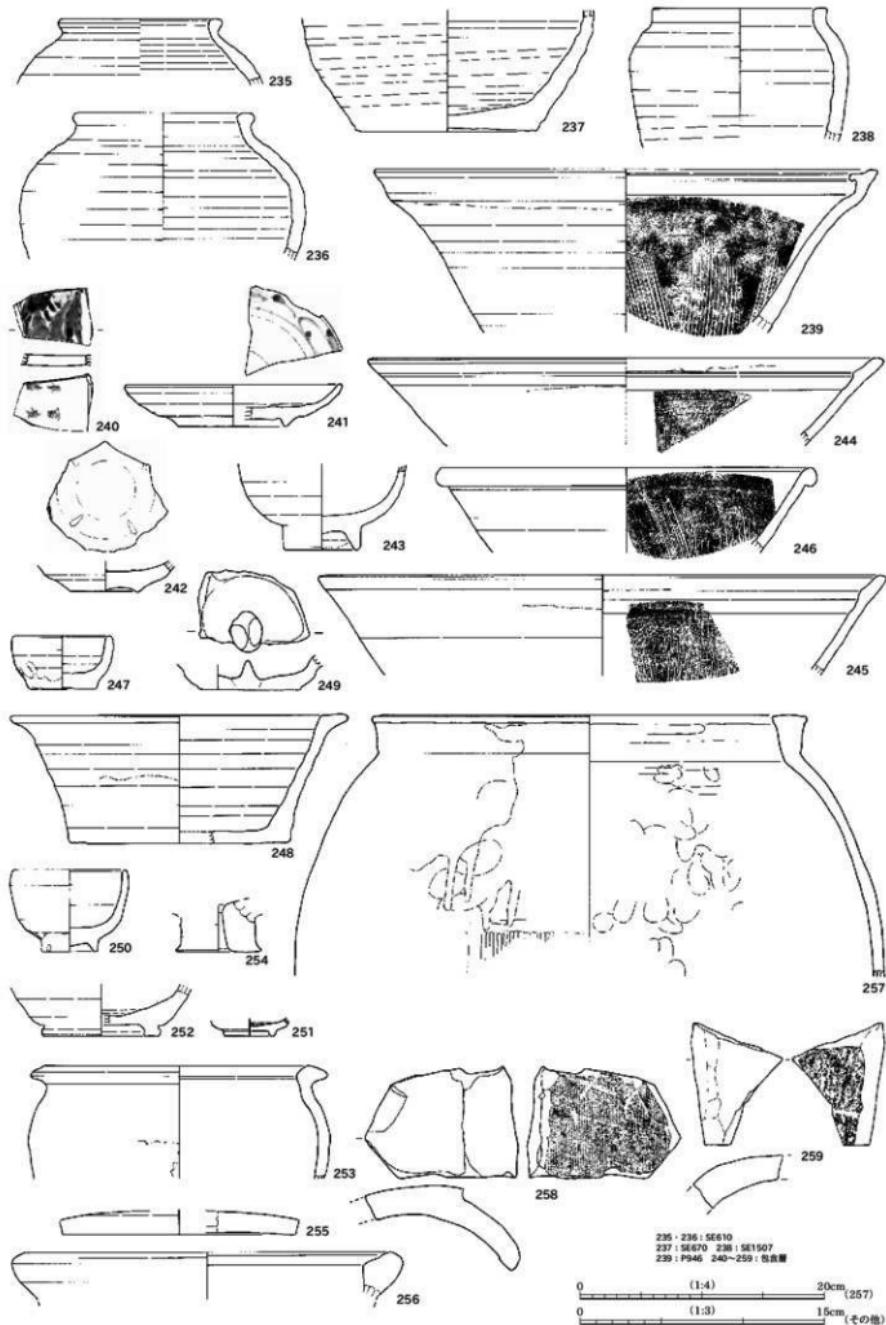
198: SD1753, 199: P3, 200: P99, 201: P1130, 202: P1187

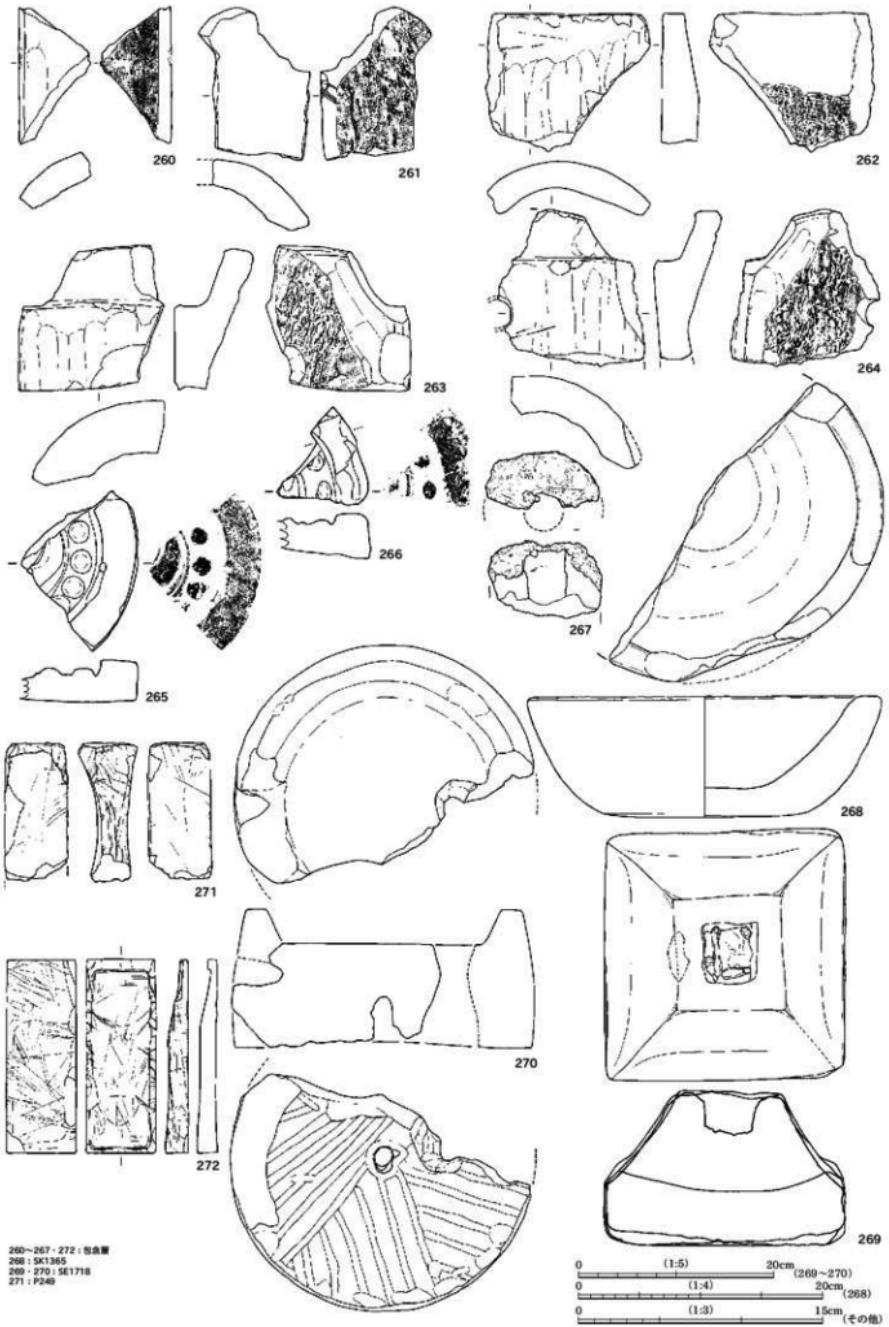
203: P1515, 204: P1600, 205: 他未著

0 (1:6) 30cm (187)

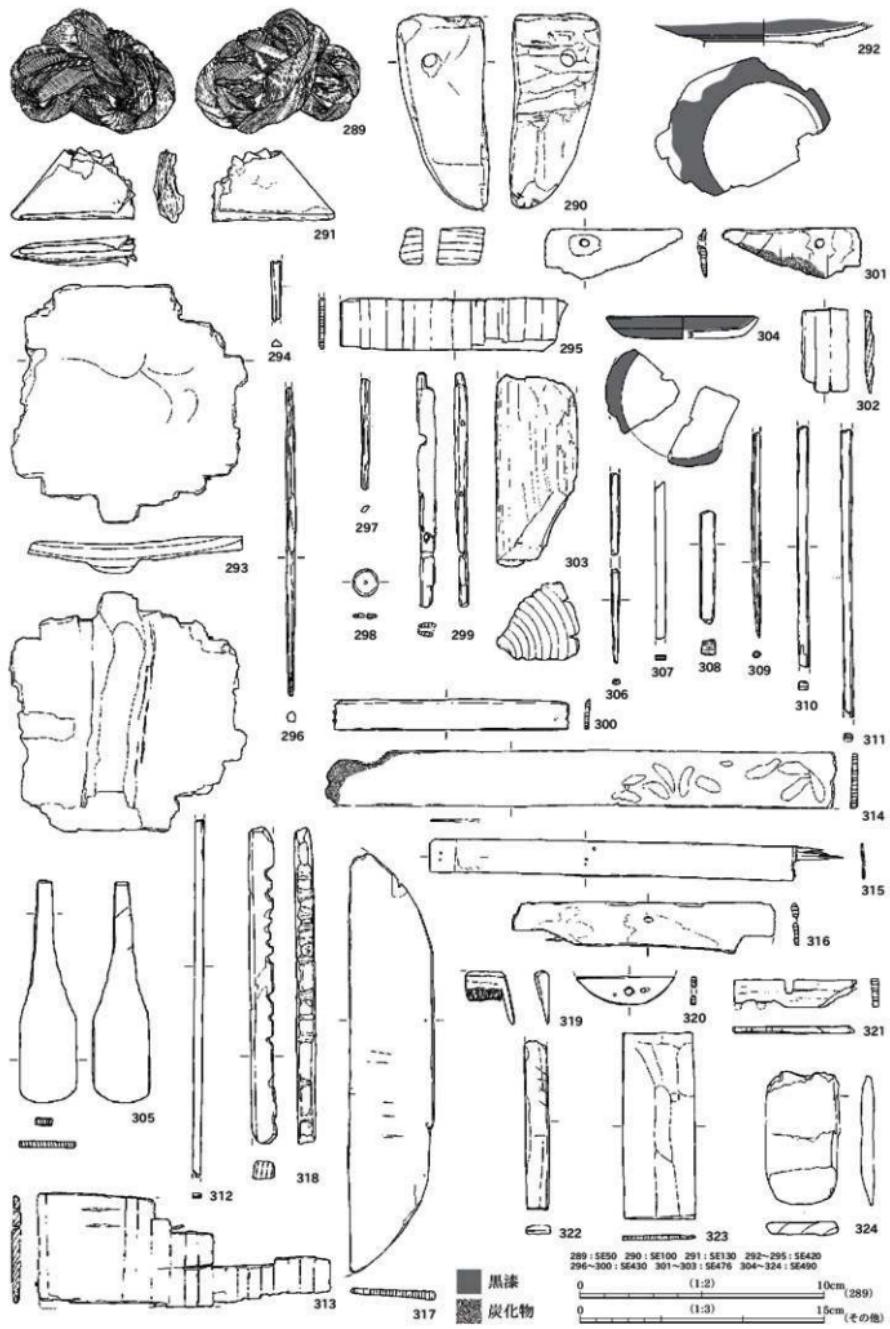
0 (1:3) 15cm (その他)

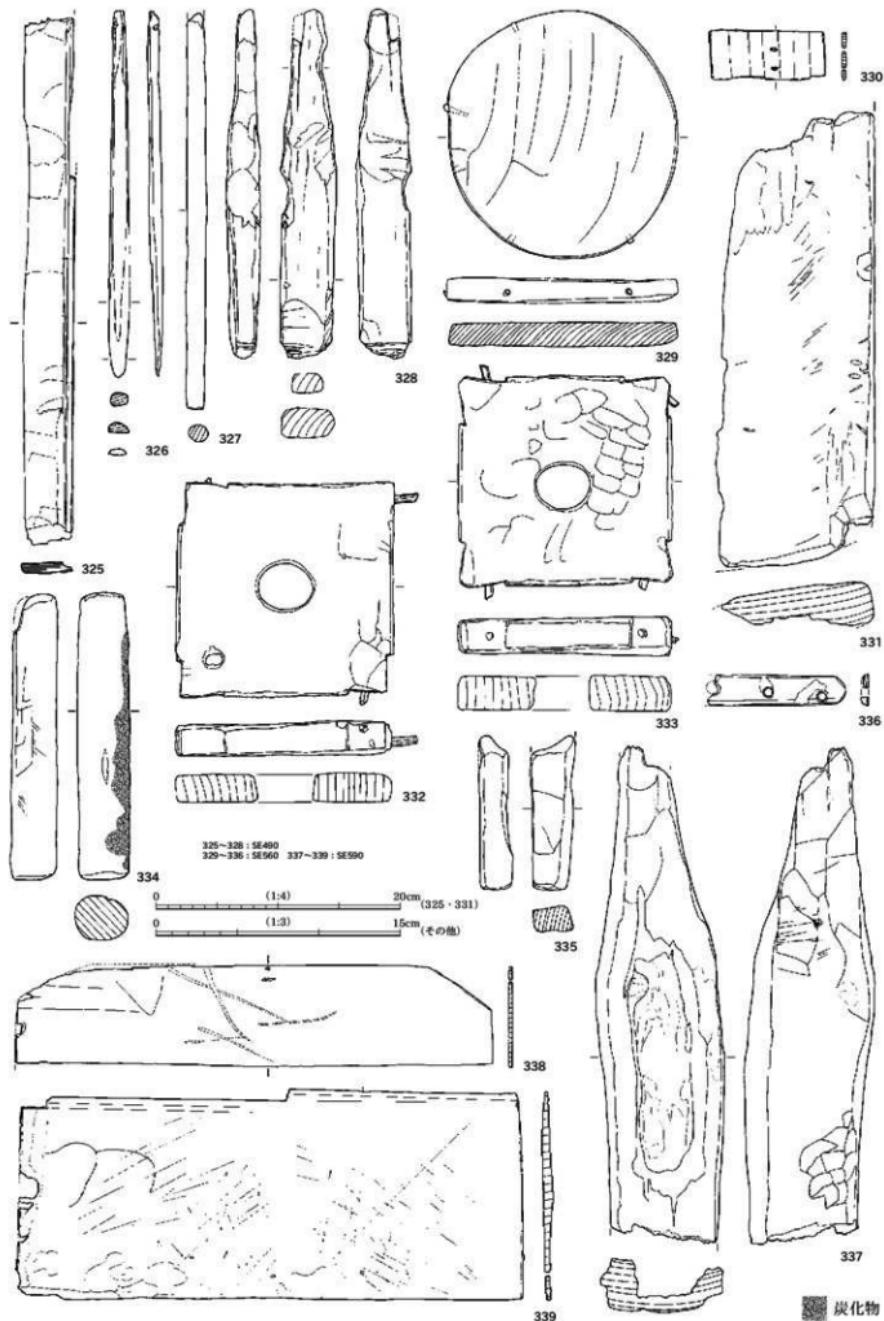


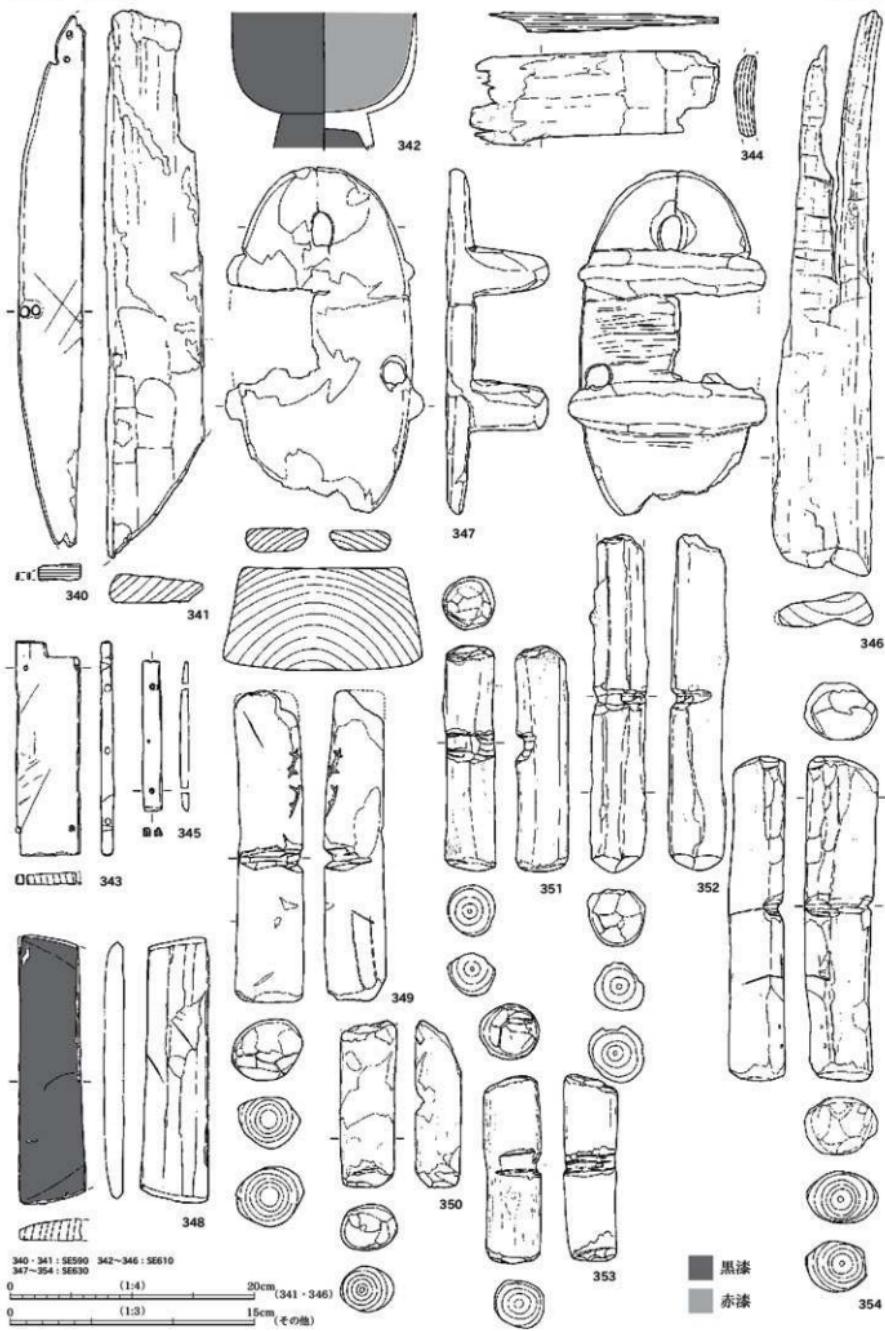


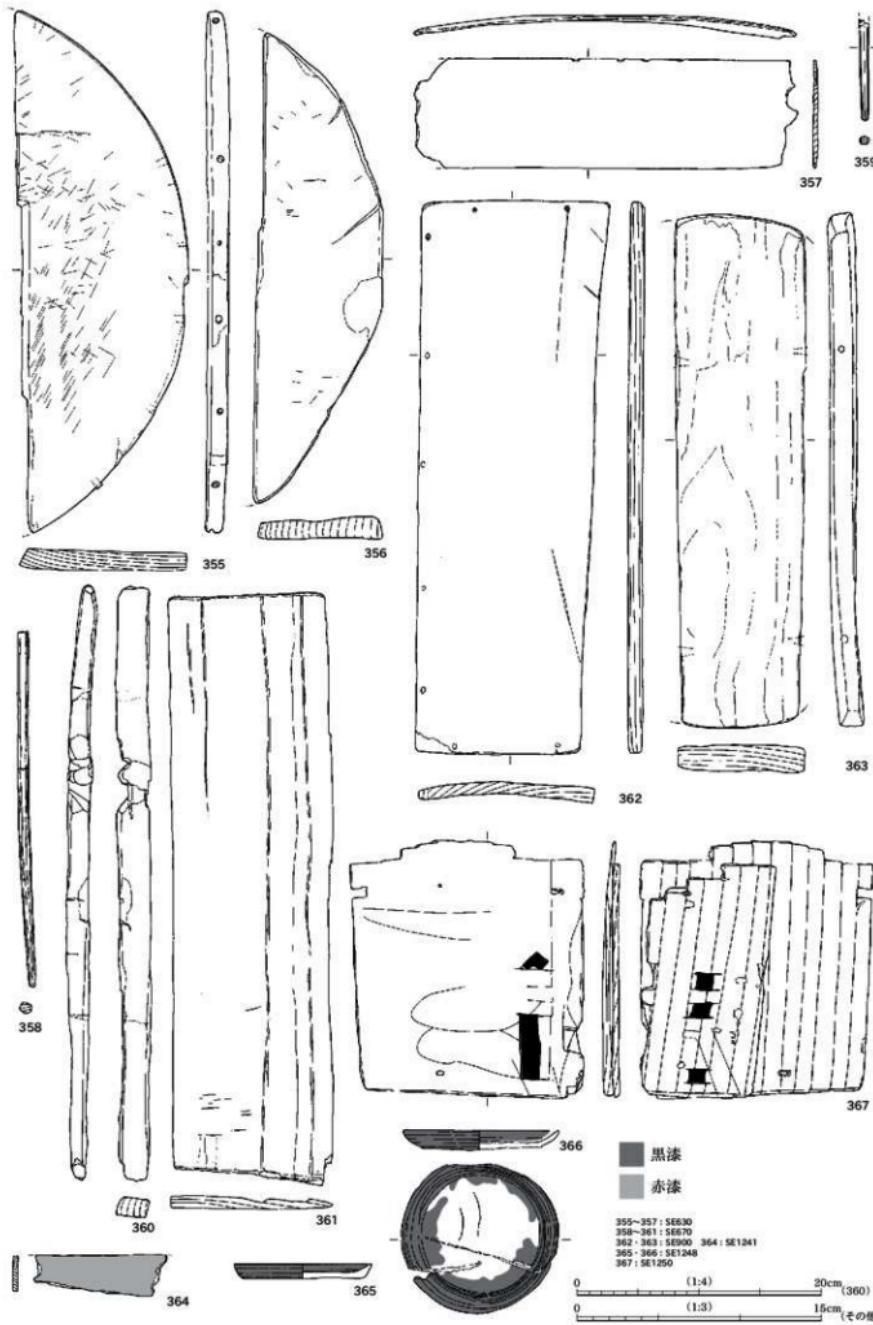


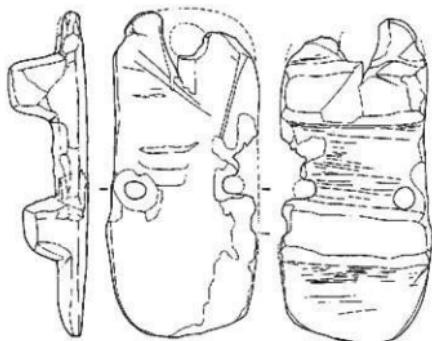




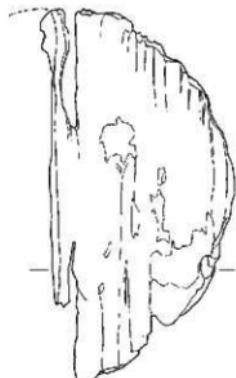




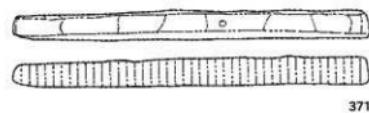




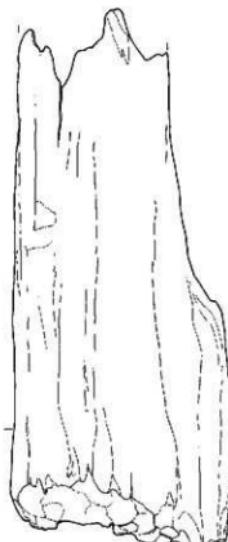
368



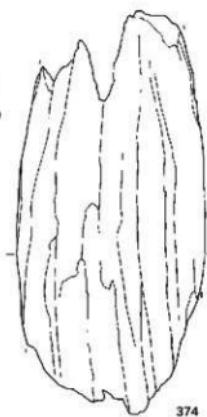
370



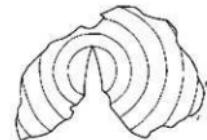
371



373



374

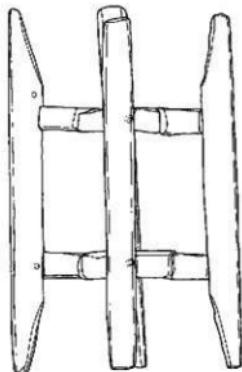
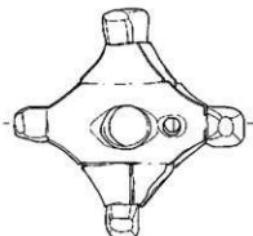


375

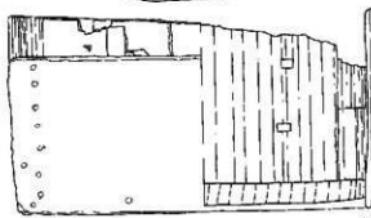
368 : SE1387 369 : SE1500  
370-372 : SE1517 373 : P445  
374 : P927 375 : 555

372

0 (1:4) 20cm (373)  
0 (1:3) 15cm (その他)



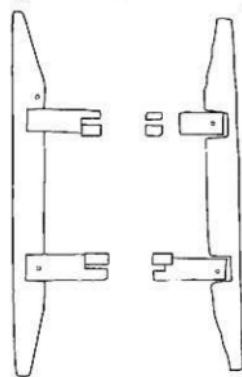
376



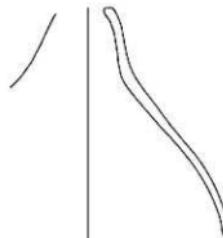
377



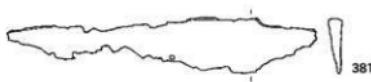
378



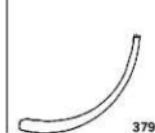
379



380

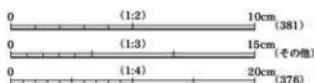


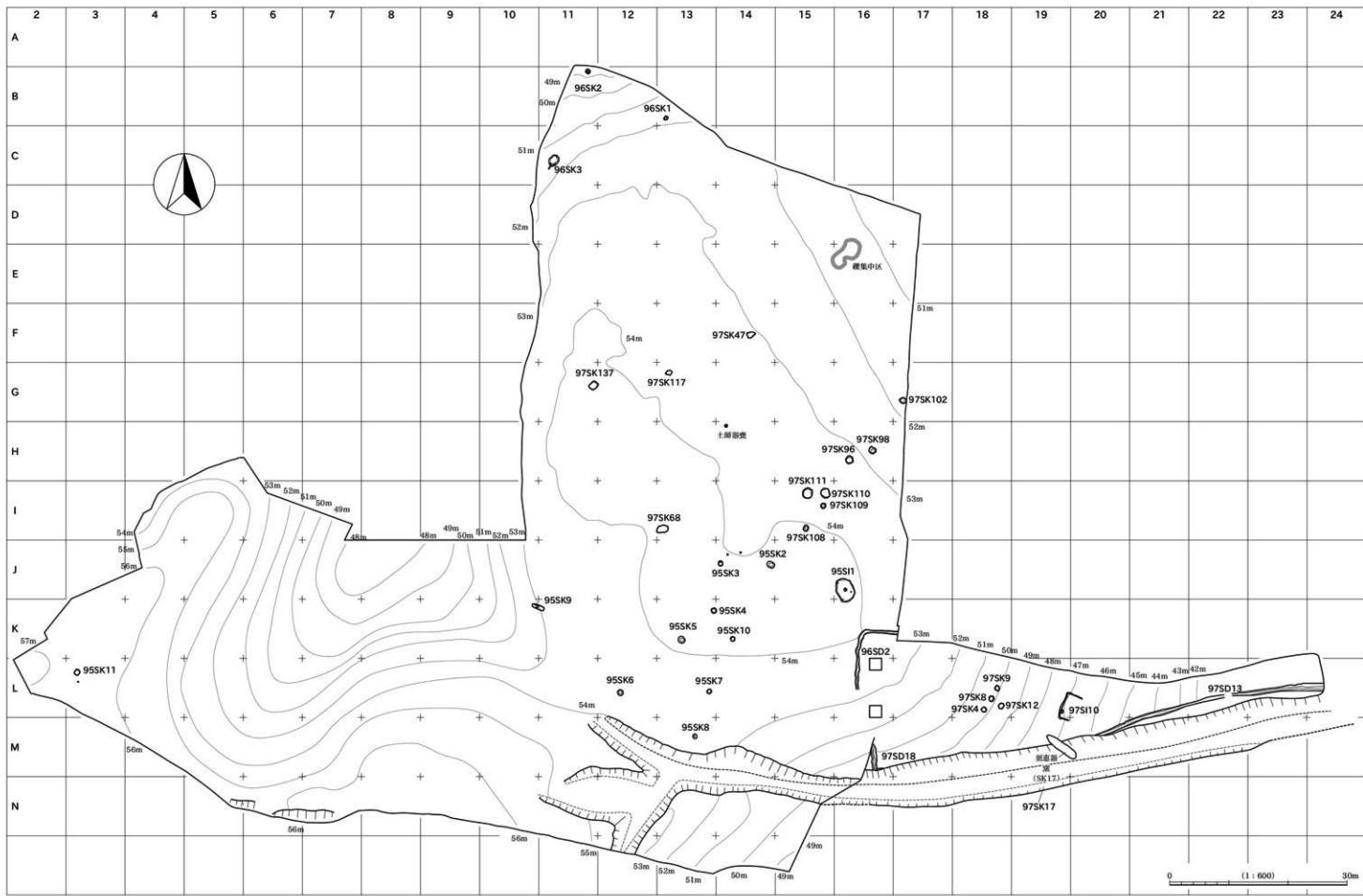
381

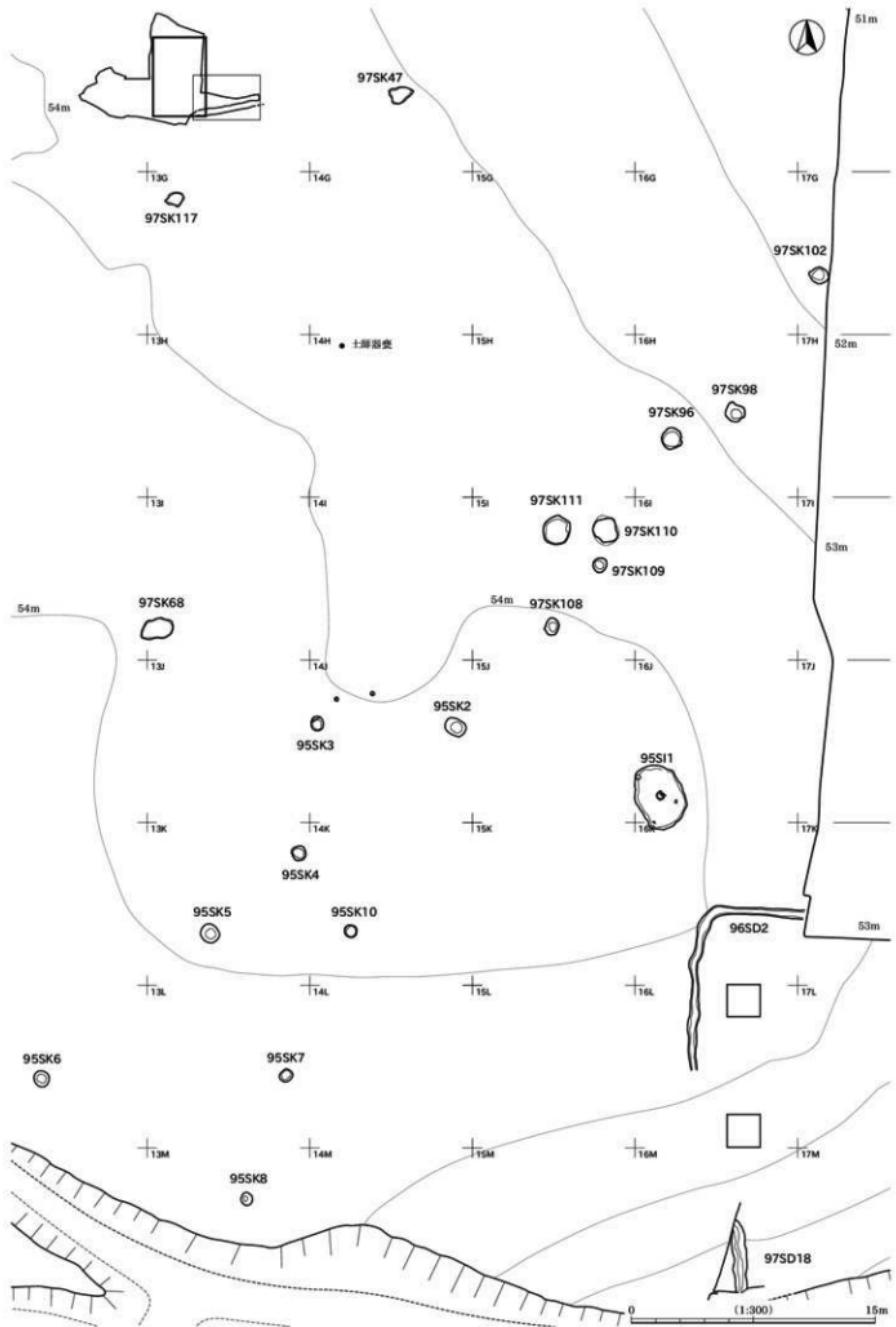


382

376・377 : SE560  
379 : SE420  
380 : SE1712

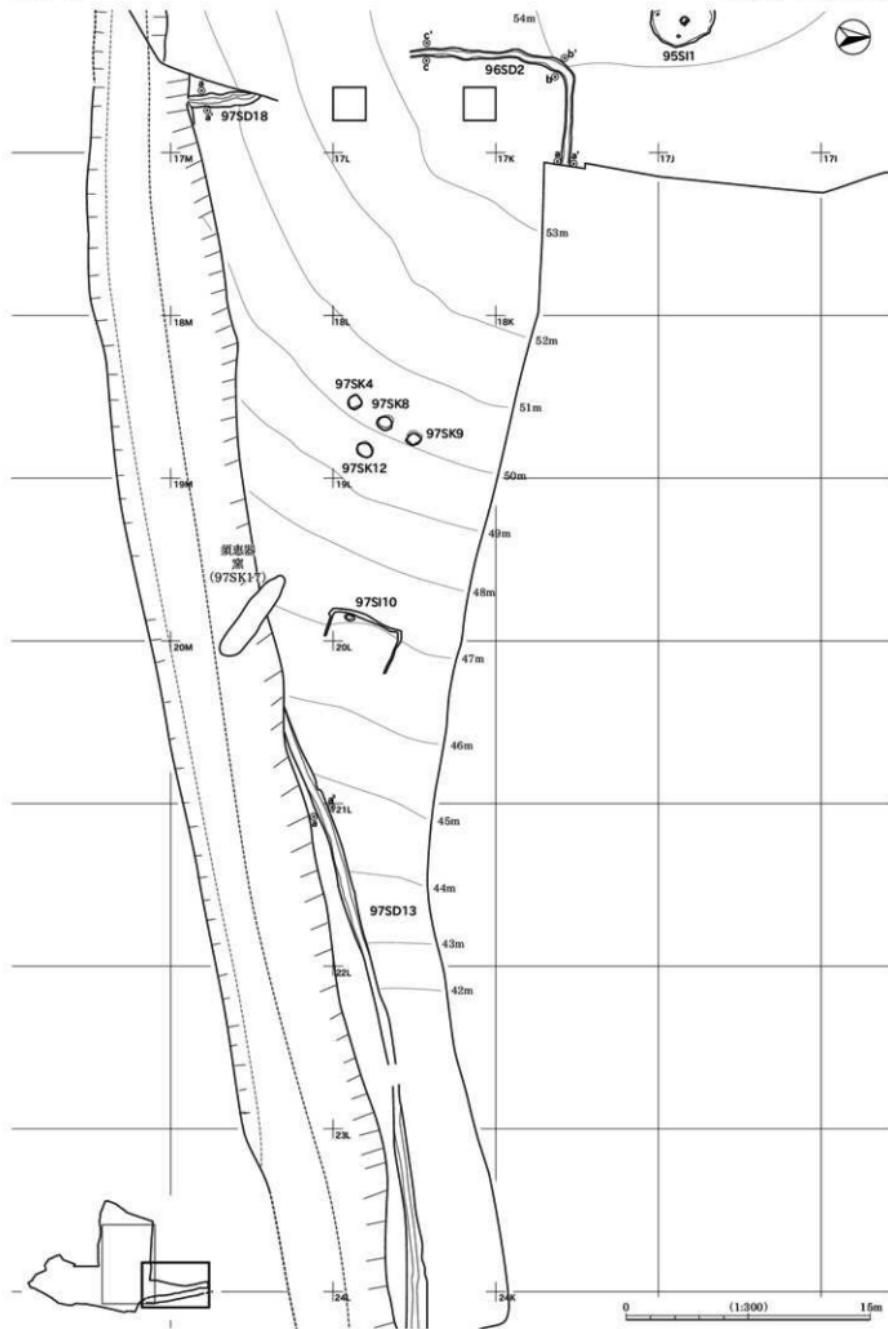




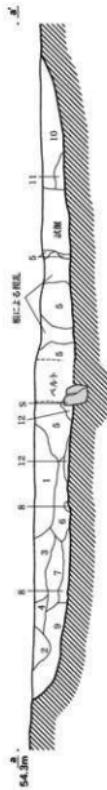
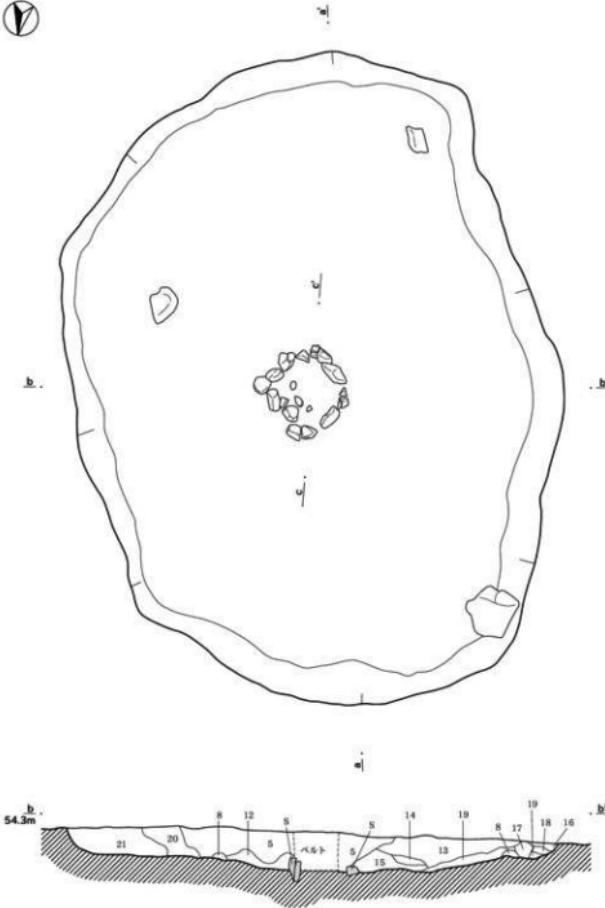


図版 44

大塚遺跡 遺構分割図2



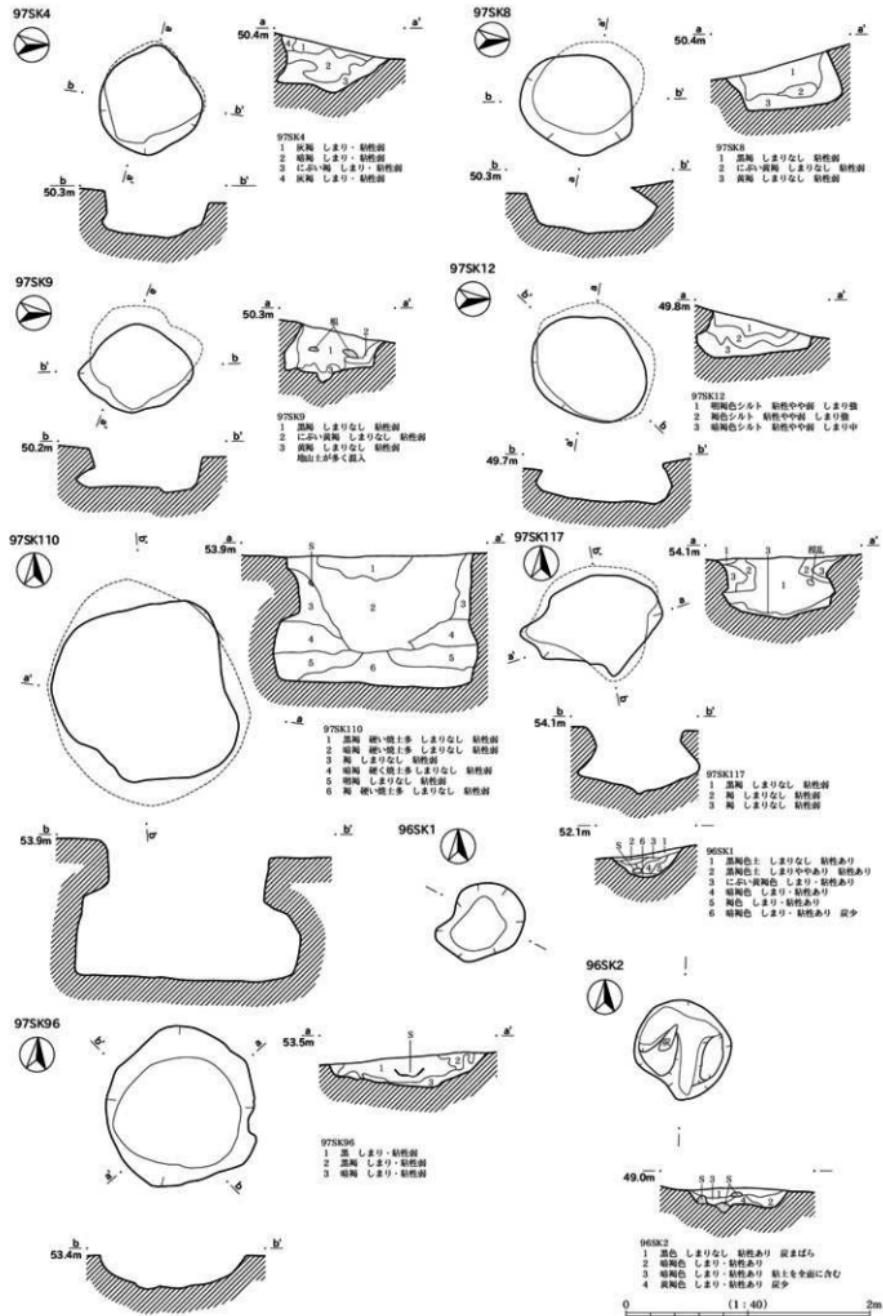
95SI1

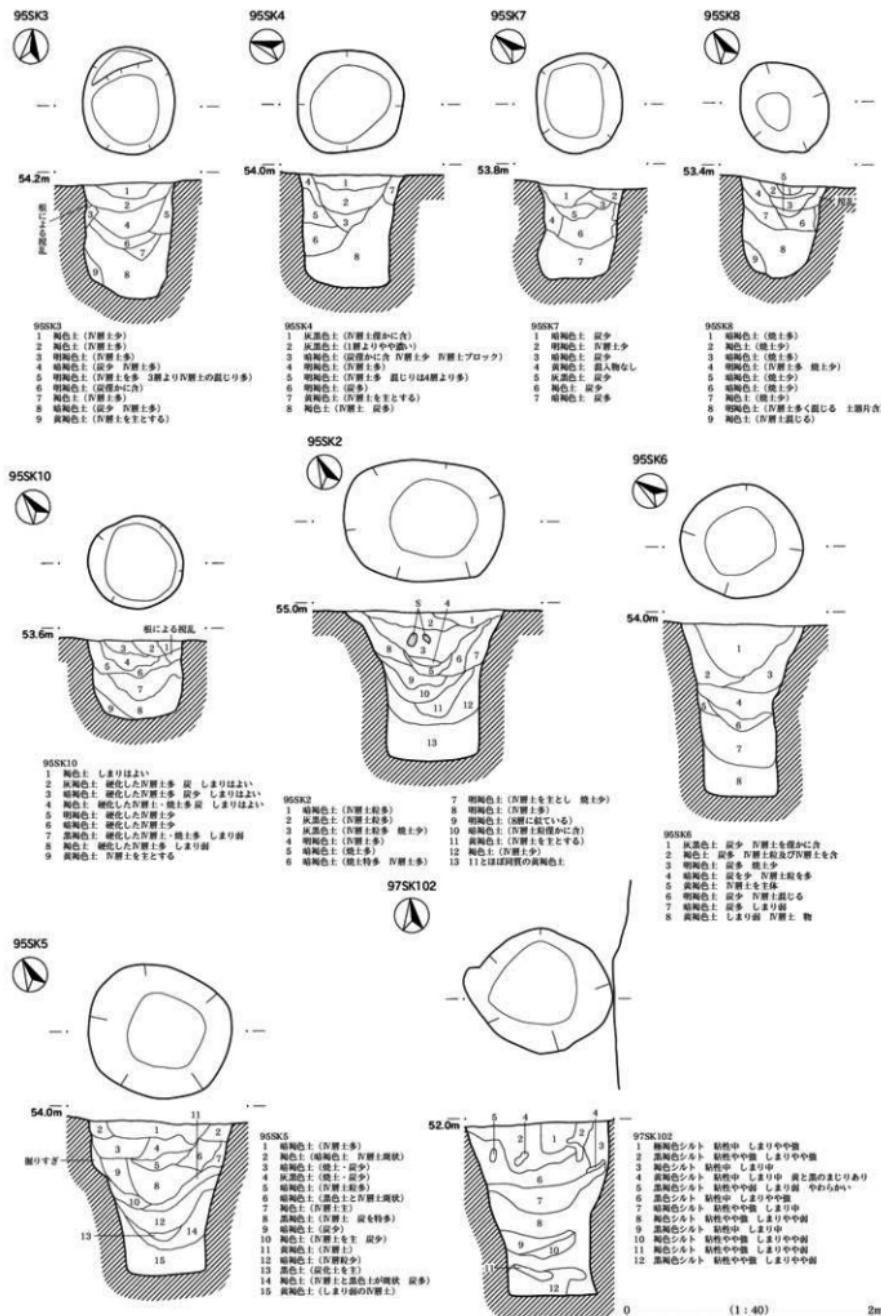


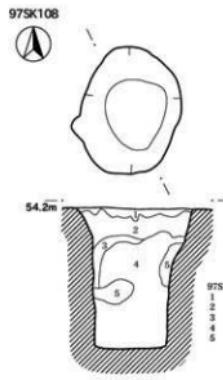
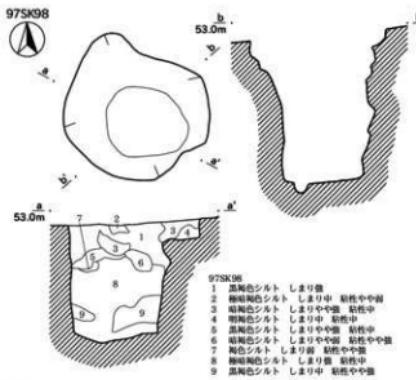
- 95SI1
- 1 黒色土層 地上
  - 2 黒色土層 黒
  - 3 黒褐色土層 灰
  - 4 黑褐色土層 灰
  - 5 黑褐色土層 黑
  - 6 黑褐色土層 (直入物は5層とはほぼ同じ)
  - 7 黑褐色土層 很多 少少
  - 8 黑褐色土層 灰
  - 9 黑褐色土層 黑
  - 10 黑褐色土層 (砂とよく似る)
  - 11 黑褐色土層
  - 12 黑褐色土層
  - 13 黑褐色土層 同多
  - 14 黑褐色土層 黑土・很多
  - 15 黑褐色土層 (13層によく似る)
  - 16 黑褐色土層
  - 17 黑褐色土層
  - 18 黑褐色土層 (瓦質土を生とする)
  - 19 黑褐色土層 (瓦質土を多く含む 底を少少)
  - 20 黑褐色土層
  - 21 黑褐色土層



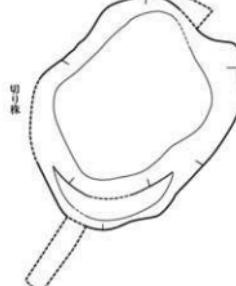
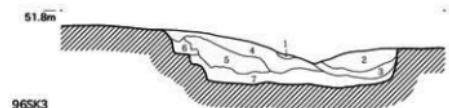
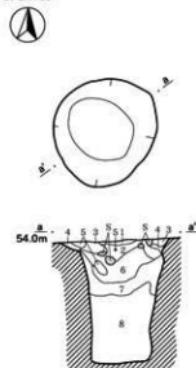
- 95SI1
- 1 黒色土層地主多く しまり板
  - 2 信褐色土層 地上层 地上地を生とし 黒色土少量 しまり板



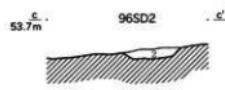
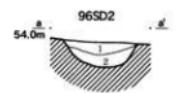
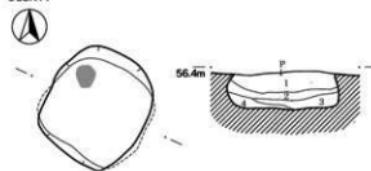




97SK109



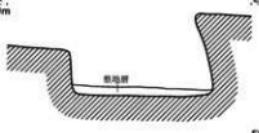
95SK11



0 (1:40) 2m

97SK17 (発見場所)

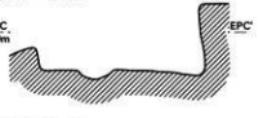
## A-A'エレベーション

EPA,  
47.0m

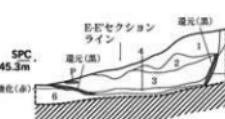
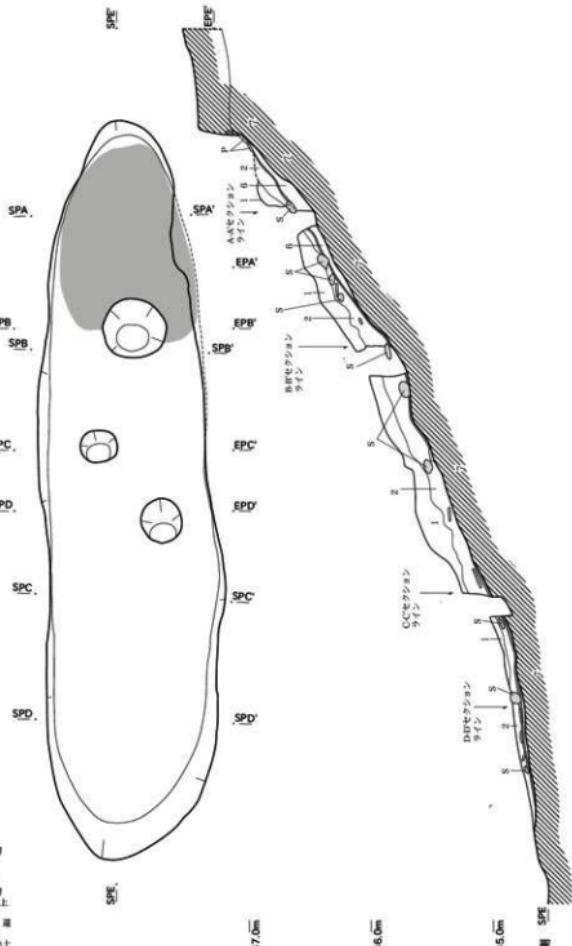
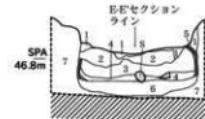
## B-B'エレベーション

EPB,  
46.5m

## C-C'エレベーション

EPC,  
46.0m

## D-D'エレベーション

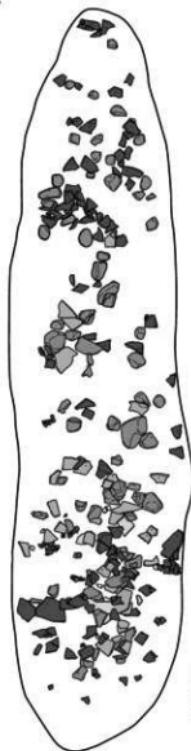
EPD,  
45.5m

- B-B'
- 明褐色 しまりあり 粗粒あり 塗の天井保護構造 <ほみに施された表土層  
(人跡等では植物生長が既行) 施工終後保護した天井部
  - 黄褐色 しまりあり 粗粒あり 合有物 施工のブロックを含む
  - 黑褐色 しまりやくらぬ少々有り 合有物 天井部の粘土と燃成ブロック炭化物の混合する層
  - 黑褐色 しまりやくらぬ少々有り 合有物 施工のブロックを含む
  - A-A'層と同じ 地山の粘質土層

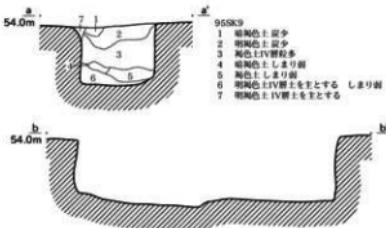
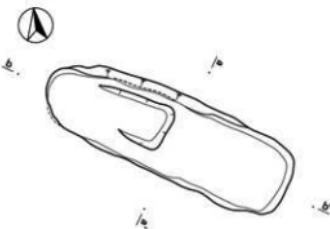
- C-C'
- 明褐色 しまりあり 粗粒あり 塗の天井保護構造 <ほみに施された表土層  
(人跡等では植物生長が既行) 施工終後保護した天井部
  - 黄褐色 しまりあり 粗粒あり 合有物 施工のブロックを含む
  - 黑褐色 しまりやくらぬ少々有り 合有物 施工のブロックを含む
  - 黑褐色 しまりやくらぬ少々有り 合有物 施工のブロックを含む
  - A-A'層と同じ 地山の粘質土層

- D-D'
- 黒褐色 しまりやくらぬ少々有り 合有物 施工の漆油層 (漆) 燃成の炭化物層  
3 黒褐色 しまりやくらぬ少々有り 合有物 施工の漆油層 (漆) 燃成の炭化物層  
4 黒褐色 しまりやくらぬ少々有り 合有物 施工の漆油層 (漆) 燃成の炭化物層  
5 A-A'層と同じ 地山の粘質土層

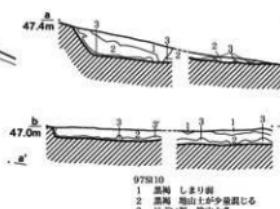
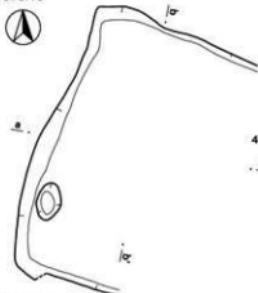
97SK17



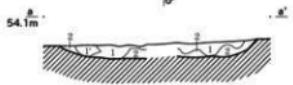
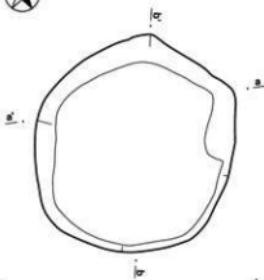
95SK9



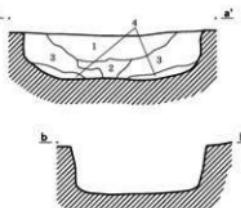
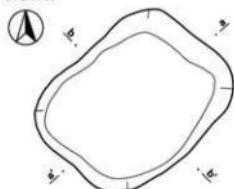
97SK10



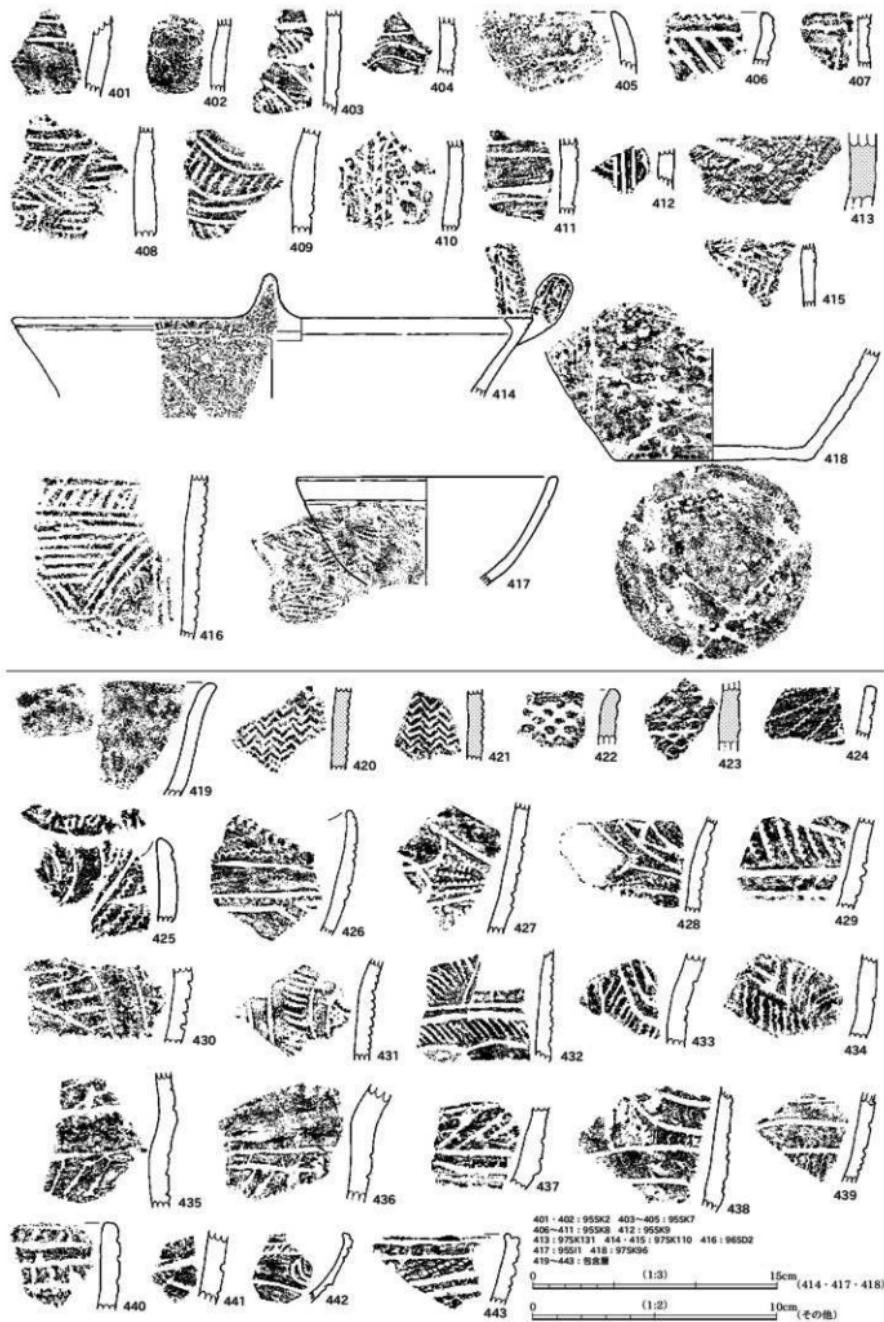
97SK111

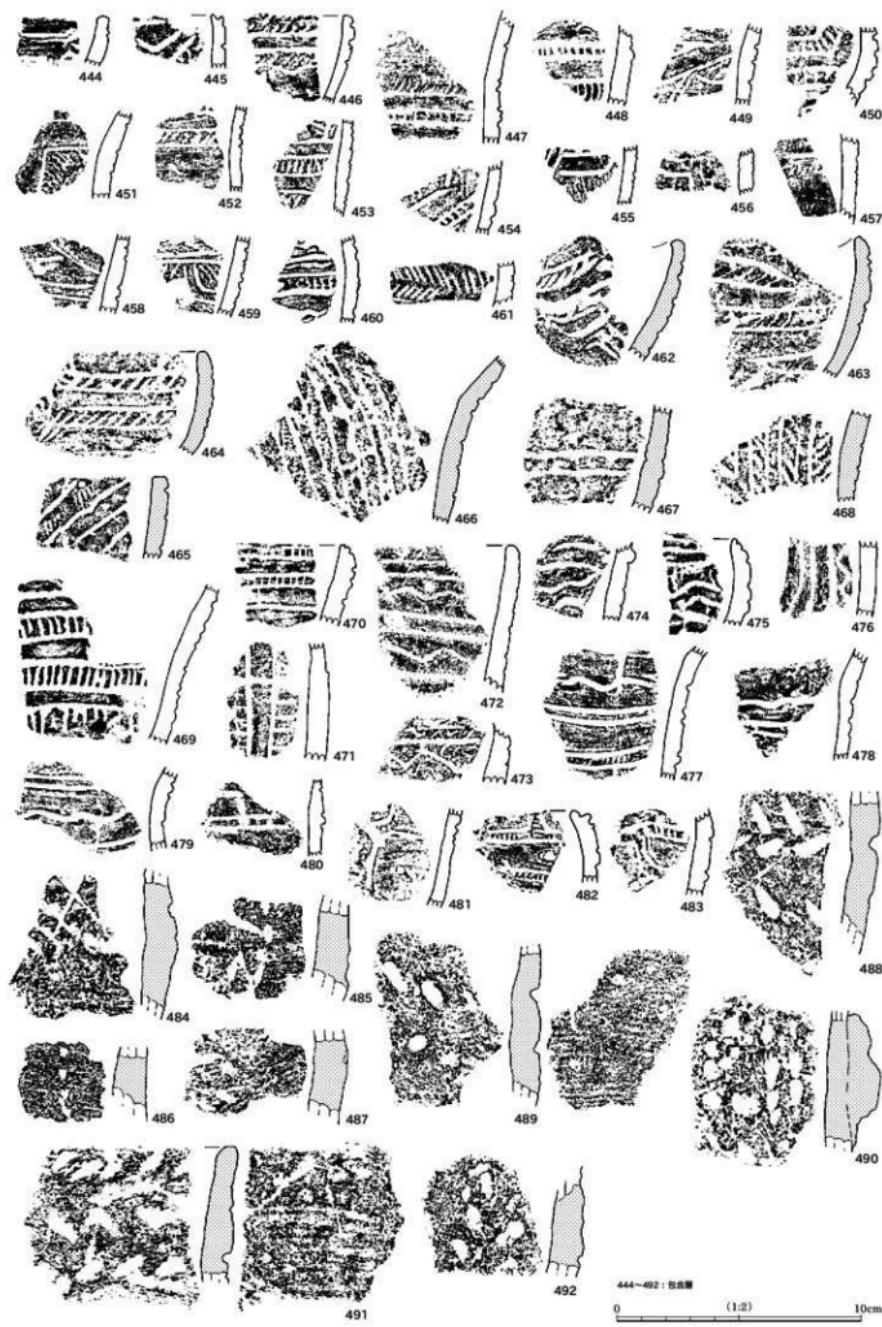


97SK137



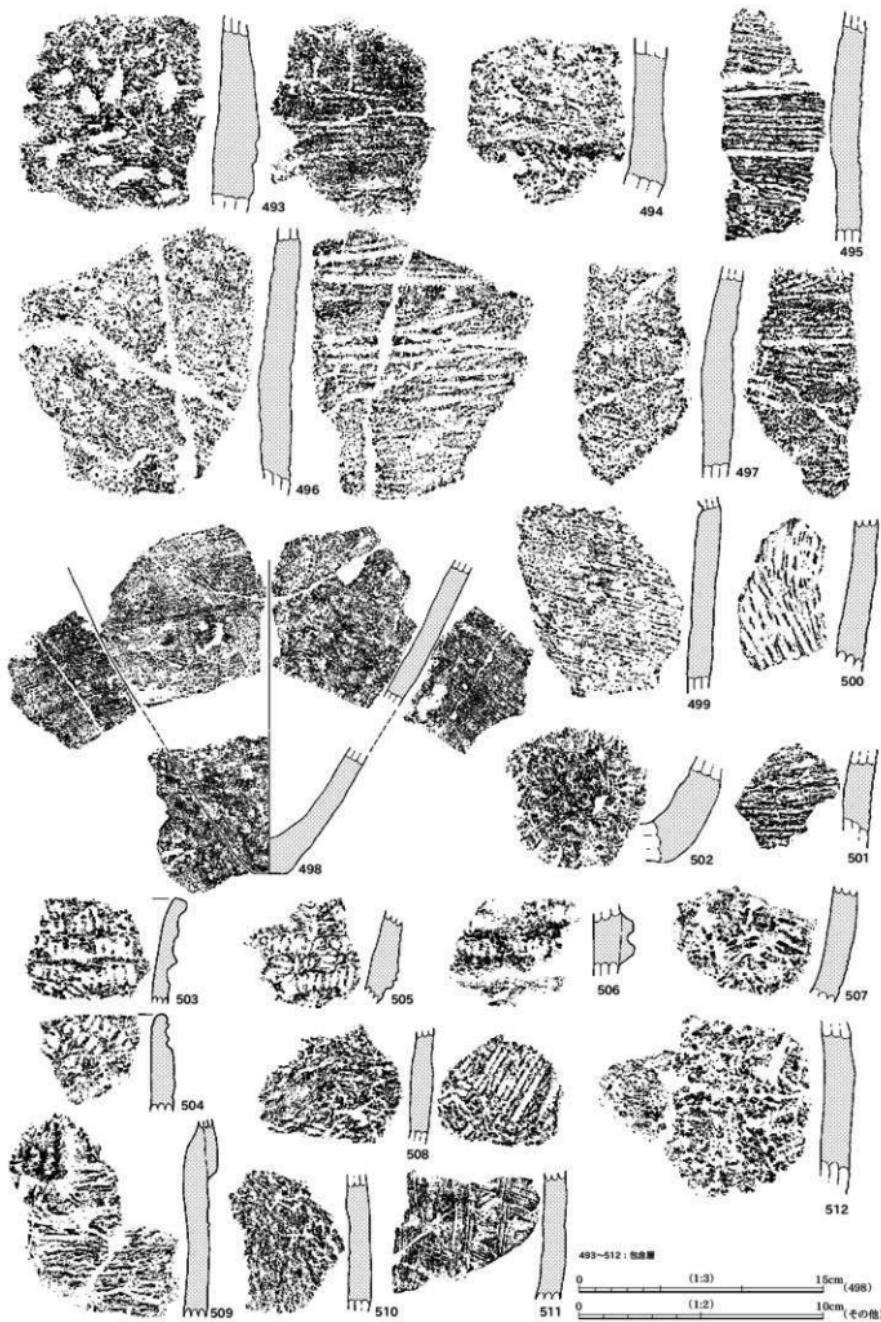
0 (1:40) 2m



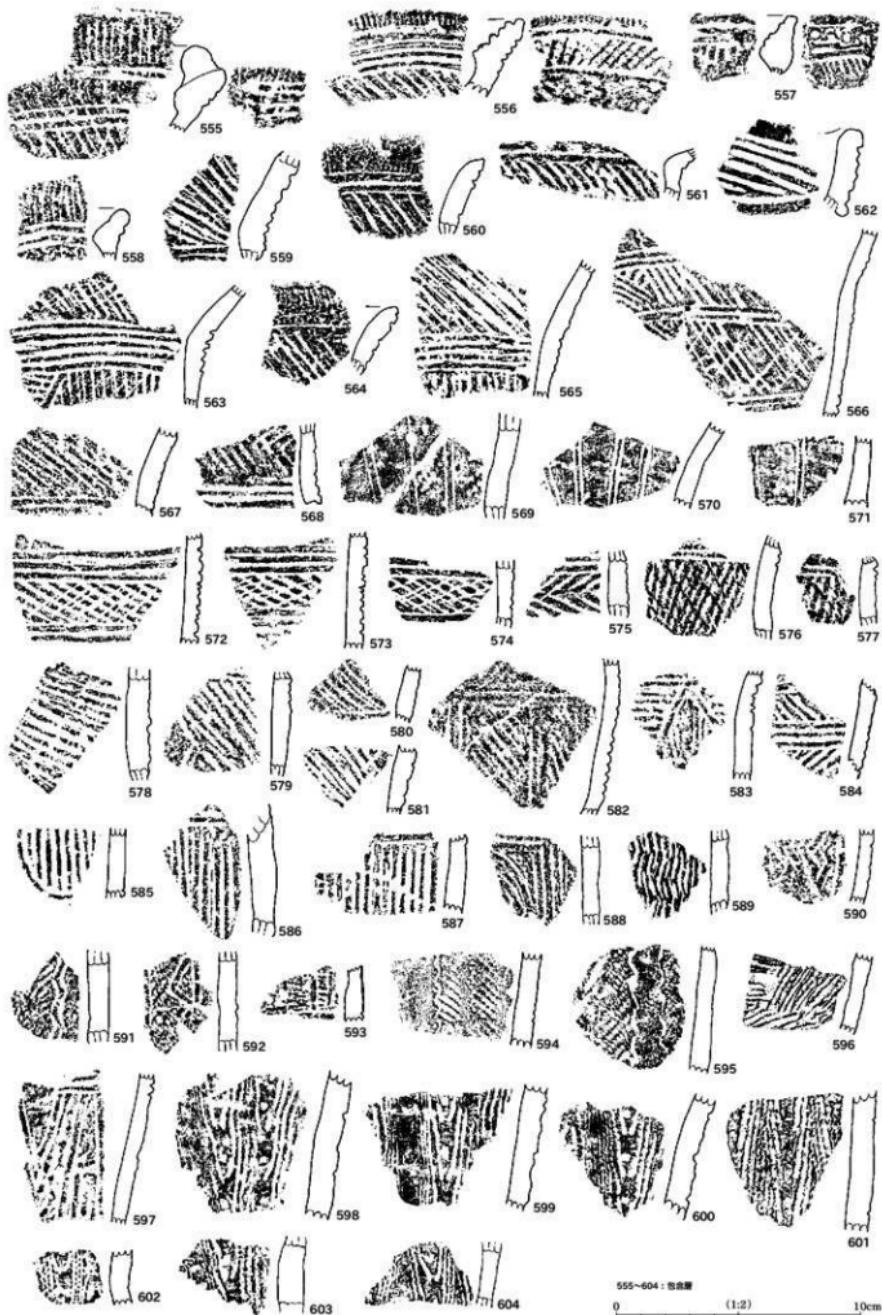


444~492 : 包含層

0 (1:2) 10cm





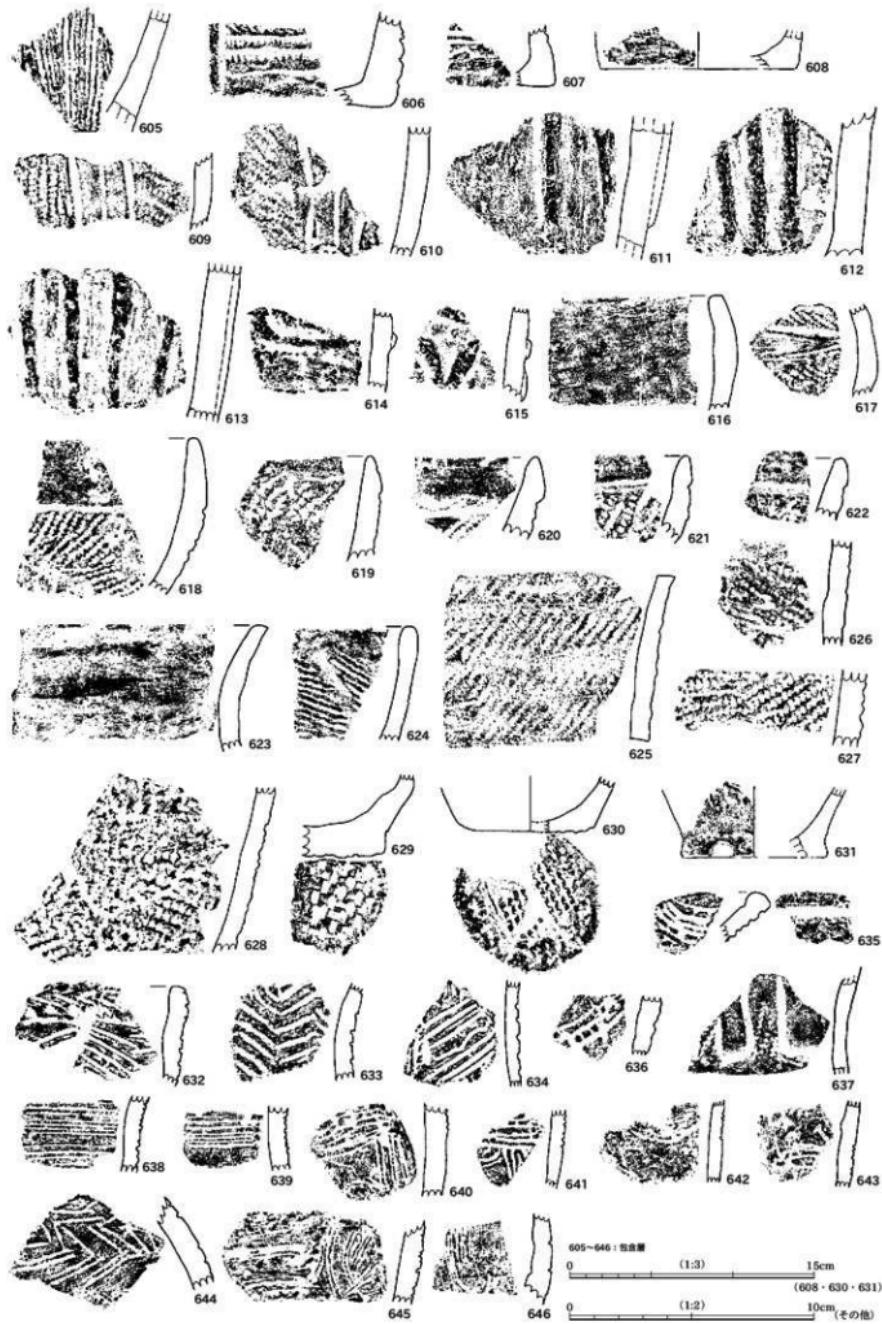


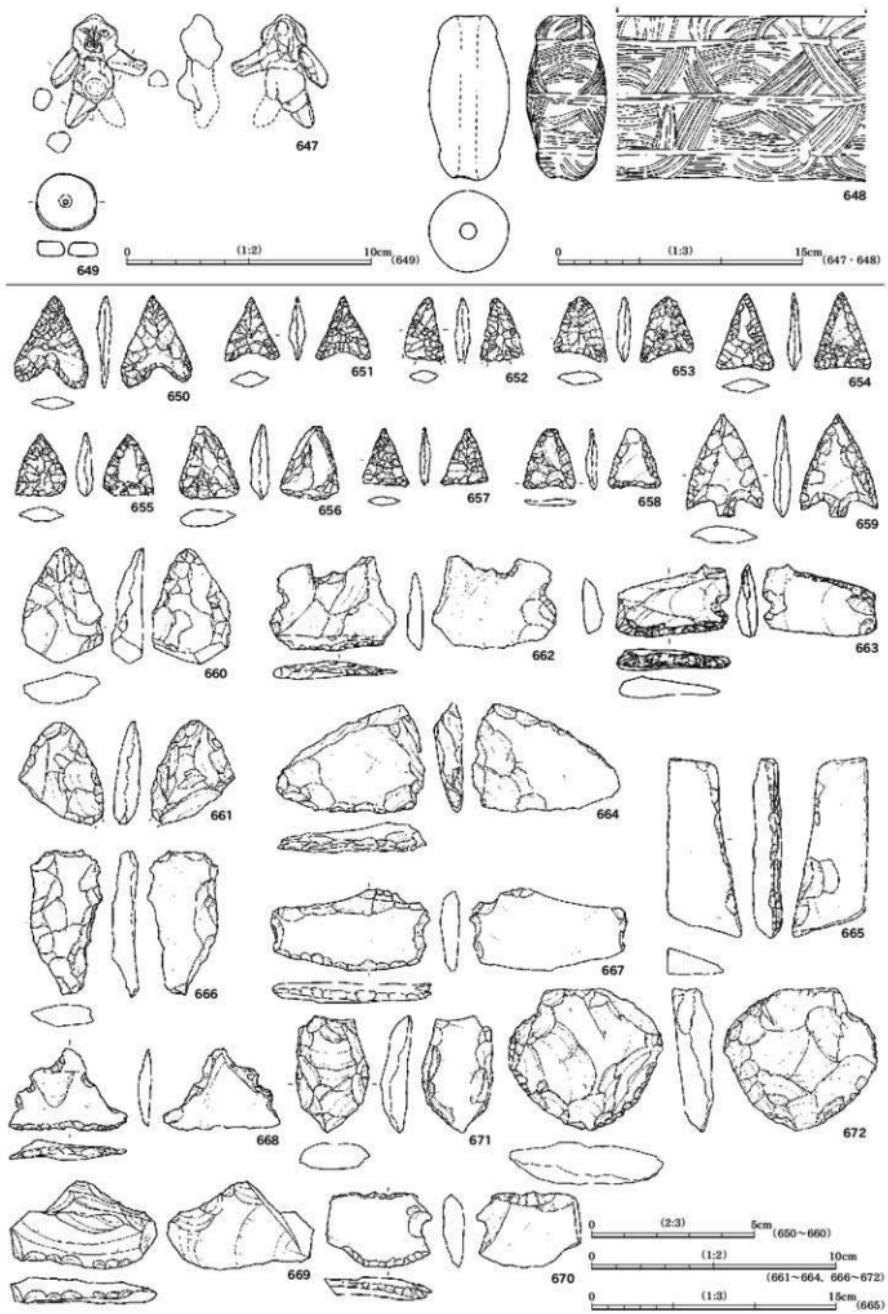
555~604: 繩文土器

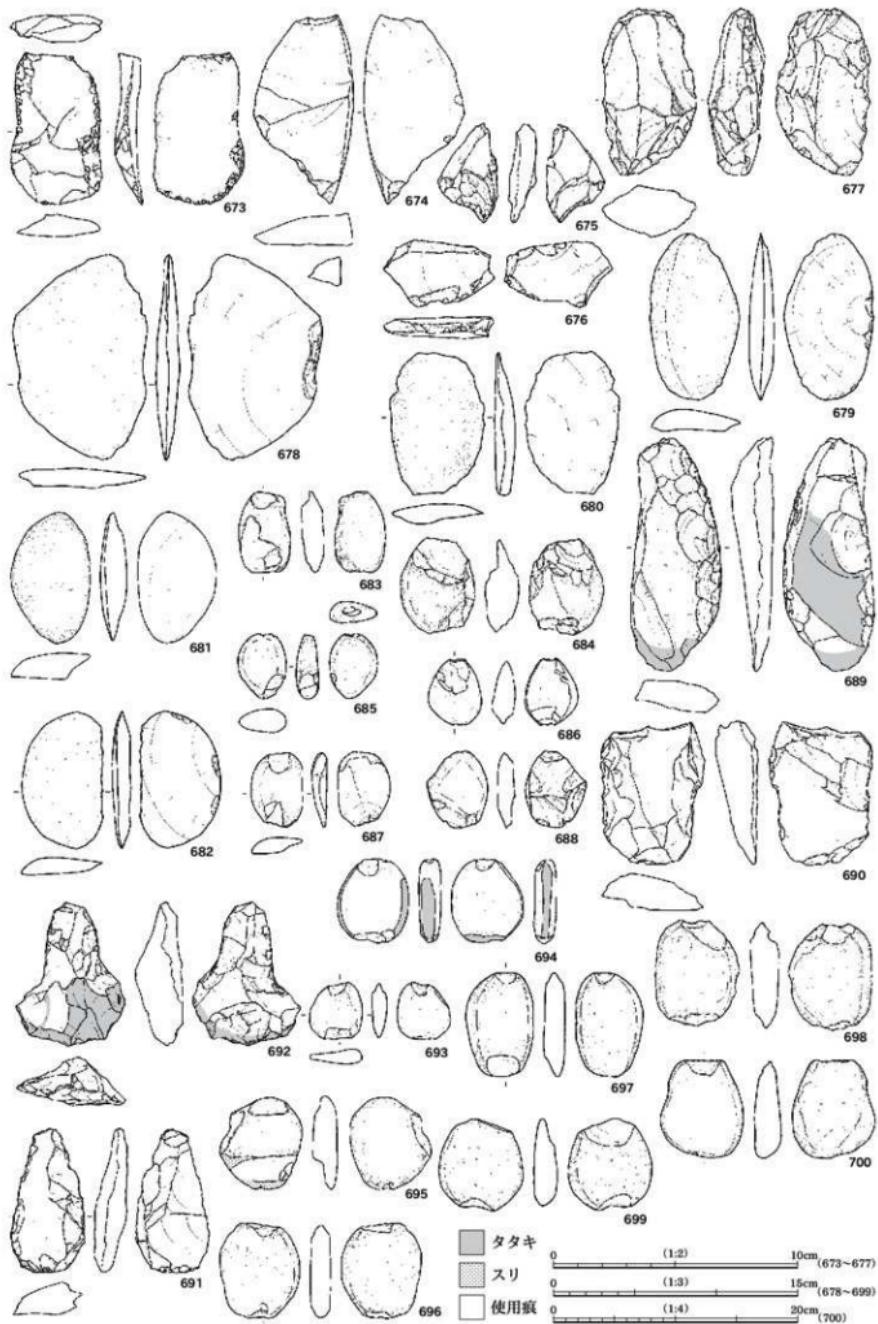
0

(1:2)

10cm



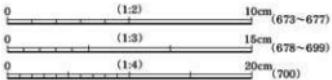


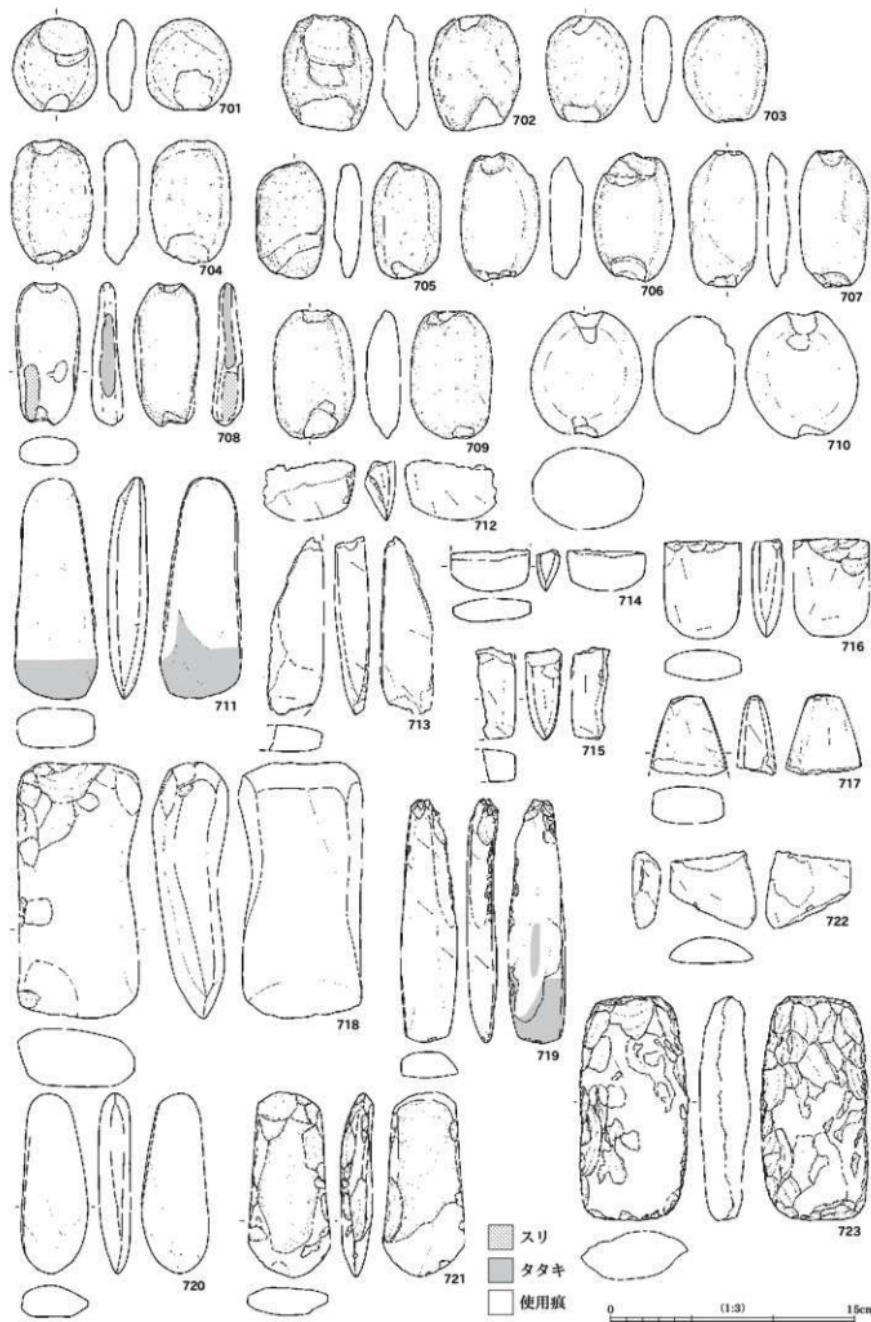


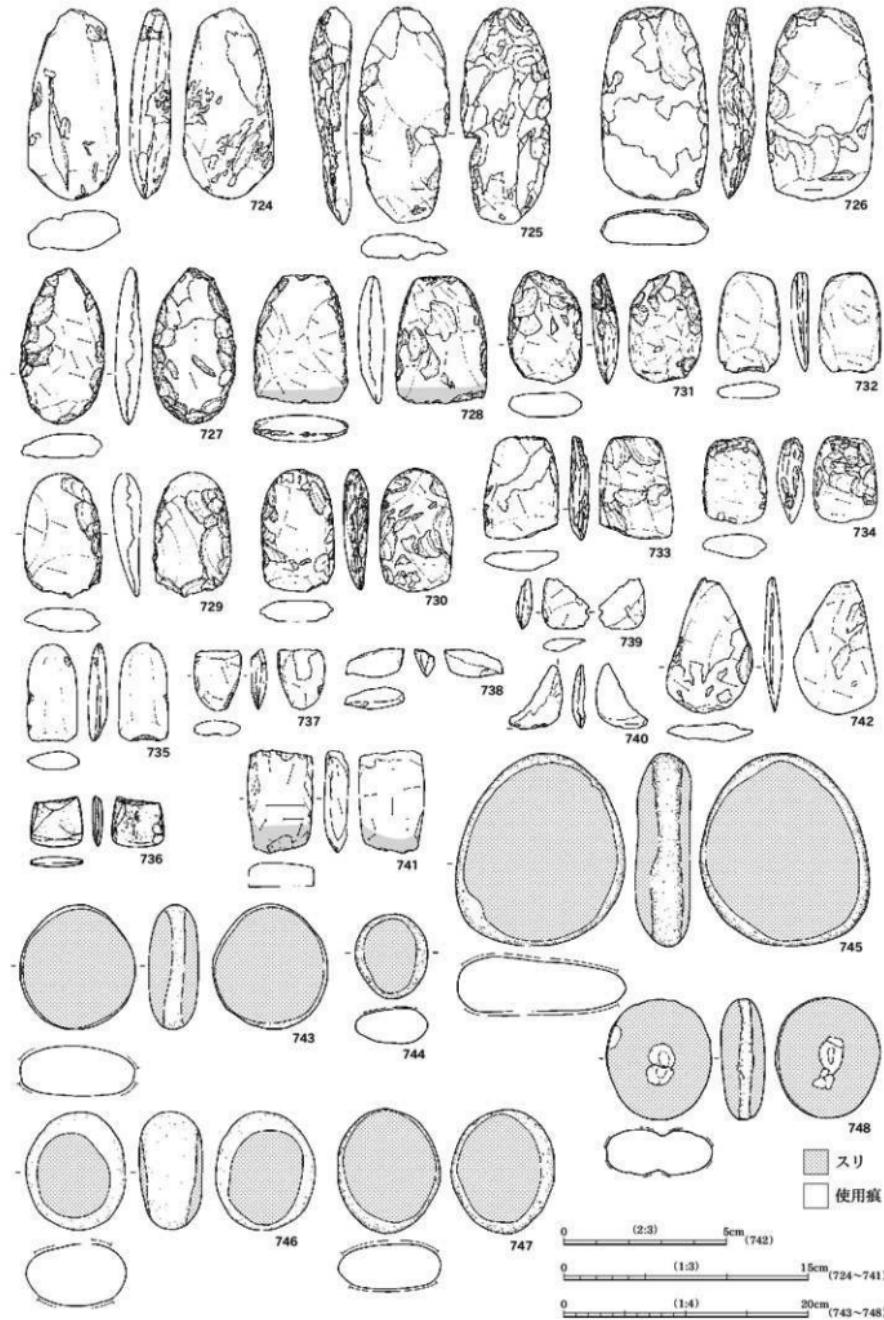
タタキ

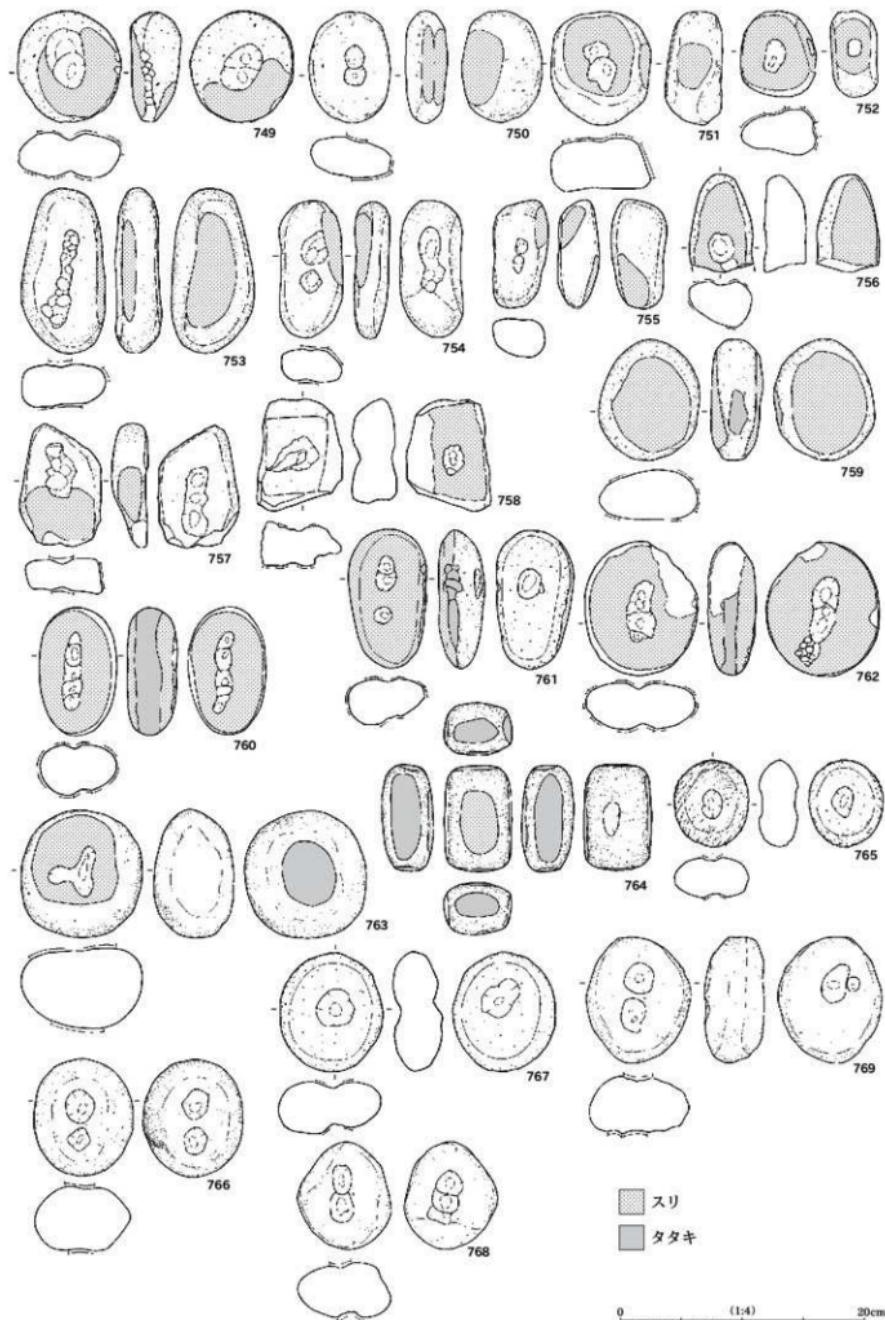
スリ

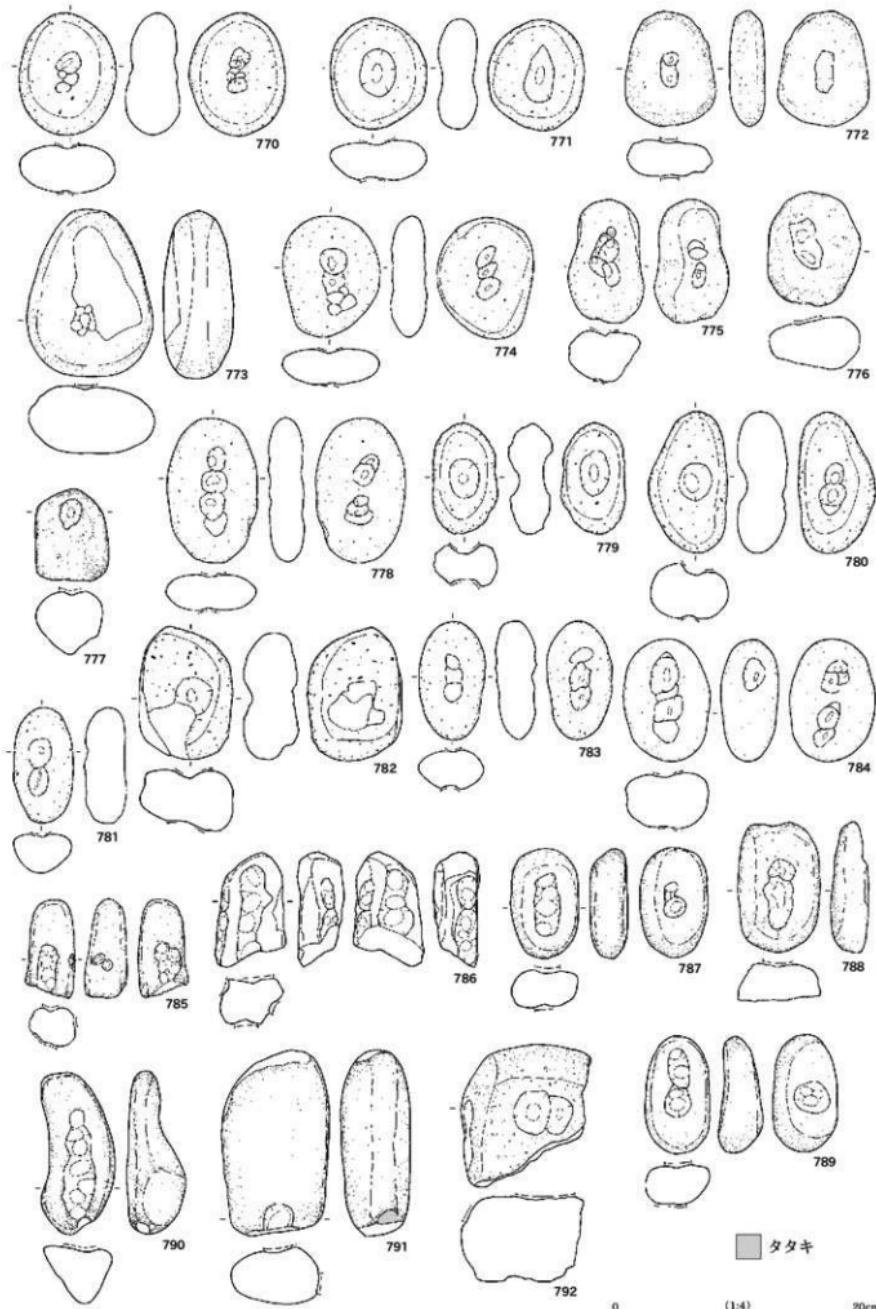
使用痕

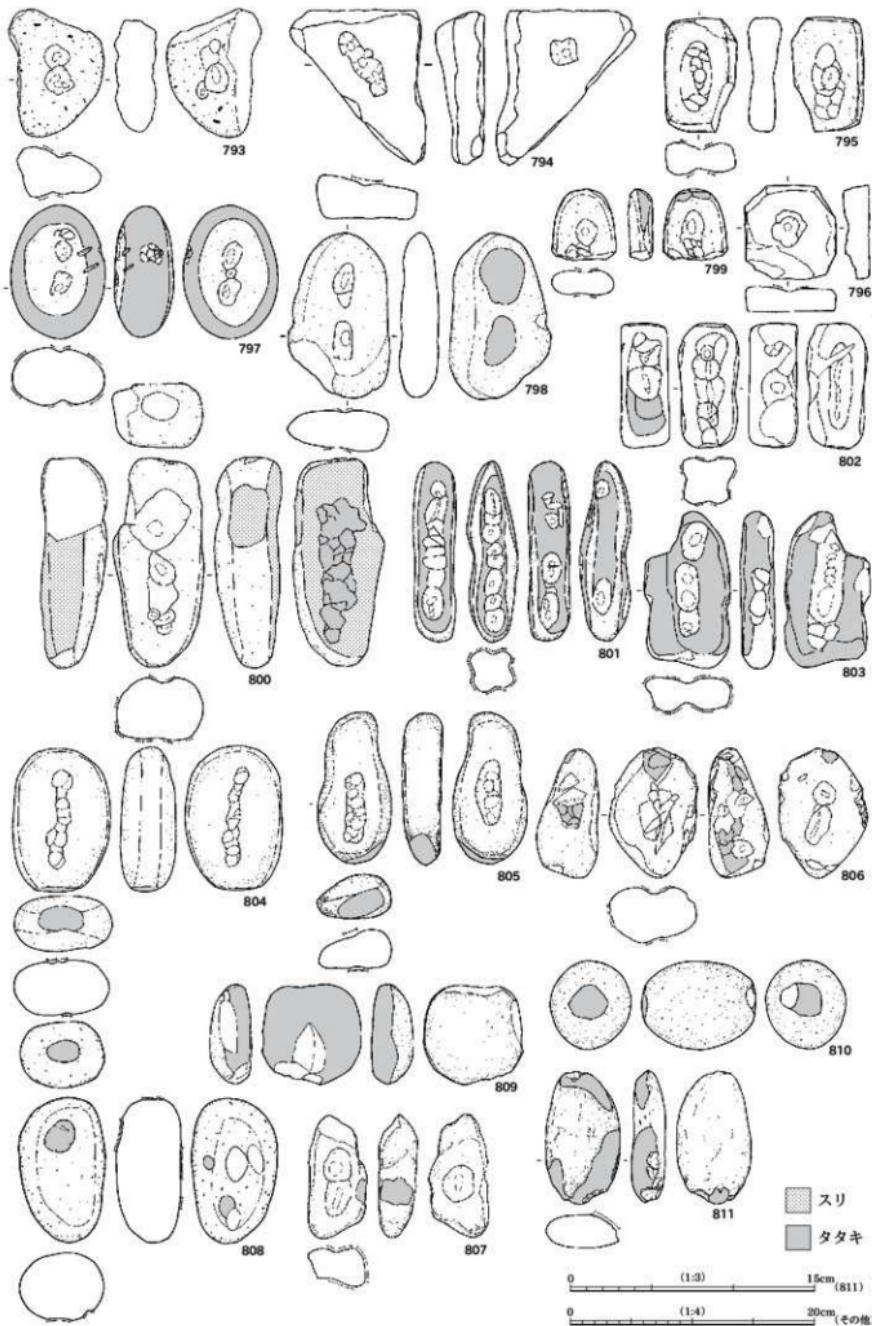


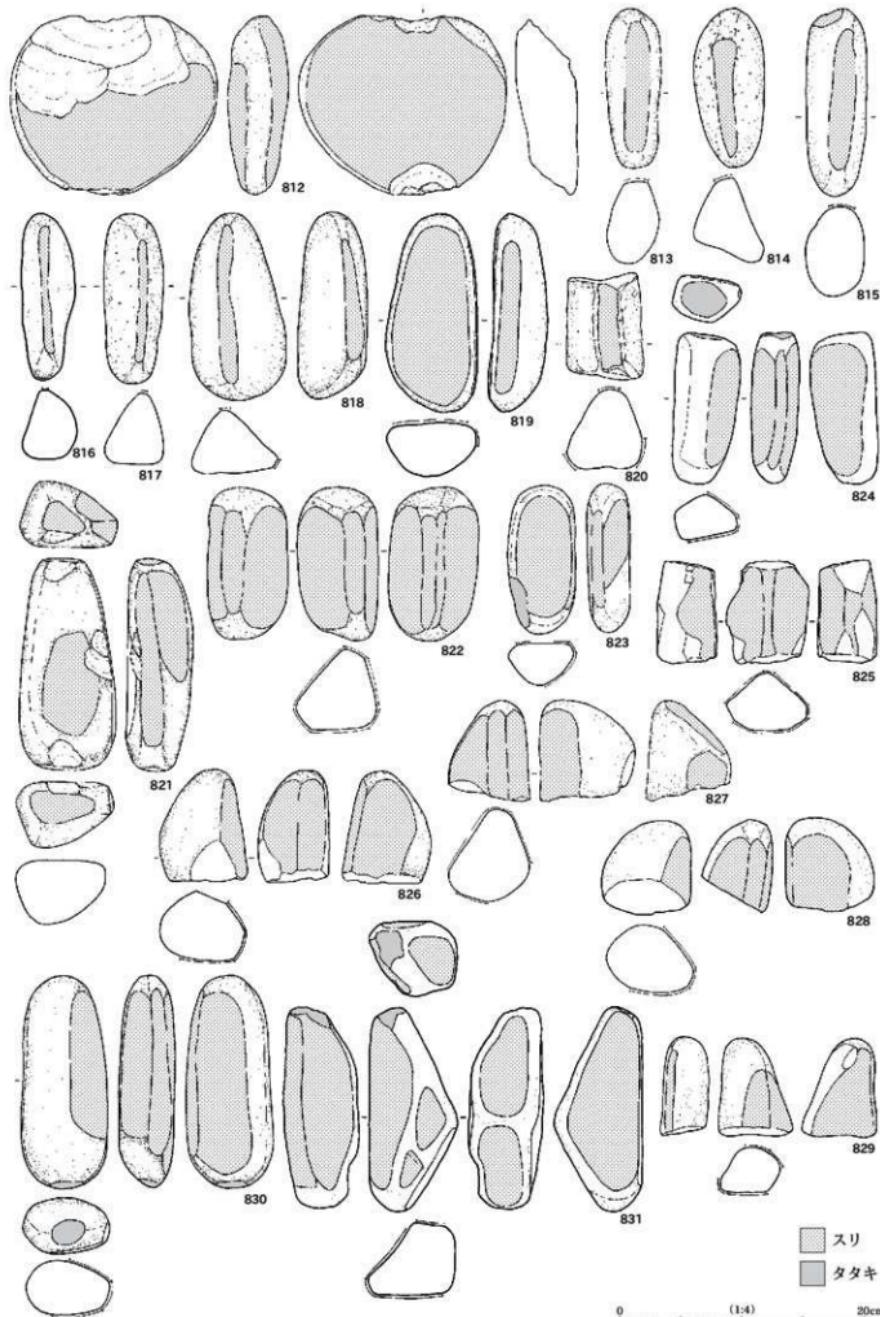






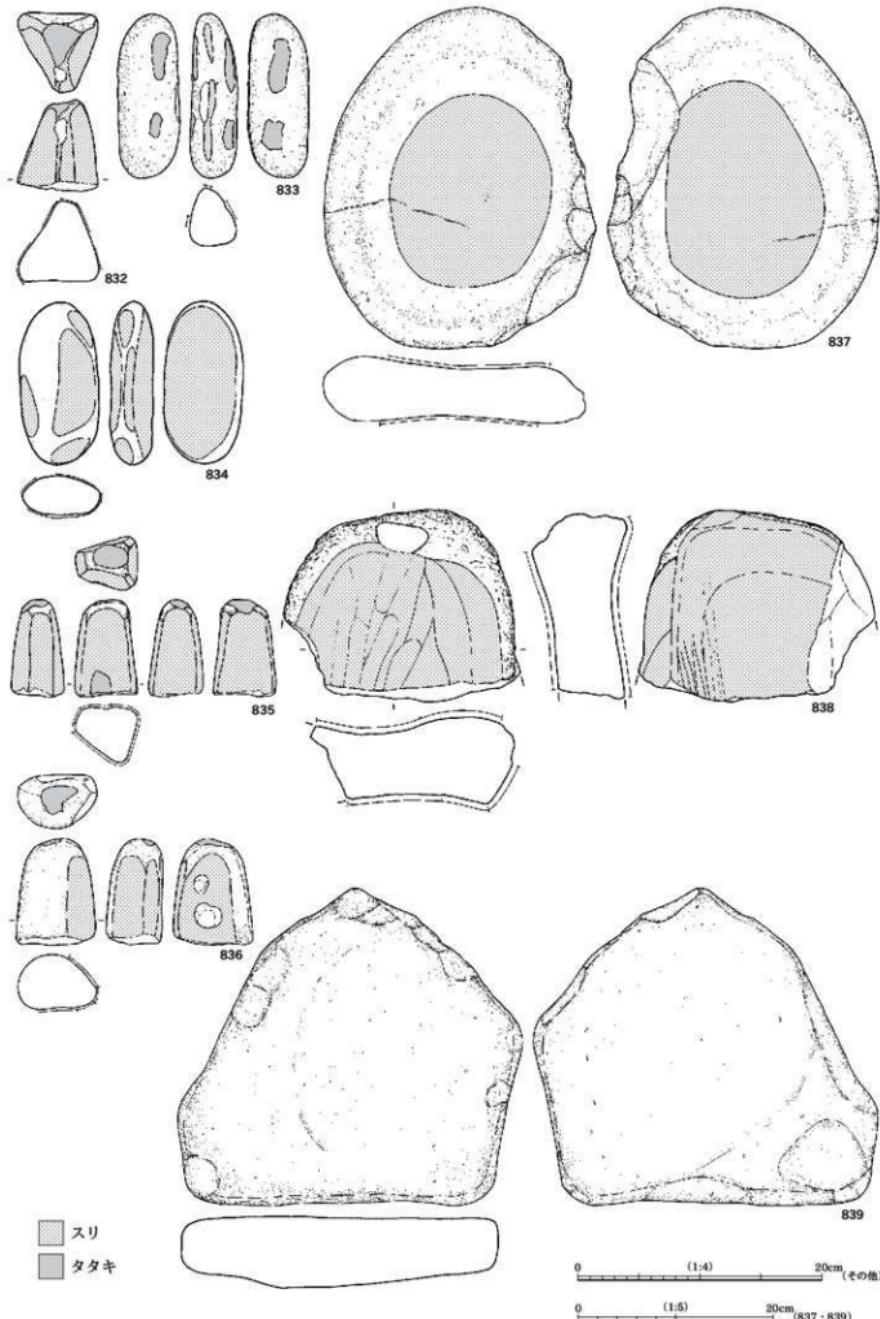


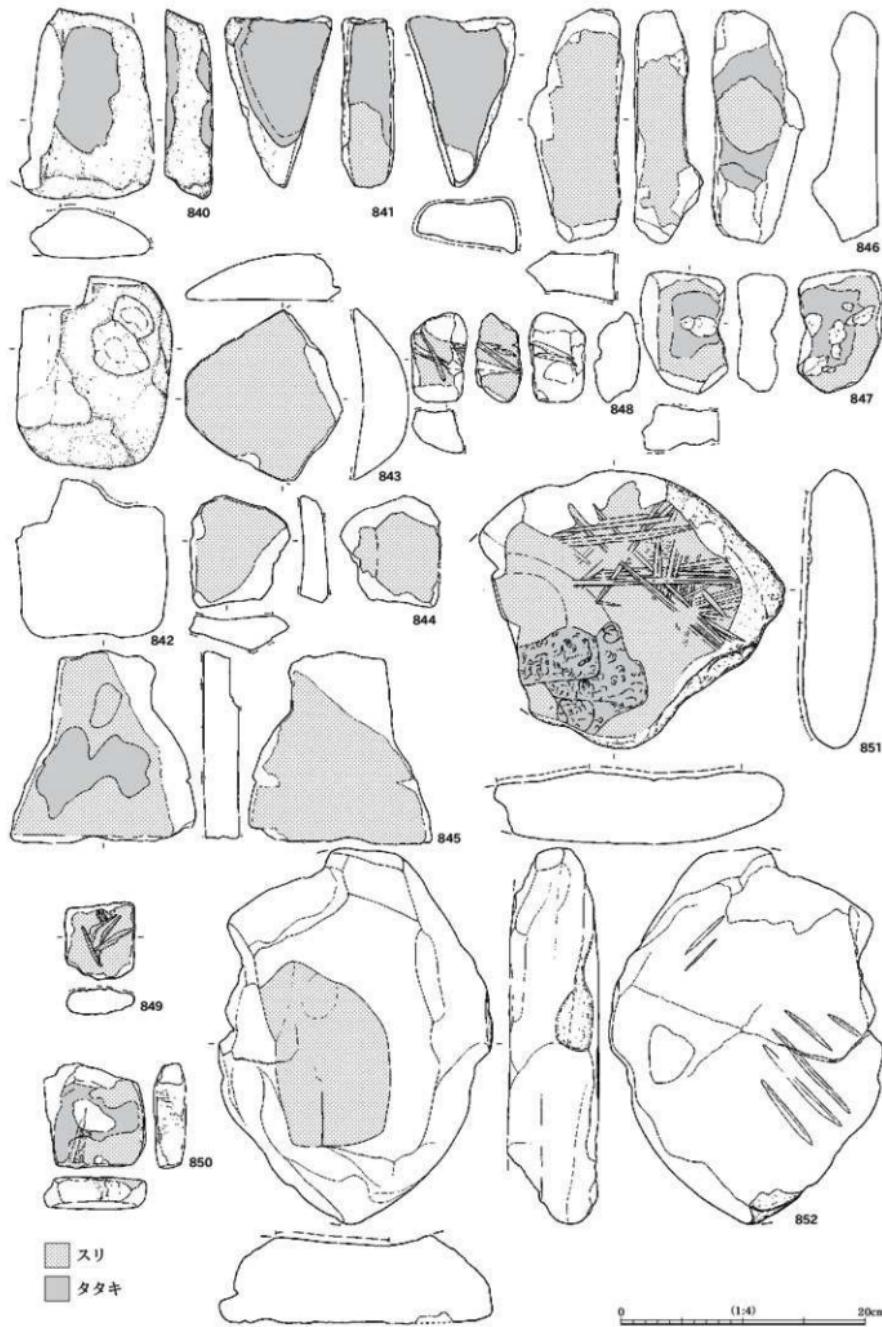


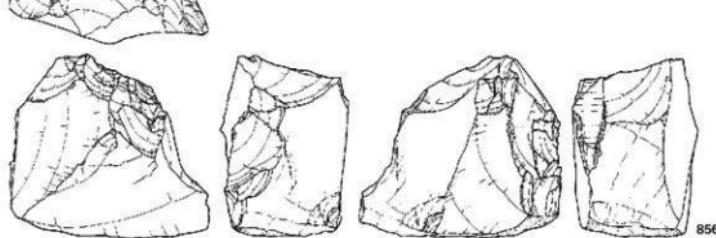
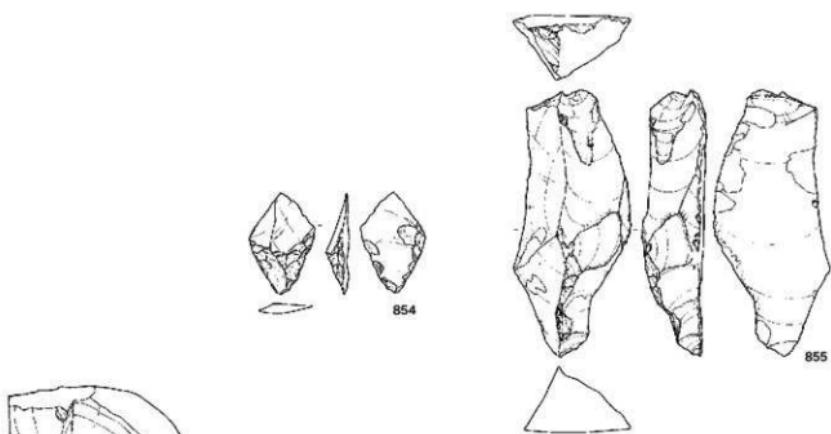
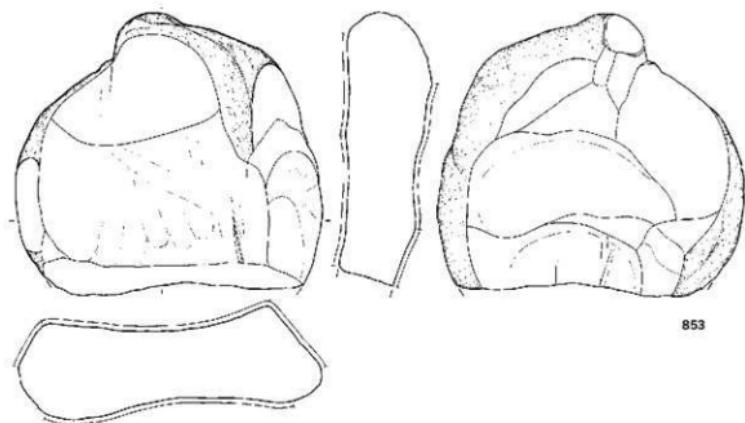


スリ  
タタキ

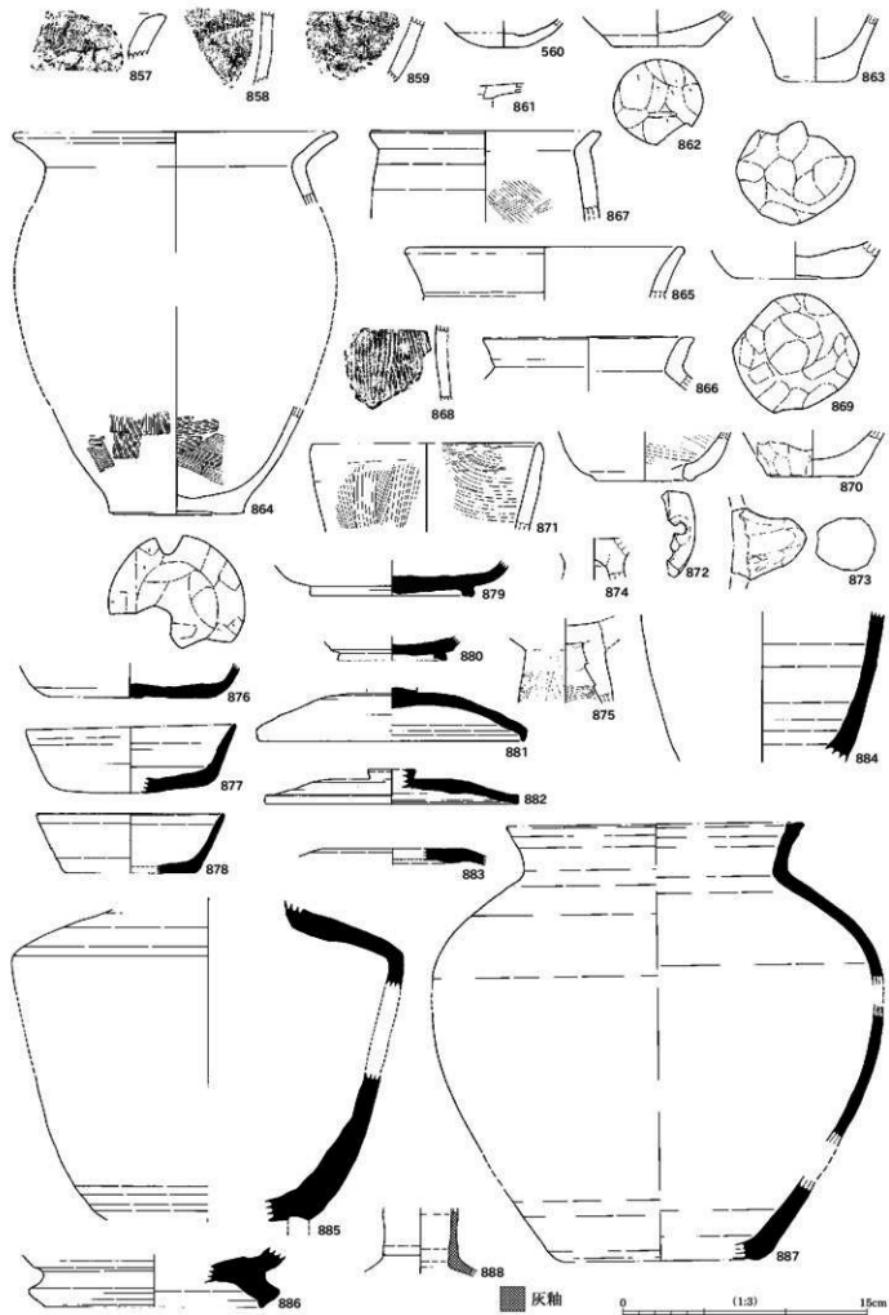
0 (1:4) 20cm

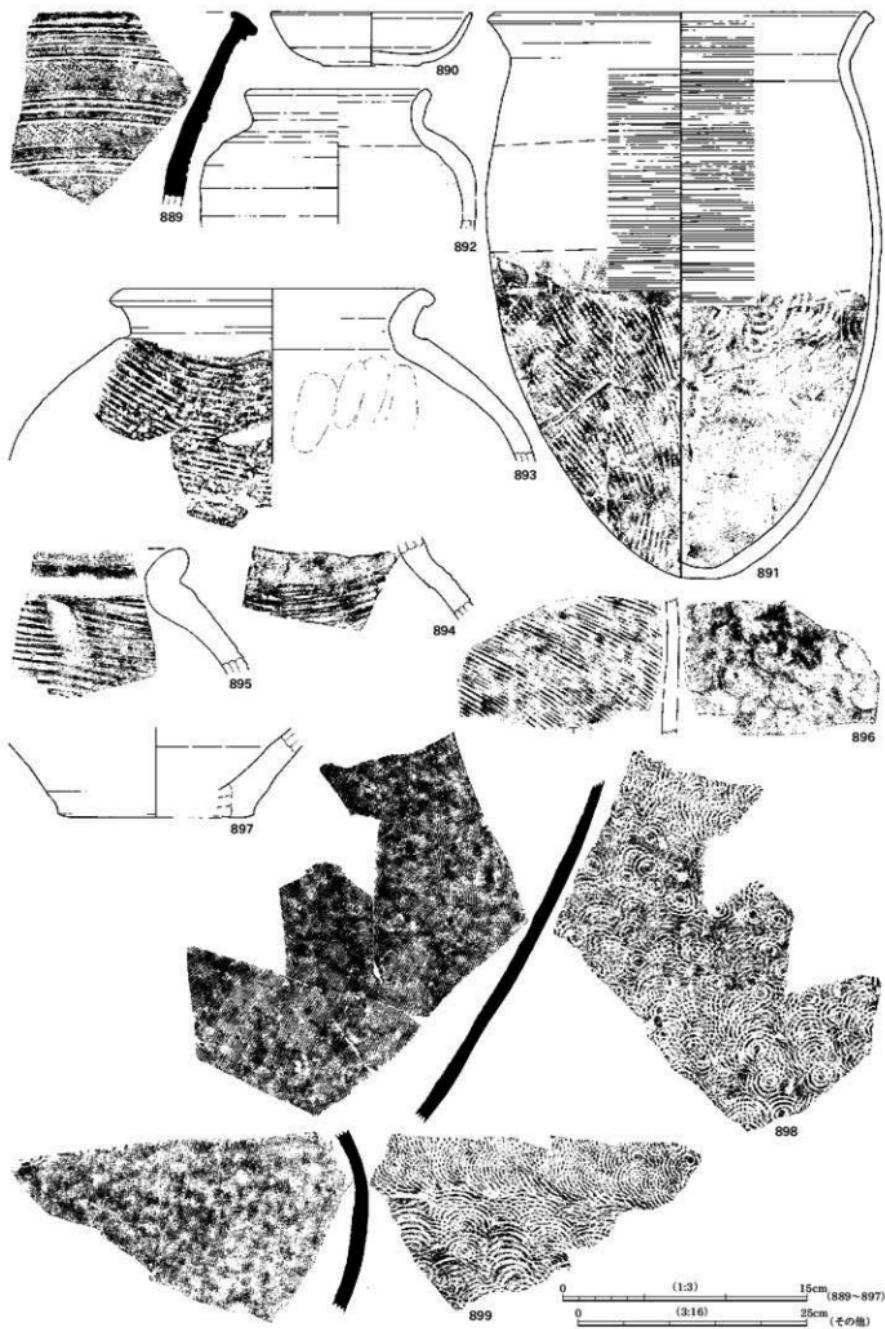


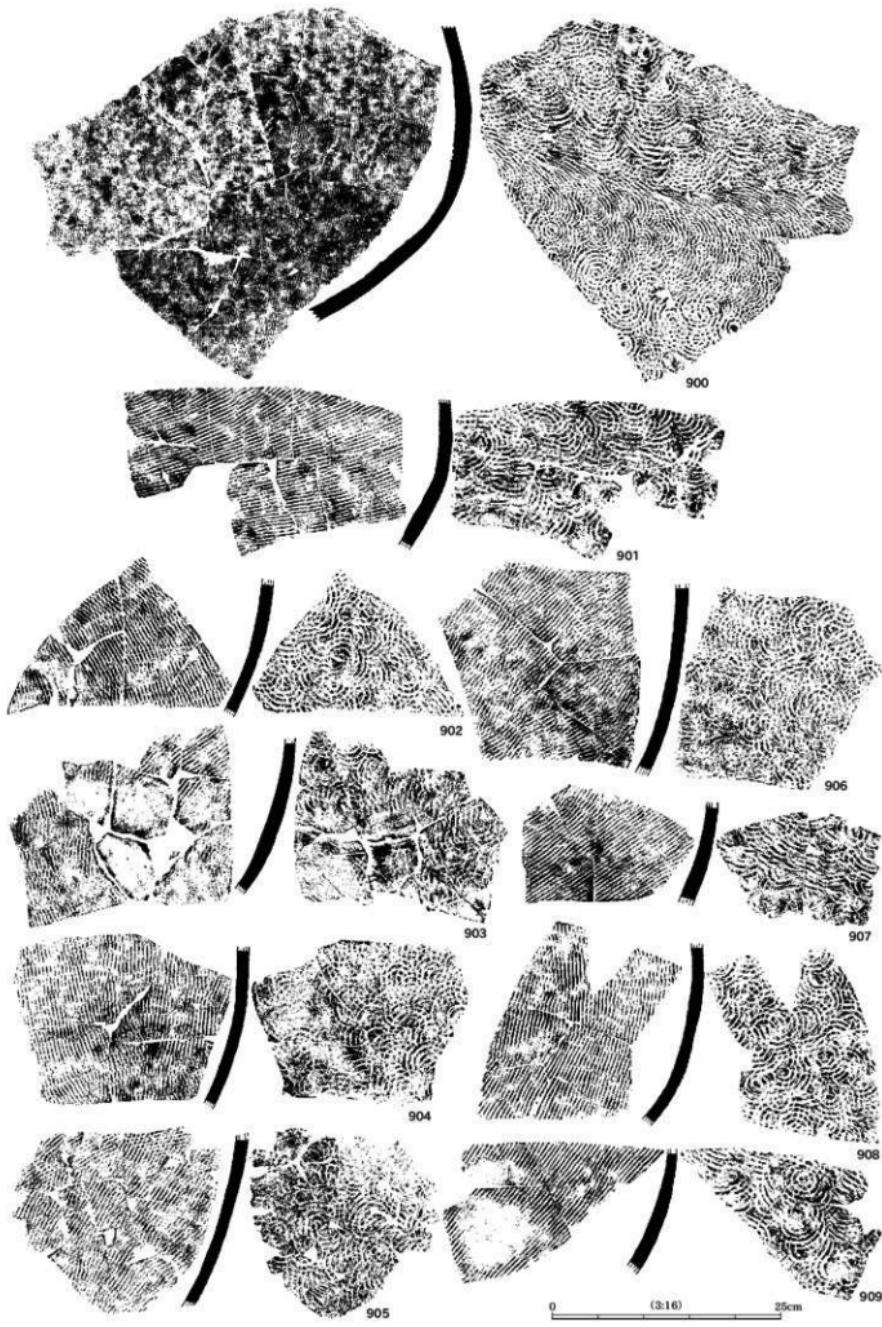




0 (2:3) 5cm (854)  
0 (1:2) 10cm (855・856)  
0 (1:5) 20cm (855)









遺跡航空写真（1995年）



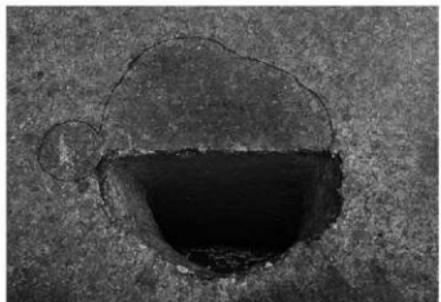
遺跡発掘状況 VI層（1996年）



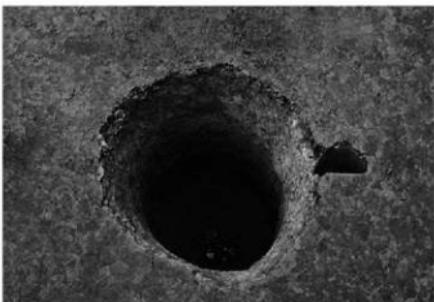
遺跡完掘状況（VII層）（1996年度）



SX1701



SE50 土層断面



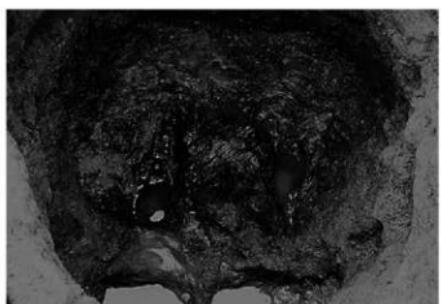
SE50 完掘



SE100 土層断面



SE100 灰層検出状況



SE100 遺物出土状況



SE100 完掘



SE130 土層断面



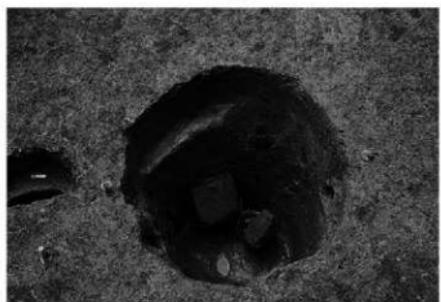
SE346 土層断面



SE346 完掘



SE347 土層断面



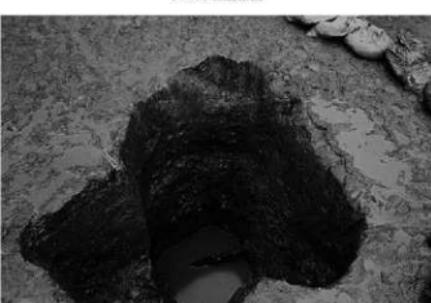
SE347 完掘



SE385 土層断面



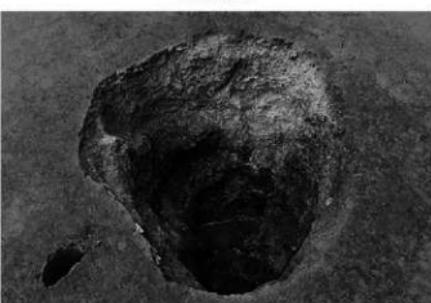
SE385 木製品出土状況



SE385 完掘



SE420 土層断面



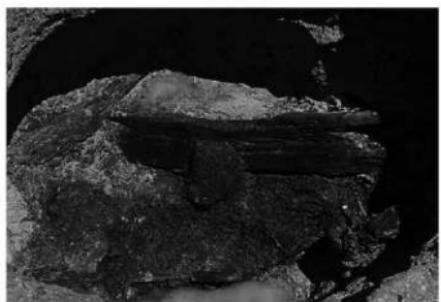
SE420 完掘



SE430 遺物出土状況



SE430 遺物出土状況



SE430 遺物出土状況



SE430 完掘



SE456 土層断面



SE456 完掘



SE476 土層断面



SE476 遺物出土状況



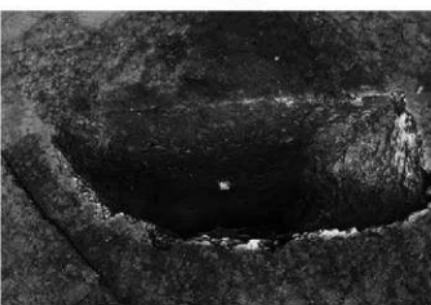
SE476 完掘



SE487 土層断面



SE487 遺物出土状況



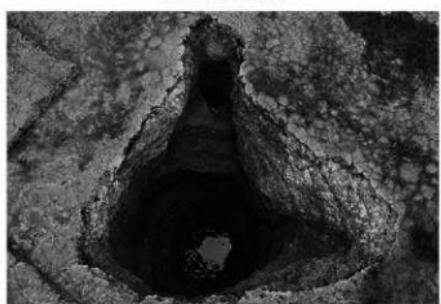
SE490 土層断面



SE490 遺物出土状況



SE490 遺物出土状況



SE490 完掘



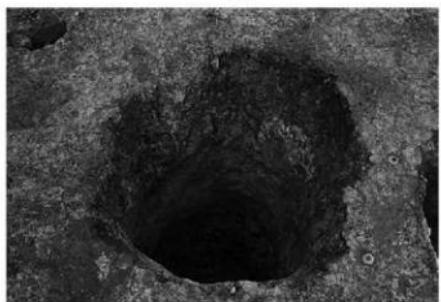
SE496 土層断面



SE496 完掘



SE550 土層断面



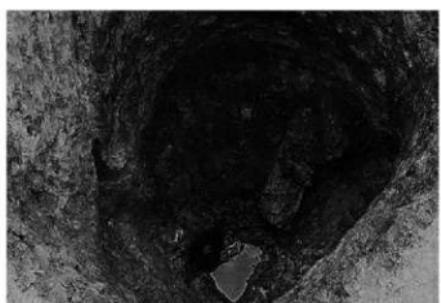
SE550 完掘



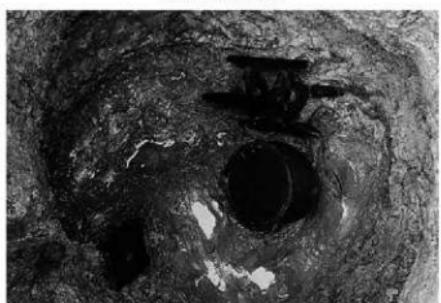
SE560 土層断面



SE560 遺物出土状況



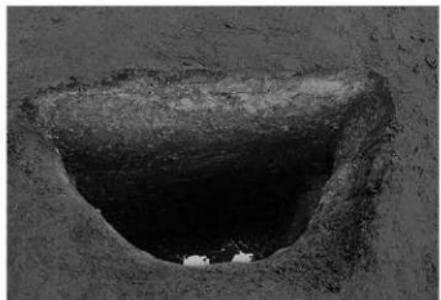
SE560 遺物出土状況



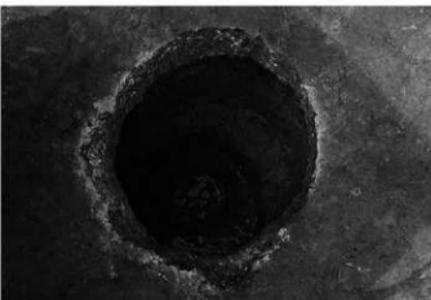
SE560 遺物出土状況



SE560 完掘



SE580 土層断面



SE580 完掘



SE590 土層断面



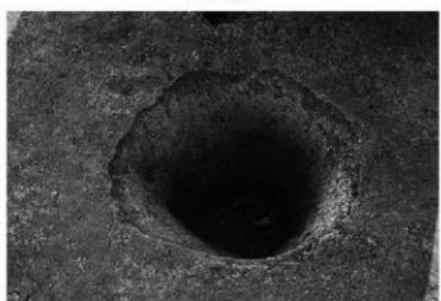
SE590 遺物出土状況



SE590 完掘



SE600 土層断面



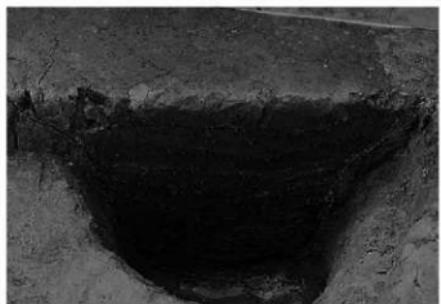
SE600 完掘



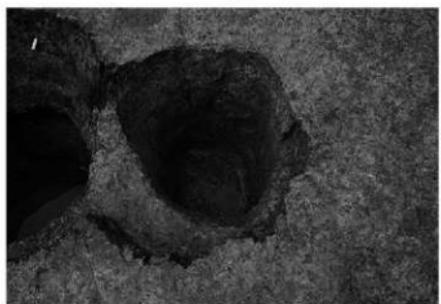
SE610 土層断面



SE610 完掘



SE620 土層断面



SE620 完掘



SE630 土層断面



SE630 遺物出土状況



SE630 遺物出土状況



SE630 完掘



SE650 土層断面



SE650 完掘



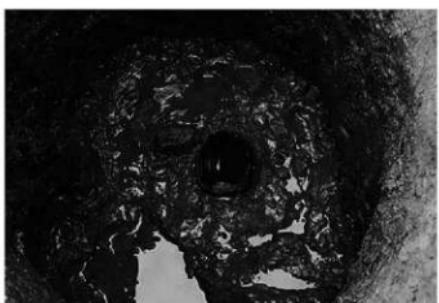
SE660 土層断面



SE660 完掘



SE670 土層断面



SE670 遺物出土状況



SE670 完掘



SE900 土層断面



SE900 遺物出土状況



SE900 完掘



SE1110 土層断面



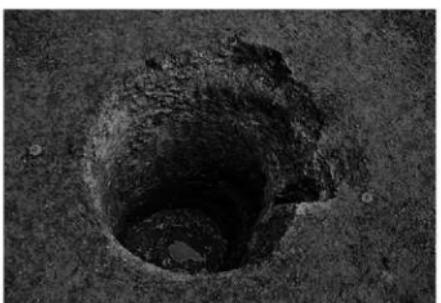
SE1110 土層断面



SE1110 完掘



SE1120 土層断面



SE1120 完掘



SE1240 土層断面



SE1240 完掘



SE1241 土層断面



SE1241 遺物出土状況



SE1241 完掘



SE1244 土層断面



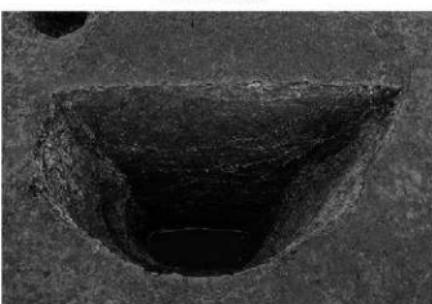
SE1244 完掘



SE1245 土層断面



SE1245 完掘



SE1246 土層断面



SE1246 完掘



SE1247 土層断面



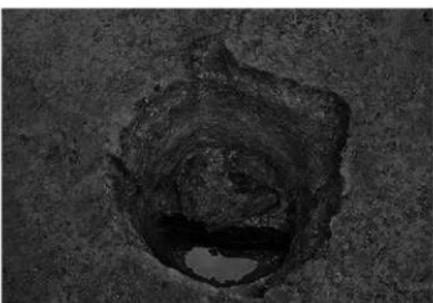
SE1248 土層断面



SE1248 完掘



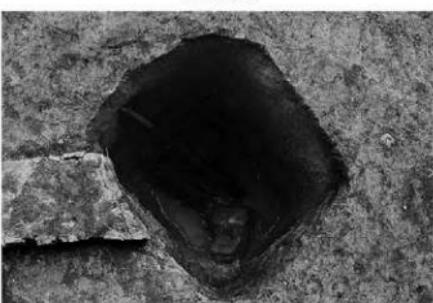
SE1249 土層断面



SE1249 完掘



SE1250 土層断面



SE1250 遺物出土状況



SE1260 土層断面



SE1260 完掘



SE1364 土層断面



SE1364 完掘



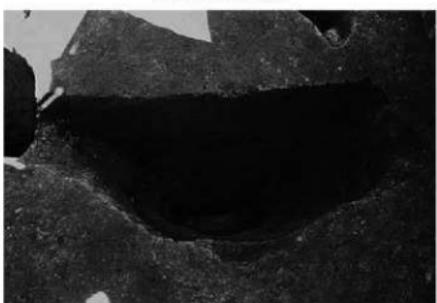
SE1365 土層断面



SE1365 遺物出土状況



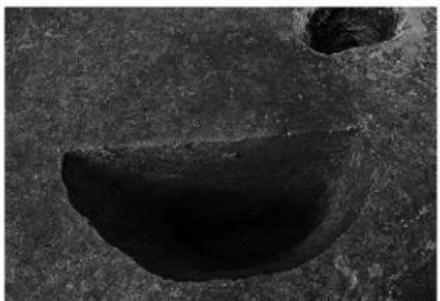
SE1365 完掘



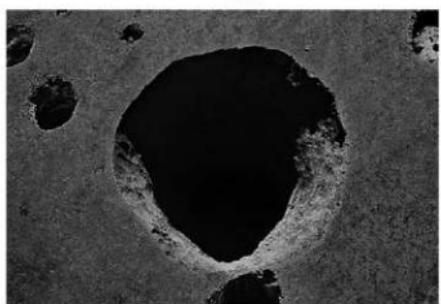
SE1385 土層断面



SE1385 完掘



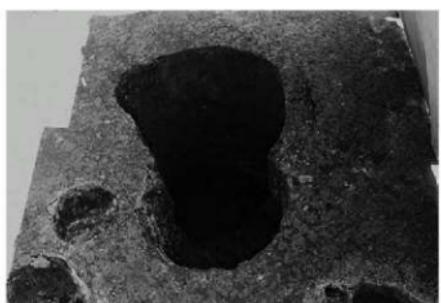
SE1386 土層断面



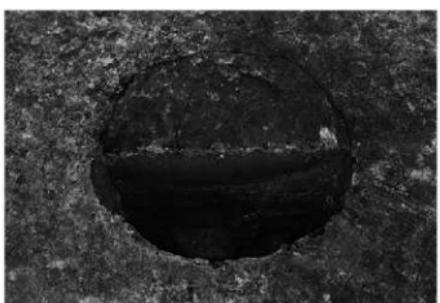
SE1386 完掘



SE1387 土層断面



SE1387 完掘



SE1389 土層断面



SE1389 烧磯出土状況



SE1389 完掘



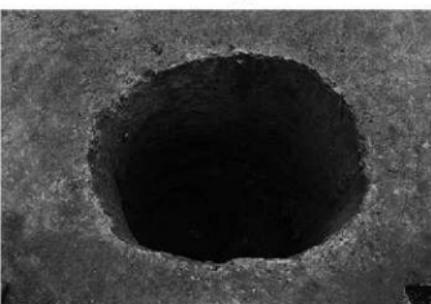
SE1390 土層断面



SE1390 完掘



SE1500 土層断面



SE1500 完掘



SE1501 土層断面



SE1501 完掘



SE1502 土層断面



SE1502 完掘



SE1503 土層断面



SE1503 完掘



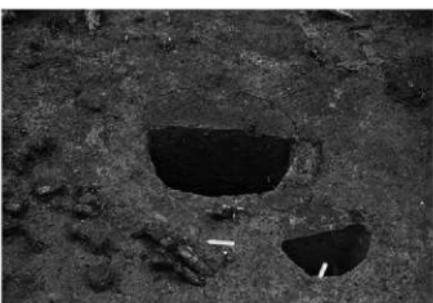
SE1504 土層断面



SE1514 土層断面



SE1514 完掘



SE1711 土層断面



SE1711 完掘



SE1712 土層断面



SE1712 完掘



SE1713 土層断面



SE1713 完掘



SE1717 土層断面



SE1718 土層断面



SE1718 中世土器出土状況



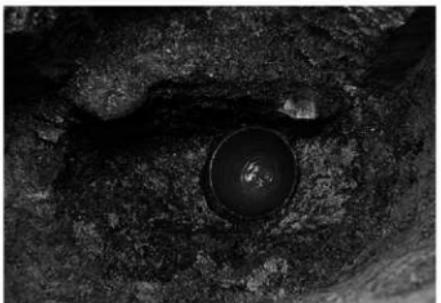
SE1718 曲げ物底板出土状況



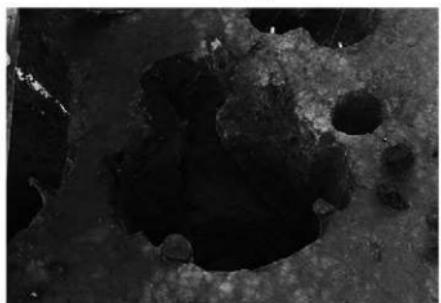
SE1718 完掘



SE1719 土層断面



SE1719 珠洲焼跡出土状況



SE1719 完掘



SE1720 土層断面



SE1720 完掘



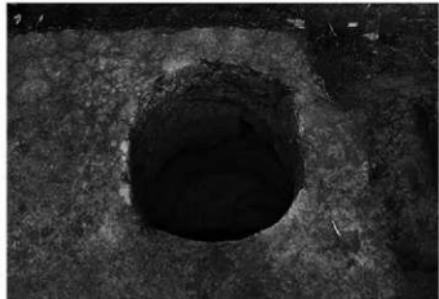
SE1728 土層断面



SE1728 完掘



SE1731 土層断面



SE1731 完掘



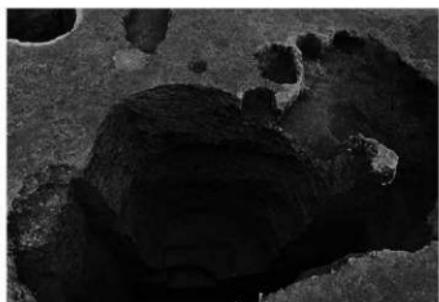
SE1732 土層断面



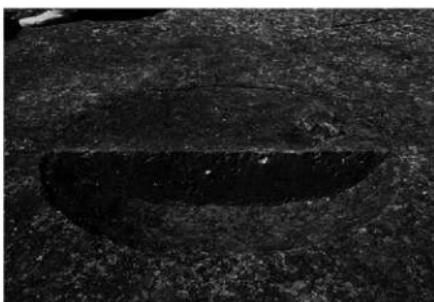
SE1732 上層遺物出土状況



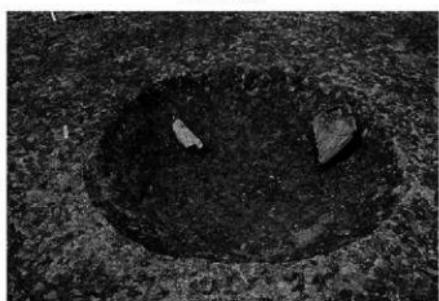
SE1732 上層遺物出土状況



SE1732 完掘



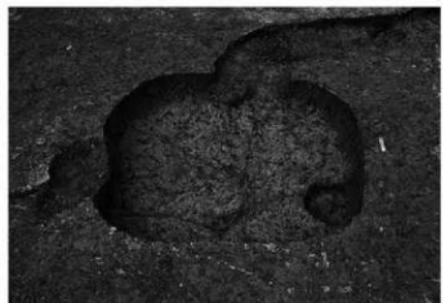
SK401 土層断面



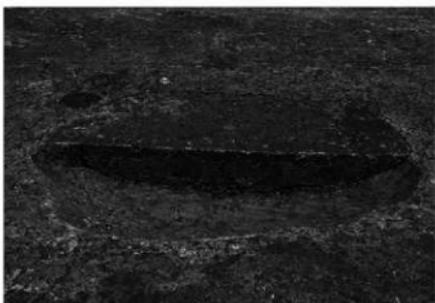
SK401 完掘



SK403 土層断面



SK403 完掘



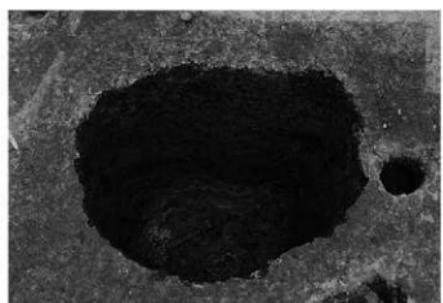
SK475 土層断面



SK475 完掘



SK1130 土層断面



SK1130 完掘



SK1243 土層断面



SK1243 完掘



SK1388 土層断面



SK1388 完掘



SK1392 土層断面



SK1392 完掘



SK1393 土層断面



SK1384 土層断面



SK1384 完掘



SK1505 土層断面



SK1508 土層断面



SK1510 土層断面



SK1510 完掘



SK1607 土層断面



SX1701 掘出状況



SX1701 南北土層断面



SX1701 東西土層断面



SX1701 遺物出土状況



SX1701 遺物出土状況



SX1701 遺物出土状況



SX1701 完掘



SX1701 完掘



SX1702 検出状況



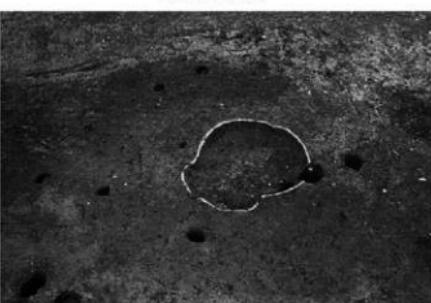
SX1702 遺物出土状況



SX1702 土層断面



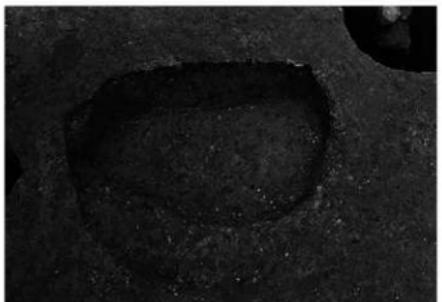
SX1702 土層断面



SX1702 完掘



SK1706A 土層断面



SK1706A 完掘



SK1707 土層断面



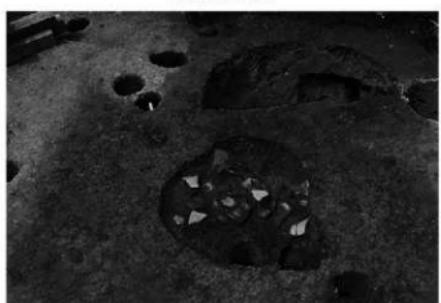
SK1708 土層断面



SK1714 土層断面



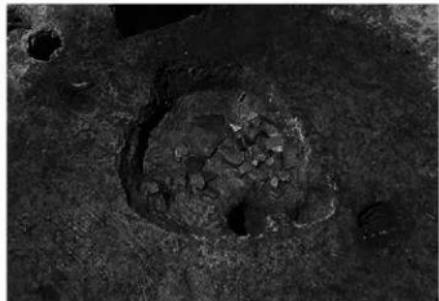
SK1714 完掘



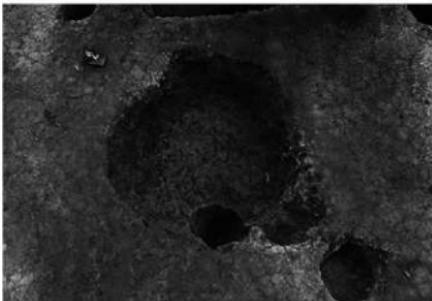
SK1715 遺物出土状況



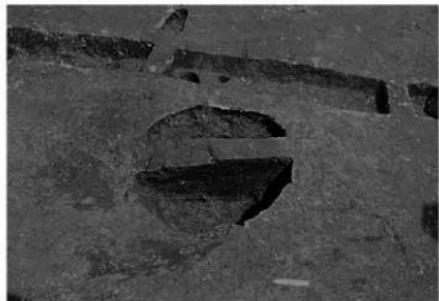
SK1715 遺物出土状況



SK1715 遺物出土状況



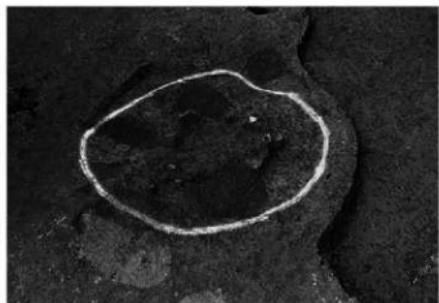
SK1715 完掘



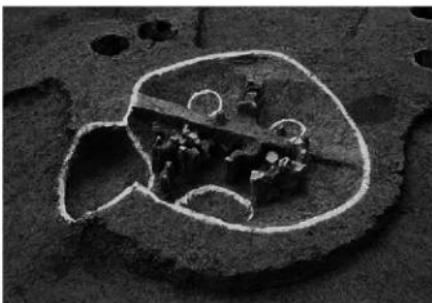
SK1722 土層断面



SK1723 土層断面



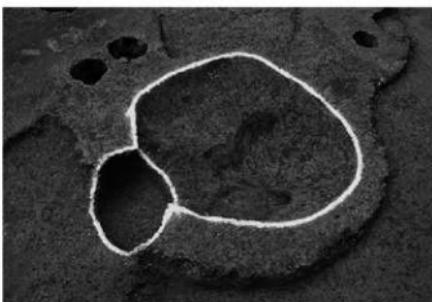
SK1820 掘出状況



SK1820 遺物出土状況



SK1820 土層断面



SK1820 完掘



SK1821 土層断面



SK1821 完掘



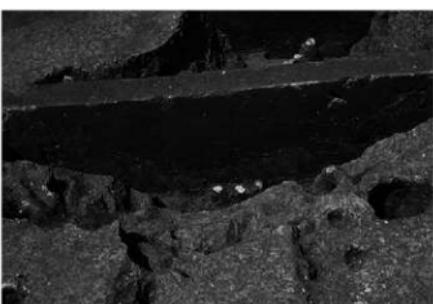
SD480 土層断面



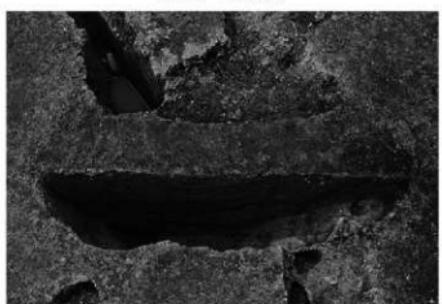
SD700-2 土層断面



SD700-3 土層断面



SD700-4 土層断面



SD700-5 土層断面



SD1751 土層断面



SD1752



SD1752



SD1752 土層断面



SD1752 土層断面



SD1752 遺物出土状況



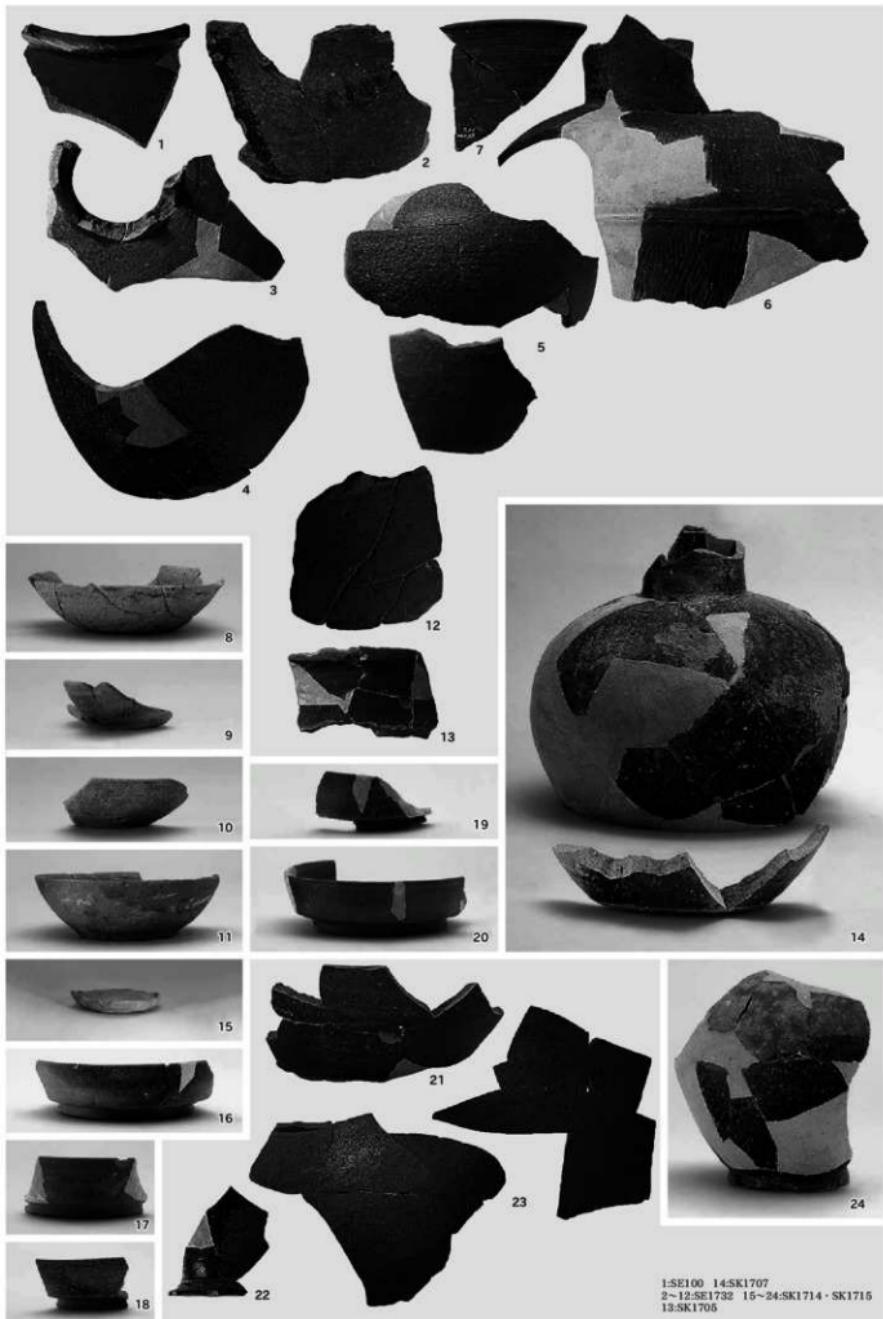
SD1753 土層断面

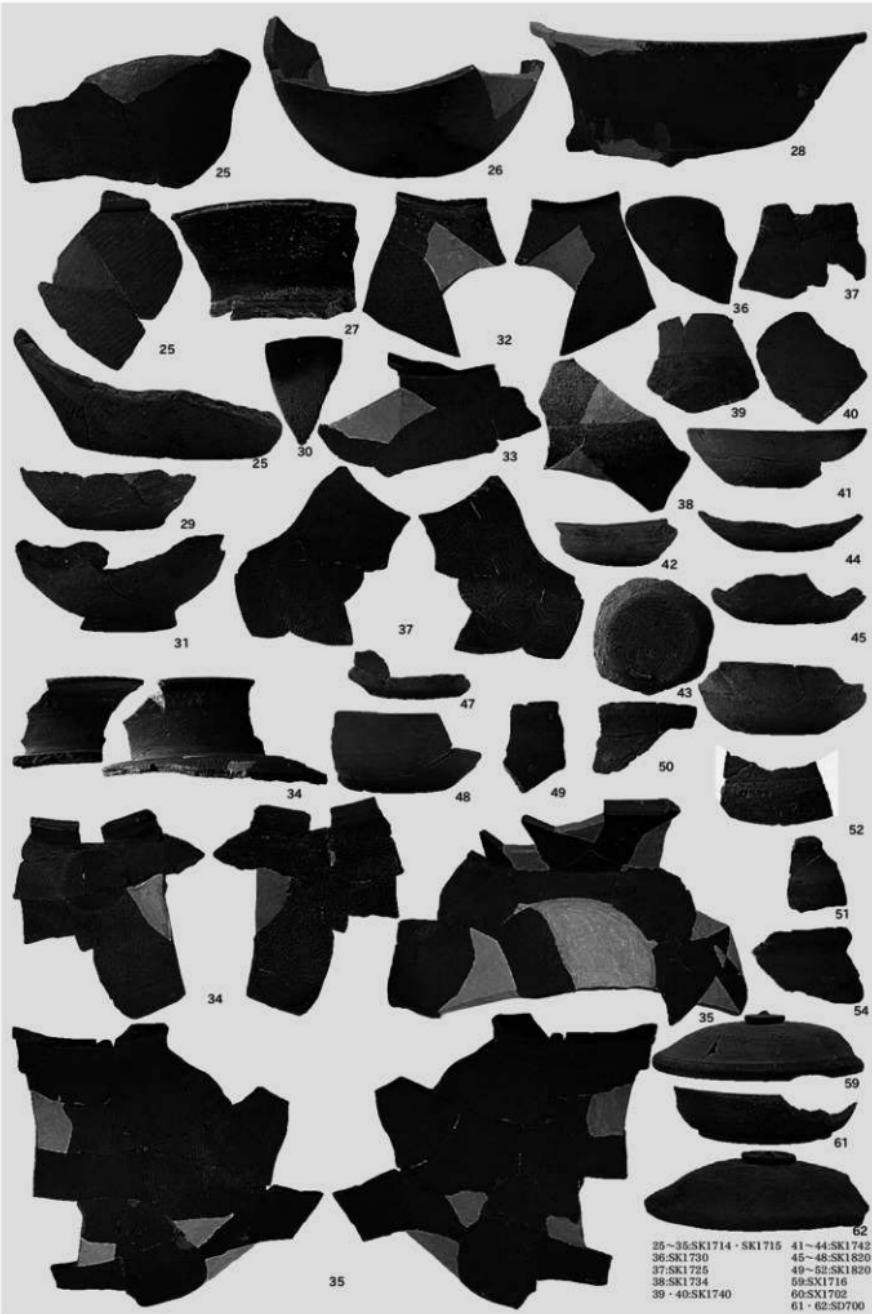


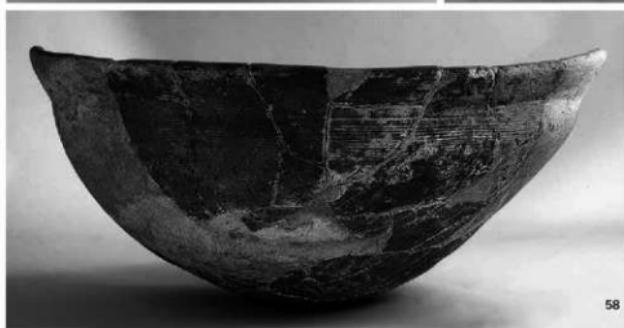
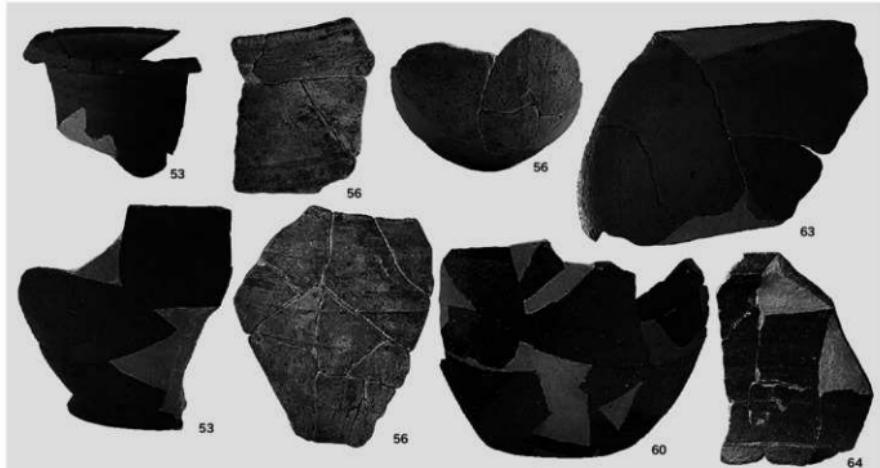
VI層溝群



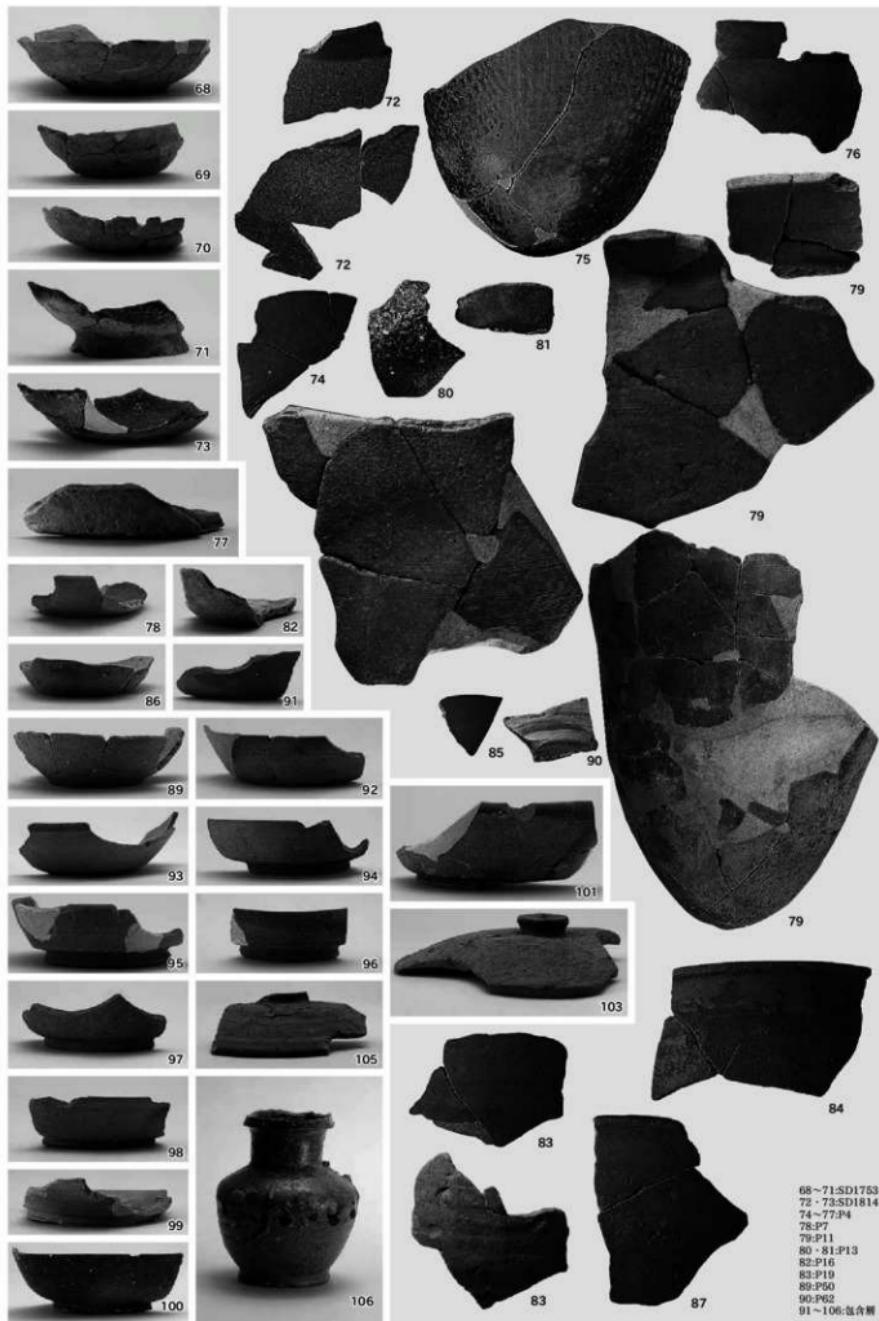
VI層溝群

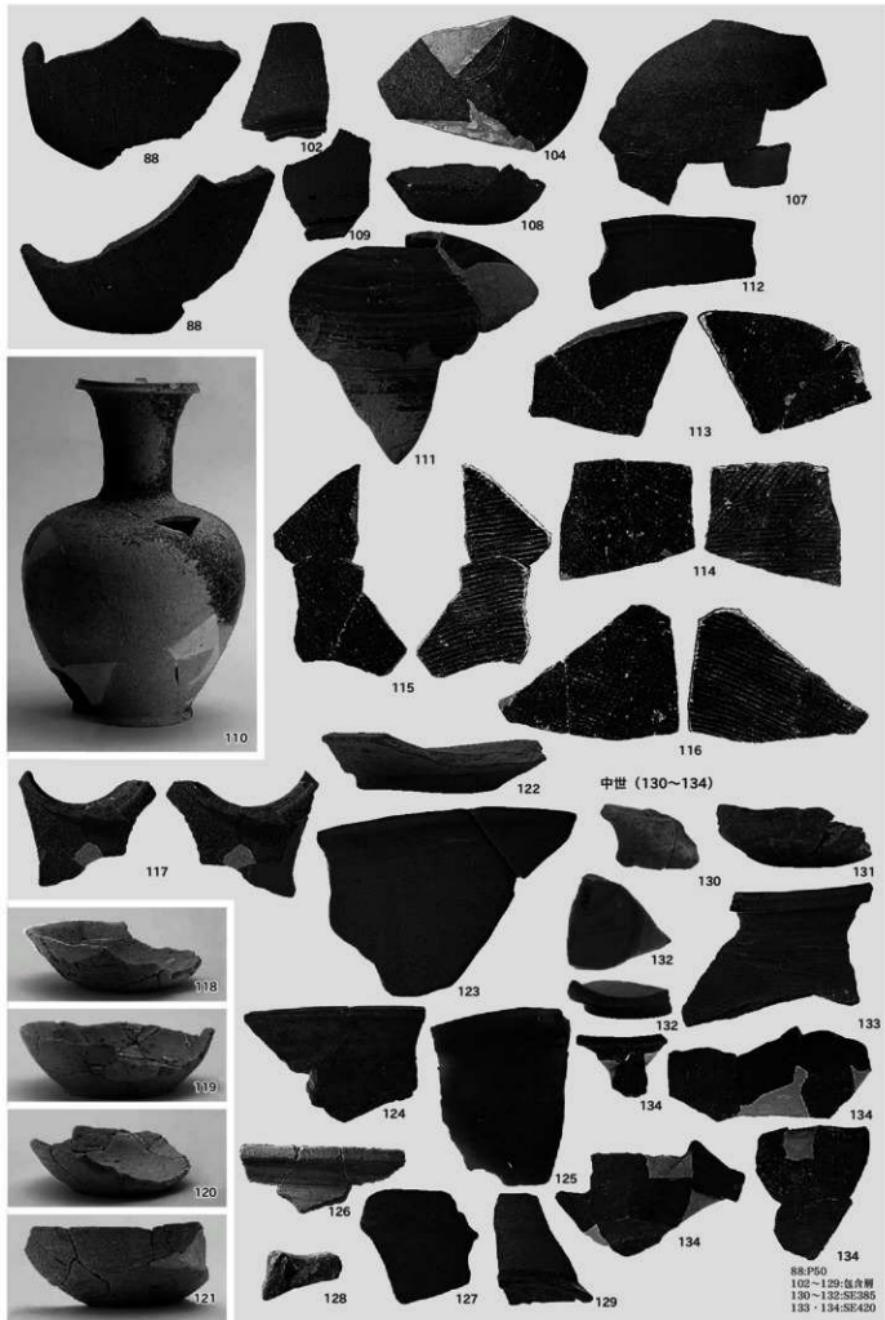




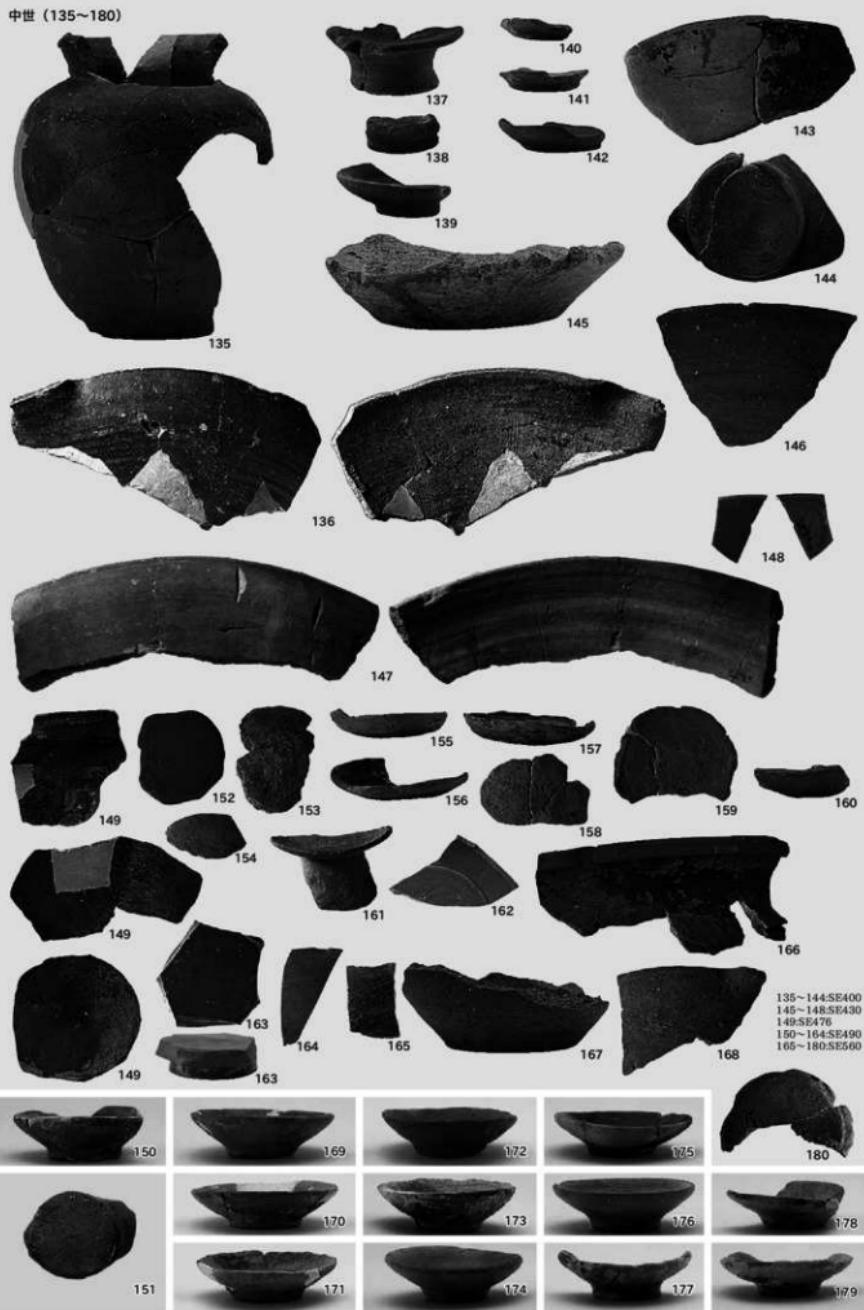


53 - 64: SK1820  
55 - 58: SX1701  
63: SD700  
64: SD1744  
65: SD1750  
66 - 67: SD1752

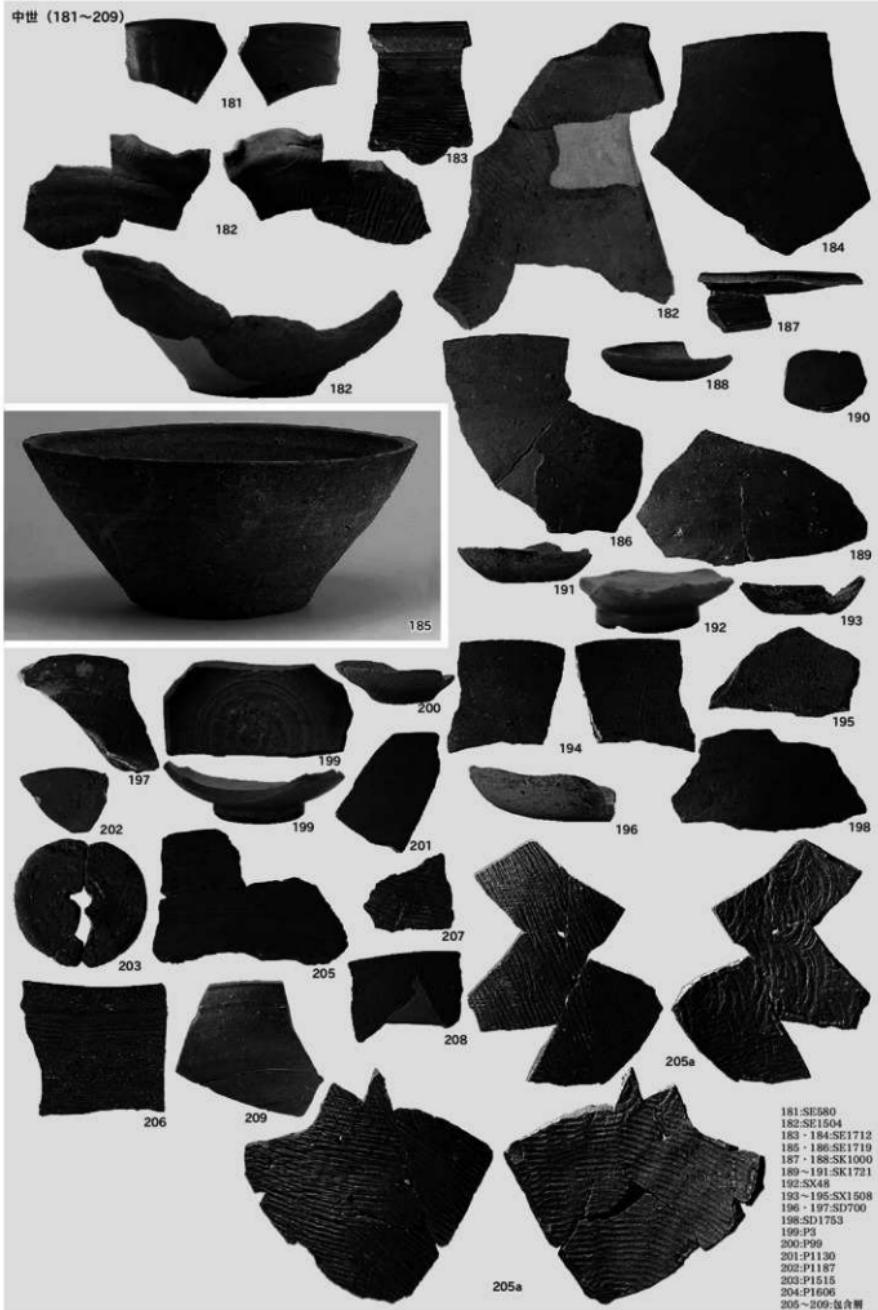




## 中世(135~180)



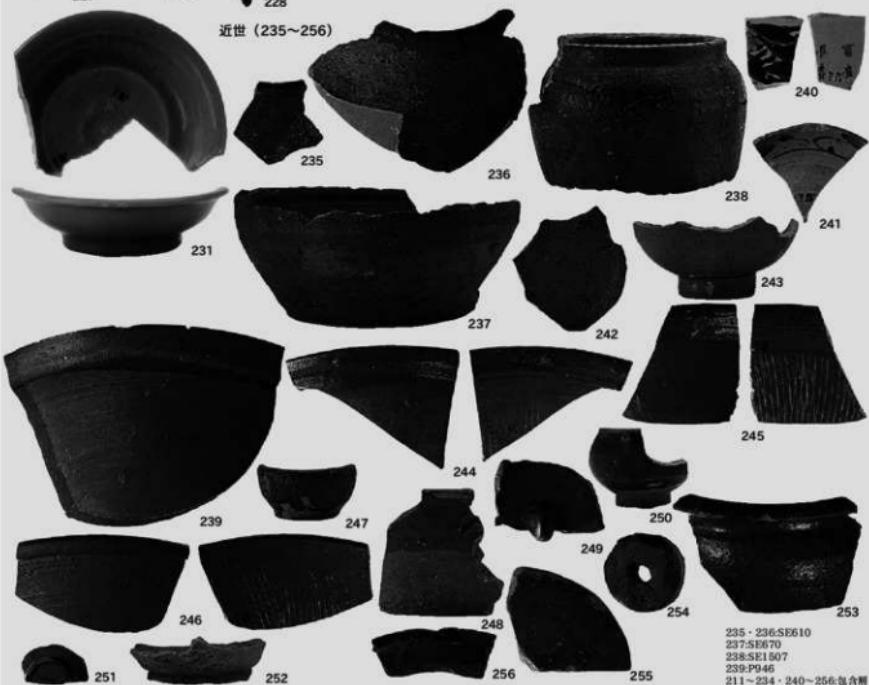
中世（181～209）



## 中世 (211~234)



## 近世 (235~256)



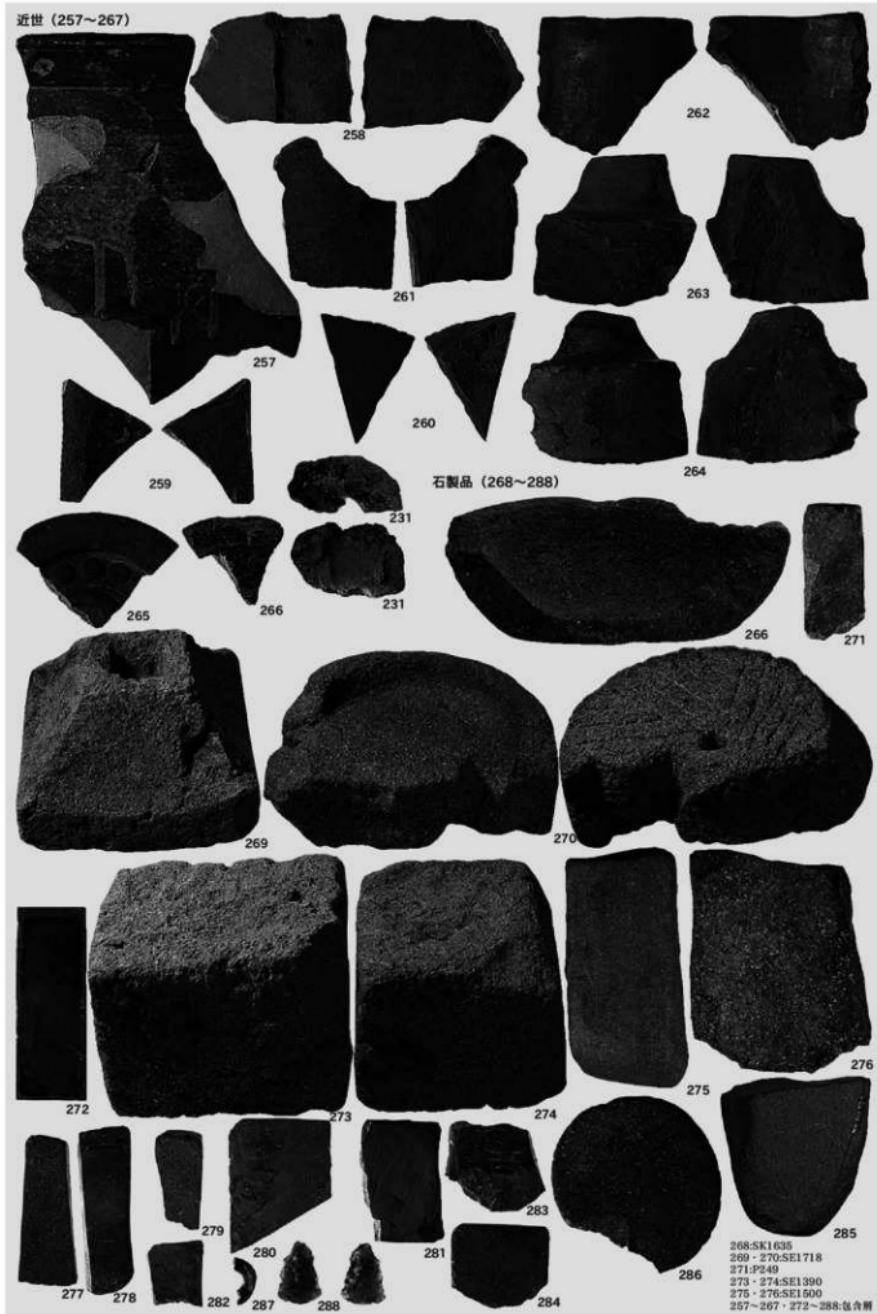
235・236:SE610

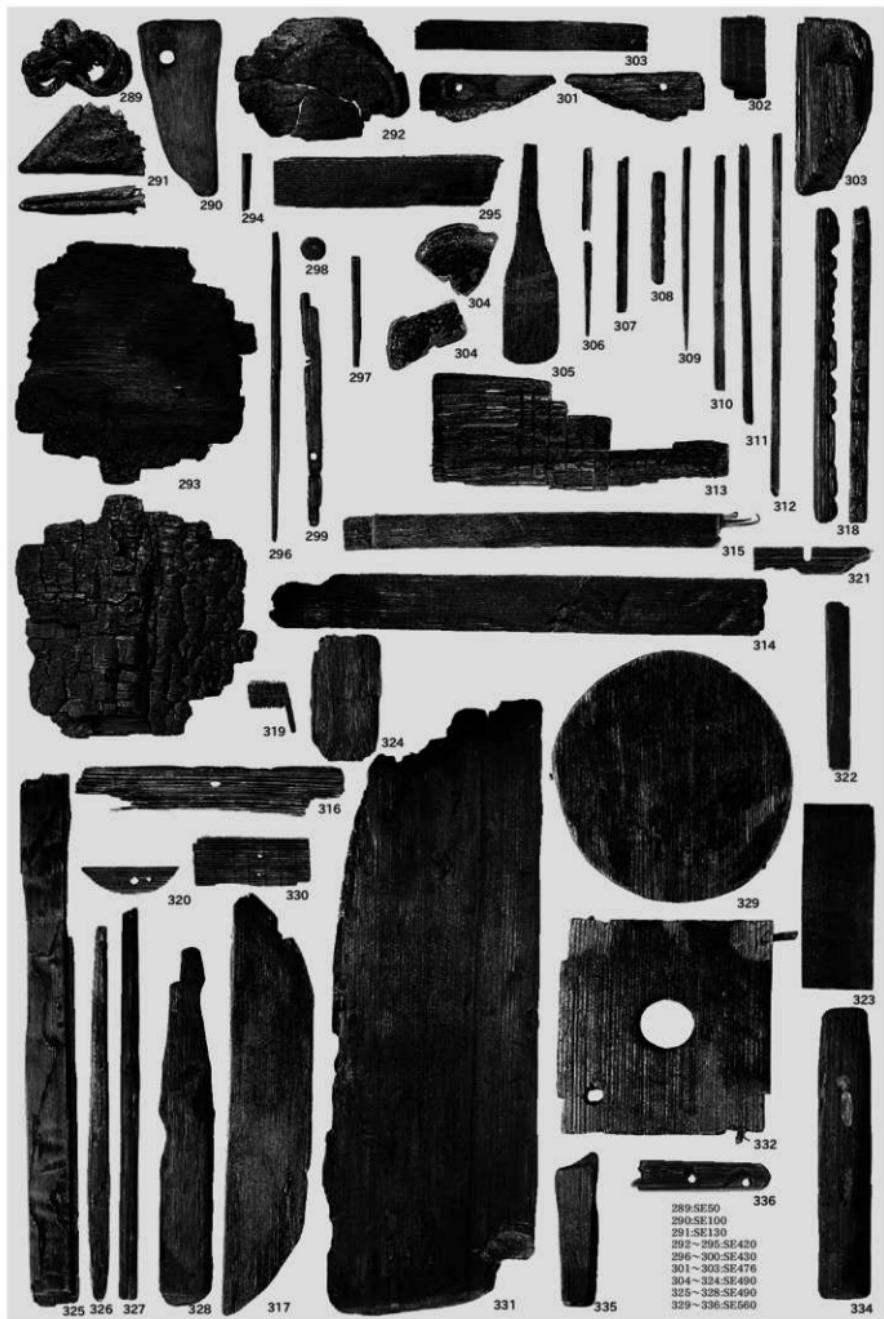
237:SE670

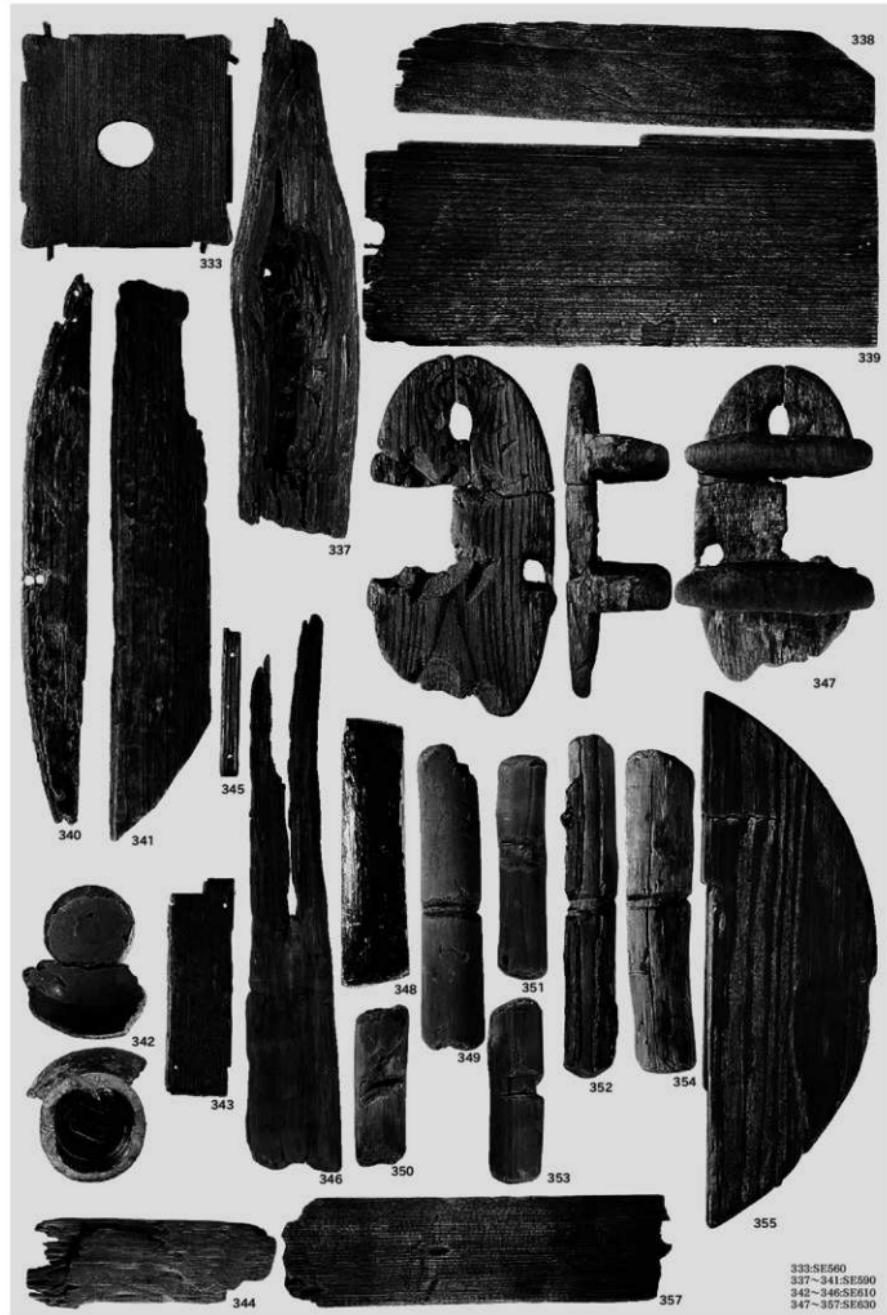
238:SE1507

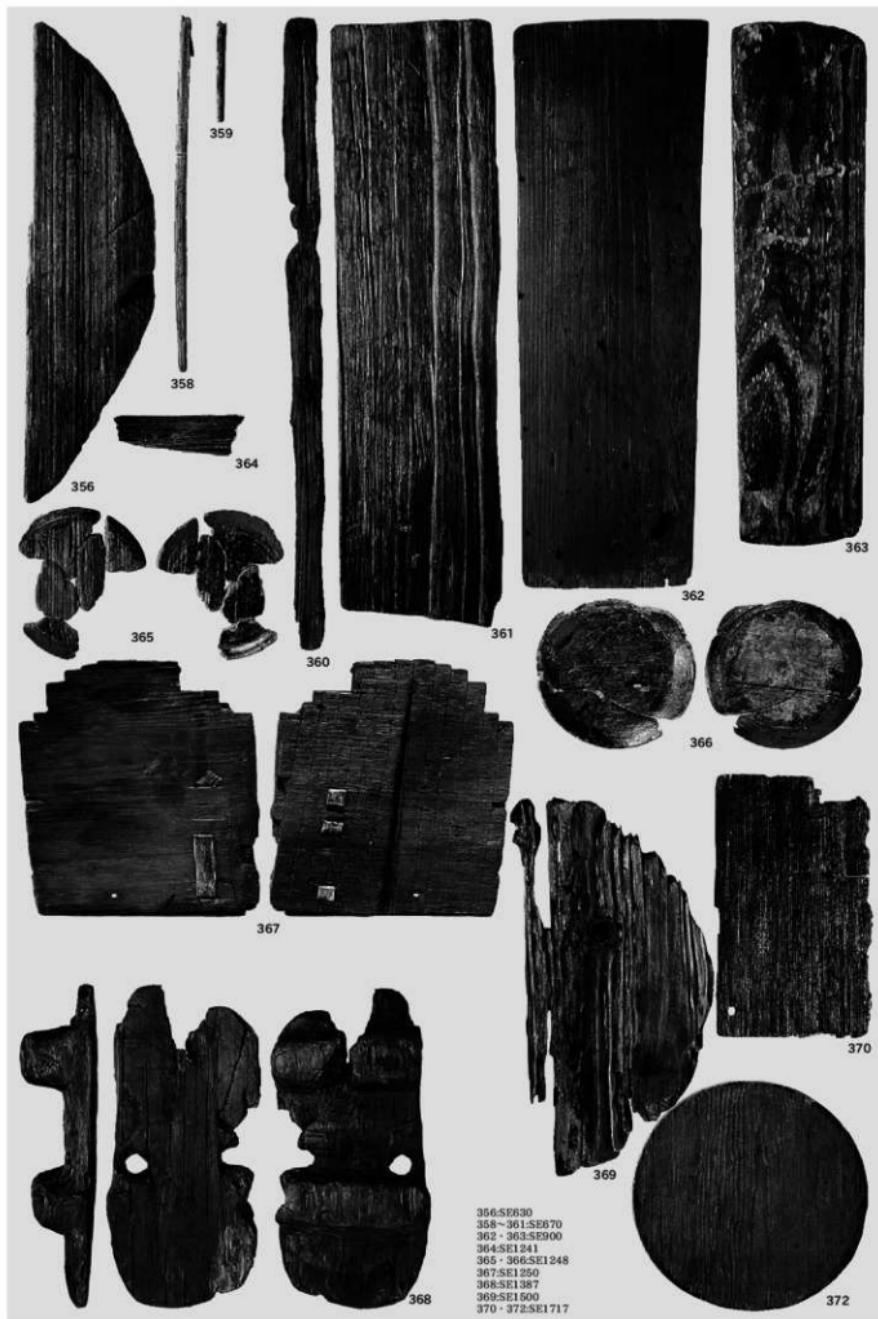
239:P946

211~234・240~256:包含層





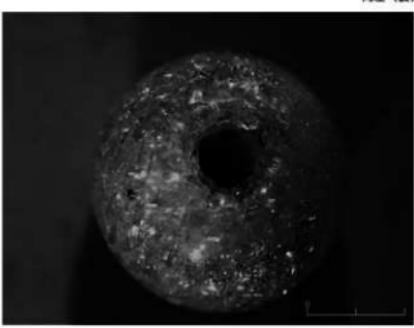
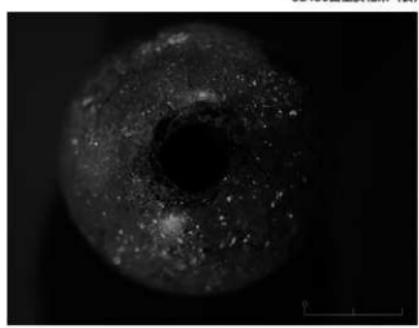
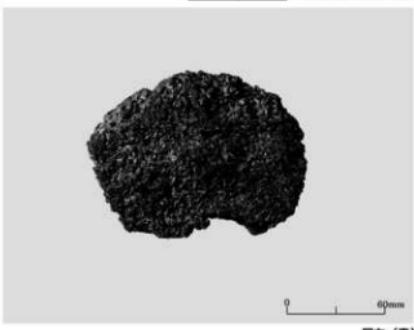
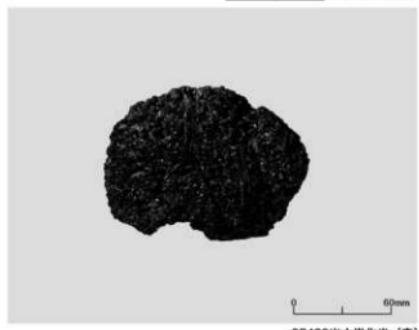






371:SE1717  
 372:P445  
 374:P927  
 375:包含層  
 376:SE17-SE560  
 379:SE420  
 380:SE1712

377





遺跡遠景



調査前現状



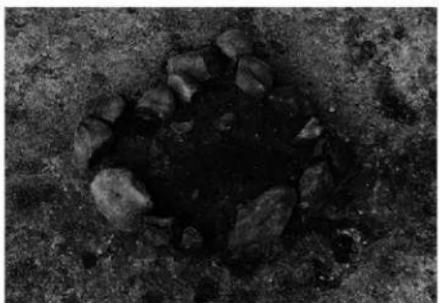
95S1



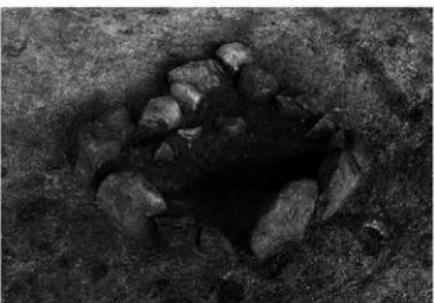
95S1 東西セクション



95S1 遺物出土状況



95S1 石圓炉



95S1 石圓炉断面



97SK4 土層断面



97SK4 完掘



97SK8 土層断面



97SK8 完掘



97SK9 土層断面



97SK9 完掘



97SK12 土層断面



97SK12 完掘



97SK117 土層断面



97SK117 完掘



97SK110 土層断面



97SK110 遺物出土状況



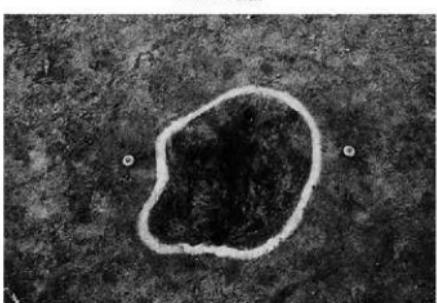
97SK110 遺物出土状況



97SK110 完掘



96SK1 土層断面



96SK1 完掘



96SK2 土層断面



96SK2 完掘



97SK96 土層断面



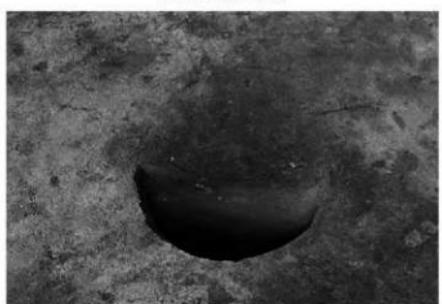
97SK96 遺物出土状況



97SK96 遺物出土状況



97SK96 完掘



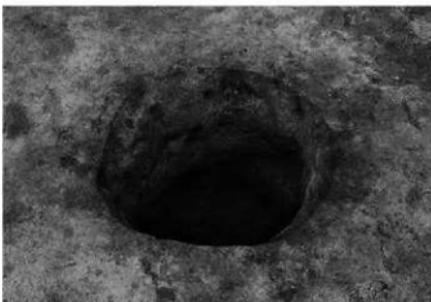
95SK3 土層断面



95SK3 完掘



95SK4 土層断面



95SK4 完掘



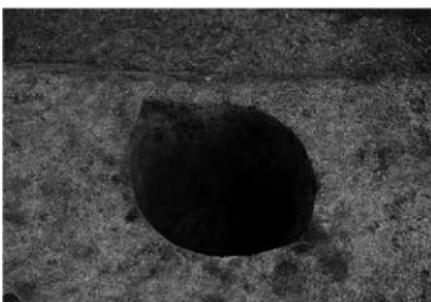
95SK7 土層断面



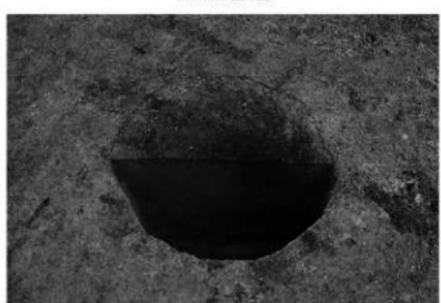
95SK7 完掘



95SK8 土層断面



95SK8 完掘



95SK10 土層断面



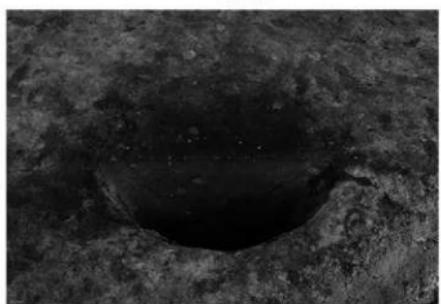
95SK10 完掘



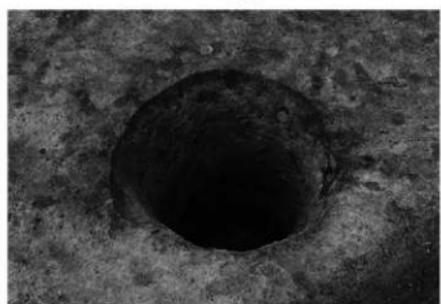
95SK2 土層断面



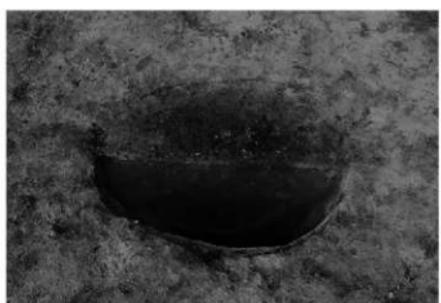
95SK2 完掘



95SK6 土層断面



95SK6 完掘



95SK5 土層断面



95SK5 完掘



97SK102 土層断面



97SK102 完掘



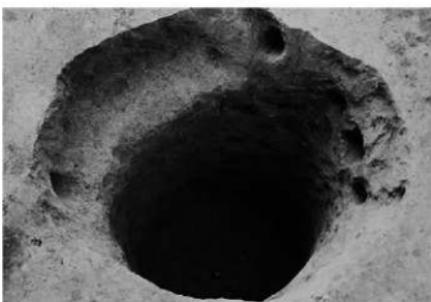
97SK98 土層断面



97SK98 完掘



97SK108 土層断面



97SK108 完掘



97SK109 土層断面



97SK109 碓出土状況



97SK109 土層断面



97SK109 完掘



95SK11 土層断面



95SK11 完掘



96SK3 土層断面



96SK3 完掘



97SI10 確認状況



97SI10 南北土層断面



97SI10 東西土層断面



97SI10 完掘



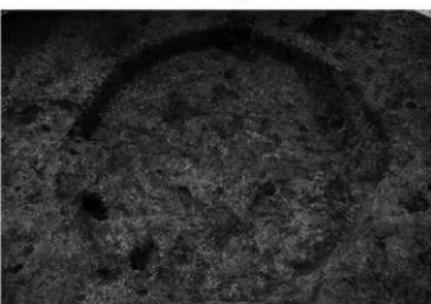
95SK9 土層断面



95SK9 完掘



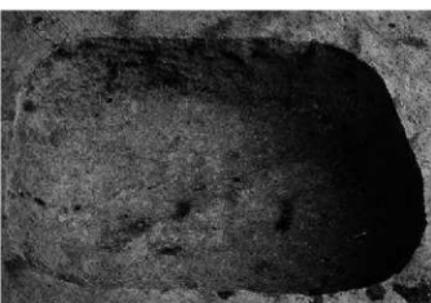
97SK111 土層断面



97SK111 完掘



97SK137 土層断面



97SK137 完掘



96SD2 土層断面



97SD18 土層断面



97SD18 完掘



97SD13 掘出状況



97SD13 土層断面



97SD13 完掘



95 全体完掘状況



97 破出土状況



97 土器出土状況



97 旧石器確認作業



97SK17（須恵器窯跡）完掘



同上遺物出土状況



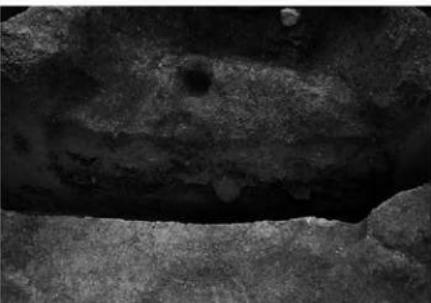
97SK17（須恵器窯）E-Eセクション



同上床面



97SK17 (須恵器窯) B-B'セクション



同左 A-A'セクション



同C-C'セクション



同B-B'セクション



同E-E'セクション



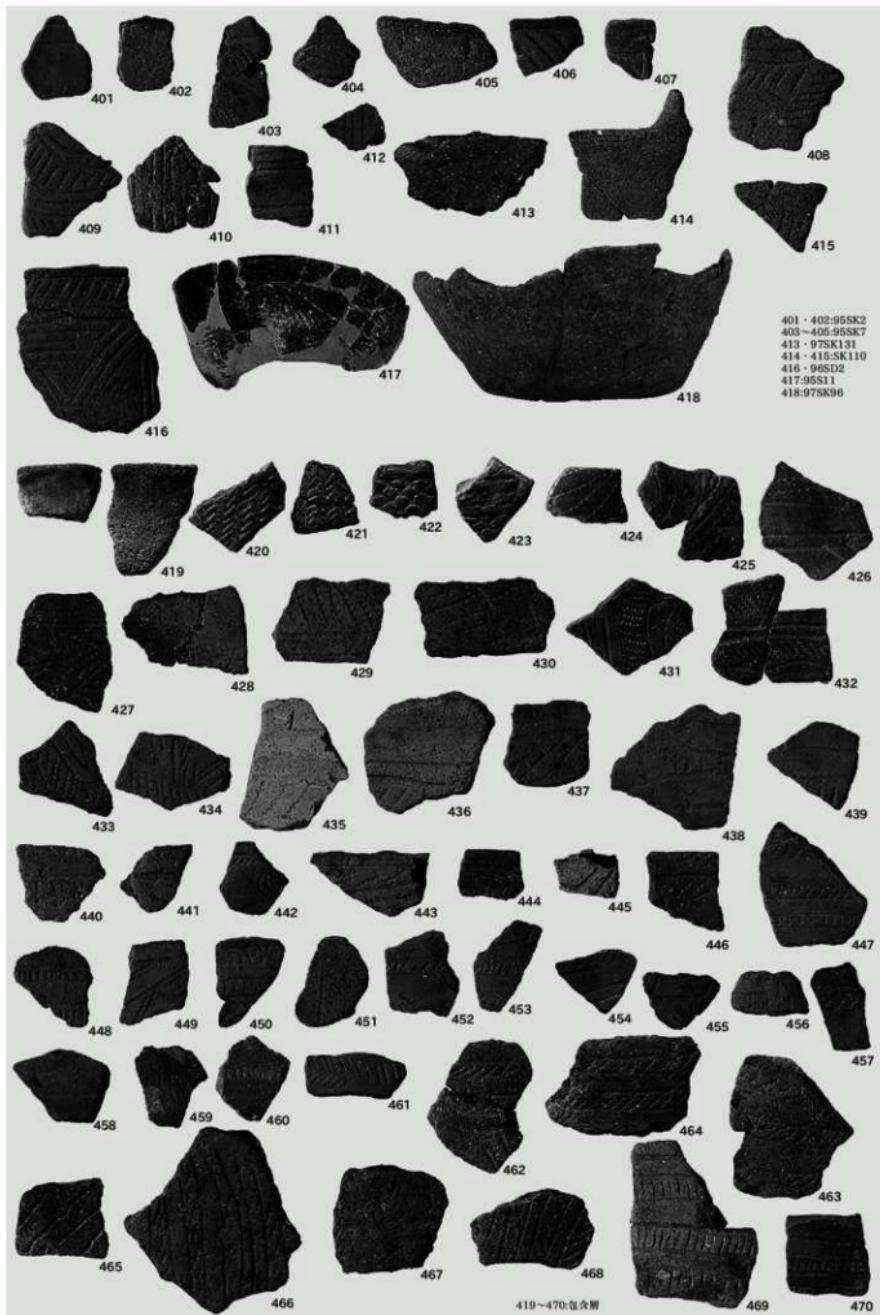
同E-E'セクション



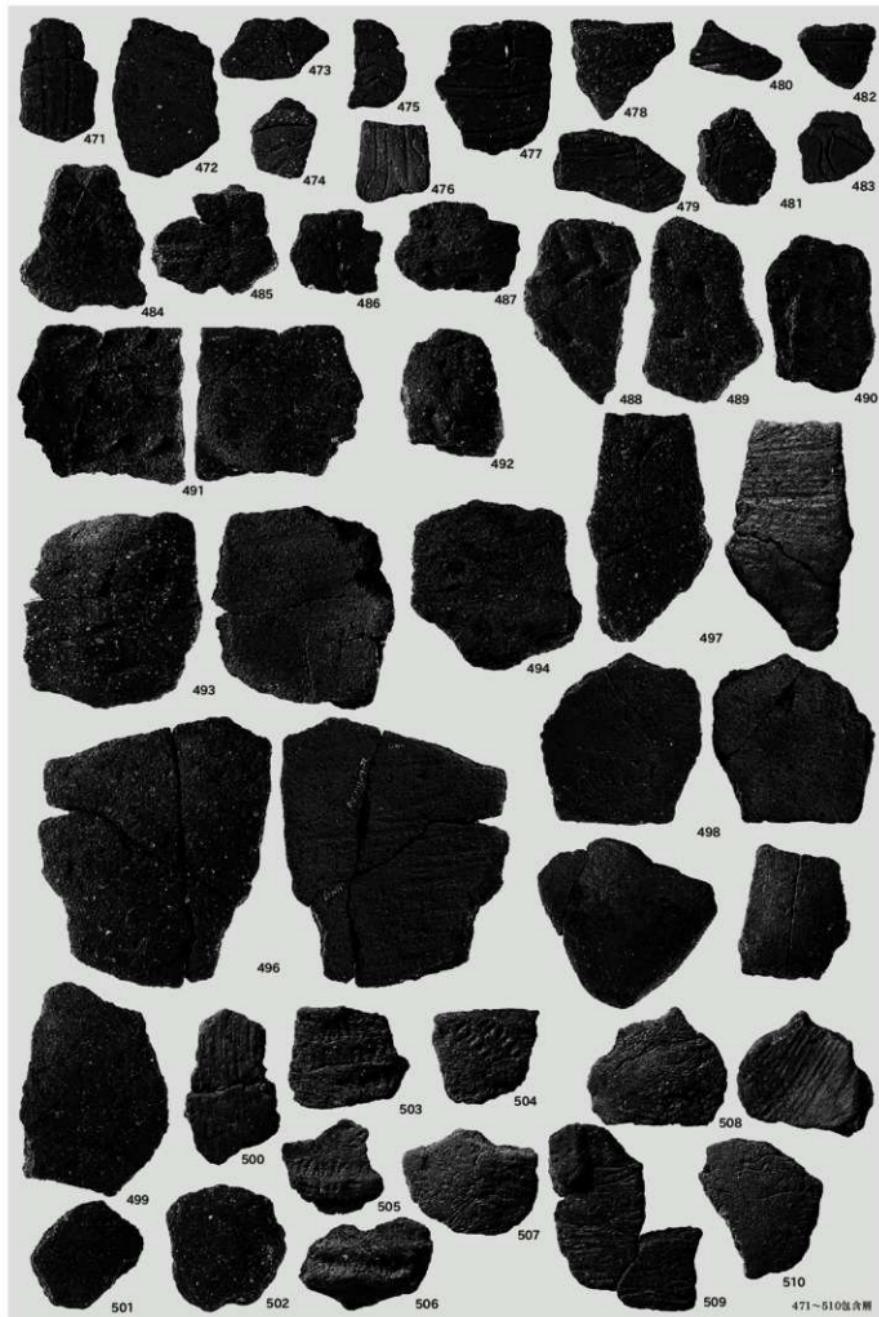
同E-E'セクション

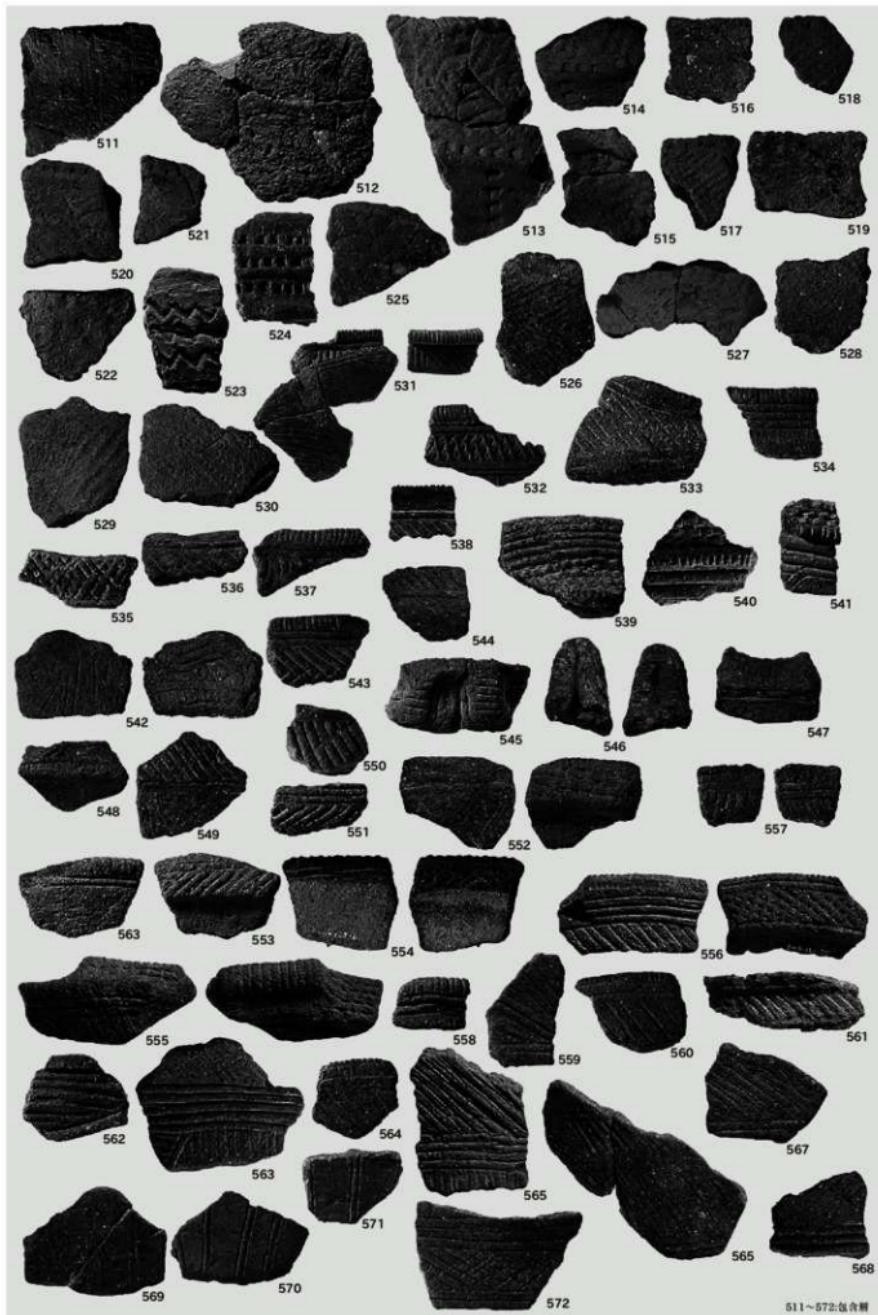


同E-E'セクション

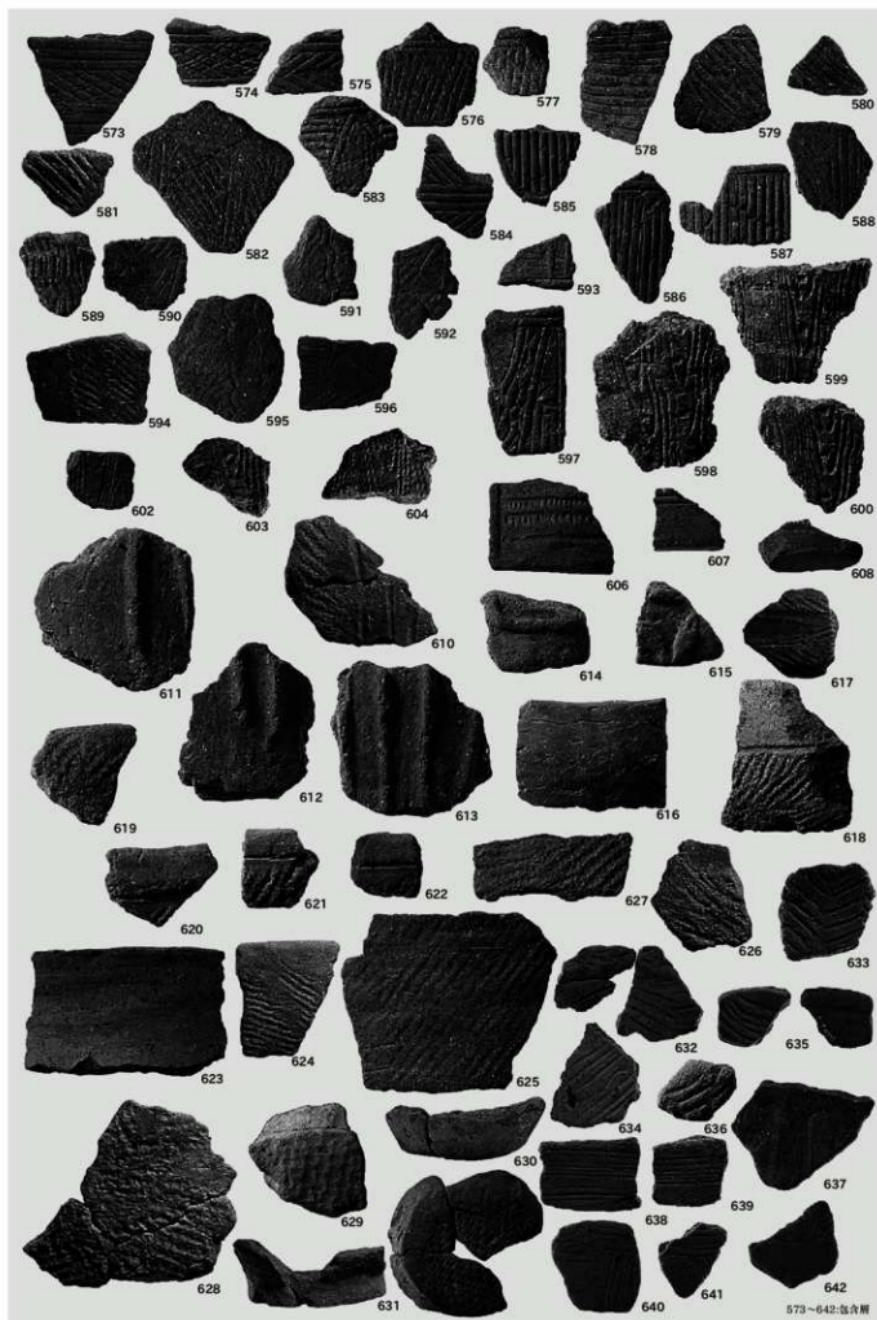


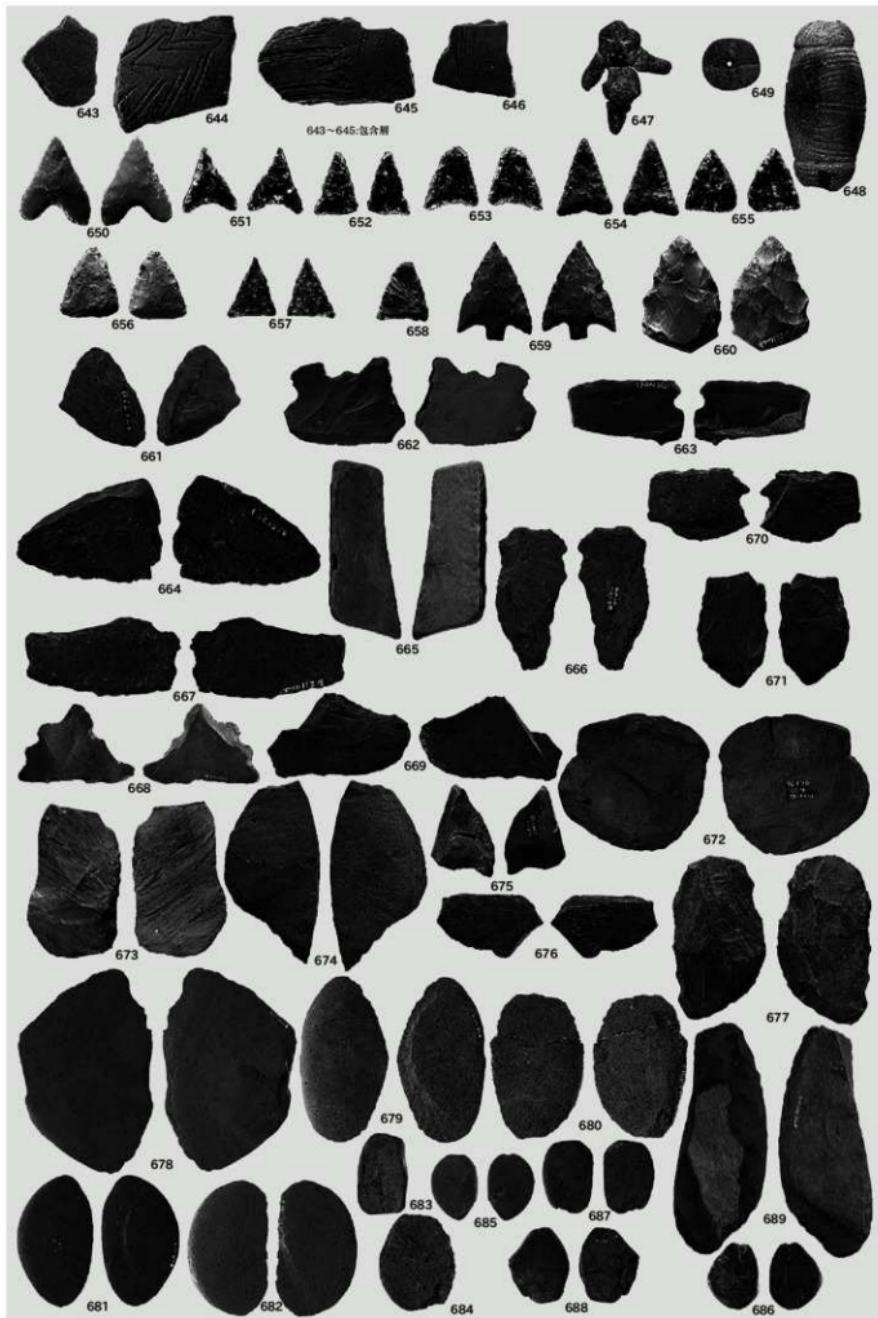
419~470:包含層

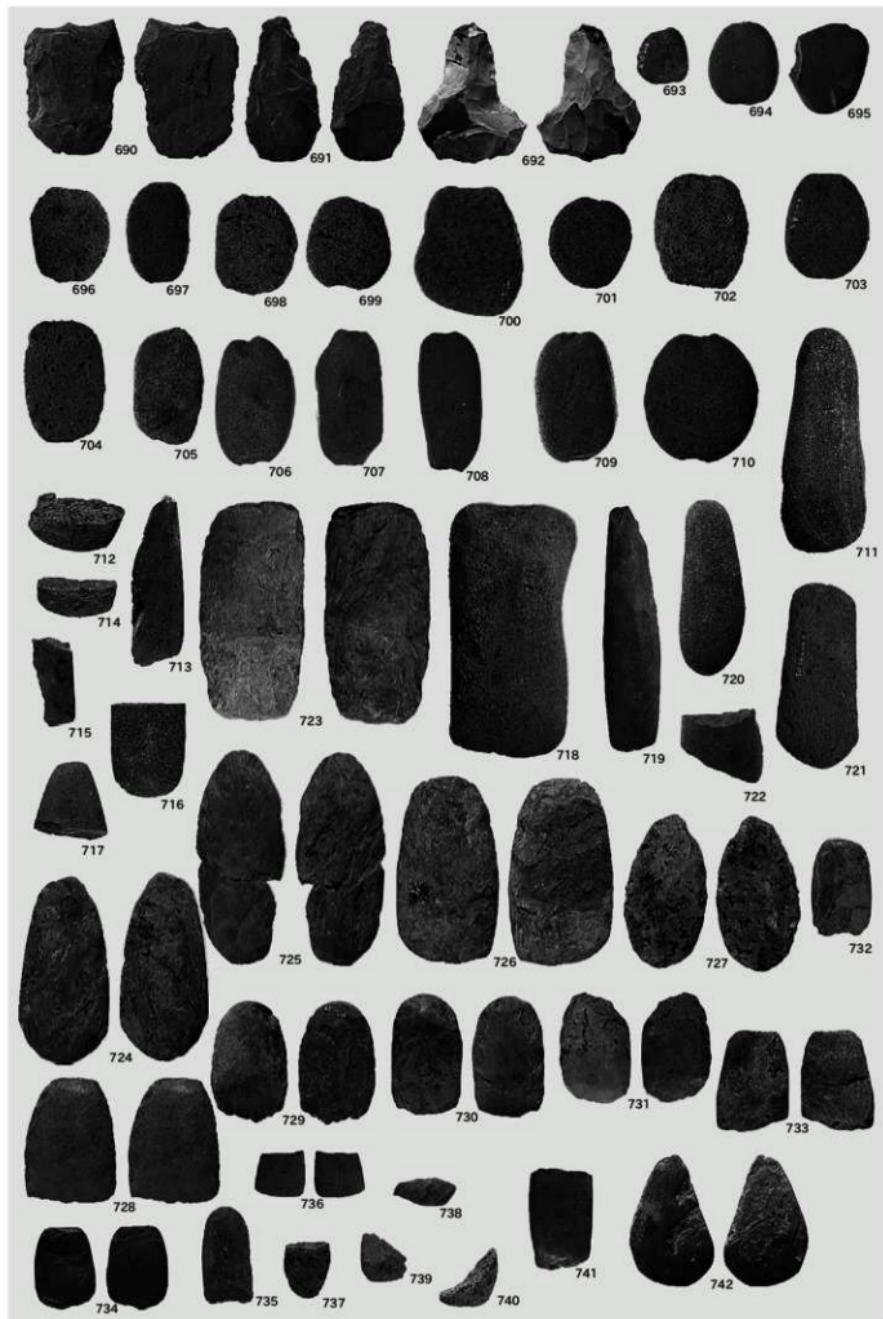


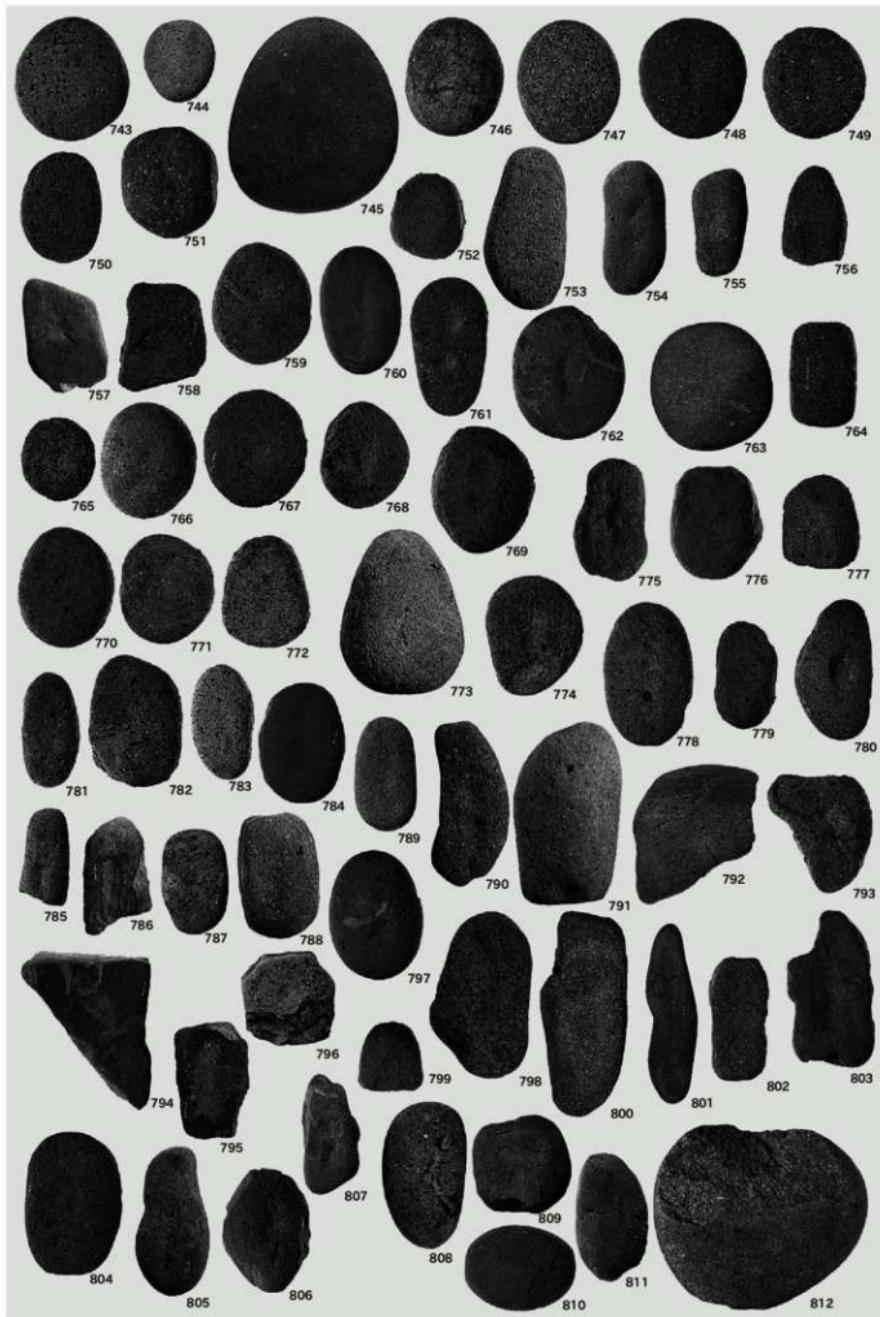


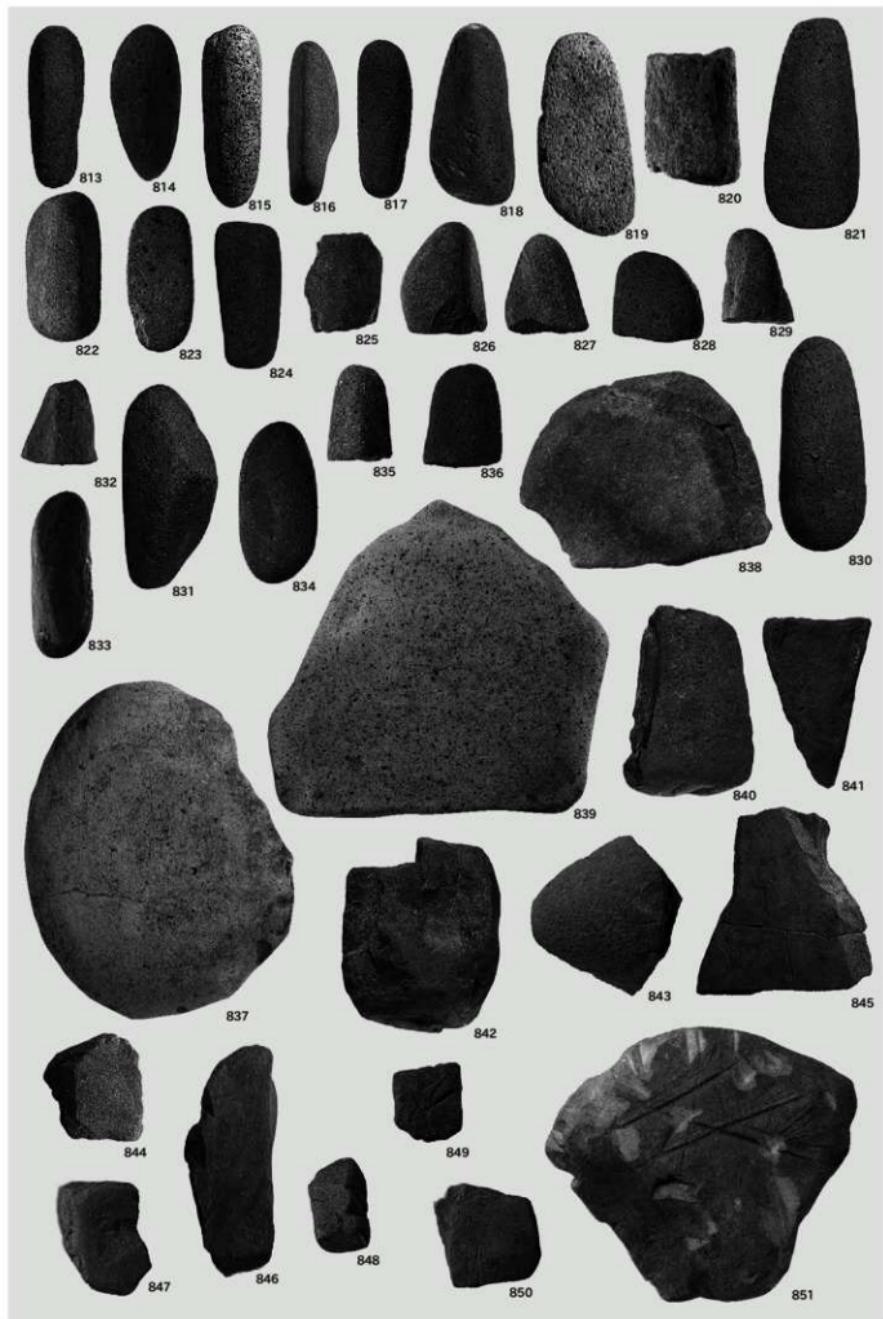
511~572: 化合物

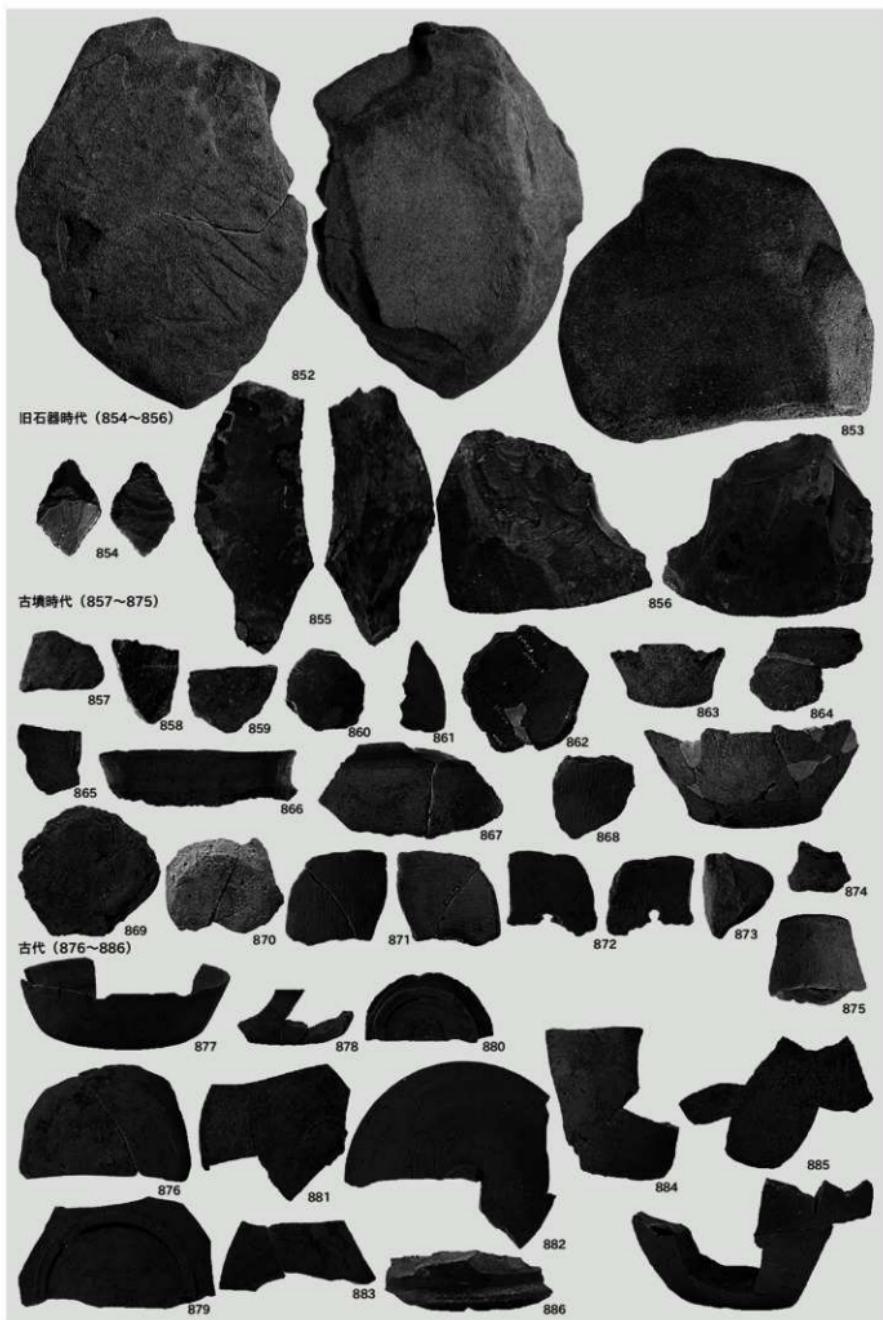












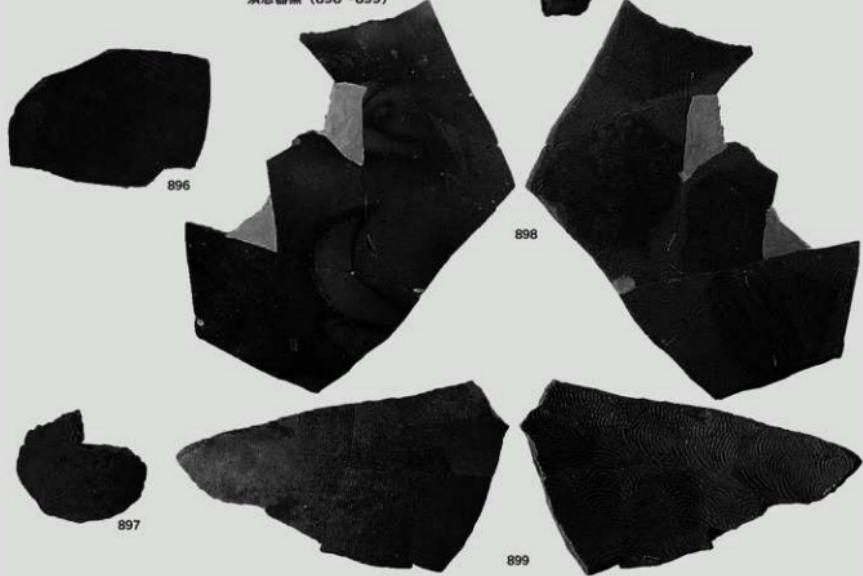
古代 (887~891)



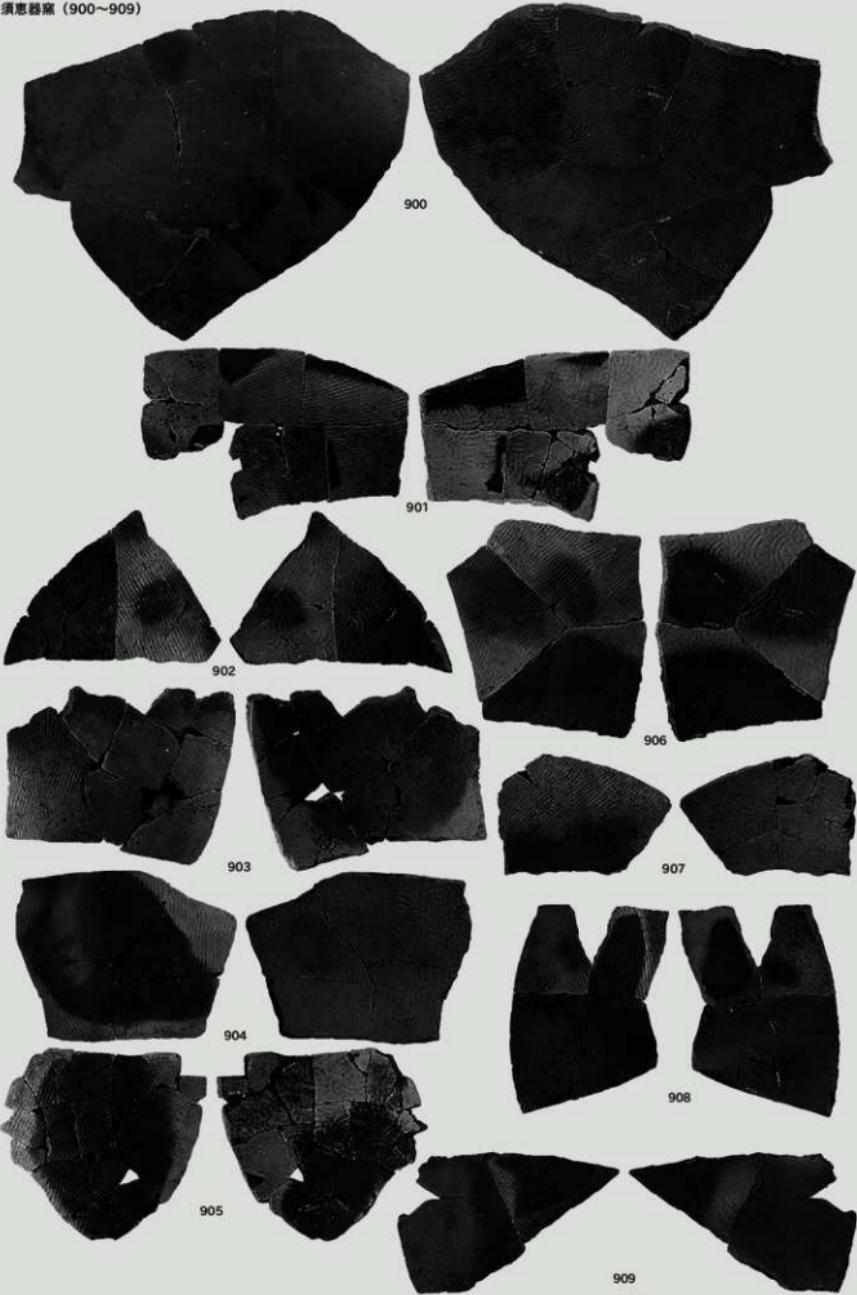
中世 (892~897)



須恵器窯 (898~899)



## 須恵器窯 (900~909)



# 報告書抄録

ふりがな	かいどういせき・おおつかいせき					
書名	海道遺跡・大塚遺跡					
副書名	上信越自動車道関係発掘調査報告書 XVII					
卷次						
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第150集					
編著者名	高橋 保					
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団					
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市金津93番地1 TEL 0250(25)3981					
発行年月日	西暦2005(平成17)年8月30日					
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>
海道遺跡	新潟県上越市大字向橋字海道 1031-1ほか	15222	216	37度 05分 48秒	138度 13分 26秒	19950424～ 19950922 19960605～ 19960930
大塚遺跡	新潟県上越市大字灰塚字大塚 834-1ほか	15222	244	37度 05分 22秒	138度 13分 33秒	19940725～ 19940810 19950913～ 19951110 19961028～ 19961204 19970414～ 19971114
所取遺跡名	種別	時期	主な造構		主な遺物	特記事項
海道遺跡	集落跡	古代～中世・近世	掘立柱建物11、井戸62、土坑63、溝53、不明16、他ビット多数		土師器、須恵器、灰釉、珠洲焼、中世土師器、輸入陶磁器(白磁、青磁)、石製品(砾石、五輪塔、石跡)、木製品、鉄製品(刀子、鎌)、植物種子(クリ、トチノキ、コメ、モモ)	
大塚遺跡	散布地	旧石器			ナイフ形石器1	
		縄文時代早期・前期・中期・後期	竪穴住居1(後期)、プラスチック状土坑6、土坑3、竪穴状土坑12		縄文土器、石器	
		弥生時代			土器	
		古墳時代中～後期			土器	
		古代	須恵器窯1、竪穴住居1		須恵器、土師器	
		中世	溝3		珠洲焼	

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第150集  
上信越自動車道関係発掘調査報告書XVII  
海道遺跡・大塚遺跡

平成17年8月29日印刷 編集・発行 新潟県教育委員会  
平成17年8月30日発行 〒950-8570 新潟市新光町4番地1  
電話 025(285)5511

財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市金津93番地1  
電話 0250(25)3981  
FAX 0250(25)3986

印刷・製本 長谷川印刷  
〒950-2022 新潟市小針1丁目11番8号  
電話 025(233)0321